

- 学生便覧の訂正について -

2025年度「学生便覧」において、一部記載の内容について誤りがありましたので、下記のとおり訂正いたします。

(1) 科目表示の訂正

【対象：産業デザイン学科】

<p.114>

産業デザイン学科 専門教育科目の履修の流れ

◎1年次 後期

専門学士力 1年後期

科目名 (誤) アイデア基礎および同演習Ⅰ

(正) アイデア基礎および同演習Ⅱ

2) 教育課程表における履修前提条件の訂正

【対象：情報通信工学課程】

<p.40>

修正前

◎情報通信工学課程3年後期科目「卒業研修Ⅰ」の履修前提条件

内 容	備 考
英語必修2単位以上，スタディスキル必修1単位以上を修得していること 専門教育科目60単位以上を修得し，情報通信工学実験Ⅰ，Ⅱを含むこと ただし，専門教育科目は3年前期以前の開講科目に限る	研修Ⅰは，4年次への進級条件 に関わる重要な科目である

修正後

◎情報通信工学課程3年後期科目「卒業研修Ⅰ」の履修前提条件

内 容	備 考
英語必修2単位以上，スタディスキル必修1単位以上を修得していること 専門教育科目60単位以上を修得し，情報通信工学実験Ⅰ，Ⅱを含むこと ただし，専門教育科目は3年前期以前の開講科目に限る ※課程より先取り履修を認められた者については，この限りではない	研修Ⅰは，4年次への進級条件 に関わる重要な科目である

(3) 課程名表示の訂正

【対象・都市工学課程・環境応用化学課程】

<p.75>

【大学卒業者の資格試験（国家試験）免除】

◎各資格試験等の文章の学科名称

課程名 （誤）都市マネジメント学科（6箇所）Ⅰ

（正）都市工学課程（6箇所）

<p.76>

【大学卒業者の資格試験（国家試験）免除】

◎各資格試験等の文章の学科名称〈危険物取扱者〉

課程名 （誤）環境応用化学科（1箇所）Ⅰ

（正）環境応用化学課程（1箇所）

(4) 受験資格の訂正

【対象：電気電子工学課程・情報通信工学課程】

<p.72>

電気電子工学課程

【大学卒業後の実務経験で得られる受験資格】

削除

- ~~1級電気工事施工管理技士，1級電気通信工事施工管理技士，1級管工事施工管理技士~~
電気電子工学課程（電気電子工学科）を卒業した者は，これらの施工管理技士になるための技術検定試験の受験に必要な最低の実務経験年数が3年に短縮される。この経験年数は高校卒業では10年以上，指定学科以外の大学卒業では4年6ヶ月以上が必要である。
- ~~2級電気工事施工管理技士，2級電気通信工事施工管理技士，2級管工事施工管理技士~~
電気電子工学課程（電気電子工学科）を卒業した者は，これらの施工管理技士になるための技術検定試験の受験に必要な最低の実務経験年数が1年に短縮される。この経験年数は高校卒業では9年以上，指定学科以外の大学卒業では1年6ヶ月以上が必要である。

<p.72>

情報通信工学課程

【大学卒業者の資格試験（国家試験）免除】

◦無線従事者

情報通信工学課程を修め卒業した者は，申請により第一級陸上特殊無線技士，第二級海上特殊無線技士，第三級海上特殊無線技士の免許を受けることができる。ただし，①第三級海上特殊無線技士については，情報通信工学実験Ⅲ，電波工学，通信工学Ⅱ，電気通信法規の単位を修得しなければならず，②第一級陸上特殊無線技士，第二級海上特殊無線技士については，第三級海上特殊無線技士に必要な単位の他，電気・電子計測の単位を修得しなければならない。

【大学卒業後の実務経験で得られる受験資格】

削除

~~◦1・2級電気工事施工管理技士，1・2級電気通信工事施工管理技士，1・2級管工事施工管理技士~~

~~情報通信工学課程を卒業した者は，1級技術検定試験の受験に必要な最低の実務経験年数が大学卒業後4年6ヶ月以上から3年に短縮される。また，2級技術検定試験の受験に必要な最低の実務経験年数が大学卒業後1年6ヶ月以上から1年に短縮される。~~

◦エネルギー管理士

以上

2025 年度

学生便覧

工学部

建築学部

ライフデザイン学部

東北工業大学

東北工業大学の使命・目的と教育方針

■建学の精神

わが国、特に東北地方の産業界で指導的役割を担う高度の技術者を養成する

■ブランドスローガン

未来のエスキースを描く。

■大学の理念

人間・環境を重視した、豊かな生活のための学問を創造し、それらの統合を目指す教育・研究により、持続可能な社会の発展に寄与する

■教育方針

専門家として必要な素地、調和のとれた人格、優れた創造力と実行力を備えた人材の育成

■本学の学生が身に付けるべき「共通学士力」

創造力	培った知識・技能を用いて、積極的・主体的にチャレンジし、学問・技術・環境・製品・サービス等、社会に役立つ新たな価値を創造することができる。	①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
		②論理的思考力	
統合力	創造したものを応用して、社会や人類のために正しく役立てることができるとともに、異文化、異分野、考えの異なるモノや人、多様な物事を組み合わせる柔軟な発想ができ、他者や地域との連携・協力・共創により、社会に貢献することができる。	③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
		④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
		⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

■AEGGポリシー

※「学位授与方針」は、建学の精神や教育方針を踏まえて策定したものであり、その「学位授与方針」を踏まえて「他の3つのポリシー」を策定していることから、これら4つのポリシーの位置付け・関係性を正確に表すため、以下の並び順で記載しています。
(なお、「AEGG」は、入学からの時系列で見た時の各ポリシーの頭文字をとった呼び方です。)

POLICY
G1

【学位授与方針】

(Graduation Policy / Diploma Policy)

本学は、本学が定める教育目的及び教育方針に基づき、各学科所定の卒業要件単位を修得することを通して以下の学士力を身に付けた学生に対し、卒業を認定し「学士」の学位を授与する。

- 「共通学士力」を身に付けている。
- 各専門分野（学部・学科）における「専門学士力」を身に付けている。

POLICY
G2

【学生の指導方針】

(Guidance Policy)

本学学生の個性を重んじ、その成長と進路の自己設計のため、また、G1ポリシーに掲げる学士力を身に付けさせるため、以下の方針で学生の指導を行う。

- 学内外の多様な正課外活動の体験を通して、社会の一員としての意識を醸成するための指導を行う。
- キャリア教育並びに専門教育科目、研修等を通して、職業人としての意識を醸成するための指導を行う。

POLICY
E

【教育課程表の編成・実施の方針】

(Education Policy / Curriculum Policy)

G1ポリシーに掲げる学士力を身に付けさせるため、以下の方針で教育を行う。

- 幅広い知識と理解力を養うとともに、共通学士力と専門学士力を身に付けさせるため、体系的な教養教育と専門教育のカリキュラムを編成する。
- 学士力の向上を意識して学修させるため、各科目と学士力の対応関係を明示するとともに、科目間の繋がりを明確にしたモデルカリキュラムを示す。
- 学士力の達成度を常に把握し、個々の学生に応じたきめ細かな教育を施すため、初年次から卒業までの継続的な少人数教育並びに個別的学修支援を行う。
- 科目ごとの成績評価と、身に付けるべき学士力との対応関係に基づき、学修成果（学士力到達度）を明示する。

POLICY
A

【入学者受入の方針（抜粋版）】

(Admission Policy)

本学の人材育成の目標達成のため、入学後の成長が期待される人材として、高等学校等において身につけておくべき資質・能力を、以下に示す。

【入学までに身につけておくべき資質・能力】

- 本学で学ぶ上での基本となる基礎学力（数学・理科・国語・英語など、高等学校で学ぶ全ての教科・科目）と総合的な判断力
- 専門分野に秀でた能力
- 意欲的で明確な目的意識
- 多様な活動実績や一芸に秀でた能力

各選抜において、上記【入学までに身につけておくべき資質・能力】の1～4のうち、いずれかを評価して入学生を受け入れる。

※詳細はこちら



目 次

東北工業大学の使命・目的と教育方針	表紙裏
東北工業大学アセスメントポリシー	3
学年暦	5
1. セメスター制と学期について	6
2. 単位制と授業時間について	6
3. 授業科目の区分	7
4. 履修できる授業科目	8
5. ポータルサイトについて	9
6. スマートフォンアプリ「てくポ」について	9
7. 履修登録の手続きについて	9
8. CAP 制について	10
9. 授業への出席について	11
10. 試験について	13
11. 災害発生時における休講および試験の延期等について	17
12. 成績について	17
13. 地域志向科目	19

工 学 部

教養教育科目履修ガイダンス	20
英語科目の履修要項	22
スポーツ・健康系科目の履修要項	23
地域志向科目の履修要綱	23
「教養特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」について	24
他大学等教養科目群・他大学開講科目群	26
電気電子工学課程 専門教育科目履修ガイダンス	28
情報通信工学課程 専門教育科目履修ガイダンス	37
都市工学課程 専門教育科目履修ガイダンス	46
環境応用化学課程 専門教育科目履修ガイダンス	56
分野横断プログラム履修ガイダンス	65
卒業後等の取得資格	70

建 築 学 部

教養教育科目履修ガイダンス	77
英語科目の履修要項	79
スポーツ・健康系科目の履修要項	80
地域志向科目の履修要綱	80
「教養特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」について	81
他大学等教養科目群・他大学開講科目群	83
建築学科 専門教育科目履修ガイダンス	85
卒業後等の取得資格	97

ライフデザイン学部

教養教育科目履修ガイダンス	100
英語科目の履修要項	102
スポーツ・健康系科目の履修要項	103
地域志向科目の履修要綱	103
「教養特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」について	103
他大学等教養科目群・他大学開講科目群	106
産業デザイン学科 専門教育科目履修ガイダンス	108
生活デザイン学科 専門教育科目履修ガイダンス	117
経営デザイン学科 専門教育科目履修ガイダンス	127
副専攻プログラム履修ガイダンス	135
卒業後等の取得資格	140

科目ナンバリング

教養教育	143
工学部	147
建築学部	152
ライフデザイン学部	154

全学部共通

教育職員課程	158
東北工業大学教育職員免許状の取得に関する履修規程	159
教職課程の履修要項	169

東北工業大学 アセスメントポリシー

本学は、大学全体（機関）レベル・教育課程（学位プログラム）レベル・授業科目レベルの各段階において、AEGGポリシーの実現の度合い、AEGGポリシーに基づく諸活動の効果および学修成果を、それぞれ以下の方法で検証します。

1. 大学全体（機関）レベルのアセスメントポリシー

- ▶全学のAEGGポリシーの実現度並びに学修成果の達成状況については、卒業要件充足状況、成績、外部アセスメントテスト結果等の直接的な方法による他、卒業生や卒業生の就職先企業など、外部ステークホルダーによる評価結果も踏まえて検証します。

2. 教育課程（学位プログラム）レベルのアセスメントポリシー

- ▶教育課程の特性を踏まえて各学部等において定めたAEGGポリシーに基づく学修成果の達成状況については、単位修得状況、GPA、外部アセスメントテスト、学生調査等の結果から検証します。
- ▶学位プログラムが基盤とする分野において、最低限備えているべき資質・能力（※MR）（とくに重要な資質・能力であり、網羅的である必要はない）を具体的かつ明確な修得目標として設定し、その到達度及び最低基準を満たしていることを測定・評価（アセスメント）することで、学位プログラムとして「出口」における質保証を行い、改善に繋がります。
※MR：ミニマム・リクワイアメント（Minimum Requirement）の略

3. 授業科目レベルのアセスメントポリシー

- ▶科目ごとに、「何を学び、身に付けることができるのか」具体的な到達目標とともに最低限身に付けるべき能力をMRとして明示します。
- ▶各授業科目における到達目標の達成状況は、学修成果・教育成果の把握・可視化における最も基本的な情報、いわば「出発点」であり、個々の授業科目において到達目標に照らしてできるだけ定量的又は定性的に達成水準を明らかにし、厳格に成績評価し点数に反映します。（すべての科目でルーブリック評価する必要はないが、MRを満たした場合60点とします）。
- ▶個々の授業科目の学修成果の達成状況や成績評価の妥当性については、授業評価アンケート等の結果を用いて検証し、改善に繋がります。

4. アセスメントの方法

上記1～3の具体的な検証を行うため、主として「別表1・2」に掲げる各種データ等を使用します。特に、上記2のアセスメントは、以下の方法により行います。

- ① 各専門学士力に対応するコア科目を選定し、コア科目の中から当該学位プログラムとしてのアセスメント対象科目を設定します（必ずしもすべての専門学士力・コア科目をアセスメント対象とする必要はない）。
- ② MRとして設定された「知識・技能」について、その定着を確認テストにより評価します。
具体的には、
 - ・アセスメント科目の授業で用いた演習問題や試験問題、あるいはその分野で重視されている資格・検定試験などの過去問題からMRの内容を問う問題を精選し、確認テストを作成する。
 - ・合格（MRをクリアする水準を60点とする）するまで受験（WebClass等を利用）と学習を繰り返すことにより、その定着を図ることを目的とする。
 - ・3年次の研修、またはセミナー等の期間を通じて実施する。

- ③ 確認テストによる測定になじまないMRについては、アセスメント対象科目の授業の中で、または授業とは別に「理解し、実践し、応用できる」ことをルーブリックにより評価します。
具体的には、コア科目の授業全体（14週）またはその一部、あるいはセミナーや研修等において当該専門学士力の到達度をルーブリック評価する。
- ④ 卒業研修を特別なアセスメント科目として位置付け、ルーブリックにより学科毎のディプロマ・ポリシー（DP：学位授与方針）の到達度を評価します。
- ⑤ 共通学士力については、外部アセスメントテスト（PROGテスト等）のスコアを用います。

5. 学生の学修成果の可視化方針

本学学生の学修成果は、本学のDP到達度として、共通学士力と専門学士力の区分ごとに以下の方法で表し、「別表3」に掲げる項目と併せて、卒業時に学修成果補助証明書として発行する「ディプロマサプリメント」（別紙様式1J）に記載します。

本学学生の学修成果の可視化にあたっては、「個々の学生の入学時からの成長の度合い」を示すことを特に重視し、学生にとって理解しやすい形で表します。

(1) 学科DP到達度の可視化方法

- ・卒業研修テーマおよび成績評価点数を表示します。
- ・上記4-④（卒業研修）のルーブリックスコアを、評価項目ごとにレーダーチャートで表示します。

(2) 共通学士力の可視化方法

- ・共通学士力の各区分の内容に相当する外部アセスメントテストの項目のスコアを組み合わせ集計し、その集計値を、当該区分の共通学士力の到達度として表示します。
- ・共通学士力の最終的な到達度（学修成果）は、第8セメスター（4年次後期）に受検した外部アセスメントテストのスコアを使用します。

(3) 専門学士力の可視化方法

- ・各学科専門教育課程表における各専門科目と専門学士力の各区分との対応表に基づき、対応する専門教育科目の範囲で算出したGPAを、当該専門学士力項目の到達度として表示します。
- ・専門学士力の最終的な到達度（学修成果）は、卒業時点の成績（GPA）を使用します。

【改定履歴】

1. 2019年12月17日 制定（代議員会承認）
2. 2021年10月12日 改定（内部質保証推進委員会・代議員幹事会承認）
3. 2022年11月 8日 改定（内部質保証推進委員会・代議員幹事会承認）

令和7（2025）年度 東北工業大学 学年暦

前期授業日
後期授業日
休業日
終日休講日
授業等予備日
補講日
※赤字記載は代替授業日

2025年												2026年																							
4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月													
1	火		1	木		1	日		1	火		1	金	前期定期試験④	1	月	前期追再試験④	1	水		1	土		1	月		1	木	元日	1	日		1	日	
2	水		2	金		2	月		2	水		2	土		2	火	前期追再試験⑤	2	木		2	日		2	火		2	金		2	月	合同企業研究セミナー	2	月	
3	木		3	土	憲法記念日	3	火		3	木		3	日		3	水		3	金		3	月	文化の日	3	水		3	土		3	火	合同企業研究セミナー	3	火	
4	金	入学式	4	日	みどりの日	4	水		4	金		4	月	夏季休業開始	4	木		4	土		4	火	月曜代替授業	4	木		4	日		4	水	(一般選抜A日程)	4	水	
5	土		5	月	こどもの日	5	木		5	土		5	火		5	金		5	日		5	水		5	金		5	月		5	木	(一般選抜A日程)	5	木	(一般選抜B日程)
6	日		6	火	振替休日	6	金	前期補講日①	6	日		6	水		6	土		6	月		6	木		6	土		6	火	冬季休業終了	6	金		6	金	
7	月	CAMPUS OPEN DAY	7	水		7	土	父母懇談会 (秋田・山形)	7	月		7	木		7	日		7	火		7	金		7	日		7	水		7	土		7	土	
8	火	前期オリエンテーション①	8	木	月曜代替授業	8	日	父母懇談会(新潟)	8	火		8	金		8	月		8	水		8	土	父母懇談会(仙台)	8	月		8	木		8	日		8	日	
9	水	前期オリエンテーション②	9	金		9	月		9	水		9	土		9	火	前期追再試験成績発表	9	木		9	日		9	火		9	金		9	月		9	月	卒業者発表
10	木	前期オリエンテーション③	10	土		10	火		10	木		10	日		10	水		10	金	(スポーツ大会) 終日休講	10	月		10	水		10	土		10	火	後期成績発表 追再試験時間割発表	10	火	
11	金	前期オリエンテーション④	11	日		11	水		11	金		11	月	山の日	11	木		11	土	大学祭 (秋のオープンキャンパス)	11	火		11	木		11	日		11	水	建国記念の日	11	水	
12	土		12	月		12	木		12	土	授業等予備日	12	火		12	金		12	日	大学祭 (秋のオープンキャンパス)	12	水		12	金	(専門総合・公募選抜) 終日休講	12	月	成人の日	12	木	後期補習①	12	木	
13	日		13	火		13	金		13	日		13	水		13	土		13	月	スポーツの日	13	木		13	土		13	火		13	金	後期補習②	13	金	
14	月		14	水		14	土	父母懇談会(仙台)	14	月		14	木		14	日		14	火		14	金		14	日		14	水	月曜代替授業	14	土		14	土	
15	火		15	木		15	日		15	火		15	金		15	月	敬老の日	15	水	月曜代替授業	15	土	授業等予備日①	15	月		15	木		15	日		15	日	
16	水		16	金		16	月		16	水		16	土		16	火		16	木		16	日		16	火		16	金		16	月	後期追再試験①	16	月	
17	木		17	土		17	火		17	木		17	日		17	水		17	金		17	月		17	水		17	土	(大学入学共通テスト)	17	火	後期追再試験②	17	火	
18	金		18	日		18	水		18	金		18	月		18	木		18	土		18	火		18	木		18	日	(大学入学共通テスト)	18	水	後期追再試験③	18	水	
19	土		19	月		19	木		19	土	オープンキャンパス	19	火	(北海道科学大学定期戦)	19	金	夏季休業終了	19	日	創立記念日	19	水		19	金		19	月		19	木	後期追再試験④	19	木	学位授与式
20	日		20	火		20	金		20	日	オープンキャンパス	20	水	(北海道科学大学定期戦)	20	土		20	月		20	木	(指定校等選抜) 終日休講	20	土		20	火		20	金	後期追再試験⑤	20	金	春分の日
21	月		21	水		21	土	父母懇談会 (青森・福島)	21	月	海の日	21	木		21	日		21	火		21	金		21	日		21	水		21	土		21	土	
22	火		22	木		22	日	父母懇談会(盛岡)	22	火		22	金	前期成績発表 追再試験時間割発表	22	月	後期オリエンテーション	22	水		22	土		22	月		22	木		22	日		22	日	
23	水		23	金		23	月		23	水		23	土	オープンキャンパス	23	火	秋分の日	23	木		23	日	勤労感謝の日	23	火		23	金		23	月	天皇誕生日	23	月	
24	木		24	土	インターンシップ 合同企業研究セミナー	24	火		24	木		24	日		24	水		24	金		24	月	振替休日	24	水	後期補講日①	24	土	授業等予備日③	24	火		24	火	
25	金		25	日		25	水		25	金		25	月	前期補習①	25	木		25	土		25	火		25	木	授業等予備日②	25	日		25	水		25	水	進級者発表
26	土		26	月		26	木		26	土		26	火	前期補習②	26	金		26	日		26	水		26	金	冬季休業開始	26	月	後期授業終了 後期補講日②	26	木	後期追再試験成績発表	26	木	
27	日		27	火		27	金		27	日		27	水	前期追再試験①	27	土		27	月	避難訓練	27	木		27	土		27	火	後期定期試験①	27	金		27	金	
28	月		28	水		28	土	オープンキャンパス	28	月	前期授業終了 前期補講日②	28	木	前期追再試験②	28	日		28	火		28	金		28	日		28	水	後期定期試験②	28	土		28	土	
29	火	昭和の日	29	木		29	日		29	火	前期定期試験①	29	金	前期追再試験③	29	月		29	水		29	土		29	月		29	木	後期定期試験③				29	日	
30	水	月曜代替授業	30	金		30	月		30	水	前期定期試験②	30	土		30	火		30	木	金曜代替授業	30	日		30	火		30	金	後期定期試験④				30	月	
			31	土					31	木	前期定期試験③	31	日					31	金	(AOVA選抜) 終日休講				31	水		31	土					31	火	

1. セメスター制と学期について（学則第11条, 12条参照）

大学の1年間は、4月1日に始まり翌年の3月31日に終わります。

本学では、最初の半年を前期、残りの半年を後期に分け、学期ごとに履修登録から単位認定までを完結させる「セメスター制」を採用しています。

学生の皆さんは、各学期の始めに履修登録を行い、授業を受講し、各学期の終わりに試験を受けて、試験に合格すれば単位が取得できます。不合格であった場合は、次のセメスターか、翌年度以降に再度履修登録を行い、同じ授業を再び受講することができます。（これを「再履修」といいます。）

各学年・学期とセメスターの関係は下表の通りです。

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

2. 単位制と授業時間について（学則第10条参照）

単位数と学修時間

本学では、「単位制」を採用しています。

単位制とは、各授業科目ごとに一定の基準による単位数が決められていて、その授業科目を所定の時間履修し、試験に合格するとその授業科目に決められている単位が取得できる、という制度です。修業年限中に卒業に必要な単位数を修得すれば卒業することができます。

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成されています。

本学における授業科目の単位数算定基準は、講義や演習、実習など、授業の方法に応じ、授業時間外に必要な学習時間を考慮して、学則第10条に定められています。

1単位あたり45時間の学修時間が求められるため、概ね下表の通り「授業時間外」での予習・復習等の「自習時間」が必要となります。予習・復習等の自習に要する標準時間は、シラバスの「授業計画」内にある「授業方法及び学習課題（予習・復習）」欄に記載してありますので、各授業科目の教員の指導に沿い、必要な自主学習を行ってください。

【単位数と授業時間数・自習時間数】

授業形態	単位数	週授業時間数		自習時間数
講義	2単位（90時間）	1コマ/週（計30時間）	+	60時間/14週
演習・実習	1単位（45時間）	1コマ/週（計30時間）	+	15時間/14週

授業は、1講時100分の授業が半期14週で行われます。時間の計算は、45分の授業を1時間相当とみなし計算しますので、100分授業の授業時間は2.2時間相当とみなします。従いまして、講義2単位の科目は、教室で30時間分の授業と60時間の自習（予習・復習）時間が必要となりますので、週当たりの学修時間は、おおよそ6時間30分となります。

授業時間帯

なお、本学における各時限（1コマ=100分）の授業時間帯は、以下の通りです。

講 時	授業時間
1 講時	8：50～10：30
2 講時	10：40～12：20
3 講時	13：10～14：50
4 講時	15：00～16：40
5 講時	16：50～18：30

※ただし、期末試験や集中講義、補講、補習等については、上記と異なる時間帯で実施する場合があります。

3. 授業科目の区分

教養教育科目

授業科目は、その内容によって、「教養教育科目」と「専門教育科目」の二つに分けられます。

「教養教育科目」は、「幅広い知識と豊かな人間性を持つ人材の養成」という教育目標の達成のために設けられた科目です。

専門教育科目

「専門教育科目」は、各課程・学科の専門の学芸を修得するためのものです。それぞれの課程・学科が独自に設ける科目ですが、複数課程・学科にわたり共通の科目もいくつかあります。

教職科目

この他に、教育職員免許状取得のための「教職科目」があります。教員免許の取得を希望する学生は、各専門課程・学科の教育課程に加えて、教職科目の修得が必要です。

教職科目の詳細については、本学生便覧158ページ以降を参照してください。

「教養教育科目」「専門教育科目」のそれぞれに、必修科目と選択科目があります。

必修科目

「必修科目」は、必ず履修して単位を修得しなければならない科目です。この科目の単位を修得しないと、進級や卒業することができません。

選択科目

「選択科目」は、自分の興味や必要性に応じて選択することが可能な科目です。

これを計画的に組み合わせて、進級や卒業に必要な単位数を揃えるようにします。

各授業科目は、科目の内容および教育目標に応じて、効果的に学習できる学年・学期に配当されています。それぞれの科目の開講時期は、本学生便覧中の、各課程・学科の教育課程表に記載されています。

進級・卒業条件

必修・選択の指定、卒業に必要な単位数、進級に必要な単位数を考慮し、各課程・学科が示している履修ガイダンスを参考にして、計画的に科目履修を進めてください。各課程・学科の卒業に要する最低修得単位数は、履修ガイダンスに記載されています。

2年次から3年次、3年次から4年次にそれぞれ進級するための条件は学部課程・学科毎に定められており、条件を満たしていない学生は進級することができません。この進級条件も本学生便覧中の各課程・学科の履修ガイダンスに掲載されています。

4. 履修できる授業科目

先取り履修 特別進級

1. 履修科目は所属課程・学科の教育課程表から選びます。
他学部・他課程・他学科の同名の科目を履修して所属課程・学科の科目に振替えることは原則としてできません。ただし、再履修の場合、他課程・学科で履修できる科目もあります。
専門教育科目中の学際科目は、他学部・他課程・他学科等において開設されている授業科目であっても、所属する課程・学科の専門知識として履修することが望ましいとした科目として、他学部・他課程・他学科の専門科目を規定の範囲内で単位を修得することができます。ただし、開設している課程・学科の学生を優先するので、受講人数を制限する場合があります。
1年生は、所属課程・学科の自分のクラスで開講されているものから優先的に履修してください。
2. 自分より上級学年の科目を履修することはできません。
ただし、工学部と建築学部の2年次に留年した学生に限り、3年次の開講科目の履修を認めることがあります(これを「先取り履修」といいます)。先取り履修によって修得した3年生の科目の単位は、3年次への進級条件の単位数には加算できません。しかしながら、3年次への進級条件を充足し、かつ先取り履修により4年次への進級条件をも満たした場合には、2年次から4年次へ進級することができます。(これを「特別進級」といいます)なお、先取り履修の履修登録方法については、窓口にて問合せてください。

再履修

3. 1つの時間帯には1科目だけ履修登録することができ、同時に2科目を履修することはできません。
時間割上で同一時間帯に同一学年の科目が2科目以上ある場合(これを並列開講科目といいます)、そのうち1科目だけを選択して履修します。ただし、選択しなかった方の科目を次年度以降に履修することは可能です。
4. 一度単位を修得した科目を再び履修することはできません。
また、カリキュラムが変更になった場合、旧科目名ですでに修得済みの科目は、新しい科目名で再び履修することはできません。
5. 一度不合格となった科目を再履修する場合は、
 - (1) 各セメスターで再履修クラスが開講されている場合は、再履修クラスで履修してください。
 - (2) 受講しようとするセメスターに再履修クラスが開講されていない場合は、正規の時間割で履修することが原則です。
 - (3) 上記が不可能な場合は、所属課程・学科の他のクラスで履修することもできます。
 - (4) 教養教育科目の場合は、他学部や他課程・他学科で履修することもできます。ただし、同一科目名であっても学部ごとに内容が異なる科目の場合は、所属する学部以外の授業は履修できません。
 - (5) 英語科目の再履修については、22ページを参照してください。

再履修科目と自分の学年の科目が同じ時間帯に重なる場合は、必修科目が優先です。必修科目同士が重なる場合は、低学年の必修科目が優先となります。ただし、実験など、その学年で修得する必要がある科目については、そちらを優先します。

上記(1)～(4)の方法で再履修が不可能な場合、科目担当教員の個別の指導の下に再履修を許可する場合があります(「特別再履修」という)が、すべての科目でこれを行うわけではないので、教務委員、科目担当教員に相談してください。

5. ポータルサイトについて

ポータルサイト

大学からの連絡事項は、ポータルサイトから確認することができますので、毎日確認する習慣をつけてください。見落としたために何らかの不利益が生じたとしても、その責任は自分自身が負わなければなりません。また、ポータルサイトの下部にあるタブから、「教務システム」や「STAC（学修成果可視化システム）」へのアクセス、学則・諸規定やオリエンテーション資料等の確認をすることができます。

6. スマートフォンアプリ「てくポ」について

大学からの連絡事項は、てくポからも確認することができます。また、授業の出席についてもてくポで行いますので、必ずダウンロードしてください。

てくポの主な機能は以下の通りです。

- (1) 授業時間割の変更や休講・補講、教室変更等、大学からの連絡事項の確認
- (2) 授業の出席登録・出席情報の確認
- (3) 時間割の確認
- (4) 成績の確認

7. 履修登録の手続きについて（学則第13, 14条参照）

履修登録

大学では、同じ課程・学科の学生であっても全員が同じ科目を受けるわけではなく、各自が選択した科目を履修しますので、学生ごとに履修科目が異なります。

学生は、毎セメスターの始めに、履修しようとする授業科目を必ず届け出なければなりません。これを「履修登録」といいます。履修登録をしていない科目については、試験を受けることができず、単位を修得することができません。

本学では、履修科目の登録は教務システム上で行います。

各学期の履修登録の流れは次表の通りですので、必ず指定された期間内に各自教務システム上で履修登録を行ってください。（履修登録期間および履修登録訂正期間については、別途ポータルサイトや、てくポ等でお知らせします。）

履修登録の方法等の詳細については、ポータルサイトに公開されている「履修登録・シラバス検索マニュアル」を参照してください。

履修登録の流れ

履修登録期間 ※1週間程度。 詳細はポータルサイトで周知します。	「履修登録・シラバス検索マニュアル」にしたがい、各自教務システム上で履修登録を行ってください。 ※セメスター毎に履修登録できる単位数の上限が定められていますので、その上限内で登録するよう注意してください。（詳細は10ページを参照）
履修登録結果（1回目） の確認	上記期間中の履修登録結果は、履修登録期間後、直ちに内容を確認してください。 履修登録科目は、履修登録で教務システムに登録された科目をもって決定となります。登録されなかった科目の単位は認定されませんので、自分が履修登録した科目に、誤りや履修登録漏れが無いが、十分に確認してください。
履修登録訂正期間 ※履修登録結果・1回目終了後1週間程度。 詳細はポータルサイトで周知します。	自分が履修登録した科目に誤りや履修登録漏れ等があった場合、または新たに追加登録したい科目や削除したい科目がある場合には、この期間中に、各自教務システム上で履修登録の訂正を行ってください。
履修登録結果（2回目） の確認	履修登録訂正期間中の内容を反映した履修登録結果は、履修登録期間終了後に教務システムから必ず確認してください。

なお、指定された期間内に履修登録ができない場合には、必ず事前に窓口へ相談してください。

<p>履修科目の変更</p> <p>特別な届出の必要な科目</p>	<p>履修登録訂正期間が終了した後に、やむを得ず履修科目の変更（追加履修登録や履修取り消し）を希望する場合は、『履修変更願』を窓口へ提出してください。</p> <p>ただし、『履修変更願』を提出できる期間は限られています。詳しくはポータルサイトやてくポ等により周知します。</p> <p>以下のような科目は、通常の履修登録では登録ができませんので、授業開始までに、窓口で既定の届出用紙を受領し履修登録をしてください。</p> <p>(1) 学際科目（他大学開講科目を除く）</p> <p>学際科目の履修を希望する場合は、所定用紙（『他課程・他学科・他学部開講科目群』履修届）に必要事項を記入し、所属課程・学科教務委員の許可を得た上で、窓口へ提出してください。</p> <p>ただし、履修を希望する授業の履修人数によって履修登録できない場合があります。なお、進級・卒業単位に算入できる単位数の上限は、学部によって異なりますので、所属課程・学科の教育課程表を参照してください。</p> <p>(2) 特別再履修科目</p> <p>科目担当教員の個別の指導の下に特別に再履修を受けること（特別再履修）を希望する場合は、所定用紙（「特別再履修許可願」）に必要事項を記入し、科目担当教員の許可を得た上で、窓口へ提出してください。</p> <p>(3) 他大学開講科目</p> <p>他大学で開講される科目の履修を希望する場合は、本学での審査および受け入れ大学・学部での審査がありますので、他の科目よりも早い時期に申込みをする必要があります。申込方法、申込期限、修得単位の取扱い等の詳細については、26ページを参照してください。</p> <p>(4) 分野横断プログラム</p> <p>65ページを参照のこと</p> <p>(5) 副専攻プログラム</p> <p>135ページを参照のこと</p> <p>(6) その他</p> <p>教務システム上で登録できない科目については、窓口で登録方法を確認してください。</p>
<h2>8. CAP 制について</h2>	
<p>CAP制の目的</p> <p>履修登録上限単位数</p> <p>CAP制対象外の科目</p>	<p>履修登録することのできる単位数に上限が定められています（これを「CAP制」といいます）。大学での学修には、講義などの授業時間だけでなく、空き時間や自宅で、1回の授業あたり2時間の予習・復習が求められるため、時間割に余裕を持って履修し理解を十分に深めることを目的としています。</p> <p>履修登録することのできる上限単位数は、以下の通り設定されていますので、その単位数を超えないよう十分注意して計画的に履修登録を行ってください。</p> <p>「1 Semester毎」に履修登録することのできる単位数の上限は、「24単位」です。万が一、上限を超えて履修登録してしまった場合には、強制的に履修削除されることがあります。</p> <p>以下の科目の単位数は、履修登録上限単位数には含めません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職科目（ただし、教員免許取得に必要な科目のうち、進級及び卒業に要する単位に算入される科目は、履修登録上限単位数に含めます。） ・特別課外活動（教養教育科目・専門教育科目） ・高大連携特別講座として単位認定申請した科目

履修登録単位数 上限の緩和	<p>前セメスターの成績がGPA2.6以上で、かつ15単位以上取得した学生は、履修登録期間中に所定の書式にて窓口に申請の上、認められれば当該セメスターの履修上限単位(24単位)を超えて2単位まで追加履修登録できます。</p> <p>なお、休学していた場合は、休学する直前のセメスターの成績を対象として判定します。</p>				
9. 授業への出席について					
教室	<p>各自が履修する科目の授業に出席します。</p>				
出席登録	<p>授業の行われる教室の教室番号は時間割表に掲載されています。教室や開講時間が変更になる場合はポータルサイトやてくポ等で周知します。集中講義など、通常的时间割表に載らないものについてもポータルサイトやてくポ等で周知します。</p>				
補講	<p>授業への出席は、てくポを利用して行います。授業開始前に教室へ入室し、各自の携帯端末から出席登録を行ってください。</p> <p>詳しい出席登録方法についてはポータルサイトにマニュアルを掲載しています。</p> <p>なお、授業科目によっては、授業開始後に出席を取る方法や、てくポを利用せず出席を取る場合がありますので、各授業担当教員の指示に従ってください。</p>				
欠席の限度	<p>授業が予定した学習範囲に達しなかった場合や、休講があった場合は、補講が行われます。学年暦で補講日が設けられていますが、通常の週の空き時間に補講を行う場合もあります。どちらの場合も時間と教室はポータルサイトやてくポ等で周知します。</p>				
特別指導願	<p>それぞれの科目について、総授業時間数の4分の1以上欠席した場合は、試験を受けることができないので、単位を修得することができません。</p> <p>ただし、担当教員の裁量によって、受験を認める場合があります。(東北工業大学試験及び成績評価規程第6条参照)</p>				
長期欠席届	<p>別表の事由により授業を欠席する場合は、特別指導願を提出することができます。特別指導とは、別表の事由により授業を欠席した場合、その授業担当教員から指示された相当学修を完了すれば欠席として扱われないというものです。願出は事前に、あるいは欠席後7日以内に添付書類とともに窓口に提出してください。なお、7日以内に提出が困難な場合は事前に電話等で連絡してください。認められた場合は、速やかに担当教員へ連絡をし、2週間以内に相当学修の指示を受け実施してください。但し、相当学修を完了しない場合は、欠席として扱われますので注意してください。</p>				
休学	<p>病気や怪我で1ヶ月～3ヶ月の長期にわたって欠席する場合は、医師の診断書を添えて長期欠席届を提出することができます。なお、長期欠席期間中の授業科目出席状況の取扱いについては、課程・学科教務委員ならびに授業担当教員と別途相談してください。</p> <p>病気・怪我またはやむを得ない理由で3ヶ月以上修学できない場合は、休学を願うことができますが、休学期間は在学年数に算入しないので4年間で卒業することはできなくなります。また、休学中は下表の休学在籍料を納入しなければなりません。</p> <p>なお、学期の途中から休学を申請する場合は、当該学期の学費納入が必要です。</p> <p>休学在籍料(月額10,000円)</p> <table border="1" data-bbox="427 1989 922 2078"> <tr> <td>通年休学の場合</td> <td>120,000円</td> </tr> <tr> <td>半期休学の場合</td> <td>60,000円</td> </tr> </table>	通年休学の場合	120,000円	半期休学の場合	60,000円
通年休学の場合	120,000円				
半期休学の場合	60,000円				

○別表【特別指導願を使用することができる主な授業欠席の事由】

感染症	種類	出席停止の基準	
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、ポリオ、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ (H5N1)、新型コロナウイルス ※上記の他、新型インフルエンザ等感染症<指定感染症及び新感染症>	治癒したと医師が認めるまで	
	第二種	インフルエンザ ※新型含む (鳥インフルエンザ除く)、新型コロナウイルス	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで	
	麻疹 (はしか)	解熱後3日を経過するまで	
	水痘 (みずぼうそう)	すべての発疹が痂皮化するまで	
	風疹	発疹が消失するまで	
	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで	
	咽頭結膜熱 (プール熱)	主要症状が消退した後2日を経過するまで	
	結核	病状により学校医その他医師において感染のおそれがないと認めるまで	
	髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医その他医師において感染のおそれがないと認めるまで	
第三種	コレラ、腸チフス・パラチフス、腸管出血性大腸菌感染症、細菌性赤痢、流行性結膜炎、急性出血性結膜炎その他感染症	病状により学校医その他医師において感染のおそれがないと認めるまで	
	(条件により出席停止の措置が考えられる疾患) 溶連菌感染症、ウイルス性肝炎、手足口病、伝染性紅斑 (リンゴ病)、ヘルパンギーナ、感染性胃腸炎、マイコプラズマ感染症	全身症状が悪いなど、医師の判断で出席停止を要する場合など	
	【添付書類】 病名の特定できる薬の処方箋または医師の診断書等、但し一週間以上の欠席は出席停止期間を明記した医師の診断書を要する		
忌 引	3親等内の葬儀への参列 (日数は、1親等の場合は7日以内、2親等及び3親等の場合は3日以内とする)		
公共交通機関の運行停止	使用する公共交通機関の運休および遅延によるもの		
教育実習	4年次「教育実習」によるもの (一日体験実習、「教職実践演習」に伴う学校現場見学は除く)		
課外活動	■承認条件 (①及び②-1もしくは②-2を満たすこと) ①学友会所属クラブ・サークルの活動に伴う大会等への参加であること ②-1 全国及び都道府県規模以上の連盟や協会が主催する大会・行事であること ②-2 上記以外の大会・行事の場合は、東北地方大会以上の参加規模であること ※また大会・行事参加前にクラブ・サークル毎に「学外活動届」(大会要項、参加者名簿添付)を提出していることを条件とする。参加者名簿に記載のない者の届出は認めない。 ■学生自主企画助成金に採択された活動		
就職活動	採用選考に係る企業説明会、就職試験、内定式等によるもので、事前に企業と交渉し日程変更ができなかったものに限る。 企業からの案内状等を持参のうえ課程・学科長または就職委員から証明を受けること。		
インターンシップ	実施期間が3日以上インターンシップ等に3日以上参加した場合、もしくは採用選考に係るインターンシップ等に限る。インターンシップ等実施内容を確認できる書類を持参のうえ、課程・学科長または就職委員から事前証明を受けること。 また、インターンシップ等終了後一週間以内に証明を受けた教員に対し、インターンシップ実習報告書を提出し、受理証明を受けること。 ※インターンシップ等とは、「学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取組み」で示されたタイプ1~4を指す。 ※教務学生課または長町校舎事務室への提出は、事前証明および実習報告書受理証明後とする。		
国際交流	国際交流委員会で承認した活動		
学会発表	自身の学会発表によるもの		

※不明な点は、窓口まで問合せください。

10. 試験について

東北工業大学試験及び成績評価規程

(目的)

第1条 この規程は、東北工業大学学則（以下「学則」という。）第14条第2項の規定に基づき、試験に関して必要な事項及び成績評価に関する事項を定めることを目的とする。

(試験の種類)

第2条 試験は、各学期末（授業期間中）に行う授業中試験のほか、定期試験、追試験、再試験（再々試験以降を含む）、進級時特別再試験、卒業時特別再試験及びその他試験とする。

(1) 授業中試験

各学期の授業期間中に授業最終回またはその1つ前の回に実施する試験をいう。

(2) 定期試験

前期及び後期の授業期間終了後の定められた期間に行う試験をいう。なお、前項に定める試験及び定期試験を総じて期末試験という。

(3) 追試験

病気その他やむを得ない事由により期末試験を欠席した者（第7条、第8条及び第9条に該当する者）に対し、本人の願い出により教務委員長が受験を許可する科目で行う試験をいう。

(4) 再試験（再々試験以降を含む）

期末試験を受験して不合格だった者に対し行う試験をいう。なお、再試験（再々試験以降を含む）の実施は当該授業科目の成績評価結果により授業担当教員が決定する。再試験（再々試験以降を含む）の実施回数に制限は設けない。

(5) 進級時特別再試験

追再試験成績発表時点で進級要件（研究室配属条件を含む）を6単位以内の範囲で充足していない者に対し行う試験をいう。ただし、実施する授業科目は当該年度で不合格（不適を除く）となった科目に限る。

(6) 卒業時特別再試験

追再試験成績発表時点で卒業要件を6単位以内の範囲で充足していない者に対し行う試験をいう。ただし、実施する授業科目は当該年度で不合格（不適を除く）となった科目に限る。

(7) その他試験

学期の途中等、授業科目担当教員が必要と認めたとときに行う試験をいう。

(試験方法)

第3条 試験はすべて筆記試験を原則とし、作品、レポート、報告書、論文等の審査の結果をもって筆記試験に代えることがあるほか、学修支援システムを用いて実施されることがある。

(成績評価)

第4条 各授業科目の成績は、100点をもって最高とし、60点以上を合格とする。なお、優（80点以上）、良（65点以上）、可（60点以上）、不可（59点以下）、不適（出席日数・課題未提出により授業担当教員に受験不適とされたもの）をもって表され、不可・不適は不合格とする。成績評価基準に関しては、当該授業科目のシラバスに示すこととする。

(再試験（再々試験以降を含む）の成績)

第5条 再試験（再々試験以降を含む）における各授業科目の成績は、満点を60点とする。

(受験不適者)

第6条 次のいずれかに該当する者は、期末試験を受験することができないほか、当該授業科目の単位の認定を受けることができない。

- (1) 当該授業科目の履修登録をしていない者
- (2) 当該授業科目の1/4以上欠席した者（ただし、担当教員の裁量によって受験資格を与えられた者は除く。）
- (3) 当該学期の学費納入金未納の者（ただし、延納許可願いを提出し許可された者を除く。）

（期末試験の欠席）

第7条 期末試験をやむを得ない事由により欠席した者は、当該試験の欠席日を含んで7日以内に次の各号の一に示す事由に該当する場合に限り、それぞれ当該各号に規定する証明書類等を添えて、「試験欠席による追試験」を願い出ることができる。

【証明書の例示】

- (1) 病気、怪我等により欠席した場合
 - ・医師の診断書または証明書
 - ・病院の領収書
- (2) 就職試験等により欠席した場合
 - ・受験票または試験通知書
 - ・八木山キャンパスキャリアサポート課または長町キャンパス事務室の証明書
- (3) 公共交通機関の遅延により欠席した場合
 - ・遅延証明書
 - ・鉄道やバス会社HPの該当ページ写し
- (4) バイク等の事故または故障により欠席した場合
 - ・事故証明書
 - ・修理した店の領収書
- (5) 3親等内の葬儀により欠席した場合
 - ・会葬礼状または死亡診断書（写）（忌引きの日数は、1親等の場合は7日以内、2親等及び3親等の場合は3日以内とする。）

（試験の重複）

第8条 期末試験において、同一試験時間に2科目以上の試験が重複した場合は、原則として低学年開講の授業科目を期末試験で受験し、他の科目は「試験重複による追試験」を願い出ることができる。

（授業との重複）

第9条 期末試験において、同一時間に授業が開講されている場合は、原則として期末試験の受験を優先しなければならない。ただし、やむを得ず授業を優先する場合は、「授業との重複による追試験願」を願い出ることができる。

（試験の実施）

第10条 試験は、別に定める「試験監督実施要領」に基づき、試験監督者により実施する。

（受験者の義務）

第11条 受験者の義務は、「受験者心得」に別に定める。

（不正行為者の処分）

第12条 試験中（第2条で規定する試験）、または作品、レポート、報告書、論文等において不正行為を行った者は、学則第53条に従って懲戒されるとともに、次の各号の一を適用する。

- (1) 不正行為におよんだ当該学期（セメスター）の全科目を無効（成績は「不適」とする）とする。
- (2) 懲戒処分を受けた当該年度において、無効となった科目の特別再履修を認めない。

なお、不正発覚後、審理委員会において審議された懲戒処分が教授会で決定するまでの期間は、学科長・教務委員の指導の下、履修登録・受講を認めることがある。

	<p>(成績発表)</p> <p>第13条 成績は、当該年度の学年暦に基づく前期及び後期の成績発表日に発表する。ただし、授業担当教員によって成績発表日の前に当該授業科目の成績が開示されることがある。</p> <p>(追試験・再試験(再々試験以降を含む))</p> <p>第14条 追試験及び再試験に該当する者は、当該試験日の2日前までに受験票の交付を受けることで受験することができる。ただし、再試験の場合、受験手数料を納入する必要がある。なお、一度受験手数料を納入した科目の再々試験以降の受験手続き及び受験手数料は不要とする。</p> <p>(追試験、再試験(再試験以降を含む)の欠席)</p> <p>第15条 追試験及び再試験(再々試験以降を含む)を欠席した場合、第7条の各号の一に示す事由に該当する場合に限り、再度の追試験及び再試験を行う。ただし、理由なく試験を欠席した場合、当該試験以降の追試験及び再試験を受験することはできない。(進級時特別再試験、卒業時特別再試験は除く)</p> <p>(進級時特別再試験)</p> <p>第16条 進級時特別再試験に該当する者は、当該試験日の2日前までに受験票の交付及び受験手数料を納入することで受験することができる。ただし、当該セメスターに再試験(再々試験以降を含む)の受験手続き及び受験手数料を納入した科目は不要とする。</p> <p>(卒業時特別再試験)</p> <p>第17条 卒業時特別再試験に該当する者は、当該試験日の2日前までに受験票の交付及び受験手数料を納入することで受験することができる。ただし、当該セメスターに再試験(再々試験以降を含む)の受験手続き及び受験手数料を納入した科目は不要とする。</p> <p>(その他試験の欠席)</p> <p>第18条 その他試験を欠席した場合、授業担当教員が許可した授業科目に限り、再度の追試験及び再試験(再々試験以降を含む)を行う場合がある。</p>
<p>受験者心得</p>	<p>(入室)</p> <p>1. 受験者は、試験開始5分前までに所定の試験室に入室してください。</p> <p>(着席)</p> <p>2. 受験者は、試験室において指定の座席に着席してください。ただし、座席が指定されていない場合は、試験監督者の指示に従ってください。</p> <p>(入室限度)</p> <p>3. 試験開始から25分以内に限り遅刻者の入室を認めますが、試験時間の延長は認められません。</p> <p>(退室)</p> <p>4. 受験者の退室は、試験終了後、答案用紙の回収及び部数確認作業、または解答状況の確認作業が終了するまで、認められません。</p> <p>(学生証・受験票)</p> <p>5. 試験を受ける際は、必ず机の上に学生証を提示してください。なお、追試験の際は追試験受験票、再試験(再々試験以降を含む)の際は再試験受験票もあわせて提示してください。</p> <p>(特別受験票)</p> <p>6. 学生証の不携行者は、特別受験証明を監督者に願い出て特別受験票の発行を受け、机の上に提示しなければなりません。(追試験の際の追試験受験票、再試験(再々試験以降を含む)の際の再試験受験票の不携行についても同様とする。)</p> <p>(特別受験票発行後の手続き)</p>

7. 学生証不携行で受験した場合は、受験した日の翌日から数えて4日以内に特別受験票(学生用)に学生証を添えて窓口へ提出し、検印を受けなければなりません。(追試験受験票、再試験受験票を不携行で受験した場合についても同様に特別受験票に当該受験票を添えて提出すること。)なお、この手続きを怠った場合は、当該試験の受験が無効となる場合があります。

(持込許可)

8. 机に出すことが許可される物品は、学生証、受験票、筆記用具(筆箱は除く)及び時計(スマートウォッチ(タッチスクリーンとCPUを搭載した多機能型腕時計)は除く)に限ります。ただし、当該試験科目担当教員が必要と認めたものはこの限りではありません。

(持込不可)

9. 8.以外の物品は、カバンに入れて自席の椅子の下又は試験監督者の指示する場所に整理して置いてください。机の中には一切物品を入れることは禁止します。

10. 携帯電話等の通信機器は電源を切ってカバンに入れてください。机に出すことはできません。

ただし、当該試験科目担当教員が必要と認めた場合はこの限りではありません。

(試験中)

11. 試験中は、厳正な態度で臨み、以下の事項に注意して受験してください。

- (1) 試験中、受験者間の交渉は一切認められません。
- (2) 試験中は試験室内外ともに静粛にするよう心掛けなければなりません。
- (3) 試験室内で配布された解答用紙は、持ち帰ってははいけません。
- (4) 試験中、試験監督者に用件のある場合は、黙って挙手をしてください。
- (5) 答案用紙に所属学科、学年、学生番号及び氏名の記入がないものは無効となる場合があります。

(不正行為)

12. 受験者は不正行為および不正と疑われるような行為をしてはなりません。不正行為は、試験室で指摘された場合に限らず、採点の際発見された場合も不正行為として取扱いを受けます。

なお、次のいずれかに該当した場合は、解答用紙への書き込みの有無にかかわらず、不正行為と認定されます。

【不正行為と認定される事例】

- (1) 机に出すことが許可された物品以外のものを見た場合
- (2) 机、身体、所持品または身の回りの物品に文字等を記載あるいは貼付けしたのを見た場合
- (3) 机に出すことが許可された物品を監督者の許可を得ずに貸借した場合
- (4) 他人の答案を見た場合、又は他人に自分の答案を見せた場合
- (5) 他人のために答案やメモなどを見せた場合、又は他人に答案やメモなどを書いてもらった場合(通信機器を使って送受信した場合も同様)
- (6) 他人のレポートや作品を模倣した場合
- (7) 出版物、ウェブサイトを適切な引用処理を行わずに自己のものとして流用した場合
- (8) 答案用紙を予め用意した用紙あるいは他人の用紙とすり替えた場合
- (9) 言語や動作をもって試験の内容について互いに連絡した場合
- (10) 代人に受験させた場合、又は代人として受験した場合
- (11) 答案用紙を持ち帰った場合
- (12) 監督者の指示に直ちに従わない場合

11. 災害発生時における休講および試験の延期等について

休講および試験の延期等について

大規模災害等（大規模地震・台風・大雪・洪水等）が発生した場合、あるいは予想される場合は、以下の措置を行います。

仙台市全域において学生および教職員の通学、通勤が困難な場合は、両キャンパス（全学部）において、下記により休講および試験の延期措置を行います。（目安：JR在来線が不通）

休講および試験の延期等を行う際の情報の提供について

休講および試験の延期等の措置を行う際は、以下の方法により周知します。

1) 大規模地震発生等の場合

授業の休講や試験の延期等に係る情報提供は、原則として本学Webサイト、ポータルサイト、てくポならびに報道機関を通じ、できる限り速やかに周知いたします。

2) 台風・大雪等の場合又はこれらが予想される場合

台風、大雪等の場合又はこれらが予想される場合は、原則として本学Webサイト、ポータルサイト、てくポならびに可能な場合は報道機関を通じ、前日午後7時までに周知いたします。

休講および試験の延期となった科目は原則、授業等予備日に行います。

対応が決定次第、本学Webサイトやポータルサイト、てくポ等でお知らせします。

授業や試験を受けられない又は遅刻した場合の取扱い

公共交通機関の運休時、その影響による遅延や交通事情による障害のため、授業や試験を受けられなかった場合は、次の通り取り扱います。

所定の届け出用紙（当該公共交通機関発行の遅延証明書等必須）により定められた期日まで手続きした場合の取扱いは以下の通りです。詳細はお問い合わせください。

- 1) 授業については「特別指導」を受けることができる。
- 2) 試験については追試験対象者とする。

窓口：学生サポートオフィス

- ・八木山キャンパス教務学生課（1号館1階）
- ・長町キャンパス事務室（4号館1階）

12. 成績について

GPA

各学期末の成績発表日にSTAC（学修成果可視化システム）またはてくポ等で確認できます。必ず本人が確認し、必要に応じて履修指導を受けてください。

STACには、履修した全科目の成績が記載されます。また進級や卒業条件となる科目区分ごとの修得単位数や、『合格した科目の平均点』および『GPA』が記載されます。

『GPA（Grade Point Average）』とは、履修登録した各授業科目の成績を、それぞれ5段階で評価した値の平均値であり、学力を客観的に計る方法として、主に欧米の大学などで一般的に用いられ、日本の大学でも導入が進められている成績評価指標の一つです。

GPAは、以下の計算式により、算出されます。

【成績5段階評価の区分】

成績	Grade	Grade Point
90～100点	A	4.00
80～89点	B	3.00
70～79点	C	2.00
60～69点	D	1.00
不可・不適	F	0.00

【GPAの計算式】（小数第3位を四捨五入して第2位まで表示します）

$$\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{Aの修得単位数}) + (3 \times \text{Bの修得単位数}) + (2 \times \text{Cの修得単位数}) + (1 \times \text{Dの修得単位数})}{\text{履修登録科目の単位数 (F (不可・不適) の科目の単位数を含む) の合計}}$$

GPAには、不合格（不可・不適）の科目も算入されるので、不合格科目があるとGPA評価を下げることになります。（「不可」は期末試験などの成績評価で不合格となった科目、「不適」は出席日数不足や試験を受けない等により履修放棄となった科目です。）

【GPAの算出に含まない科目】

- ・認定評価を行う科目
- ・学際科目
- ・特別課外活動
- ・教職科目
- ・編入学、転学部、転課程または転学科した際の振替認定された科目

【GPAを用いた学修指導】

GPAが基準値未満の者は、進路変更指導を含む学修指導を受けることとなります。下記の表のとおり基準値は課程・学科ごと異なります。

工学部	GPA 値
電気電子工学課程	GPA1.00 未満の者
情報通信工学課程	2セメスター連続でセメスター毎 GPA が 1.00 未満の者
都市工学課程	GPA1.00 未満の者
環境応用化学課程	2セメスター連続でセメスター毎 GPA が 1.00 未満の者

建築学部	GPA 値
建築学科	GPA1.00 未満の者

ライフデザイン学部	GPA 値
産業デザイン学科	各学期終了時点の専門科目 GPA が 1.00 未満の者
生活デザイン学科	セメスター毎 GPA が通算2回（2セメスター）1.00 未満の者
経営デザイン学科	2セメスター連続でセメスター毎 GPA が 1.00 未満の者

GPA：第1セメスターから直近セメスターまでの教職科目を除いた通算の GPA
 セメスター毎 GPA：セメスター毎の教職科目を除いた GPA

大学院への推薦基準など成績の総合評価にGPAを用います。

13. 地域志向科目

地域志向科目

本学では、平成26年度に、文部科学省が実施する「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択され、「オールせんだいライフデザイン実践教育共創事業」をテーマに、教育、研究、社会貢献の活動を通じて、地域の産業や文化の発展に貢献できる人材の育成を目的に実施してきました。

各学科では、地域志向科目が開講されており、学生の皆さんは、これらの科目を履修することで、地域社会で即戦力として活躍できる人材になるための能力を身に付けることが可能になっています。

（各学科の履修ガイダンス「7. 地域志向科目」参照）

具体的な「地域志向教育」を担う「地域志向科目」の設定および授業内容は、下記のとおりです。

(1) 「地域志向科目」とは、ハード（技術）とソフト（デザイン）の両面およびそれを融合させた内容で構成し、目標とする人材を養成するために設定された科目。

(2) 「地域志向科目」の授業内容

- 1) 自治体（地域）が有する課題の認識や地域づくり（地域振興・イノベーション創出）の事例
 - ① 地域づくり（人・モノ・場・情報）の事例
 - ② 地域・産業・技術のイノベーション展開事例
 - ③ 地下鉄東西線沿線の課題解決に向けた取り組み
 - ④ 地域における防災・減災
- 2) 地域産業における製品や技術・情報の高付加価値化の手法
 - ① 固有技術の高度化
 - ② 次世代に対応した先進技術
 - ③ デザイン・マーケティング・プロモーション
- 3) 地域における「魅力」の発見、「豊かさ」の追求に向けた取り組み
 - ① 地域における「暮らし」と「なりわい」
 - ② 地域の資源（人・歴史・文化・伝統・自然・動植物・もの・素材・その他）の活用
 - ③ 地域の環境とエネルギー
 - ④ 都市計画や住空間
 - ⑤ 福祉と健康
- 4) 持続可能な社会構築に向けた鳥瞰的視野の醸成
 - ① 環境負荷低減に向けた取り組み
 - ② 将来の仙台のまちづくりに向けた取り組み
 - ③ まちづくりにおけるソーシャルビジネス・コミュニケーションビジネス（地域住民・企業・NPO・NGOの参画）の展開
- 5) その他「地域志向教育」により目標とする人材の養成に資すると考えられる授業内容

工学部

教養教育科目 履修ガイダンス

カリキュラムの特徴

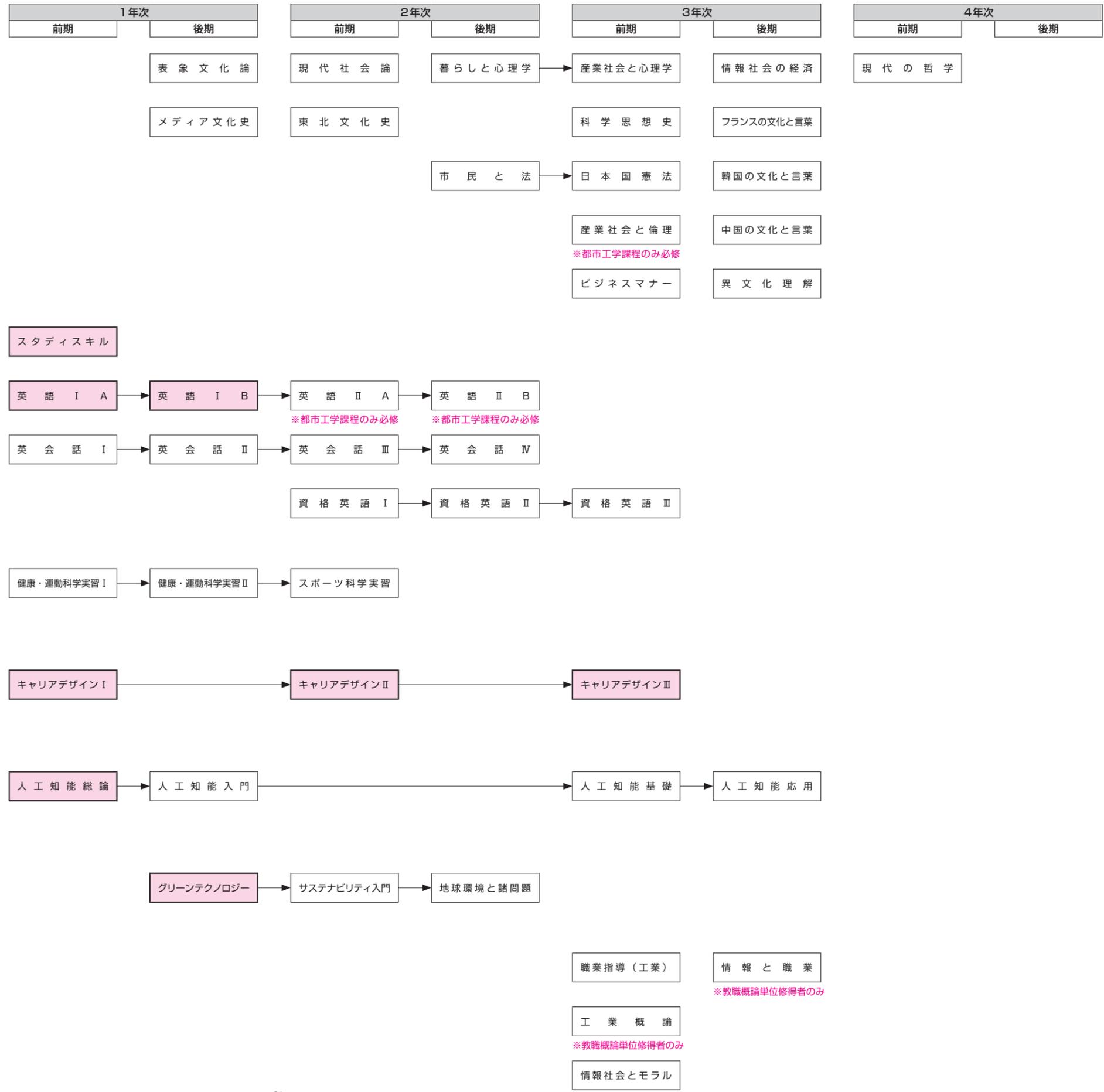
専門的な知識や技術のみに偏ることのない広い視野，市民としての常識，豊かな人間性を身につけるために「社会性」「人間性」「文化性」「科学力」「人間力」「表現力」「健康」「学際」という多彩な科目群を設け，幅広く学修することによって，専門課程で修得した知識や技術を地域社会や国内外において正しく活かすことができるような人材の育成を目指す。

教養教育科目の履修の流れ (工学部)

必修科目 選択科目

科目群の学習・教育目標

地域・文化・社会	現代の社会、および現代の文化（生活）や地域の諸問題を考えるための基礎的な視点や知識を身につける。
言葉と表現	専門課程において要求される言語の読解力、また社会に出てから要求される言語による自己表現力と相互理解力を身につける。
心と体の健康	身体運動と心身の健康についての正しい知識と実践能力を修得する。またコミュニケーション、リーダーシップの向上に役立つ。
キャリアデザイン	自身の能力や適性を理解するとともに、キャリア形成に必要な能力を向上させるスキルを修得する。また、自身の特性や社会情勢等を踏まえて、現実的なキャリアプランを考えることができる。
AI・データサイエンス	社会における様々な分野の課題解決に活用できる数理・データサイエンス・AIの知識や技術を身につける。
グリーンテクノロジー	地球環境及び対策技術「グリーンテクノロジー」について意識させるところからはじまり、「持続可能な開発目標」(SDGs)の背景にある生態学的・システム論的な視点を身につけ、地球環境問題の解決に取り組める素養を身につける。
教職関連	教員に必要な資質能力を身につけるとともに、現代の社会諸問題を考えるための基礎的な視点や知識を身につける。



英語科目の履修要項

近年、日本の多くの高等教育機関で、教育の質の保証という観点から、客観的な成績評価の指標として、資格試験が利用されています。また、エントリーシートへの資格試験成績の記入や、入社後の受験を義務づけ、昇格の条件として用いる大手企業なども増加しています。こうした状況に鑑みて、本学では、文系・理系の両分野において有用な資格である TOEIC (Test of English for International Communication) を念頭に置いた演習を、英語教育に取り入れています。資格試験対策としては継続的な学習が最も重要ですから、1年次から目的意識を持って履修計画を立ててください。

1. 履修科目

〈必修科目〉(1年次)

英語科目は、「読む、書く、聞く、話す」の四技能の養成を目的とし、以下の必修科目が設定されています。

授業科目名	単位数	毎週の時間数	
		1年	
		前期	後期
英語ⅠA	1	2	
英語ⅠB	1		2

※都市工学課程のみ「英語ⅡA」及び「英語ⅡB」を必修とする。

「英語ⅠA」及び「英語ⅠB」は、基礎的文法項目の学習を中心とする科目です。受講するクラスは、プレースメントテストの結果で分けられます。学生自身によるクラス変更は認められません。

〈選択科目〉(1・2・3年次)

各自のニーズと目的に合った英語学習を行うため、以下の選択科目が設定されています。

授業科目名	単位数	毎週の時間数					
		1年		2年		3年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
英語ⅡA	1			2			
英語ⅡB	1				2		
英会話Ⅰ	1	2					
英会話Ⅱ	1		2				
英会話Ⅲ	1			2			
英会話Ⅳ	1				2		
資格英語Ⅰ	1			2			
資格英語Ⅱ	1				2		
資格英語Ⅲ	1					2	

「英語ⅡA」及び「英語ⅡB」は、英米文化を学習する科目です。

「英会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では、外国人講師による speaking, listening を中心とした実践的英会話、および TOEIC リスニングセクション対策の基礎となる演習を行います。

「資格英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、TOEIC 対策に特化した 400～500 点以上のレベルの演習を行います。受講者は、TOEIC IP テスト受験が義務付けられます。

<p>2. 英語科目の 再履修に ついて</p>	<p>「英語ⅠA」「英語ⅠB」・「英語ⅡA*」「英語ⅡB*」（※都市工学課程のみ必修）の単位未修得者（成績評価が「不可」の者）は、再履修クラスを受講してください。ただし、前期は「英語ⅠB」「英語ⅡB（都市工学課程のみ開講）」を対象とした再履修クラス、後期は「英語ⅠA」「英語ⅡA（都市工学課程のみ開講）」を対象とした再履修クラスのみが開講されます。再履修クラスを受講できない場合には、各課程・学科の正規クラスで再履修してください。また、各科目の成績評価が「不適」の学生は、再履修クラスを受講できませんので、各課程・学科の正規クラス（X組かP組での受講とする）を受講してください。</p>
----------------------------------	---

スポーツ・健康系科目の履修要項

	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ・健康系科目の開講時期及び単位数は以下の通りです。 健康・運動科学実習Ⅰ 1年次前期 1単位 健康・運動科学実習Ⅱ 1年次後期 1単位 スポーツ科学実習 2年次前期 1単位（集中コースでも履修可能） 2. 開講されている科目は全て卒業単位（教養教育科目）に認められます。 3. 教員免許の取得を希望する学生は健康・運動科学実習Ⅰおよび健康・運動科学実習Ⅱを必ず履修してください。 4. スポーツ科学実習の集中コースは、希望者が多数の場合に、施設・用具の関係で人数制限を行っています。
--	--

地域志向科目の履修要綱

	<p>本学は仙台市を中心とした宮城県内の地域と連携した教育・研究・社会貢献に関わり、特に地域志向を目指す教育を重要視しています。</p> <p>地域志向教育では以下の3つの人材育成を目的としています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の課題を発見し、その解決策を探求でき、地域産業が求める知識や技術を有する人材 2. 地域企業の役割を理解し、地域産業を発展的に世界に発信していくことができる人材 3. 新しいライフデザインの提案を創造実践できる人材 <p>本学では地域貢献できる学生の資質向上を図り、地域志向科目を開講しています。地域志向科目はシラバスの該当科目において示しています。</p>
--	---

「教養特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」について

科目設定の趣旨

大学における勉学は開講されている科目を履修する事だけではありません。芸術活動、クラブ活動、セミナー参加、インターンシップ参加などにより、文化・社会的活動を通して協調性やコミュニケーション能力を向上させ、人間形成を行う事が重要です。これを奨励するため、本学では入学後に取得した資格や学内外での様々な活動を、教養教育科目「教養特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各1単位)として認定しています。詳細については、窓口を確認してください。

単位認定の対象活動

本学在籍期間中に行った自主的・能動的活動のうち、本学の教育目標にふさわしいと認められる特別な課外活動を対象に、審査の上、単位認定します。

その対象区分は当面、以下のⅠ～Ⅷとしますが、これらの項目に該当しないものについて申請があった場合も、教務委員会で審査して妥当性を判断し、場合によっては対象項目の拡張を検討します。

(Ⅰ) 資格取得または検定等の主な認定例 1～2単位

資格取得または検定	単位	資格取得または検定	単位
第一種電気工事士	2	第二種電気工事士	1
工事担任者 AI・DD総合種	2	映像音響処理技術資格	1
基本情報技術者	2	ITパスポート	1
第一級陸上特殊無線技士	2	情報検定情報システム	1
宅地建物取引士	2	エックス線作業主任者試験	1
危険物取扱者甲種	2	危険物取扱者乙種	1
TOEIC 600点以上	2	TOEIC 400点以上	1

詳細は窓口にお問い合わせのこと。

(Ⅱ) 体育、文化及び芸術活動における顕著な業績をもつ活動 1～2単位

(Ⅲ) ボランティア活動(活動証明の得られるもの)

- ① 実活動時間が合計40時間以上の活動 1単位
- ② 実活動時間が合計80時間以上の活動 2単位

※必ずしも単位取得に結びつかない場合があります。参加を希望する学生は事前に窓口にて手続きを行ってください。

(Ⅳ) インターンシップ等制度による活動

- ① 5日以上かつ昼休み、休憩等を除く30時間以上の活動で参加期間の半分を超える日数を職場で就業体験を行うもの 1単位
- ② 10日以上かつ昼休み、休憩等を除く60時間以上の活動で参加期間の半分を超える日数を職場で就業体験を行うもの 2単位

※1事業所あたり、3日以上活動で参加期間の半分を超える日数を職場で就業体験を行うものであれば、複数事業所との組み合わせも可能である。

※インターンシップ等のカリキュラムの内容によっては、単位取得条件を満たさない場合があるので、単位取得を希望する学生は参加する前にキャリアサポート課・長町校舎事務室に相談すること。

(Ⅴ) 国際活動 2単位

- ① 国際交流委員会が認めた国際交流活動、国際交流に関する研修・セミナーへの参加
- ② 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う海外研修

(Ⅵ) 教務委員会指定の課外活動 1～2単位

- ① 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う学外または学内研修、特別講座への参加

- ② 教務委員会が認めた学外または学内活動への参加
- (Ⅶ) 高大連携講座 2単位
 本学と高等学校との協定により実施された「高大連携講座」を本学入学前に修了
 (ただし、協定により他科目での単位認定が取り決められている講座を除く)
- (Ⅷ) 課程指定の課外活動 1～2単位
- ◆電気電子工学課程
- ・みやぎカーインテリジェント人材育成センター研修講座 1～2単位
 総講義時間：所定の時間以上を対象。修了証のコピーとレポートの提出が必要
 - ・みやぎ高度電子機械人材育成センター研修講座 1～2単位
 修了証のコピーとレポートの提出が必要
- ※事前に窓口にお問い合わせのこと。
- ◆情報通信工学課程
- (1) 学外研修・講習に参加して修了証を提出する
 - ・MISAインターンシップ 1～2単位
 - ・みやぎ高度電子機械人材育成センター研修講座 1～2単位
 - (2) そのほか学科が指定または推奨するセミナーおよび学外活動 1～2単位
 ※事前に窓口にお問い合わせのこと。
- ◆都市工学課程
- 以下に示す活動に参加した場合、合計5ポイントが1単位の認定となる目安とします。

対象活動	ポイント
現場見学会（課程で企画したもの）等	1～2pt／回
インターンシップ（課程で紹介したもの）	1pt／日
プランナー研修	10pt／一式

- インターンシップの認定は上記の(Ⅷ)の項目に準じます。「プランナー研修」を実施する場合は詳細などについて開講前に説明します。
- ※事前に窓口にお問い合わせのこと。
- ◆環境応用化学課程
- (1) 現業実習 1～2単位
 - (2) 学外講習会への参加 1～2単位
 - (3) 各種環境関係のNPO活動への参加 1～2単位
- ※事前に窓口にお問い合わせのこと。

単位認定および
 評価の方法

- (1) 単位認定は学生による自己申請に基づくことを原則とします。
- (2) 申請は毎学期末（7月末，1月末）とします。
- (3) 単位認定希望者は、次の書類を添付してポータルサイトからオンライン申請してください。（申請方法等の詳細については、別途ポータルサイト等でお知らせします。）
 対象区分(I)の場合…資格取得、検定合格等を証明する書類
 （但し、本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること）
 対象区分(Ⅱ), (Ⅲ)の場合
 - ① 活動を証明するもの（但し、本人の名前が明示されているものの原本を提示すること）
 - ② 課外活動における本人の位置付け、活動の内容、成果・業績等を記載したレポート（A4判，1000字程度）
 - ③ 団体活動の場合は、個人の活動を証明する第三者（クラブ顧問、団体活動の指導者・担当教員等）の証明書類

対象区分(Ⅳ), (Ⅴ), (Ⅵ), (Ⅶ)の場合

① 活動を証明する書類（本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること。ただし、Ⅳの場合は写しでも可）

② 活動の動機, 活動の内容, 活動の成果, 活動で得たこと等を記載したレポート（A4判, 1,000字程度）

対象区分(Ⅷ)の場合…修了証

(4) 単位認定の審査は教務委員会で行い, 教務委員長が単位認定します。

なお, 成績は“認定”扱いとし, GPAと平均点には算入しません。

(5) 認定方法

① 特別課外活動Ⅰ～Ⅳの内, 残り2科目以上を修得することができる状態で, 2単位相当の活動が単位認定された場合は, 2科目同時認定の2単位として認定します。

② 特別課外活動Ⅰ～Ⅲを修得し, 特別課外活動Ⅳのみ修得することができる状態で, 2単位相当の活動が単位認定された場合は, 1単位として認定します。

(6) 認定基準

認定は次の3つの観点から行います。

- ・活動における自主性, 能動性の度合い
- ・活動内容の充実度
- ・活動の成果の大きさ

窓口：学生サポートオフィス

- ・八木山キャンパス教務学生課（1号館1階）
- ・長町キャンパス事務室（4号館1階）

他大学等教養科目群（教養科目）・他大学開講科目群（専門科目）

学都仙台単位互換
ネットワーク

本学は「学都仙台単位互換ネットワーク」に参加しています。本学学生は「特別聴講学生」として, ネットワークに参加している他大学の開講科目を履修することができます。各大学に通学して受講します。修得した単位は, 所定の単位数まで, 本学で履修した単位として認定できます。

「学都仙台単位互換ネットワーク」は, 仙台圏の国・公・私立の大学・短期大学・高等専門学校及び山形県の東北芸術工科大学の各大学間で, 意欲ある学生に対し多様な学修機会を提供する事を目的として発足した制度です。各大学より文化, 芸術, 政治, 経済, 自然科学等, 多くの学問分野にわたる科目が提供されています。

検定料, 入学料, 授業料（但し, 放送大学宮城学習センターを除く）を別途徴収されることはありません。

学都仙台単位互換ネットワーク協定に基づく特別聴講学生として他大学の提供科目を受講する場合は, 本学で選考の上, 受入大学に依頼を行い, 受入大学から受入通知が来た時点で履修登録を行うこととなりますので, 申し込みは通常の履修登録より早い時期に行われます。

受講を希望する学生は, まず所属課程・学科の教務委員やクラス担任と相談の上, 本学の授業に差し支えないことを確認し, 下記の要領に基づいて窓口で申請手続きを行ってください。

参加大学

1. 学都仙台単位互換ネットワーク参加大学

石巻専修大学, 尚絅学院大学, 仙台北百合女子大学, 仙台大学, 東北学院大学,

<p>科目と対象</p> <p>出願期限</p> <p>他学部教養科目の履修</p>	<p>東北芸術工科大学，東北工業大学，東北生活文化大学，東北大学，東北福祉大学，東北文化学園大学，東北医科薬科大学，宮城学院女子大学，宮城教育大学，宮城大学，聖和学園短期大学，東北生活文化大学短期大学部，仙台高等専門学校，宮城誠真短期大学，放送大学，仙台青葉学院短期大学，仙台赤門短期大学（なお，年度により，募集を行わない大学もあるので事前に確認してください）</p> <p>2. 他大学の募集要項，提供科目 「学都仙台コンソーシアム」のWebサイトで確認してください。</p> <p>3. 対象者 本学に在学する1年生（後期のみ），2，3年生，4年生（前期のみ）</p> <p>4. 対象科目 原則として，自分の学年より上級学年対象の科目の受講は認められません。</p> <p>5. 進級，卒業単位に算入できる単位数 「他大学等教養科目群」または「他大学開講科目群」として進級，卒業単位に算入できる単位数の上限は，課程によって異なりますので，各課程の教育課程表を参照してください。</p> <p>6. 出願期限 出願期間は前期科目及び通年科目と後期科目で異なるほか，開講する大学によって異なります。 「学都仙台コンソーシアム」のWebサイトに記載の出願期限とは別に学内期限があります。事前に窓口で確認してください。</p> <p>7. 諸注意 出願において，本学または受け入れ大学で履修を許可しない場合もあるので，事前にクラス担任，課程の教務委員と相談してください。 万一，途中で履修を取りやめるようなことがあると，受入大学に多大な迷惑をかけることとなりますので，無理のない履修計画を立ててください。 ほぼ全ての大学で，自家用車での通学を認めていませんので，通学にあたっては公共の交通機関を利用してください。</p> <p>本学の他学部において教養科目として開講している科目を履修することができます。修得した単位は，「他大学等教養科目群」として認定されます。進級，卒業単位に算入できる単位数の上限は，各課程の教育課程表を参照してください。特別の届出用紙での履修登録が必要です。 (10ページを参照)。 ※同一セメスターに開講される同一名称の科目の取り扱いは，この限りではありません。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>窓口：学生サポートオフィス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八木山キャンパス教務学生課（1号館1階） ・長町キャンパス事務室（4号館1階） </div>
--	---

工 学 部

電気電子工学課程

専門教育科目

履修ガイダンス

電気電子工学課程

1. 課程の AEGG ポリシーと専門学士力

(1) 電気電子工学課程のAEGGポリシー

■ 電気電子工学課程AEGGポリシー	
POLICY G1	【学位授与方針】 (Graduation Policy / Diploma Policy) 工学部 電気電子工学課程は、全学の学位授与方針 (G1ポリシー) に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本課程の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士 (工学)」の学位を授与する。
POLICY G2	【学生の指導方針】 (Guidance Policy) 電気電子、医療、電力、自動車産業の分野で指導的役割を担って活躍する電気電子技術者を育成するため、以下の方針で指導する。 1. 学内外の多様な正課外活動や研究成果発表の場への参加を積極的に奨励し、社会の一員としての自覚を醸成する。 2. 職業意識の醸成、適性検査、OB講演会、職種研究、面接練習等を、入学時から段階を踏んで就職指導を行う。 3. 重点キャリア資格に関しては、資格取得のための対策講座を開講して積極的に支援する。
POLICY E	【教育課程表の編成・実施の方針】 (Education Policy / Curriculum Policy) 電気電子工学分野のハードウェアとソフトウェアの専門性を備えた人材育成を目標に、教育・研究指導を行う。 1. 個の尊重と実践教育を方針として、基礎科目では習熟度別学修に取組み、また演習・実験・卒業研修等の能動的学びにより専門知識と技術を実学として教育する。 2. 1、2年次では、一般 (基礎)、電気電子工学 (基礎)、情報 (基礎) から構成される専門基礎科目を設定する。 3. 3、4年次では、一般 (応用)、電子機械・ロボット、医工学・バイオ、光・情報デバイス、電気・エネルギーの分野に関する電気電子工学 (応用)、情報 (応用) から構成される専門応用科目を設定する。 4. 卒業研修により、課題発見・解決能力とプレゼンテーション能力を修得するように指導する。
POLICY A	【入学者受入の方針】 (Admission Policy) 本学で定める入学条件に加え、以下の条件を満たす人の入学を強く希望する。 1. 電気電子工学に興味を持ち、この分野に関して自ら学び・自ら考え、さらに新しいことに自ら挑もうとする強い意志のある人 2. 今日の高度情報化社会における電気電子、医療、電力、自動車産業の分野で活躍し、自らの専門知識と技術で社会の役に立ちたいと考えている積極性のある人

※ 「共通学士力」は本冊子の表紙の裏に記載していますので、そちらを参照してください。

(2) 電気電子工学課程の専門学士力と到達目標 (学修成果)

■ 電気電子工学課程の「専門学士力」および学修成果 (到達目標)	
【専門学士力】	【到達目標】
①工学基礎	数学、物理、化学などの自然科学の基礎知識を修得し、電気電子工学の知識取得に活用することができる。
②電気電子基礎	電気回路、電磁気学、電気電子計測の基礎知識を修得し、それらを説明することができる。
③電気電子応用	電気回路や電子回路の専門的な知識を修得し、電気電子分野の課題解決に応用することができる。そして、以下のいずれかの分野の専門的な知識を修得し、それぞれの研究に応用することができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・光・情報デバイス系：固体電子工学、電気電子材料 ・医工学・バイオ系：センサ工学、バイオ・光エレクトロニクス ・電子機械・ロボット系：制御工学、ロボティクス ・電気・エネルギー系：パワーエレクトロニクス、エネルギー変換工学
④情報技術	情報技術およびプログラミングを学修することにより計算機に関する基礎的な知識を修得し、実践的なプログラムを作成することができる。さらに、デジタル信号処理、画像処理、組込システムなど情報に関する専門的な知識を修得し、情報分野の課題解決に応用することができる。
⑤電気電子工学総合	アクティブラーニングを通して、電気電子工学分野の専門知識を理解・統合し、電気電子工学に関する問題を自ら適切に判断して、対処することができる。

(3) 電気電子工学課程の専門学士力のアセスメント方法

専門学士力	コア科目 (★：アセスメント対象科目)	アセスメントの方法 (MR 定着度確認テスト/ ルーブリック評価)	実施時期
① 工学基礎	電気数学 I 及び同演習		
② 電気電子基礎	★電気回路 I 及び同演習	MR 定着度確認テスト	3 年後期
③ 電気電子応用	電子回路 I		
④ 情報技術	基本情報技術 I		
⑤ 電気電子工学総合	★卒業研修Ⅲ	ルーブリック評価	4 年後期

※ MR 定着度確認テストの合格が、研修等の授業科目の単位認定条件となる場合があります。

2. 教育課程表における進級・卒業条件

電気電子工学課程

◎3年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	12 単位以上 必修 4 単位を含むこと	
専門教育科目	40 単位以上 電気電子工学実験 I を含むこと	
計	全体として 60 単位以上	

◎4年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	20 単位以上 必修 7 単位を含むこと	
専門教育科目	76 単位以上 電気電子工学実験 I, II, III 及び卒業研修 I を含む必修 54 単位以上修得のこと	
計	全体として 100 単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	24 単位 必修 8 単位を含むこと	
専門教育科目	100 単位 必修 68 単位を含むこと	
計	124 単位	

3. 教育課程表

電気電子工学課程 教養教育科目

科目区分	授業科目名		単位 必修 選択	各期の毎週時間数								主 授 養 目 的	備考	授業形態				共通学士力					
				1年		2年		3年		4年				講 義	演 習	実 験 実 習	卒 業 研 修	①	②	③	④	⑤	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
地域・文化・社会	1	表象文化論	2		2											○			●	●	●		
	2	メディア文化史	2		2											○			●	●	●		
	3	東北文化史	2			2										○			●	●	●		
	4	現代社会論	2			2										○			●	●	●		
	5	市民と法	2				2									○			●	●	●		
	6	暮らしと心理学	2				2									○			●	●	●		
	7	産業社会と心理学	2					2								○			●	●	●		
	8	産業社会と倫理	2					2								○			●	●	●		
	9	ビジネスマナー	2					2								○			●	●	●	●	
	10	日本国憲法	2					2								○			●	●	●		
	11	科学思想史	2					2								○			●	●	●		
	12	情報社会の経済	2						2							○			●	●	●		
	13	フランスの文化と言葉	2							2						○			●	●		●	
	14	韓国の文化と言葉	2							2						○			●	●		●	
	15	中国の文化と言葉	2							2						○			●	●		●	
	16	異文化理解	2							2						○			●	●		●	
	17	現代の哲学	2								2					○			●	●	●		
言葉と表現	18	スタディスキル	1	2								○			○			●	●		●	●	
	19	英語ⅠA	1	2								○			○						●		
	20	英会話Ⅰ	1	2											○						●		
	21	英語ⅠB	1	2								○			○						●		
	22	英会話Ⅱ	1	2											○						●		
	23	英語ⅡA	1		2										○						●		
	24	英会話Ⅲ	1		2										○						●		
	25	資格英語Ⅰ	1		2										○						●		
	26	英語ⅡB	1		2										○						●		
	27	英会話Ⅳ	1		2										○						●		
心と体の健康	30	健康・運動科学実習Ⅰ	1	2											○			●		●	●		
	31	健康・運動科学実習Ⅱ	1	2											○			●		●	●		
	32	スポーツ科学実習	1		2											○		●		●	●		
デザイン	33	キャリアデザインⅠ	1	2								○			○			●	●	●	●	●	
	34	キャリアデザインⅡ	1		2										○			●	●	●	●	●	
	35	キャリアデザインⅢ	1			2									○			●	●	●	●	●	
AI・データサイエンス	36	人工知能総論	1	2								○											
	37	人工知能入門	1	2																			
	38	人工知能基礎	2				2																
	39	人工知能応用	2					2															
グリーンテクノロジー	40	グリーンテクノロジー	1	2								○											
	41	サステナビリティ入門	2		2																		
	42	地球環境と諸問題	2			2																	
教職関連	43	職業指導(工業)	2					2							○			●	●	●	●		
	44	工業概論	2					2							○			●	●	●			
	45	情報社会とモラル	2					2							○			●	●	●			
	46	情報と職業	2					2							○			●	●	●			
特別課外活動	47	教養特別課外活動Ⅰ	1	…	…	…	…	…	…	…	…												
	48	教養特別課外活動Ⅱ	1	…	…	…	…	…	…	…	…												
	49	教養特別課外活動Ⅲ	1	…	…	…	…	…	…	…	…												
	50	教養特別課外活動Ⅳ	1	…	…	…	…	…	…	…	…												
学際	51	他大学等教養科目群	4	…	…	…	…	…	…	…													
小計(51科目)			8	71	12	14	16	12	22	14	2	0											

※1 合わせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※2 他大学等教養科目群については、4単位までを進級および卒業に要する単位に算入できる。

教育課程表

電気電子工学課程 専門教育科目

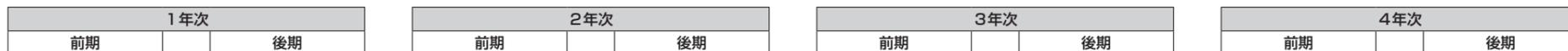
科目区分	授業科目名	単位 必修 選択	各期の毎週時間数								主要授業科目	備考	授業形態					共通学士力					専門学士力				
			1年		2年		3年		4年				講義	演習	実験実習	卒業研修	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																	
工学部共通専門科目	1 フレッシュパーソンセミナー	1	2							○		○	●	●	●	●	●						●				
	2 数学基礎	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●								
	3 物理基礎	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●								
	4 化学基礎	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●								
	5 情報基礎	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●								
	6 工学概論	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●								
	7 線形代数	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●								
	8 物理学Ⅰ	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●								
	9 統計基礎	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●								
	10 電気数学Ⅰ及び同演習	3	4							○		○	●	●	●	●	●		●								
	11 プログラミングⅠ	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●				
	12 無機化学	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●								
	13 電気数学Ⅱ及び同演習	3	4							○		○	●	●	●	●	●		●								
	14 電気回路Ⅰ及び同演習	3	4							○		○	●	●	●	●	●		●								
	15 プログラミングⅡ	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●				
	16 工学基礎実験	2	4							○		○	●	●	●	●	●		●				●				
	17 電気回路Ⅱ及び同演習	3	4							○		○	●	●	●	●	●		●								
	18 基本情報技術Ⅰ	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●				
	19 電磁気学Ⅰ	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●				
	20 電気数学Ⅲ	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●								
	21 物理学Ⅱ	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●								
	22 電気化学	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●								
	23 アルゴリズム基礎	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●				
	24 電気回路Ⅲ	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●								
	25 電磁気学Ⅱ	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●								
	26 固体電子工学Ⅰ	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●								
	27 電気電子計測	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●								
	28 デジタル回路	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●				
	29 電気電子工学実験Ⅰ	3	6							○		○	●	●	●	●	●		●				●				
	30 コンピュータネットワーク	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●				
31 数値計算法	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●					
32 基本情報技術Ⅱ	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●					
33 CAD製図	1	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●					
34 電子回路Ⅰ	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●					
35 電気電子工学実験Ⅱ	3	6							○		○	●	●	●	●	●		●				●					
36 電気回路Ⅳ	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●									
37 固体電子工学Ⅱ	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●									
38 センサ工学	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●									
39 制御工学	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●									
40 マルチメディアシステム	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●					
41 組込システム入門	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●					
42 基本情報技術Ⅲ	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●					
43 電子回路Ⅱ	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●					
44 電気電子工学実験Ⅲ	3	6							○		○	●	●	●	●	●		●				●					
45 電力工学概論	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●									
46 電気機械工学	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●									
47 情報理論	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●					
48 創造開発	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●					
49 電気電子材料	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●									
50 バイオ・光エレクトロニクス	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●									
51 ロボティクス	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●									
52 パワーエレクトロニクス	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●									
53 電気法規	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●									
54 品質管理及び知的財産	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●									
55 エネルギー変換工学	2	2							○		○	●	●	●	●	●		●									
56 卒業研修Ⅰ	1	2							○		○	●	●	●	●	●		●				●					
57 卒業研修Ⅱ	2	4							○		○	●	●	●	●	●		●				●					
58 卒業研修Ⅲ	4	8							○		○	●	●	●	●	●		●				●					
59 他課程開講科目群	12	…	…	…	…	…	…	…	※1			●	●	●	●	●		●									
60 他学部開講科目群	4	…	…	…	…	…	…	…	※2	※3		●	●	●	●	●		●									
61 他大学開講科目群	4	…	…	…	…	…	…	…	※2			●	●	●	●	●		●									
62 専門特別課外活動Ⅰ	1	…	…	…	…	…	…	…	※4			●	●	●	●	●		●				●					
63 専門特別課外活動Ⅱ	1	…	…	…	…	…	…	…	※4			●	●	●	●	●		●				●					
64 専門特別課外活動Ⅲ	1	…	…	…	…	…	…	…	※4			●	●	●	●	●		●				●					
65 専門特別課外活動Ⅳ	1	…	…	…	…	…	…	…	※4			●	●	●	●	●		●				●					
小計 (65科目)	68:78	16:22	18:22	24:18	12:14																						

※1 プログラム外科目は4単位まで卒業に要する単位として算入できる。
 ※2 合わせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※3 合わせて12単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※4 合わせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。

4. 電気電子工学課程 専門教育科目の履修の流れ

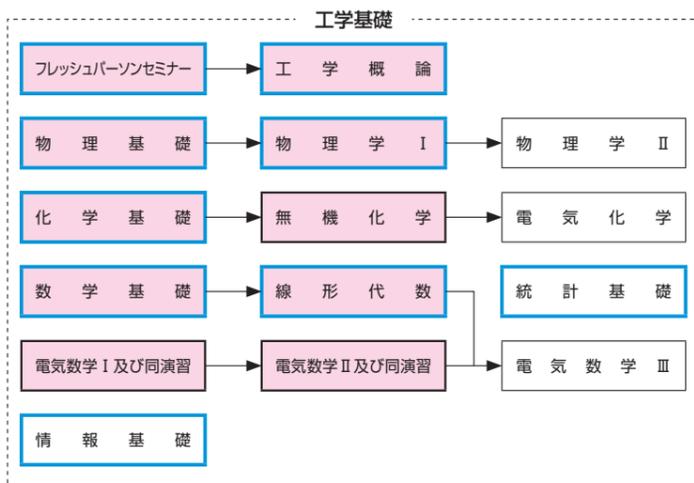
必修科目 選択科目 工学部共通専門科目

専門学士力と到達目標



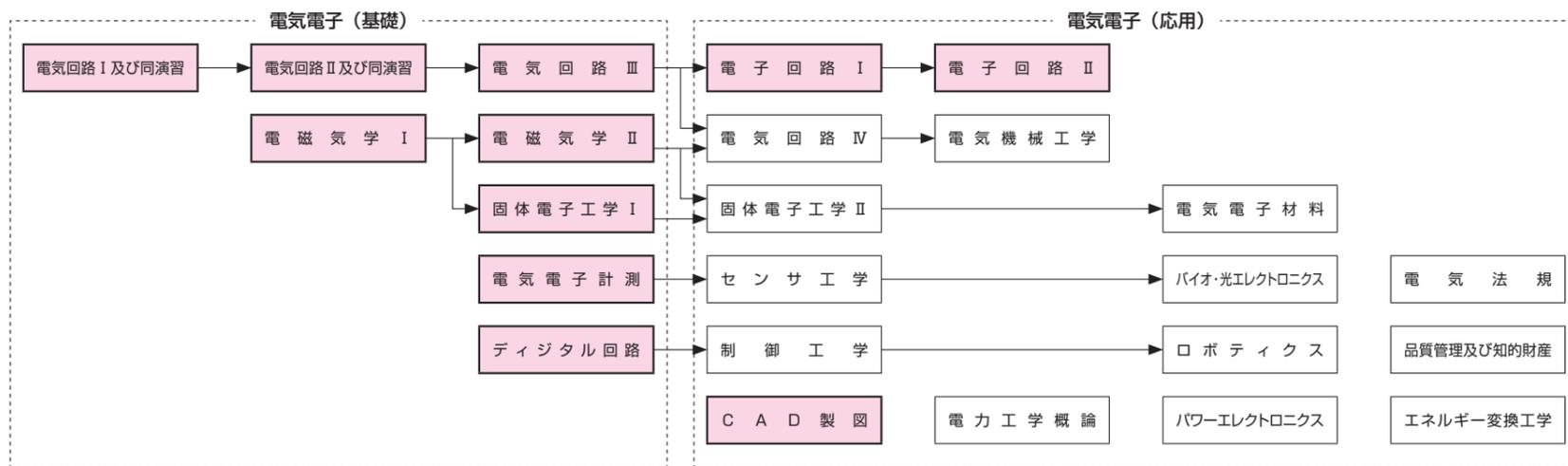
工学基礎

数学、物理、化学などの自然科学の基礎知識を修得し、電気電子工学の知識取得に活用することができる。



電気電子基礎

電気回路、電磁気学、電気電子計測の基礎知識を修得し、それらを説明することができる。



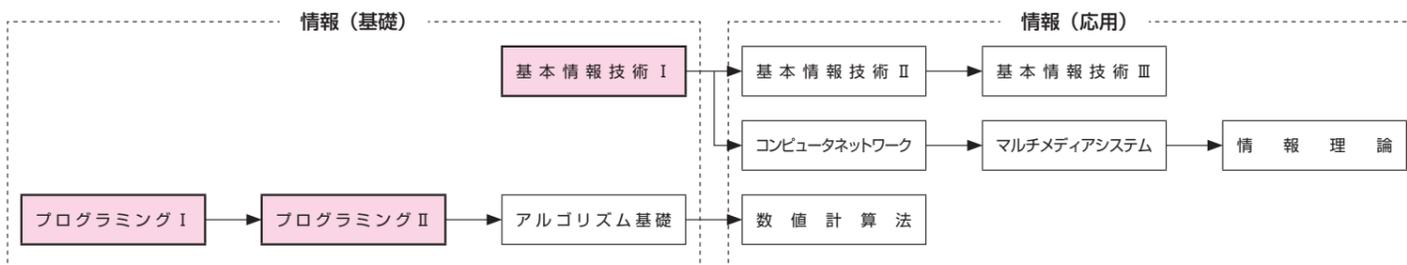
電気電子応用

電気回路や電子回路の専門的な知識を修得し、電気電子分野の課題解決に応用することができる。そして、以下のいずれかの分野の専門的な知識を修得し、それぞれの研究に応用することができる。

- 光・情報デバイス系 : 固体電子工学、電気電子材料
- 医工学・バイオ系 : センサ工学、バイオ・光エレクトロニクス
- 電子機械・ロボット系 : 制御工学、ロボティクス
- 電気・エネルギー系 : パワーエレクトロニクス、エネルギー変換工学

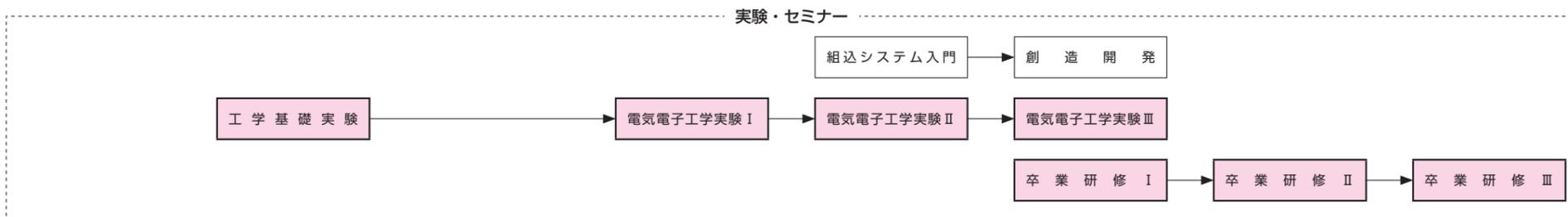
情報技術

情報技術およびプログラミングを学修することにより計算機に関する基礎的な知識を修得し、実践的なプログラムを作成することができる。さらに、デジタル信号処理、画像処理、組込システムなど情報に関する専門的な知識を修得し、情報分野の課題解決に応用することができる。



電気電子工学総合

アクティブラーニングを通して、電気電子工学分野の専門知識を理解・統合し、電気電子工学に関する問題を自ら適切に判断して、対処することができる。



5. 履修ガイダンス

電気電子工学課程

1. カリキュラムの特徴

1～2年次	3年次	4年次
基礎知識の修得	専門分野への挑戦	卒業研修による実践
<p>1～2年次では、電気・電子工学の基礎的な知識を学びます。家造りに例えるなら、家の種類や構造、それを作るための道具や使用方法に関する知識を身につける段階です。ここで学ぶ科目は大きく4つに分類されます。第一に、数学、物理学、化学で構成される「工学基礎科目」は、その後の専門知識を学ぶ際に必要となる論理的な考え方を学びます。第二に、電気回路や電磁気学などの「電気電子科目」では、日常生活を支える電気がどのようなものか、プロの技術者としての視点から学びます。また第三に、コンピュータアーキテクチャやプログラミングなどの「情報科目」では、情報化社会で重要となるコンピュータとソフトウェアに関する知識を学びます。最後に「実験・セミナー」では、これらの知識を実践的に身に付けるために、少人数のグループワークによる実験や製作を行い、能動的な学習手法を学びます。</p>	<p>3年次は、これまで学んだ基礎知識を基に、より専門的な知識の修得を目指します。家造りに例えれば、道具の使い方に習熟し、土台を固める段階です。電気電子工学の学問分野は領域が広く、それぞれ独自の魅力があります。自分が面白いと感じた分野、興味を持った分野について、より深く学ぶことができますよう、多くの選択科目が用意されています。また、各分野の最前線の研究を知るために、3年次後期の卒業研修Ⅰから研究室に配属されます。本学科の研究室は、「電子機械・ロボット系」、「医工学・バイオ系」、「光・情報デバイス系」、「電気・エネルギー系」の4つに分類され、その中から自分の興味に応じた研究室への配属を希望することができます。各研究室では、その分野の最新の研究成果を学ぶだけでなく、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力など総合的な資質を向上するためのトレーニングも行います。</p>	<p>4年次は、卒業研修ⅡとⅢを通して、1年間の卒業研修を行います。3年次までに学んだ専門知識や技術を活かして、自分が作りたい家を形にする段階です。座学の講義の数が少ないのは、大学での学びの集大成である卒業研修に集中するためです。卒業研修のテーマを決める際には、文献調査などを通して、その分野で何が本質的な問題なのかを把握する必要があります。この過程では、「電気電子科目」で学んだ内容に対する理解の深さが問われます。テーマが決まったら、課題を解決するための実験や開発を行います。ここでは「実験・セミナー」で学んだ知識とノウハウが役立ちます。また実験結果が得られたら、それを分析し報告書にまとめます。作業を効率的に進めるために「情報科目」で学んだコンピュータを活用します。このような研修を通じて、技術者に必要とされる実践的な能力を身に付けます。</p>

2. 卒業研修について

3年次後期から研究室に配属され、指導教員の下で卒業研修に取り組むこととなります。電気電子工学課程には、ロボットやメカトロニクスに関係する「電子機械・ロボット系」、工学技術の医療応用や生体メカニズムに関係する「医工学・バイオ系」、表示・記録デバイスや光検出器などの電気電子部品に関係する「光・情報デバイス系」、電気エネルギーのデバイスやシステムに関係する「電気・エネルギー系」など幅広い分野の研究室があります。自分が興味を持った技術に関係した研究室に所属することで、その分野の最新技術に触れる機会が生まれます。

卒業研修では、電気電子工学に関する専門知識だけでなく、課題を発見する分析力や、それを解決するための問題解決能力、実験結果について考察する論理的思考力、研究成果を提示するプレゼンテーション能力

など、大学で身に付けた総合的な能力が問われます。研修活動は研究室ごとに10人程度の少人数グループで行われますが、これを円滑に推進するためには仲間や指導教員と積極的にコミュニケーションすることも重要となります。そういう意味で、卒業研修は大学での学びの集大成と言えます。講義や実験で学んだ知識や概念を、卒業研修という実践の場で有効に活用し、しっかりと自分のものにすることを目指してください。

3. 履修のためのガイド

電気電子工学課程のカリキュラムは、プロフェッショナルの技術者を育成することを目的としています。この分野の技術者には広範囲の知識が要求されるため、最初は一般的で易しい内容から徐々に専門的で複雑な内容を学べるようカリキュラムが設計されています。多くの科目は相互に関連があり、例えばある科目の知識を十分に理解した後でなければ内容が理解できない科目もあります。履修の流れをよく確認し、流れの中で取り残している科目がないようにしてください。

また電気電子工学分野において基本となる科目を必修科目、個々の分野のより専門的な知識を学ぶための科目を選択科目としています。卒業後に様々な仕事に対応できるように、できるだけ多くの選択科目を履修し、基礎と応用の専門知識を広く身に付けることを勧めます。ただし履修登録できる単位数にはC A P制による上限があり、 Semesterごとに定められた上限単位数を超えて登録することはできません。以下に学年ごとの習得目標単位数を示します。

学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数／開講単位数」を示します）

	教養教育科目		専門教育科目		各学年の合計	1年次からの累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	6	4/9	30	2/2	42/47	42/47
2年次	1	8/19	18	12/16	39/54	81/101
3年次	1	8/33	12	16/22	37/68	118/169
4年次	－	2/2	6	6/14	14/22	132/191
卒業までの 総合計	8	22/63	66	36/54	132/191	
	30/71		102/120			

工 学 部

情報通信工学課程

専門教育科目

履修ガイダンス

情報通信工学課程

1. 課程の AEGG ポリシーと専門学士力

(1) 情報通信工学課程のAEGGポリシー

■ 情報通信工学課程AEGGポリシー	
POLICY G1	【学位授与方針】 (Graduation Policy / Diploma Policy) 工学部 情報通信工学課程は、全学の学位授与方針（G1ポリシー）に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本課程の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士（工学）」の学位を授与する。
POLICY G2	【学生の指導方針】 (Guidance Policy) <ul style="list-style-type: none">・ 社会に役立つ情報処理技術者、通信技術者を育成するため、セミナー系科目全体を通じたキャリアガイダンスの実施により、学生が自身の適性を発見することを促す。・ 進路指導員を全学生に割り当て、個人面談を定期的実施して学生のキャリア形成を支援する。・ 資格取得を積極的に支援し、卒業後の学生の活躍に役立てる。
POLICY E	【教育課程表の編成・実施の方針】 (Education Policy / Curriculum Policy) <ul style="list-style-type: none">・ 情報処理技術者、通信技術者を育成するため、情報処理技術と通信技術、これらを融合した技術を体系的に学べるようカリキュラムを編成する。・ 1年次では情報処理技術と通信技術の両方の基礎となる科目を配置し、専門を学ぶ力を付けさせる。・ 2年次から3年次では、情報処理技術と通信技術、および両者の融合分野の専門科目を配置し、高度な専門知識・技術を学べるようにする。・ 4年次では卒業研修科目を配置し、勉学の集大成としての卒業研究を通して技術者として必要な能力を身に付けさせる。
POLICY A	【入学者受入の方針】 (Admission Policy) 高度情報化社会を支えている情報通信分野に関心を抱き、将来この分野で活躍したいとの意欲と目的を持ち、基礎学力を身に付け総合的な判断力を有する者、あるいは情報通信分野に秀でた能力を有する者、多様な活動実績等を有する者を求める。

※ 「共通学士力」は本冊子の表紙の裏に記載していますので、そちらを参照してください。

(2) 情報通信工学課程の専門学士力と到達目標 (学修成果)

■ 情報通信工学課程の「専門学士力」および学修成果 (到達目標)	
【専門学士力】	【到達目標】
①工学基礎	数学や物理などの基礎知識を身に付け、情報通信工学の知識修得に応用することができる。
②情報ネットワーク	コンピュータハードウェア、コンピュータネットワークに関する基礎知識を身に付け、デジタル信号処理、情報理論、セキュリティなどの理解に応用することができる。
③情報プログラミング	基本的なアルゴリズム、データ構造に関する基礎知識を身に付け、基本的なプログラミングができるようになり、各種アプリケーションや組み込みシステムのプログラミングの理解に応用することができる。
④通信システム	通信システムの基礎知識を身に付け、光通信システム、無線通信システムなど各種通信システムの理解に応用することができる。
⑤通信デバイス	電気回路、電子回路の基礎知識を身に付け、光ファイバ、レーザー、アンテナなど各種通信デバイスの理解に応用することができる。
⑥情報通信工学総合	情報通信工学に関する基礎実験や卒業研修を通じて、情報通信工学に関する課題を解決する能力を身に付け、様々な課題への対処に応用することができる。

(3) 情報通信工学課程の専門学士力のアセスメント方法

専門学士力	コア科目 (★：アセスメント対象科目)	アセスメントの方法 (MR 定着度確認テスト/ ループリック評価)	実施時期
①工学基礎	アカデミックスキル		
②情報ネットワーク	★コンピュータネットワーク I	MR 定着度確認テスト	卒業研修 (3年次 または4年次)
③情報プログラミング	★プログラミング入門	MR 定着度確認テスト	卒業研修 (3年次 または4年次)
④通信システム	★情報通信工学入門	MR 定着度確認テスト	卒業研修 (3年次 または4年次)
⑤通信デバイス	★電気回路入門	MR 定着度確認テスト	卒業研修 (3年次 または4年次)
⑥情報通信工学総合	卒業研修 I、II ★卒業研修 III	ループリック評価	卒業研修 (4年次)

※ MR 定着度確認テストの合格が、研修等の授業科目の単位認定条件となる場合があります。

2. 教育課程表における進級・卒業条件 情報通信工学課程

◎3年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目		
専門教育科目	情報通信工学実験Ⅰを修得していること	
計		

◎4年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	20単位以上 英語ⅠA, ⅠB, スタディスキル, キャリアデザインⅠ, 人工知能総論, グリーンテクノロジーを含むこと	
専門教育科目	76単位以上 情報通信工学実験Ⅰ, Ⅱ, および卒業研修Ⅰを含むこと	
計	全体として100単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	24単位 必修8単位を含むこと	
専門教育科目	100単位 必修60単位を含むこと	
計	124単位	

◎情報通信工学課程3年後期科目「卒業研修Ⅰ」の履修前提条件

内 容	備 考
英語必修2単位以上, スタディスキル必修1単位以上を修得していること 専門教育科目60単位以上を修得し, 情報通信工学実験Ⅰ, Ⅱを含むこと ただし, 専門教育科目は3年前期以前の開講科目に限る ※課程より先取り履修を認められた者については, この限りではない	研修Ⅰは, 4年次への進級条件に関わる重要な科目である

3. 教育課程表

情報通信工学課程 教養教育科目

科目区分	授業科目名		単位 必修 選択	各期の毎週時間数								主 授 養 目 的	備考	授業形態				共通学士力				
				1年		2年		3年		4年				講 義	演 習	実 験 実 習	卒 業 研 修	①	②	③	④	⑤
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
地域・文化・社会	1	表象文化論	2		2											●	●	●				
	2	メディア文化史	2		2											●	●	●				
	3	東北文化史	2			2										●	●	●				
	4	現代社会論	2			2										●	●	●				
	5	市民と法	2				2									●	●	●				
	6	暮らしと心理学	2				2									●	●	●				
	7	産業社会と心理学	2					2								●	●	●				
	8	産業社会と倫理	2					2								●	●	●				
	9	ビジネスマナー	2					2								●	●	●	●			
	10	日本国憲法	2					2								●	●	●				
	11	科学思想史	2					2								●	●	●				
	12	情報社会の経済	2						2							●	●	●				
	13	フランスの文化と言葉	2							2						●	●		●			
	14	韓国の文化と言葉	2							2						●	●		●			
	15	中国の文化と言葉	2							2						●	●		●			
	16	異文化理解	2							2						●	●		●			
	17	現代の哲学	2								2					●	●	●				
言葉と表現	18	スタディスキル	1		2							○			●	●		●	●			
	19	英語 I A	1		2							○						●				
	20	英会話 I	1		2							○						●				
	21	英語 I B	1		2							○						●				
	22	英会話 II	1		2							○						●				
	23	英語 II A	1		2							○						●				
	24	英会話 III	1		2							○						●				
	25	資格英語 I	1		2							○						●				
	26	英語 II B	1		2							○						●				
	27	英会話 IV	1		2							○						●				
心と体の健康	30	健康・運動科学実習 I	1		2							○			●		●	●				
	31	健康・運動科学実習 II	1		2							○			●		●	●				
	32	スポーツ科学実習	1		2							○			●		●	●				
デザイン	33	キャリアデザイン I	1		2							○			●	●	●	●	●			
	34	キャリアデザイン II	1		2							○			●	●	●	●	●			
	35	キャリアデザイン III	1		2							○			●	●	●	●	●			
AI・データサイエンス	36	人工知能総論	1		2							○										
	37	人工知能入門	1		2																	
	38	人工知能基礎	2					2														
	39	人工知能応用	2						2													
グリーンテクノロジー	40	グリーンテクノロジー	1		2							○										
	41	サステナビリティ入門	2		2																	
	42	地球環境と諸問題	2		2																	
教職関連	43	職業指導 (工業)	2					2				○			●	●	●	●				
	44	工業概論	2					2				○			●	●	●					
	45	情報社会とモラル	2					2				○			●	●	●					
	46	情報と職業	2					2				○			●	●	●					
特別課外活動	47	教養特別課外活動 I	1	…	…	…	…	…	…	…	…											
	48	教養特別課外活動 II	1	…	…	…	…	…	…	…	…											
	49	教養特別課外活動 III	1	…	…	…	…	…	…	…	…											
	50	教養特別課外活動 IV	1	…	…	…	…	…	…	…	…											
学際	51	他大学等教養科目群	4	…	…	…	…	…	…	…												
小計 (51 科目)		8	71	12	14	16	12	22	14	2	0											

※1 合わせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※2 他大学等教養科目群については、4単位までを進級および卒業に要する単位に算入できる。

教育課程表

情報通信工学課程 専門教育科目

科目区分	授業科目名	単位 必修 選択	各期の毎週時間数								主要 授業 科目	備考	授業形態				共通学士力					専門学士力					
			1年		2年		3年		4年				講 義	演 習	実 験 実 習	卒 業 研 修	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期																	
工学部共通専門科目	1 フレッシュパーソンセミナー	1	2									○		●	●	●	●	●							●		
	2 数学基礎	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	3 物理基礎	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	4 化学基礎	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	5 情報基礎	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	6 工学概論	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	7 線形代数	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	8 物理学Ⅰ	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	9 統計基礎	2	2			2						○		●	●	●	●	●	●						●		
課程専門教育科目	10 情報通信工学入門	2	2								○		●	●	●	●	●	●							●		
	11 プログラミング入門	3	4								○		●	●	●	●	●	●							●		
	12 解析Ⅰ	2	2								○		●	●	●	●	●	●							●		
	13 情報リテラシーⅠ	1	2								○		●	●	●	●	●	●							●		
	14 ベクトルと行列	2	2								○		●	●	●	●	●	●	●						●		
	15 コンピュータネットワークⅠ	2	2		2							○		●	●	●	●	●	●						●		
	16 電気回路入門	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	17 アルゴリズムとデータ構造及び同演習	3	4									○		●	●	●	●	●	●						●		
	18 解析Ⅱ及び同演習	3	4									○		●	●	●	●	●	●						●		
	19 情報リテラシーⅡ	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	20 アカデミックスキル	1			2							○		●	●	●	●	●	●						●		
	21 電気回路Ⅰ及び同演習	3			4							○		●	●	●	●	●	●						●		
	22 論理回路	2			2							○		●	●	●	●	●	●						●		
	23 解析Ⅲ	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	24 基本情報技術Ⅰ	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	25 コンピュータネットワークⅡ	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	26 電気数学	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	27 物理学Ⅱ	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	28 プログラミング実践	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	29 情報通信工学実験Ⅰ	3			6							○		●	●	●	●	●	●						●		
	30 計算機工学Ⅰ	2			2							○		●	●	●	●	●	●						●		
	31 電子回路Ⅰ及び同演習	3			4							○		●	●	●	●	●	●						●		
	32 基本情報技術Ⅱ	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	33 コンピュータ数値解析	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	34 ソフトウェア設計	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	35 データベース	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	36 電気回路Ⅱ及び同演習	3			4							○		●	●	●	●	●	●						●		
	37 電磁気学Ⅰ	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	38 統計学	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	39 情報通信工学実験Ⅱ	3			6							○		●	●	●	●	●	●						●		
	40 情報通信工学セミナー	1			2							○		●	●	●	●	●	●						●		
	41 通信工学Ⅰ	2			2							○		●	●	●	●	●	●						●		
	42 アプリケーション開発	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	43 基本情報技術Ⅲ	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	44 計算機工学Ⅱ	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	45 コンピュータグラフィックス技術	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	46 情報セキュリティ	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	47 電気回路Ⅲ	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	48 電磁気学Ⅱ	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	49 半導体デバイス	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
	50 組込みシステム設計	2										○		●	●	●	●	●	●						●		
	51 情報理論	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●		
52 通信工学Ⅱ	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●			
53 デジタル信号処理	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●			
54 電気・電子計測	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●			
55 電子回路Ⅱ	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●			
56 電波工学	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●			
57 情報通信工学実験Ⅲ	3			6							○		●	●	●	●	●	●						●			
58 音響工学	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●			
59 データ分析	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●			
60 光通信工学	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●			
61 電気通信法規	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●			
62 電力工学	2	2									○		●	●	●	●	●	●						●			
63 卒業研修Ⅰ	1								2		○		●	●	●	●	●	●						●			
64 卒業研修Ⅱ	2								4		○		●	●	●	●	●	●						●			
65 卒業研修Ⅲ	4								8		○		●	●	●	●	●	●						●			
学際	66 他課程開講科目群	12									※1																
	67 他学部開講科目群	4									※2																
	68 他大学開講科目群	4									※2																
特別課外活動	69 専門特別課外活動Ⅰ	1									※4																
	70 専門特別課外活動Ⅱ	1									※4																
	71 専門特別課外活動Ⅲ	1									※4																
	72 専門特別課外活動Ⅳ	1									※4																
小計(72科目)		60:100	22:20	22:28	26:22	10:12																					

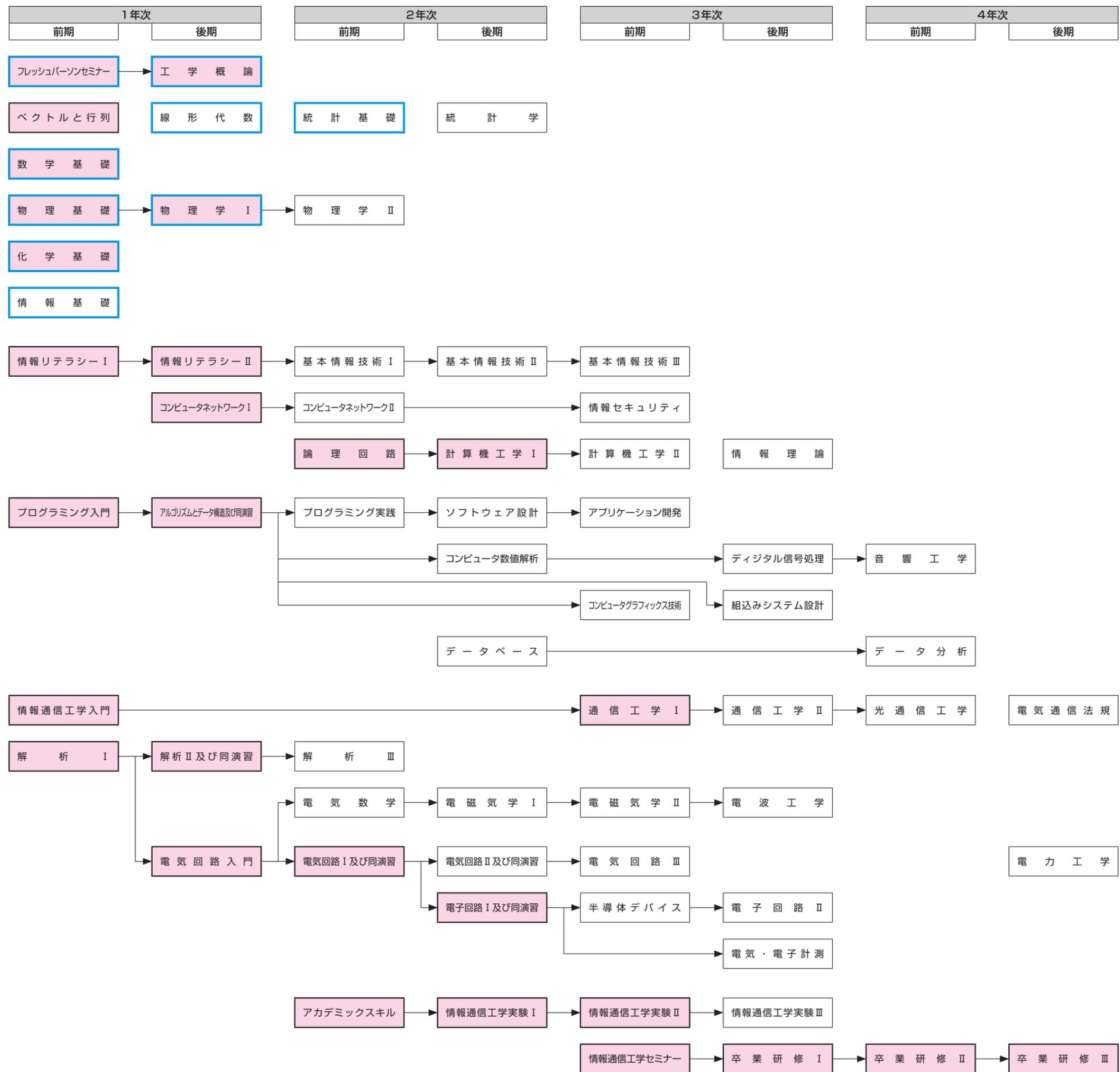
※1 プログラム外科目は4単位まで卒業に要する単位として算入できる。
 ※2 合わせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※3 合わせて12単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※4 合わせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。

4. 情報通信工学課程 専門教育科目の履修の流れ

必修科目 選択科目 工学部共通専門科目

専門学士力と到達目標

工学基礎	数学や物理の基礎知識などを身に付け、情報通信工学の知識修得に応用することができる。
情報ネットワーク	コンピュータハードウェア、コンピュータネットワークに関する基礎知識を身に付け、デジタル信号処理、情報理論、セキュリティなどの理解に応用することができる。
情報プログラミング	基本的なアルゴリズム、データ構造に関する基礎知識を身に付け、基本的なプログラミングができるようになり、各種アプリケーションや組み込みシステムのプログラミングの理解に応用することができる。
通信システム	通信システムの基礎知識を身に付け、光通信システム、無線通信システムなど各種通信システムの理解に応用することができる。
通信デバイス	電気回路、電子回路の基礎知識を身に付け、光ファイバ、レーザ、アンテナなど各種通信デバイスの理解に応用することができる。
情報通信工学総合	情報通信工学に関する基礎実験や卒業研修を通じて、情報通信工学に関する課題を解決する能力を身に付け、様々な課題への対処に応用することができる。



5. 履修ガイダンス

情報通信工学課程

1. カリキュラムの特徴

21世紀の世界は、情報と通信が融合して生まれたインターネットの普及により、以前とは全く異なった社会となりました。情報通信工学課程は、このような ICT (Information and Communication Technology) 社会を支えるエンジニアを育成します。そのために、コンピュータを中心にした「情報処理技術」と携帯電話、光通信、衛星通信などに代表される「通信技術」、さらに、これらが結合したコンピュータネットワーク等の技術を体系的に学べるカリキュラムとしています。1, 2年次では、「情報処理技術」と「通信技術」の基礎を学びます。3年次以降では、プログラマやシステムエンジニア等の情報処理技術者、通信システム技術者やネットワーク技術者に必要な専門知識を、さらに深く学ぶことができます。また、各種資格試験や就職試験に役立つ科目も開講しています。

2. 卒業研修について

卒業研修は、原則として3年次後期から配属される研究室で行います。卒業研修Ⅰでは、卒業研修の準備として、卒業研修に向けた基礎的専門知識・技術を修得します。卒業研修Ⅱ, Ⅲでは、実験、コンピュータシミュレーション、システム開発、プログラミング、など、各研究室の指導教員の指導を受けながら、様々な方法で専門分野の研修を行います。また、各研究室では、必要に応じてセミナーを随時実施します。

卒業研修の成果は「情報通信工学課程卒業論文要約集」としてまとめられ、2月下旬には、課程全体の発表会を行います。

卒業研修は、教員の指導のもと学生自身がテーマを選択し、さらに、専門知識、技術を修得しながら実行するものです。したがって、研修の遂行に際しては、自らが課題を理解した上で、問題を解決するために積極的に関連する専門書や論文を調べ、実験では創意工夫を行うことが重要です。卒業研修は最も大学らしく、面白く、学生生活の集大成と位置づけられるもので、この経験は社会に出たときに必ず役立ちます。なお、研究に興味を持ち、さらに専門分野の知識・技術を深めたい人には大学院への進学を強く勧めます。

3. 履修のためのガイド

1) 必修科目は卒業時までには必ず修得しなければならない科目であるため、できるだけ開講学年時に修得するように努めてください。

2) 履修の計画について

- ① 各科目の内容を確認し、自分の卒業後の進路を踏まえて、科目を選択します。
- ② 「履修の流れ」を参照して、科目間のつながりをよく考えます。
- ③ 目的意識を持ち、途中で履修放棄はしません。

3) 目標単位数と進級条件について

多くの学生に進級のチャンスを広げるため、進級条件は目標とするべき単位数よりも低めに設定されています。したがって、社会で活躍できる人物となるためには、進級条件だけにとらわれず、将来の進路を意識して履修計画を立てることが重要です。

各学年で目標とすべき単位数を次の表に示します。1～3年次においては、毎年およそ40単位ずつ修得することを目標としてください。なお、履修の計画は履修科目登録上限制度の範囲内で立てるようにしてください。

学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数／開講単位数」を示します）

	教養教育科目		専門教育科目		各学年の 合計	1年次から の累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	6	4/13	33	0/4	43/56	43/56
2年次	1	7/15	14	24/28	46/58	89/114
3年次	1	8/33	7	24/33	40/74	129/188
4年次	－	2/2	6	4/10	12/18	141/206
卒業までの 総合計	8	21/63	60	52/75	141/206	
	29/71		112/135			

工 学 部

都市工学課程

専門教育科目

履修ガイダンス

都市工学課程

1. 課程の AEGG ポリシーと専門学士力

(1) 都市工学課程のAEGGポリシー

■ 都市工学課程AEGGポリシー	
POLICY G₁	【学位授与方針】 (Graduation Policy / Diploma Policy) 工学部 都市工学課程は、全学の学位授与方針（G1ポリシー）並びに学習・教育到達目標に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本課程の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士（工学）」の学位を授与する。
POLICY G₂	【学生の指導方針】 (Guidance Policy) 本課程G1ポリシーに基づき、以下の方針で学生指導を行う。 <ul style="list-style-type: none">・学内外の様々な正課外活動を推奨し、マネジメント能力やコミュニケーション能力の醸成を図る。・現場見学会、インターンシップ、プランナー研修など、課程で認めた活動に参加して規定のポイントを獲得した場合には単位を認定することや、課程が指定した資格を取得した場合には受験料を支給することなどにより、学生の自主的な活動を支援する。・CE進路セミナーにより、倫理に関する講話・指導、卒業生による講話、現場見学、就職試験模試を実施し倫理教育、キャリア教育を行う。
POLICY E	【教育課程表の編成・実施の方針】 (Education Policy / Curriculum Policy) 本課程のG1ポリシーに基づき、以下の方針で教育を行う。 <ul style="list-style-type: none">・シラバスでは、各科目のカリキュラム中での位置づけを、学習内容の関連性の流れを主眼とした「履修の流れ」として図示する。・さらに、シラバスには、各科目の授業内容・方法(授業の概要、授業計画など)、到達目標(達成目標)、成績の評価方法・評価基準はもちろんのこと、学習・教育到達目標と学習・教育到達目標(A)～(F)との関係の強さを「%」表示で示す。
POLICY A	【入学者受入の方針】 (Admission Policy) 社会基盤の計画と建設および維持管理に関心を持ち、土木分野におけるリーダーまたはプロフェッショナルとして、地域の歴史や風土を生かした未来をデザインし、心豊かに暮らせる個性的で良質な地域社会を創り出そうとする、その意欲と能力のある人を求める。

※ 「共通学士力」は本冊子の表紙の裏に記載していますので、そちらを参照してください。

(2) 都市工学課程の専門学士力と到達目標（学修成果）

■ JABEE共通基準に対する学習・教育到達目標	
【項目】	【学習・教育到達目標】
(A) 良識と倫理観	「社会において活躍する人材としての良識と倫理観」を身に付けている。 (社会人そして都市マネジメントの技術者として求められる良識や倫理観を持ち、科学技術と文化・社会・自然・公共の福祉との関わりを考え、社会的責任を自覚し行動できる素養を身に付けている。)
(B) 科学的知識	「科学に関する十分な知識を持ち、社会と自然それぞれの環境の改善に貢献できる能力」を身に付けている。 (数学及び自然科学を習得し、それらを活用して都市マネジメントに関わる専門科目の問題を解決するための能力を身に付けている。さらに、コンピュータを活用する技術を習得し、IT社会に対応して情報を収集する方法を身に付けている。)
(C) 自己啓発	「自己を冷静に評価し、自己を啓蒙、発展させるための適切な行動」を身に付けている。 (既成概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと物事を見つめ、問題解決のために何が必要であるかを自主的・継続的に考え、柔軟な解決策を創造する能力を身に付けている。また、実習や研修を通して、チームワークにおける自分の貢献度を高めるための方法を身に付けている。さらに、自分の置かれている状況や現在の実力を客観的に把握し、キャリアデザインに向けて何が必要なのかを考え、自主的・継続的に学習する能力を身に付けている。)
(D) 相互理解と協力	「自己表現に必要な発表能力とともに、他者の意見を理解し、協力する能力」を身に付けている。 (自分が学んだこと、考えたこと、それにより新たに獲得したことを他者に理解してもらうため、レポートの書き方やプレゼンテーションの仕方を身に付けている。さらに、他者の意見を理解し、他者と協力することにより、単独で解決することが難しい問題を解いたり、より完成度の高い水準に到達できたりする経験を通して、協力することや計画的に仕事をすすめることの大切さを身に付けている。)
(E) 専門的知識	「我が国の都市のマネジメントに関わる、社会・産業の要請に十分対応できるだけの知識と素養」を身に付けている。 (専門教育科目の内容を理解し、応用できる能力を身に付けるとともに、実験、実習、研修などの経験を通して土木工学に関わる産業で求められている機能をデザインできる能力を身に付けている。また、公共施設などの企画・立案・設計や建設・維持管理のためのプランニングの基礎知識を身に付けている。さらに、リスク管理・工程管理・コスト管理などのマネジメントの基礎知識を身に付けている。)
(F) 語学力と国際性	「国際社会の諸問題にも関心を持ち、国際的にも活躍できるコミュニケーション能力」を身に付けている。 (国内及び国際社会の諸問題に関心を向け、それについて自分の考え方を理論的・客観的にまとめて説明できる日本語力、他者とのコミュニケーション能力を身に付けており、さらに英語で基本的なことがらを表現できる能力も身に付けている。)

■ 都市工学課程の「専門学士力」および学修成果（到達目標とMR）	
【専門学士力】	【到達目標】 及び 【ミニマムリクワイアメント（MR）】
①工学基礎	都市工学の専門科目修得に必要な数学・物理・化学等の自然科学の知識を学び、それらを活用して社会や自然環境の問題を発見・理解し、その改善方法を考える能力を身に付けている。
②土木材料・構造工学	コンクリートでは配合設計や硬化・発熱現象等また鋼では力のバランスや破壊現象等の基本的な知識を身につけ、構造物の設計、施工、維持管理等に必要なとなる構造工学の基礎が理解できる。
③地盤工学	土という粒の集合体である特殊な材料について基本的な知識を身につけ、そのふるまいを有効応力の原理に基づき理解し、圧密、土圧や支持力・斜面安定等の諸問題について理解できる。
④水工学・土木環境システム	水工学では水の流れや河川・海岸の状況等また環境では洪水や災害などの基本的な知識と思考力を身につけ、環境保全等の社会課題について自主的・継続的に学び続けることができる。
⑤土木計画学・建設マネジメント	都市や交通の計画に必要なとなる基礎的な知識と思考力を身につける。また建設事業の理解と課題解決に向けた取り組み、建設プロジェクトの管理に必要なとなる知識と応用力を養う。
⑥都市工学総合	解決すべき研究課題について自主的・継続的に考えるとともに、専門知識を活用して科学的かつ論理的な卒業論文の作成ができ、その内容を適切にプレゼンテーションできる。 (詳細は、「卒業研修ルーブリック」による)

(3) 都市工学課程の専門学士力のアセスメント方法

専門学士力	コア科目 (★：アセスメント対象科目)	アセスメントの方法 (MR 定着度確認テスト/ ルーブリック評価)	実施時期
①工学基礎	微分積分		
②土木材料・構造工学	★構造力学基礎Ⅰ、★鉄筋コンクリートⅠ	土木技術検定試験 2 級過去問相当の問題から専門学士力②～⑤の定着度確認テスト	3年後期 (卒業研修Ⅰ)
③地盤工学	★基礎地盤工学		
④水工学・土木環境システム	★水理学基礎Ⅰ、★環境・防災工学		
⑤土木計画学・建設マネジメント	★社会的計画論		
⑥都市工学総合	★卒業研修Ⅲ	ルーブリック	4年後期

※ MR 定着度確認テストの合格が、研修等の授業科目の単位認定条件となる場合があります。

2. 教育課程表における進級・卒業条件

都市工学課程

◎3年次への進級条件
特になし

◎4年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	20 単位以上 必修 12 単位を含むこと	
専門教育科目	78 単位以上 2 年次までの必修 54 単位をすべて修得のこと 都市工学セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴおよび卒業 研修Ⅰを修得のこと	
計	全体として 98 単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	24 単位 必修 12 単位を含むこと	
専門教育科目	100 単位 必修 73 単位を含むこと	
計	全体として 124 単位以上	

◎都市工学セミナーⅤの履修条件

内 容	備 考
履修登録時点で専門教育科目を 40 単位以上、全体として 54 単位以上を 修得していること	履修登録時点で次年度の 4 年次 進級の見込みがない場合は履修 できない

◎卒業研修Ⅰの履修条件

内 容	備 考
履修登録時点で専門教育科目を 59 単位以上、全体として 76 単位以上を 修得していること	履修登録時点で次年度の 4 年次 進級の見込みがない場合は履修 できない

3. 教育課程表

都市工学課程 教養教育科目

科目区分	授業科目名		単位 必修 選択	各期の毎週時間数								主要 授業者 名	備考	授業形態				共通学士力				
				1年		2年		3年		4年				講義	演習	実験実習	卒業研修	①	②	③	④	⑤
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
地域・文化・社会	1	表象文化論	2	2									○			●	●	●				
	2	メディア文化史	2	2									○			●	●	●				
	3	東北文化史	2		2								○			●	●	●				
	4	現代社会論	2		2								○			●	●	●				
	5	市民と法	2			2							○			●	●	●				
	6	暮らしと心理学	2			2							○			●	●	●				
	7	産業社会と心理学	2				2						○			●	●	●				
	8	産業社会と倫理	2				2				○		○			●	●	●				
	9	ビジネスマナー	2				2						○			●	●	●	●			
	10	日本国憲法	2				2						○			●	●	●				
	11	科学思想史	2				2						○			●	●	●				
	12	情報社会の経済	2					2					○			●	●	●				
	13	フランスの文化と言葉	2					2					○			●	●		●			
	14	韓国の文化と言葉	2					2					○			●	●		●			
	15	中国の文化と言葉	2					2					○			●	●		●			
	16	異文化理解	2					2					○			●	●		●			
	17	現代の哲学	2						2				○			●	●	●				
言葉と表現	18	スタディスキル	1	2							○		○			●	●		●	●		
	19	英語ⅠA	1	2							○		○						●			
	20	英会話Ⅰ	1	2									○						●			
	21	英語ⅠB	1	2							○		○						●			
	22	英会話Ⅱ	1	2									○						●			
	23	英語ⅡA	1		2						○		○						●			
	24	英会話Ⅲ	1		2								○						●			
	25	資格英語Ⅰ	1		2								○						●			
	26	英語ⅡB	1		2						○		○						●			
心と体の健康	30	健康・運動科学実習Ⅰ	1	2									○			●		●	●			
	31	健康・運動科学実習Ⅱ	1	2									○			●		●	●			
	32	スポーツ科学実習	1		2									○		●		●	●			
デザイン	33	キャリアデザインⅠ	1	2							○		○			●	●	●	●	●		
	34	キャリアデザインⅡ	1		2						○		○			●	●	●	●	●		
	35	キャリアデザインⅢ	1			2					○		○			●	●	●	●	●		
AI・データサイエンス	36	人工知能総論	1	2							○											
	37	人工知能入門	1	2																		
	38	人工知能基礎	2				2															
	39	人工知能応用	2					2														
グリーンテクノロジー	40	グリーンテクノロジー	1	2							○											
	41	サステナビリティ入門	2		2																	
	42	地球環境と諸問題	2		2																	
教職関連	43	職業指導(工業)	2				2						○			●	●	●	●			
	44	工業概論	2				2						○			●	●	●				
	45	情報社会とモラル	2				2						○			●	●	●				
	46	情報と職業	2				2						○			●	●	●				
特別課外活動	47	教養特別課外活動Ⅰ	1	…	…	…	…	…	…	…	…											
	48	教養特別課外活動Ⅱ	1	…	…	…	…	…	…	…	…											
	49	教養特別課外活動Ⅲ	1	…	…	…	…	…	…	…	…											
	50	教養特別課外活動Ⅳ	1	…	…	…	…	…	…	…	…											
学際	51	他大学等教養科目群	4	…	…	…	…	…	…	…												
		小計(51科目)	12:67	12:14	16:12	22:14	2:0															

※1 合わせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※2 他大学等教養科目群については、4単位までを進級および卒業に要する単位に算入できる。

教育課程表

都市工学課程 専門教育科目

科目区分	授業科目名	単位 必修 選択	各期の毎週時間数								主要授業科目	備考	授業形態				共通学士力					専門学士力							
			1年		2年		3年		4年				講義	演習	実験 実習	卒業 研修	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																			
工学部共通専門科目	1 フレッシュパーソンセミナー	1	2							○				●					●										
	2 数学基礎	2	2							○				●	●				●										
	3 物理基礎	2	2							○				●	●				●										
	4 化学基礎	2	2							○				●	●				●										
	5 情報基礎	2	2							○				●	●				●										
	6 工学概論	2		2						○				●	●				●										
	7 線形代数	2		2						○				●	●				●										
	8 物理学Ⅰ	2		2						○				●	●				●										
	9 統計基礎	2			2					○				●	●				●										
課程専門教育科目	10 人間行動と心理	2	2							○				●														●	
	11 環境・防災工学	2	2							○				●	●													●	
	12 都市工学セミナーⅠ	1	2							○				●		●												●	
	13 微分積分	2		2						○				●	●				●										
	14 化学	2		2						○				●	●				●										
	15 プログラミング入門	1		2						○				●					●										
	16 CAD	1		2						○		○		●		●			●										
	17 コンクリート	2		2						○				●	●	●			●		●								
	18 地震工学	2		2						○				●	●	●			●		●								
	19 都市と観光		2	2						○				●	●	●			●		●								●
	20 都市工学セミナーⅡ	1		2						○				●		●	●		●										●
	21 プログラミング演習	1			2					○		○		●					●										●
	22 構造力学基礎Ⅰ	2			2					○				●	●	●			●										
	23 鉄筋コンクリートⅠ	2			2					○				●	●	●			●										
	24 基礎地盤工学	2			2					○				●	●	●			●										
	25 水理学基礎Ⅰ	2			2					○				●	●	●			●										
	26 社会的計画論	2			2					○				●	●	●			●										
	27 都市政策入門		1		2					○				●	●	●			●										
	28 空間測量Ⅰ	2			2					○				●	●	●			●										
	29 空間測量実習	2			4					○		○		●	●	●			●										
	30 都市工学セミナーⅢ	1			2					○				●		●			●										●
	31 応用数学	2				2				○				●					●										
	32 構造力学基礎Ⅱおよび同演習	3			4					○		○		●	●	●			●										
	33 鉄筋コンクリートⅡ		2			2				○				●	●	●			●										
	34 応用地盤工学		2			2				○				●	●	●			●										
	35 水理学基礎Ⅱ		2			2				○				●	●	●			●										
	36 数理的計画論および同演習		3			4				○		○		●					●										
	37 経済学通論		2			2				○				●	●	●			●										
	38 環境システム		2			2				○				●	●	●			●										
	39 都市工学セミナーⅣ		1			2				○				●		●	●		●										●
	40 統計解析		2				2			○				●					●										●
	41 構造力学応用		2				2			○				●	●	●			●										
	42 地盤防災工学		2				2			○				●	●	●			●										
	43 水理学応用Ⅰ		2				2			○				●	●	●			●										
	44 河川工学		2				2			○				●	●	●			●										
	45 都市計画		2				2			○				●	●	●			●										
	46 上下水道工学		2				2			○				●	●	●			●										
	47 都市工学実験Ⅰ		2				4			○			○	●	●	●			●										
	48 都市工学セミナーⅤ		1				2			○			○	●		●	●		●										●
	49 道路工学		2				2			○				●	●	●			●										
50 社会基盤マネジメント		2				2			○				●	●	●			●											
51 水理学応用Ⅱ		2				2			○				●	●	●			●											
52 水文学		2				2			○				●	●	●			●											
53 都市交通計画		2				2			○				●	●	●			●											
54 都市環境工学		2				2			○				●	●	●			●											
55 空間測量Ⅱ		2				2			○				●	●	●			●											
56 地理情報システム		1				2			○				●		●			●											
57 エンジニアリング・デザイン		1					2		○		○		●	●	●			●											
58 鋼構造学		2					2		○				●	●	●			●											
59 プロジェクトマネジメント		2					2		○				●	●	●			●											
60 都市工学実験Ⅱ		2					2		○			○	●	●	●			●											
61 卒業研修Ⅰ		1					2		○			○	●	●	●			●										●	
62 卒業研修Ⅱ		2						4	○			○	●	●	●			●										●	
63 卒業研修Ⅲ		4						8	○			○	●	●	●			●										●	
学際 特別課外活動	64 他課程開講科目群		12		…	…	…	…																					
	65 他学部開講科目群		4		…	…	…	…																					
	66 他大学開講科目群		4		…	…	…	…																					
	67 専門特別課外活動Ⅰ		1		…	…	…	…	…																				※4
68 専門特別課外活動Ⅱ		1		…	…	…	…	…																				※4	
69 専門特別課外活動Ⅲ		1		…	…	…	…	…																					

4. 都市工学課程 専門教育科目の履修の流れ

必修科目 選択科目 工学部共通専門科目

専門学士力と到達目標

工学基礎
都市工学の専門科目修得に必要な数学・物理・化学等の自然科学の知識を学び、それらを活用して社会や自然環境の問題を発見・理解し、その改善方法を考える能力を身に付けている。

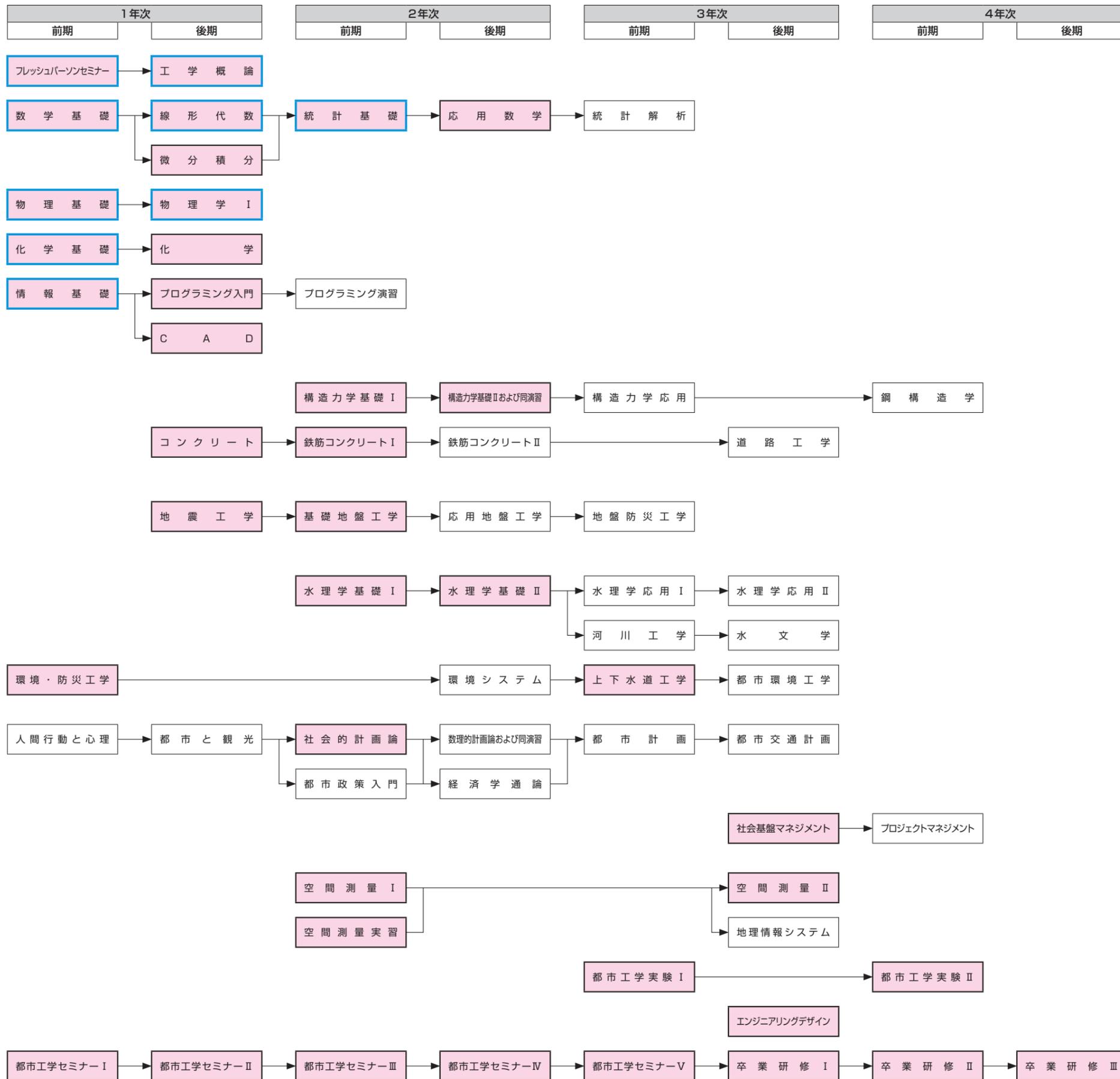
土木材料・構造工学
コンクリートでは配合設計や硬化・発熱現象等また鋼では力のバランスや破壊現象等の基本的な知識を身に付け、構造物の設計、施工、維持管理等に必要な構造工学の基礎が理解できる。

地盤工学
土という粒の集合体である特殊な材料について基本的な知識を身に付け、そのふるまいを有効応力の原理に基づき理解し、圧密、土圧や支持力・斜面安定等の諸問題について理解できる。

水工学・土木環境システム
水工学では水の流れや河川・海岸の状況等また環境では洪水や災害などの基本的な知識と思考力を身に付け、環境保全等の社会課題について自主的・継続的に学び続けることができる。

土木計画学・建設マネジメント
都市や交通の計画に必要な基礎的な知識と思考力を身につける。また建設事業の理解と課題解決に向けた取り組み、建設プロジェクトの管理に必要な知識と応用力を養う。

都市工学総合
解決すべき研究課題について自主的・継続的に考えとともに、専門知識を活用して科学的かつ論理的な卒業論文の作成ができ、その内容を適切にプレゼンテーションできる。



5. 履修ガイダンス

都市工学課程

1. カリキュラムの特徴

土木及び関連の工学技術を学びます。社会基盤に関する高度な工学的知識，経済学の基礎知識，都市や交通の計画，プロジェクトマネジメントなどを学びます。1年次および2年前期には，主に自然科学や土木工学基礎を学び，2年後期以降により高度な専門知識を学びます。

1) 育成する人材（技術者像）

社会の要請に十分対応できる専門的知識及び科学的知識を身に付け，かつ事業あるいは技術のマネジメント能力を有し，良識と倫理感をもち，地域社会において活躍できる人材。

2) 学習・教育到達目標 *改善のある場合は別途学科より周知します。

都市工学課程の学生は以下の学習・教育到達目標(A)~(F)の能力を習得できるように学習し，教員は学生がそれらを身につけられるように教育します。

- (A) 【良識と倫理観】 社会において活躍する人材としての良識と倫理観
- (B) 【科学的知識】 科学に関する十分な知識を持ち，社会と自然それぞれの環境の改善に貢献できる能力
- (C) 【自己啓発】 自己を冷静に評価し，自己を啓蒙，発展させるための適切な行動
- (D) 【相互理解と協力】 自己表現に必要な発表能力とともに，他者の意見を理解し，協力する能力
- (E) 【専門的知識】 我が国の都市のマネジメントに関わる，社会・産業の要請に十分対応できるだけの知識と素養
- (F) 【語学力と国際性】 国際社会の諸問題にも関心を持ち，国際的にも活躍できるコミュニケーション能力

2. 卒業研修について

卒業研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの成果を取りまとめ，卒業研修論文（英文 abstract を含む）及び卒業研修論文要旨を提出し，卒業研修論文発表会にて発表を行った者を卒業研修Ⅲの単位認定対象者とします。この単位認定対象者に対し，指導教員ならびに審査委員が総合的に評価を行い，卒業研修Ⅲの単位認定ならびに学位認定を行います。なお，研修ⅡとⅢの研修時間合計が450時間以上となることが，単位認定対象者となる条件に付加されます。

具体的な評価は，都市工学課程の学習・教育到達目標の各項目（A）～（F）（都市工学課程の専門士力①～⑥に対応）について行い，その比率はシラバスに掲載します。また卒業研修生全員に対し，評価方法を別途公開します。

3. 履修のためのガイド

1) 科目の履修にあたっての基本的留意事項

- ① 必修科目は卒業時まで必ず修得しなければならない科目のため，できるだけ開講学年時に修得するように努めます。
- ② 科目内容・授業内容について
 - ・科目内容を学生便覧で確認し，科目間の系統や連携，卒業後の進路など各自の目的に合わせて科目を選択します。
 - ・系統的な科目や連携している科目があることを履修の流れや教育課程表・シラバス等で確認しておくこととします。
 - ・目的意識を持って選択し，途中で放棄することのないように履修します。
 - ・「演習」，「実験」，「実習」などの科目では体験を通じて学ぶことが多いので，積極的な態度で授業に

臨みます。

- ・授業で理解できない内容については積極的に質問し、疑問点をそのまま放置しないようにします。

③ 目標単位数について

卒業に要する最低修得単位数は、本学科の卒業生として修得すべき目標単位数より少なく設定されています。したがって、4年間で目標単位数147単位を修得するためには、進級条件だけにとらわれず、履修科目登録上限制度の範囲内で、卒業後の進路などを意識した履修計画を立てる必要があります。各学年で目標とすべき修得単位数を次の表に示します。

また、各科目の成績にはそれぞれの学習・教育到達目標の達成度が反映されます。単位数だけでなく、成績内容も充実したものになるよう心掛けましょう。

学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数／開講単位数」を示します）

	教養教育科目		専門教育科目		各学年の 合計	1年次からの 累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	6	5/9	29	4/4	44/48	44/48
2年次	3	8/17	25	11/13	47/58	91/106
3年次	3	5/31	11	13/13	32/58	123/164
4年次	－	－/2	8	4/4	12/14	135/178
卒業までの 総合計	12	18/59	73	32/34	135/178	
	30/71		105/107			

2) 学生便覧の位置づけ

学生便覧は学生の綿密な学習計画の一助となるように詳細に記載されています。そのため、履修科目の選択の際には、指導教員の指導および助言を得て将来の進路を定めたくうえで学習計画をたてます。

3) 卒業後の進路として「大学院」を目指す学生に対するガイド

- ①大学院進学のためには、入学試験と専攻分野の双方の学習が必要となります。
- ②入学試験には専門の他に外国語が出題されるので、十分な準備をしておきましょう。
- ③希望する専攻分野に関連している科目は履修することが望ましいです。

工 学 部

環境応用化学課程

専門教育科目

履修ガイダンス

環境応用化学課程

1. 課程の AEGG ポリシーと専門学士力

(1) 環境応用化学課程のAEGGポリシー

■ 環境応用化学課程AEGGポリシー	
POLICY G₁	【学位授与方針】 (Graduation Policy / Diploma Policy) 工学部 環境応用化学課程は、全学の学位授与方針 (G1ポリシー) に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本課程の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士 (工学)」の学位を授与する。
POLICY G₂	【学生の指導方針】 (Guidance Policy) <ul style="list-style-type: none">・ 持続可能な社会づくりに寄与する応用化学技術者・環境保全技術者を育成するため、指導教員が中心となり学生の特性を理解し、個々にきめ細かく成長を助け、自身の進路の選択を通し自己を確立していくことができるよう指導を行う。・ そのために定期的な個人面談やキャリアガイダンスの実施を行い学生のキャリア形成の支援を行う。・ さらに、関連する資格取得対策講座を開講するなど、キャリア形成を積極的に支援する。
POLICY E	【教育課程表の編成・実施の方針】 (Education Policy / Curriculum Policy) <ul style="list-style-type: none">・ 応用化学と環境学の体系的な専門教育と技術者倫理など一般教養教育を基礎として、応用化学および環境保全技術者の育成を目標に教育・研究指導を行う。・ 1年次に取り組み一般科目では専門の基礎知識としての工学・環境基礎、リテラシーの科目を設定する。・ 2年次から3年次では、応用化学分野では化学の基礎から開発・製造技術、環境学分野では環境分析・調査技術などの専門科目を設定する。・ また演習および実験科目を設定し、講義と有機的に結合した高い専門性を持った知識と技術を習得するようにする。・ 3、4年次に取り組み卒業研修では、持続可能な社会を支える知識と問題発見能力・解決能力・コミュニケーション能力を持った人材を育成する。
POLICY A	【入学者受入の方針】 (Admission Policy) 材料・素材開発などの応用化学やそれを工業化するための化学工学技術、化学物質による人体・生態系への影響評価と公害防止などの環境保全技術に関心を持ち、基礎学力と高い倫理観を身に付け、持続可能な社会を実現していくための工学に根ざした専門能力を築き上げる意欲を持つ人を求める。

※ 「共通学士力」は本冊子の表紙の裏に記載していますので、そちらを参照してください。

(2) 環境応用化学課程の専門学士力と到達目標 (学修成果)

■ 環境応用化学課程の「専門学士力」および学修成果 (到達目標)	
【専門学士力】	【到達目標】
①工学基礎	数学 (微分積分学 I)、物理学 (物理学 I) の基礎的知識を身に付け、環境応用化学の知識習得に応用することができる。
②化学基礎	環境と化学の理解に必要な基盤となる化学分野 (無機化学、有機化学 I、分析化学) の基礎知識を身に付け、それを説明することができる。
③化学応用	環境と化学の理解に必要な応用化学分野 (機器分析 I、化学工学) の知識を身に付け、それを説明することができる。
④環境学	環境保全・環境影響評価にかかわる環境学分野 (循環型社会形成論) の知識を身に付け、それを説明することができる。
⑤環境応用化学総合	1～4の専門学士力にかかわる技術と知識を内包・総合して環境応用化学分野の専門知識を理解・統合し、卒業研修に取り組み、卒業論文として発表することができる。

(3) 環境応用化学課程の専門学士力のアセスメント方法

専門学士力	コア科目 (★: アセスメント対象科目)	アセスメントの方法 (MR 定着度確認テスト/ ルーブリック評価)	実施時期
①工学基礎	微分積分学 I、物理学 I		
②化学基礎	★無機化学、★有機化学 I、 ★分析化学	MR 定着度確認テスト	3年7～9月
③化学応用	★機器分析 I、★化学工学		
④環境学	★循環型社会形成論		
⑤環境応用化学総合	★卒業研修Ⅲ	ルーブリック	卒業研修 (4年次)

※ MR 定着度確認テストの合格が、研修等の授業科目の単位認定条件となる場合があります。

2. 教育課程表における進級・卒業条件

環境応用化学課程

◎3年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	特になし	
専門教育科目	44 単位以上	
計	全体として 60 単位以上	

◎4年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	20 単位以上 必修 6 単位以上を含むこと	
専門教育科目	76 単位以上	
計	全体として 98 単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	24 単位 必修 8 単位を含むこと	
専門教育科目	100 単位以上 必修 53 単位を含むこと	選択科目のうち微分積分学Ⅱ，物理学Ⅱ，環境化学，表面化学，高分子化学，熱力学，機器分析Ⅱ，錯体化学，固体・光化学，電気化学，放射化学，生化学，機能材料，触媒化学，有機・無機材料，CAD 技術入門の 16 科目から，合計 12 単位以上を必ず修得すること
計	124 単位	

3. 教育課程表

環境応用化学課程 教養教育科目

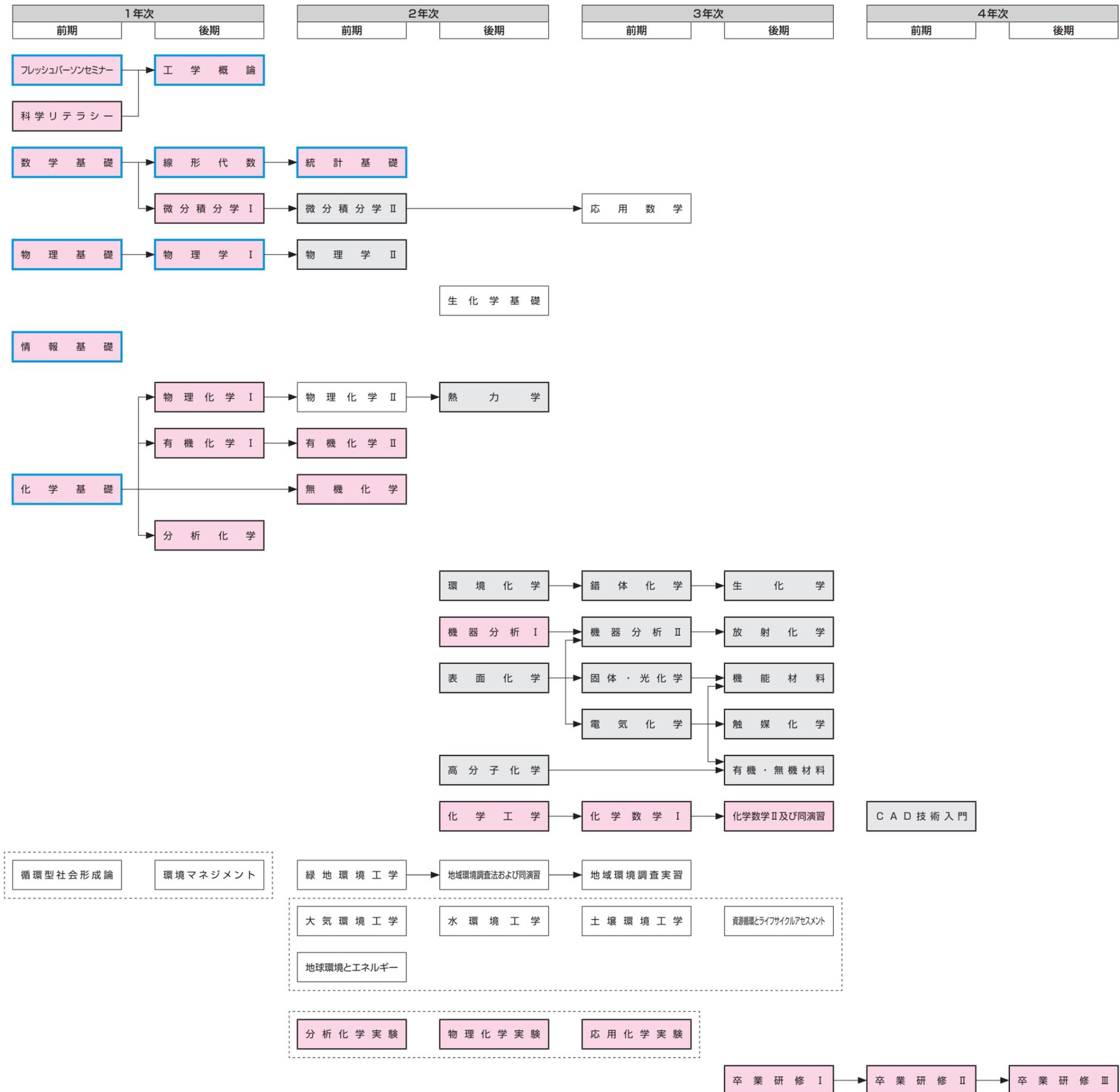
科目区分	授業科目名		単位 必修 選択	各期の毎週時間数								主要 授業 科目	備考	授業形態				共通学士力				
				1年		2年		3年		4年				講 義	演 習	実 験 実 習	卒 業 研 修	①	②	③	④	⑤
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
地域・文化・社会	1	表象文化論	2		2											●	●	●				
	2	メディア文化史	2		2											●	●	●				
	3	東北文化史	2			2										●	●	●				
	4	現代社会論	2			2										●	●	●				
	5	市民と法	2				2									●	●	●				
	6	暮らしと心理学	2				2									●	●	●				
	7	産業社会と心理学	2					2								●	●	●				
	8	産業社会と倫理	2					2								●	●	●				
	9	ビジネスマナー	2						2							●	●	●	●			
	10	日本国憲法	2						2							●	●	●				
	11	科学思想史	2						2							●	●	●				
	12	情報社会の経済	2							2						●	●	●				
	13	フランスの文化と言葉	2								2					●	●		●			
	14	韓国の文化と言葉	2								2					●	●		●			
	15	中国の文化と言葉	2								2					●	●		●			
	16	異文化理解	2								2					●	●		●			
	17	現代の哲学	2									2				●	●	●				
言葉と表現	18	スタディスキル	1	2								○			●	●		●	●			
	19	英語ⅠA	1	2								○						●				
	20	英会話Ⅰ	1	2								○						●				
	21	英語ⅠB	1	2								○						●				
	22	英会話Ⅱ	1	2								○						●				
	23	英語ⅡA	1		2							○						●				
	24	英会話Ⅲ	1		2							○						●				
	25	資格英語Ⅰ	1		2							○						●				
	26	英語ⅡB	1		2							○						●				
	27	英会話Ⅳ	1		2							○						●				
心と体の健康	30	健康・運動科学実習Ⅰ	1	2								○			●		●	●				
	31	健康・運動科学実習Ⅱ	1	2								○			●		●	●				
	32	スポーツ科学実習	1		2								○		●		●	●				
デザイン	33	キャリアデザインⅠ	1	2								○			●	●	●	●	●			
	34	キャリアデザインⅡ	1		2							○			●	●	●	●	●			
	35	キャリアデザインⅢ	1			2						○			●	●	●	●	●			
AI・データサイエンス	36	人工知能総論	1	2								○										
	37	人工知能入門	1	2																		
	38	人工知能基礎	2				2															
	39	人工知能応用	2					2														
グリーンテクノロジー	40	グリーンテクノロジー	1	2								○										
	41	サステナビリティ入門	2		2																	
	42	地球環境と諸問題	2			2																
教職関連	43	職業指導(工業)	2					2				○			●	●	●	●				
	44	工業概論	2					2				○			●	●	●					
	45	情報社会とモラル	2					2				○			●	●	●					
	46	情報と職業	2					2				○			●	●	●					
特別課外活動	47	教養特別課外活動Ⅰ	1	…	…	…	…	…	…	…	…											
	48	教養特別課外活動Ⅱ	1	…	…	…	…	…	…	…	…											
	49	教養特別課外活動Ⅲ	1	…	…	…	…	…	…	…	…											
	50	教養特別課外活動Ⅳ	1	…	…	…	…	…	…	…	…											
学際	51	他大学等教養科目群	4	…	…	…	…	…	…	…												
小計(51科目)		8	71	12	14	16	12	22	14	2	0											

※1 合わせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※2 他大学等教養科目群については、4単位までを進級および卒業に要する単位に算入できる。

4. 環境応用化学課程 専門教育科目の履修の流れ

必修科目 選択必修科目 選択科目 工学部共通専門科目

専門学士力と到達目標	
工学基礎	数学（微分積分学Ⅰ）、物理学（物理学Ⅰ）の基礎的知識を身に付け、環境応用化学の知識習得に応用することができる。
化学基礎	環境と化学の理解に必要な基盤となる化学分野（無機化学、有機化学Ⅰ、分析化学）の基礎知識を身に付け、それを説明することができる。
化学応用	環境と化学の理解に必要な応用化学分野（機器分析Ⅰ、化学工学）の知識を身に付け、それを説明することができる。
環境学	環境保全・環境影響評価にかかわる環境学分野（循環型社会形成論）の知識を身に付け、それを説明することができる。
環境応用化学総合	1～4の専門学士力にかかわる技術と知識を内包・総合して環境応用化学分野の専門知識を理解・統合し、卒業研修に取り組み、卒業論文として発表することができる。



5. 履修ガイダンス

環境応用化学課程

1. カリキュラムの特徴

応用化学および環境学の体系的教育を行うことで、これらの知識・技術を基礎として持続可能な社会の実現に寄与する人材を育成するためのカリキュラムとなっています。

1年次から2年次前期にかけて、まず専門的な環境応用化学を学んでいくための基礎作りとして、数学、物理、生物などの「工学基礎」を学びます。正課科目と連動する形で「基礎学力支援講座」も開講されますので、受講対象となった学生はここでしっかり基礎学力を養ってください。また、工学基礎の学習と並行して、「有機化学」、「無機化学」、「分析化学」などの応用化学の基礎となる科目や、「循環型社会形成論」、「地球環境科学基礎」など環境学の基礎を学びます。また、科学・技術者としての倫理観、化学物質の危険性や安全な取り扱い方法、研究成果などの知的財産管理方法の基礎についても学びます。

2年次後期から3年次にかけては、これまでに学んだ内容を基礎として、より専門的な応用化学について学びます。これにより、化学の専門的な知識を環境・エネルギー・材料・化学プラント工業への応用と関連づけ、様々な工業分野の基礎を支える化学物質創製技術・計測技術・製造技術の基礎を修得します。また、「物理化学実験」、「応用化学実験」などの実験を通して実践的に学びを深めるとともに実験技術を修得します。環境学の分野では、環境調査法や大気・水環境・土壌・循環資源などの制御技術や影響評価手法を学ぶことで、具体的な環境問題解決能力を修得します。

3年の後期から4年生にかけては、少人数ずつ1つの研究室に所属して卒業研修に取り組みます（「卒業研修Ⅰ～Ⅲ」）。これにより、問題発見・解決能力、データ解析能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを総合的に養います。

2. 卒業研修について

大学専門教育の総まとめとして、3年後期から卒業までの期間には「卒業研修Ⅰ～Ⅲ」が行われます。これは、研究室の指導教員から専門的な指導を受けながら、具体的なテーマに関する研究を行い、その成果を最終的に卒業論文としてまとめるものです。流れとしては、まず、3年次前期終了後から後期始めにかけて、学生の希望に基づいて研究室配属を行います。研修は、実験、調査、解析、ゼミナール等、研究室ごとに様々な方法で進められます。4年次には、研究も本格化するため、研究室で毎日研修に取り組むことも必要になります。最終的に、4年次の1月～2月には、研究成果を卒業論文としてまとめるとともに、その内容を口頭発表やポスター発表の形で発表します。成績は、課題設定、普段の研究への取り組み、研究成果、卒業論文、研究発表における対応などを総合して評価します。

3. 履修のためのガイド

進級や卒業のためには修得単位数についての条件が定められています（進級・卒業条件の表を参照）。しかし、2年次から3年次への進級条件、3年次から4年次への進級条件は、進級のための必要最小限の条件です。実際には、履修上限制度の範囲内で、以下の「学年ごとの目標単位数」にしたがって、「履修の流れ」を参照して科目間のつながりをよく考え単位を修得するように心がけてください。必修科目は卒業時までには必ず修得しなければならない科目であるため、できるだけ開講学年時に修得するように努めてください。また、単位数をそろえるだけでなく、各科目の教育目標を達成できるように、成績の内容も充実したものとなるように努力すべきことは言うまでもありません。

学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数／開講単位数」を示します）

	教養教育科目		専門教育科目		各学年の 合計	1年次からの 累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	6	6/9	25	4/4	41/44	41/44
2年次	1	9/19	14	21/27	45/61	86/105
3年次	1	6/33	8	22/26	37/68	123/173
4年次	－	－/2	6	2/2	8/10	131/183
卒業までの 総合計	8	21/63	53	49/59	131/183	
	29/71		102/112			

工学部

分野横断プログラム 履修ガイダンス

カリキュラムの特徴

スペシャリストとしての専門の深い知識と同時に、分野の多様性を理解し、他者との協調の下、異分野との融合・学際領域の推進も見据えることが出来るジェネラリストとしての幅広い知識・俯瞰的視野を養成するとともに、本学が掲げている「ひろく学び、知をつなぐ」知識や技術を修得した人材の育成を目指す。

分野横断プログラムの履修要項

概要

「分野横断プログラム」は旧来の分野構成の枠組みにとらわれない学際領域の知識の修得を目指すことを目的とし、他課程の学生向けに、幅広い知識の修得を目指したプログラムを構成しています。

〈対象とする学生〉

分野横断プログラムの導入趣旨を理解し、幅広い学びを真剣に求める、2年生以上の工学部学生が対象です。

〈分野横断プログラム〉

分野横断プログラムには、課程横断型・課程完結型の2種類のタイプがあります。

※以下、所属する課程を「自課程」、それ以外の課程を「他課程」とする。

タイプⅠ：課程横断型（13プログラム）

2つの課程をまたいで構成されるプログラムです。

タイプⅡ：課程完結型（6プログラム）

1つの課程（他課程）のみで構成されるプログラムです。

分野横断プログラム（タイプⅠ：課程横断型）

プログラム名	概要	構成科目				総単位数
		課程	科目名	学年	開講期	
生体医工学プログラム	超高齢化社会を迎えたわが国では、健康長寿社会の実現が強く求められています。健康・福祉の増進・充実のためには、工学の幅広い分野の先端技術を結集した、医療・福祉機器やセンサ、健康管理システム、および薬効などの評価技術の開発が不可欠です。本プログラムでは、それぞれの専門分野の基礎となる学問を学びます。	E	電子回路Ⅰ	3	前期	12
			センサ工学	3	前期	
		K	バイオ・光エレクトロニクス	4	前期	
			熱力学	2	後期	
			電気化学	3	前期	
生化学	3	後期				
電気通信プログラム	発電や送配電などの電力事業、および、インターネットや放送を含む通信事業は、私たちの生活や産業を支える社会基盤となっています。本プログラムでは、電気通信事業の技術者として必要な知識を得ることを目的とし、電力事業の歴史や送変電の仕組みと基本的な法規に加えて、企業における品質管理方法や発明などの知的財産権について学びます。	E	電力工学概論	3	後期	12
			電気法規	4	後期	
		T	品質管理及び知的財産	4	後期	
			通信工学Ⅰ	3	前期	
			電気通信法規	4	後期	
電力工学	4	後期				
IoTシステムプログラム	コンピュータだけでなく、家電やセンサなどもインターネットにつながるのが、IoT (Internet of Things)です。IoTの活用のためには、セキュリティに配慮したネットワークに関する知識が必要です。さらに、ハードウェアとソフトウェアを融合させる組込みシステムやマルチメディアシステム、デジタル信号処理について学びます。	E	コンピュータネットワーク	2	後期	12
			マルチメディアシステム	3	前期	
			組込みシステム入門	3	前期	
		T	コンピュータネットワークⅠ	1	後期	
			組込みシステム設計	3	後期	
デジタル信号処理	3	後期				
材料デバイスプログラム	サイバー空間とフィジカル空間が融合する次世代情報化社会においては、より高速で省エネルギーな情報処理システムが不可欠であり、半導体に代表される電子デバイスの存在が欠かせません。本プログラムでは、半導体などに使用される従来の材料の基礎学問に加えて、ナノカーボン、磁性体、金属などの新規電子材料や構造物について学びます。	E	固体電子工学Ⅰ	2	後期	12
			固体電子工学Ⅱ	3	前期	
		K	電気電子材料	4	前期	
			固体・光化学	3	前期	
			機能材料	3	後期	
有機・無機材料	3	後期				

災害対応 ロボティクス プログラム	ロボットには、医療、福祉、生産、災害対応などにおいて人々の生活をサポートすることが期待されています。そのためには、自ら認識、判断し行動する“知能”ロボットが必要であり、電子、機械、情報技術に加え、人間や生物の機能・特性を考慮したインタフェース、デザイン技術も重要となります。本プログラムでは、これらの基礎となる学問を学びます。	E	制御工学	3	前期	12
		E	組込みシステム入門	3	前期	
		E	ロボティクス	4	前期	
		C	環境・防災工学	1	前期	
		C	地震工学	1	後期	
災害情報 プログラム	わが国をはじめとして世界中で毎年のように甚大な自然災害が相次いで発生しています。発生した災害に関する情報には、今後の防災に役立つものが多く含まれており、それらを適切に分析したり管理したりすることが求められます。また、災害時には様々な組織や社会が保有する情報を適切に守ることも必要です。災害と情報の両面からこれら結びつける知識を身につけます。	T	情報リテラシーⅡ	1	前期	12
		T	データベース	2	後期	
		T	情報セキュリティ	3	前期	
		C	環境・防災工学	1	前期	
		C	地震工学	1	後期	
環境 アセスメント プログラム	環境アセスメントは、開発事業を行う場合に、事業者自らが環境へ与える影響を事前に予測・評価することで適切な事業手法を選択し、環境負荷軽減・自然共生へと導く制度です。本プログラムでは、対象分野の基礎や課題の理解、調査技術・評価手法の修得を目指します。建設・環境コンサルタント業務等には身につけておきたい内容です。	C	地震工学	1	後期	12
		C	環境・防災工学	1	前期	
		C	都市環境工学	3	後期	
		K	大気環境工学	2	前期	
		K	緑地環境工学	2	前期	
プラス・ セキュリティ プログラム	水道や道路、橋、トンネルなど社会生活を支える都市施設も今はネットワークを利用して管理できる時代。本プログラムでは、そうした都市施設の維持管理と情報セキュリティ技術を学び、私たちのくらしの安全を支える技術を身につけます。	T	コンピュータネットワークⅡ	2	前期	12
		T	情報セキュリティ	3	前期	
		T	電力工学	4	後期	
		C	環境・防災工学	1	前期	
		C	上下水道工学	3	前期	
IoT テクノロジー プログラム	様々なモノ同士がインターネットでつながり、私たちの生活を便利にしてくれるIoT。そこで必要なセンサー、エネルギー伝送、信号処理、情報通信などの技術を広く学び、IoT社会で活躍できる技術者としての知識を身につけます。	E	センサ工学	3	前期	12
		E	パワーエレクトロニクス	4	前期	
		E	エネルギー変換工学	4	後期	
		T	通信工学Ⅰ	3	前期	
		T	電波工学	3	後期	
建設 DX プログラム	ビッグデータと、IoTやAI等のデジタル技術の応用により多くの分野で作業の自動化や効率化が図られることによって、社会では新たな価値の創出を通じた変革がもたらされています。これをデジタル・フォーメーション（DX）と呼びます。本プログラムでは建設分野に焦点を当て、社会で変革を起こす技術について学びます。	E	電力工学概論	3	後期	12
		E	電気機械工学	3	後期	
		E	電気法規	4	後期	
		C	道路工学	3	後期	
		C	空間測量Ⅱ	3	後期	
環境 エネルギー プログラム	持続可能な社会を築いていくためにはエネルギーと環境の知識を併せ持つバランスの良い技術者の育成が重要です。今後の技術者には創エネルギー技術、熱、電気及び電力を関連付け理解していくことが求められます。本プログラムでは発電に関連する物質と熱の関係の基礎から電力の変換の基礎まで幅広い知識の修得を目指します。	E	電力工学概論	3	後期	10
		E	エネルギー変換工学	4	後期	
		K	地球環境とエネルギー	2	前期	
		K	大気環境工学	2	前期	
		K	熱力学	2	後期	
光通信 デバイス プログラム	光は、信号としてもエネルギーとしても利用できる優れた波として、通信から計測、環境問題対策に至るまで幅広く使われています。本プログラムでは、光の発生・変換・検出のための材料・デバイス技術からその応用技術までを分野横断的に学び、多様な専門分野の視点から光技術を扱うための知識を身につけます。	T	電磁気学Ⅱ	3	前期	12
		T	電気・電子計測	3	後期	
		T	光通信工学	4	前期	
		K	錯体化学	3	前期	
		K	固体・光化学	3	前期	
			機能材料	3	後期	

物質データサイエンスプログラム	有機合成、水素エネルギー、カーボンリサイクル等での使用が期待される触媒、電池材料、電極材料、吸着材料などの化学物質はカーボンニュートラルに貢献し持続可能な社会の形成に重要な役割を担っています。本プログラムでは効率の良い材料開発のために必要となるAIを用いた物質構造や化学反応の解析に結び付く基本知識が修得できます。	T	プログラミング実践	2	前期	2	12
			コンピュータ数値解析	2	後期	2	
			データ分析	4	前期	2	
		K	化学工学	2	後期	2	
			表面化学	2	後期	2	
			化学数学 I	3	前期	2	

【課程名】 E：電気電子工学課程 T：情報通信工学課程 C：都市工学課程 K：環境応用化学課程

分野横断プログラム（タイプⅡ：課程完結型）

プログラム名	概要	構成科目					総単位数
		課程	科目名	学年	開講期	単位数	
電気電子工学の魅力プログラム	電気電子工学の技術は、電気製品だけではなく、社会インフラからエンターテインメントまで現代社会のあらゆる分野で応用され、発展を続けています。専門知識を身につけた人材への産業界からの期待は大きく、需要も増え続けています。本プログラムでは、電気電子工学過程の主要3分野である、エネルギー、電子機械、医工学の魅力を学びます。	E	バイオ・光エレクトロニクス	4	前期	2	6
			ロボティクス	4	前期	2	
			パワーエレクトロニクス	4	後期	2	
基本情報技術プログラム	現代社会では情報通信技術が必要不可欠で、情報処理のスキルは広く求められています。基本情報技術プログラムは、国家試験である基本情報技術者試験の内容や関連分野を体系的に学ぶことを目的とします。	E T	基本情報技術Ⅰ	2	前期	2	6
			基本情報技術Ⅱ	2	後期	2	
			基本情報技術Ⅲ	3	前期	2	
C言語プログラム	プログラミング言語として広く利用されているC言語を用いて、コンピュータ内のデータ構造や命令の組み合わせであるアルゴリズムの知識を修得し、情報通信システムを動作させるための情報処理技術の基礎を学びます。	T	プログラミング入門	1	前期	3	6
			アルゴリズムとデータ構造及び同演習	1	後期	3	
都市の計画とまちづくりプログラム	私たちが暮らす空間としての都市や、都市の活力を生み出す人や物の移動を支える都市交通。本プログラムでは、自然との調和を大切にしながら都市の健全な発展と秩序ある整備を図る計画と、都市の魅力向上に関する理論と実践を学びます。	C	都市と観光	1	後期	2	6
			都市計画	3	前期	2	
			都市交通計画	3	後期	2	
防災・減災プログラム	私たちの暮らしの基盤である都市において人と財産の安全を自然災害から守ることは何よりも大切なことです。本プログラムでは、地震をはじめとする自然災害に関する基礎知識および防災・減災に係る技術について理解を深めます。	C	環境・防災工学	1	前期	2	6
			地震工学	1	後期	2	
			地盤防災工学	3	前期	2	
危険物取扱者プログラム	化学製品・各種材料や半導体製造など、多業種の職場で活かせる危険物取扱者の基本知識を修得するプログラムです。条件を満たすことにより、危険物取扱者（甲種）の受験資格を得ることが出来ます。	K	有機化学Ⅰ	1	後期	2	6
			有機化学Ⅱ	2	前期	2	
			無機化学	2	前期	2	

【課程名】 E：電気電子工学課程 T：情報通信工学課程 C：都市工学課程 K：環境応用化学課程

単位認定

学際科目（他課程開講科目群・他大学開講科目群・他学部開講科目群）について、進級及び卒業単位として算入できる単位枠は表1に示す通りです。

分野横断プログラムの修了前後で、進級及び卒業単位として算入できる単位数が異なります。

表1. 進級及び卒業単位に算入する学際科目（専門）の単位枠

分野横断プログラムの修了前			分野横断プログラムの修了後		
他課程開講科目群	4単位	合わせて 上限8単位	他課程開講科目群	12単位	合わせて 上限12単位
他学部開講科目群	合わせて 上限4単位		他学部開講科目群	合わせて 上限4単位	
他大学開講科目群			他大学開講科目群		

<p>履修方法</p> <p>評価方法</p> <p>修了要件</p> <p>修了証明書</p>	<p>〈履修登録手続き〉</p> <p>他課程開講科目群を含めた学際科目の履修を希望する場合は、所定の様式に必要事項を記入し、所属課程の教務委員の押印を得た上で学生サポートオフィスへ提出してください。</p> <p>また、他課程開講科目群の科目の成績が「不適」となった場合、次の Semester では、他課程開講科目群の科目を履修登録することができませんので注意してください。</p> <p>なお、分野横断プログラムの構成科目の内、自分より上級学年の科目を履修することはできません。</p> <p>【履修登録手続きのフロー】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学生サポートオフィスから所定の様式を受け取り、履修資格の確認を行う。 ② 所定の様式へ必要事項を記入し、所属課程の教務委員の署名を得た後、様式を学生サポートオフィスへ提出する。 ③ 学生サポートオフィスから履修可否の連絡を行います。 <p>〈履修登録期間〉</p> <p>他課程開講科目群の履修申請は授業開始前に締め切りとなります。履修登録期間の詳細はポータルサイトやてくポで周知します。</p> <p>学際科目では、認定評価を行い、GPA には算入されません。 自課程の科目に対しては、点数で評価し、GPA に算入されます。</p> <p>各プログラムを構成する科目を全て修得した時点で修了となります。</p> <p>分野横断プログラムが修了した時点で修了証が発行されます。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 20px auto; width: fit-content;"> <p>窓口：学生サポートオフィス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八木山キャンパス教務学生課（1号館1階） ・長町キャンパス事務室（4号館1階） </div>
--	---

工 学 部

卒業後等の取得資格

○ 卒業後等の取得資格

※受験資格や試験免除条件が変更となる場合がありますので、最新の情報を各種資格のホームページで確認して下さい。

工学部

【大学卒業で受験資格が得られる】

◦ 衛生工学衛生管理者

卒業後、指定する講習場所で、労働基準法、労働安全衛生法等を受講し、修了後に行なわれる修了試験に合格した者は、申請により資格が取得できる。

◦ 甲種消防設備士

電気電子工学課程（電気電子工学科，電子工学科），情報通信工学課程（情報通信工学科，通信工学科），都市工学課程（都市マネジメント学科，建設システム工学科），環境応用化学課程（環境応用化学科，環境エネルギー学科）での課程を修め卒業した者は甲種の受験資格が得られる。

【大学卒業後の実務経験で得られる受験資格】

◦ 建築物環境衛生管理技術者

工学系学科を卒業後1年以上の特定建築物の環境衛生維持管理に関する実務に従事した者は厚生労働大臣の指定する講習を受けることにより資格が取得できる。また、2年以上の実務経験を有し国家試験に合格することによって資格を取得できる。1級建築士の資格を有する者は経験年数不要。

◦ 公害防止管理者

国家試験と技術資格又は学歴及び実務経験により、書類審査を経て一定の講習を受講し、有資格者となる二つの方法がある。国家試験の受験には学歴、実務経験等の一切の制限はない。技術資格又は学歴等により講習を受講し有資格者となるためには、大気関係、水質関係、騒音関係、振動関係のいずれかの資格を有する者か、卒業後、ばい煙発生施設又はばい煙を処理するための施設の維持管理を3年以上経験した者に対して受講の資格が与えられる。

電気電子工学課程

【大学卒業後の実務経験で得られる受験資格】

◦ 1級電気工事施工管理技士，1級電気通信工事施工管理技士，1級管工事施工管理技士

電気電子工学課程（電気電子工学科）を卒業した者は，これらの施工管理技士になるための技術検定試験の受験に必要な最低の実務経験年数が3年に短縮される。この経験年数は高校卒業では10年以上，指定学科以外の大学卒業では4年6ヶ月以上が必要である。

◦ 2級電気工事施工管理技士，2級電気通信工事施工管理技士，2級管工事施工管理技士

電気電子工学課程（電気電子工学科）を卒業した者は，これらの施工管理技士になるための技術検定試験の受験に必要な最低の実務経験年数が1年に短縮される。この経験年数は高校卒業では9年以上，指定学科以外の大学卒業では1年6ヶ月以上が必要である。

◦ エネルギー管理士

資格の取得方法は，（1）国家試験に合格する（2）エネルギー管理研修の修了試験に合格する2種類がある。ただし，合格してエネルギー管理士免状の交付を申請する際に，1年以上のエネルギーの使用の合理化に関する実務経験が必要である。また，エネルギー管理研修を受けるためには，研修申込時までに3年以上の実務経験が必要である。

【大学卒業者の資格試験一部免除】

◦ 電気通信主任技術者

指定の科目を修得した学生は，電気通信主任技術者の試験科目（電気通信システム，専門的能力，伝送交換設備及び設備管理（又は線路設備及び設備管理），法規）のうち，電気通信システムの試験が免除される。

平成24（2012）年度以降の入学者は，物理学Ⅱ，電気回路Ⅳ，マルチメディアシステム，コンピュータネットワークの単位を修得しなければならない。

平成29（2017）年度以降の入学者は，工学基礎物理実験，物理学Ⅱ，固体電子工学Ⅱ，組込システム入門，電気回路Ⅳ，マルチメディアシステム，コンピュータネットワーク，電力工学概論の単位を修得しなければならない。

令和2（2020）年度以降の入学者は，物理学Ⅱ，固体電子工学Ⅱ，組込システム入門，電気回路Ⅳ，マルチメディアシステム，コンピュータネットワーク，電力工学概論の単位を修得しなければならない。

なお，電気電子工学課程（電気電子工学科）を卒業して事業用電気通信設備の実務経験1年以上であれば同等の免除が受けられる。

※電気通信主任技術者資格の種類はつぎのとおり

1. 伝送交換主任技術者
2. 線路主任技術者

【在学中でも得られる資格試験一部免除】

◦ 基本情報技術者

基本情報技術者試験（FE）の科目A試験免除制度について，情報処理推進機構（IPA）より免除対象講座の認定を受けている。

電気電子工学科の令和4（2022）年度以降令和6（2024）年度までの入学者は，基本情報技術Ⅰ，基本情報技術Ⅱ，基本情報技術Ⅲ，およびコンピュータネットワークを履修の上，IPAから問題提供を受けて本学が実施する修了試験に合格すれば，IPAから同講座の修了認定者として認定を受けることができる。

電気電子工学課程の令和7（2025）以降の入学者は，基本情報技術Ⅰ，基本情報技術Ⅱ，および基本情報技術Ⅲを履修の上，IPAから問題提供を受けて本学が実施する修了認定試験に合格すれば，IPAから同講座の修了認定者として認定を受けることができる。

修了認定者は，認定後の1年間，基本情報技術者試験（FE）の申込みの際に免除申請すれば，FE科目Aを免除され，FE科目Bのみで受験することができる。

情報通信工学課程

【大学卒業者の資格試験（国家試験）免除】

◦ 無線従事者

情報通信工学課程を修め卒業した者は、申請により第一級陸上特殊無線技士、第二級海上特殊無線技士、第三級海上特殊無線技士の免許を受けることができる。ただし、①第三級海上特殊無線技士については、情報通信工学実験Ⅲ、電波工学、通信工学Ⅱ、電気通信法規の単位を修得しなければならず、②第一級陸上特殊無線技士、第二級海上特殊無線技士については、第三級海上特殊無線技士に必要な単位の他、電気・電子計測の単位を修得しなければならない。

【大学卒業後の実務経験で得られる受験資格】

◦ 1・2級電気工事施工管理技士、1・2級電気通信工事施工管理技士、1・2級管工事施工管理技士

情報通信工学課程を卒業した者は、1級技術検定試験の受験に必要な最低の実務経験年数が大学卒業後4年6ヶ月以上から3年に短縮される。また、2級技術検定試験の受験に必要な最低の実務経験年数が大学卒業後1年6ヶ月以上から1年に短縮される。

◦ エネルギー管理士

資格の取得方法は、(1)国家試験に合格する(2)エネルギー管理研修の修了試験に合格する2種類がある。ただし、合格してエネルギー管理士免状の交付を申請する際に、1年以上のエネルギーの使用の合理化に関する実務経験が必要である。また、エネルギー管理研修を受けるためには、研修申込時までに3年以上の実務経験が必要である。

【大学卒業者の資格試験一部免除】

◦ 電気通信主任技術者

課程を修め卒業した者のうち指定の科目を修得した学生は、電気通信主任技術者の試験科目〈電気通信システム、専門的能力、伝送交換設備及び設備管理（又は線路設備及び設備管理）、法規〉のうち、電気通信システムの試験が免除される。

物理学Ⅱ、電磁気学Ⅰ、電磁気学Ⅱ、電気・電子計測、電気回路Ⅲ、電子回路Ⅱ、情報理論、電気回路Ⅱ及び同演習、電波工学、通信工学Ⅱの単位を修得しなければならない。

なお、情報通信工学課程を卒業して事業用電気通信設備の実務経験1年以上であれば同等の免除が受けられる。

※電気通信主任技術者資格の種類はつぎのとおり

1. 伝送交換主任技術者
2. 線路主任技術者

◦ 第一級陸上無線技術士

情報通信工学課程を修め卒業した者は、申請により卒業の日から3年以内に実施される第一級陸上無線技術士の試験科目のうち無線工学の基礎の試験が免除される。ただし、解析Ⅲ、電気数学、統計学、コンピュータ数値解析、情報理論、物理学Ⅱ、音響工学、光通信工学、電磁気学Ⅰ、電磁気学Ⅱ、電気・電子計測、電波工学、通信工学Ⅱ、半導体デバイス、電子回路Ⅱ、電気回路Ⅱ及び同演習、電気回路Ⅲ、情報通信工学実験Ⅲの単位を修得しなければならない。

【在学中でも得られる資格試験一部免除】

◦ 基本情報技術者

情報処理推進機構（IPA）の免除対象科目履修講座の認定を受けている。

基本情報技術Ⅰ、基本情報技術Ⅱ、基本情報技術Ⅲを全て履修し、IPAから問題提供を受けた修了試験に合格すれば、IPAから同講座の修了認定者として認定を受けることができる。

この認定を受けた者は、続く1年間、基本情報技術者試験を一部免除で受験することができる。

。 工事担任者

情報通信工学課程（情報通信工学科）の教育課程において指定の科目を修得した学生は、工事担任者試験の試験科目のうち、「電気通信技術の基礎」の試験が免除される。

ベクトルと行列，解析Ⅱ及び同演習，物理基礎，物理学Ⅰ，物理学Ⅱ，電気回路入門，電気回路Ⅰ及び同演習，電気回路Ⅲ，電子回路Ⅰ及び同演習，電子回路Ⅱ，論理回路，情報通信工学実験Ⅱ，電気回路Ⅱ及び同演習，通信工学Ⅰ，通信工学Ⅱ，コンピュータネットワークの単位を修得しなければならない。

都市工学課程

【大学卒業者の資格試験（国家試験）免除】

◦ 技術士補

都市工学課程の教育カリキュラムは、2006年度以降JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けており、都市工学課程の卒業生は全員、建設部門の修習技術者（国家試験である技術士1次試験の合格者と同等）となる資格を有し、申請により技術士補に登録することができる。2021年度以降卒業の都市工学課程の学生は、定期的実施されるJABEE審査の結果により、同様の扱いとなる予定である。また4年間の実務経験を経て技術士2次（技術士）試験の受験が可能である。（詳細は当該課程へ問合せのこと）

◦ 測量士補

都市工学課程の課程を修めた卒業生で「測量に関する科目*」を修得した者は、願い出により測量士補の資格を取得できる。

* 詳細は当該課程へ問合せのこと

【大学卒業後の実務経験で得られる受験資格】

◦ 1・2級土木施工管理技士

都市工学課程の課程を修めた卒業生で、土木施工管理に関して3年以上の実務に従事した者は、1級土木施工管理技士の受験資格を取得できる。同様に1年以上の実務に従事した者は、2級土木施工管理技士の受験資格を取得できる。

◦ 1・2級建築施工管理技士

都市工学課程の課程を修めた卒業生で、建築施工管理に関して3年以上の実務に従事した者は、1級建築施工管理技士の受験資格を取得できる。同様に1年以上の実務に従事した者は、2級建築施工管理技士の受験資格を取得できる。

◦ 測量士

都市工学課程の課程を修めた卒業生で「測量に関する科目*」を修得した者は、卒業後1年以上測量に関する実務に従事した場合、願い出により測量士の資格を取得できる。* 詳細は当該課程へ問合せのこと

【大学卒業者の資格試験一部免除】

◦ 甲種（乙種）火薬類取扱保安責任者

都市工学課程（都市マネジメント学科・建設システム工学科）の課程を修め火薬学を修得し卒業した者は甲種、乙種に関係なく、一般火薬学の試験科目が免除される。甲種は1ヶ月1000kg以上、乙種は1ヶ月25kg以上1000kg未満の火薬爆薬取扱に区分される。

◦ 土地家屋調査士

測量士補、建築士の資格を有する者は、第2次試験（平面測量、作図）が免除される。

環境応用化学課程

【大学卒業者の資格試験（国家試験）免除】

◦ 毒物劇物取扱責任者

指定科目の単位を取得し、応用化学に関する学課を修了した者は卒業後資格を得られる。ただし、心身の障害により毒物劇物取扱者の業務を適正に行うことができないと厚生労働省令で定める者、麻薬、大麻、阿片、または覚せい剤中毒者、毒物や劇物、または薬事に関する罪を犯し、罰金以上の刑に処せられその執行を終わり、または執行を受ける事が無くなった日から起算して3年を経過していない者、18歳未満などの欠格事由にあてはまる場合、毒物劇物取扱責任者になることができない。

【大学卒業で受験資格が得られる資格】

◦ 危険物取扱者（甲種）

環境応用化学課程での課程を修めて卒業した者、もしくは化学に関する授業科目を15単位以上修得した者は受験資格が得られる。危険物取扱者は消防法で規定されているガソリン・灯油・軽油・塗料等の危険物を大量に製造・貯蔵・取扱いする各種施設で必要とされる国家資格となる。危険物取扱者の資格は甲種・乙種・丙種の3種類があり、甲種は、全種類の危険物を扱うことができる最上位の資格となる。

【大学卒業後の実務経験で得られる受験資格】

◦ 作業環境測定士（第一種・第二種）

理科系統の大学の正規の課程を修めて卒業した者で、その後1年以上労働衛生の実務に従事した経験を有する者が受験資格を得られる。作業環境測定士試験に合格し、かつ、都道府県労働局長または厚生労働大臣もしくは都道府県労働局長の指定する者が行う講習を修了し、登録することで作業環境測定士の資格を取得できる。デザイン・サンプリング、分析（解析を含む。）のすべてを行うことができる第一種作業環境測定士と、デザイン・サンプリング、簡易測定器による分析業務のみができる第二種作業環境測定士の二種類がある。

◦ エネルギー管理士

資格の取得方法は、（1）国家試験に合格する（2）エネルギー管理研修の修了試験に合格する2種類がある。ただし、合格してエネルギー管理士免状の交付を申請する際に、1年以上のエネルギーの使用の合理化に関する実務経験が必要である。また、エネルギー管理研修を受けるためには、研修申込時までに3年以上の実務経験が必要である。

建築学部

教養教育科目 履修ガイダンス

カリキュラムの特徴

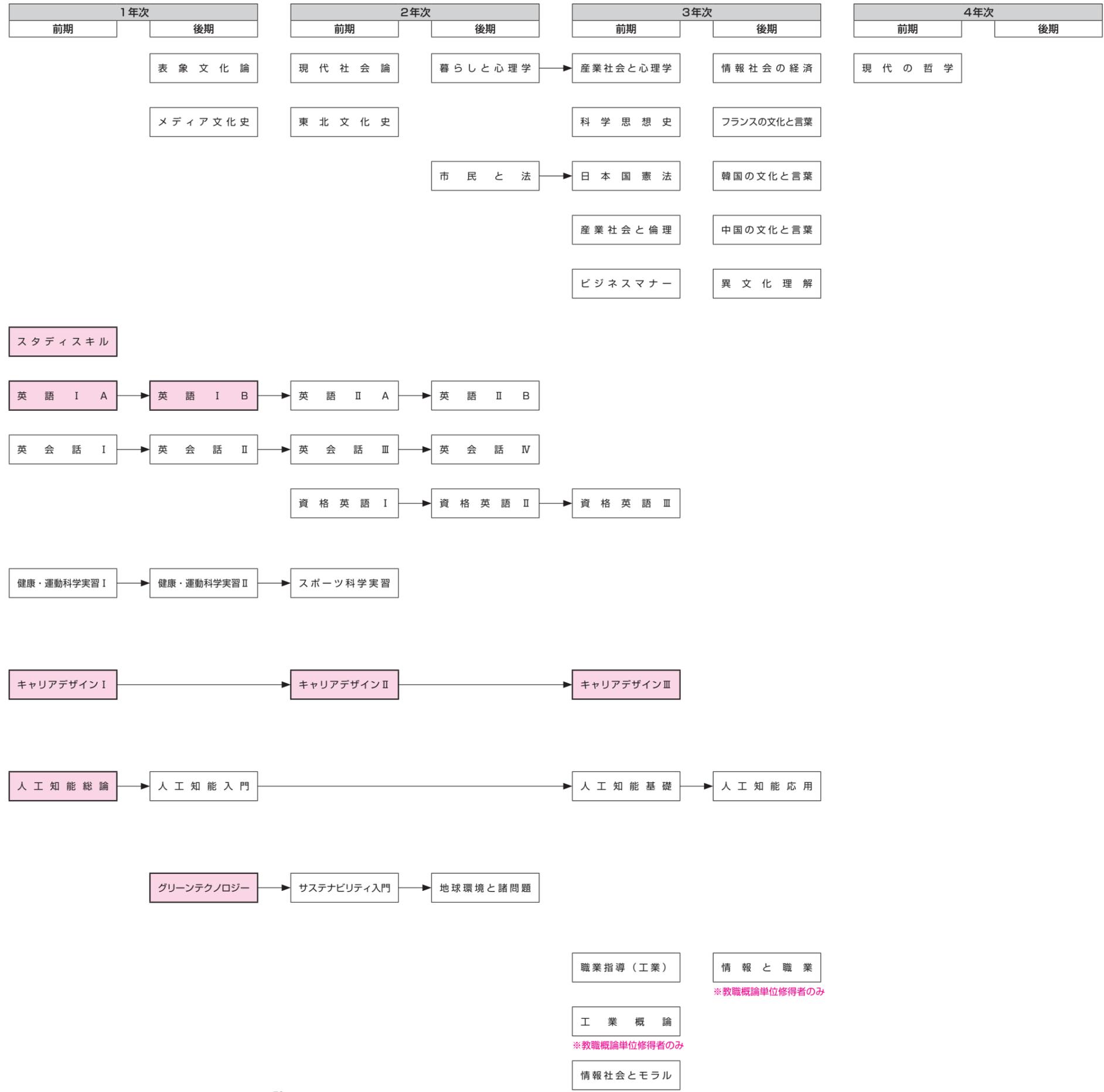
専門的な知識や技術のみに偏ることのない広い視野，市民としての常識，豊かな人間性を身につけるために「社会性」「人間性」「文化性」「科学力」「人間力」「表現力」「健康」「学際」という多彩な科目群を設け，幅広く学修することによって，専門課程で修得した知識や技術を地域社会や国内外において正しく活かすことができるような人材の育成を目指す。

教養教育科目の履修の流れ (建築学部)

必修科目 選択科目

科目群の学習・教育目標

地域・文化・社会	現代の社会、および現代の文化（生活）や地域の諸問題を考えるための基礎的な視点や知識を身につける。
言葉と表現	専門課程において要求される言語の読解力、また社会に出てから要求される言語による自己表現力と相互理解力を身につける。
心と体の健康	身体運動と心身の健康についての正しい知識と実践能力を修得する。またコミュニケーション、リーダーシップの向上に役立てる。
キャリアデザイン	自身の能力や適性を理解するとともに、キャリア形成に必要な能力を向上させるスキルを修得する。また、自身の特性や社会情勢等を踏まえて、現実的なキャリアプランを考えることができる。
AI・データサイエンス	社会における様々な分野の課題解決に活用できる数理・データサイエンス・AIの知識や技術を身につける。
グリーンテクノロジー	地球環境及び対策技術「グリーンテクノロジー」について意識させるところからはじまり、「持続可能な開発目標」(SDGs)の背景にある生態学的・システム論的な視点を身につけ、地球環境問題の解決に取り組める素養を身につける。
教職関連	教員に必要な資質能力を身につけるとともに、現代の社会諸問題を考えるための基礎的な視点や知識を身につける。



英語科目の履修要項

1. 履修科目

近年、日本の多くの高等教育機関で、教育の質の保証という観点から、客観的な成績評価の指標として、資格試験が利用されています。また、エントリーシートへの資格試験成績の記入や、入社後の受験を義務づけ、昇格の条件として用いる大手企業なども増加しています。こうした状況に鑑みて、本学では、文系・理系の両分野において有用な資格である TOEIC (Test of English for International Communication) を念頭に置いた演習を、英語教育に取り入れています。資格試験対策としては継続的な学習が最も重要ですから、1年次から目的意識を持って履修計画を立ててください。

〈必修科目〉(1年次)

英語科目は、「読む、書く、聞く、話す」の四技能の養成を目的とし、以下の必修科目が設定されています。

授業科目名	単位数	毎週の時間数	
		1年	
		前期	後期
英語 I A	1	2	
英語 I B	1		2

「英語 I A」及び「英語 I B」は、基礎的文法項目の学習を中心とする科目です。

受講するクラスは、プレースメントテストの結果で分けられます。学生自身によるクラス変更は認められません。

〈選択科目〉(1・2・3年次)

各自のニーズと目的に合った英語学習を行うため、以下の選択科目が設定されています。

授業科目名	単位数	毎週の時間数					
		1年		2年		3年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
英語 II A	1			2			
英語 II B	1				2		
英会話 I	1	2					
英会話 II	1		2				
英会話 III	1			2			
英会話 IV	1				2		
資格英語 I	1			2			
資格英語 II	1				2		
資格英語 III	1					2	

「英語 II A」及び「英語 II B」は、英米文化を学習する科目です。

「英会話 I・II・III・IV」では、外国人講師による speaking, listening を中心とした実践的英会話、および TOEIC リスニングセクション対策の基礎となる演習を行います。

「資格英語 I・II・III」では、TOEIC 対策に特化した 400～500 点以上のレベルの演習を行います。受講者は、TOEIC IP テスト受験が義務付けられます。

<p>2. 英語科目の 再履修に ついて</p>	<p>「英語ⅠA」「英語ⅠB」・「英語ⅡA*」「英語ⅡB*」（※都市工学課程のみ必修）の単位未修得者（成績評価が「不可」の者）は、再履修クラスを受講してください。ただし、前期は「英語ⅠB」「英語ⅡB（都市工学課程のみ開講）」を対象とした再履修クラス、後期は「英語ⅠA」「英語ⅡA（都市工学課程のみ開講）」を対象とした再履修クラスのみが開講されます。再履修クラスを受講できない場合には、各学科の正規クラスで再履修してください。また、各科目の成績評価が「不適」の学生は、再履修クラスを受講はできませんので、各学科の正規クラス（X組かP組での受講とする）を受講してください。</p>
----------------------------------	--

スポーツ・健康系科目の履修要項

	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ・健康系科目の開講時期及び単位数は以下の通りです。 健康・運動科学実習Ⅰ 1年次前期 1単位 健康・運動科学実習Ⅱ 1年次後期 1単位 スポーツ科学実習 2年次前期 1単位（集中コースでも履修可能） 2. 開講されている科目は全て卒業単位（教養教育科目）に認められます。 3. 教員免許の取得を希望する学生は健康・運動科学実習Ⅰおよび健康・運動科学実習Ⅱを必ず履修してください。 4. スポーツ科学実習の集中コースは、希望者が多数の場合に、施設・用具の関係で人数制限を行っています。
--	--

地域志向科目の履修要綱

	<p>本学は仙台市を中心とした宮城県内の地域と連携した教育・研究・社会貢献に関わり、特に地域志向を目指す教育を重要視しています。</p> <p>地域志向教育では以下の3つの人材育成を目的としています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の課題を発見し、その解決策を探求でき、地域産業が求める知識や技術を有する人材 2. 地域企業の役割を理解し、地域産業を発展的に世界に発信していくことができる人材 3. 新しいライフデザインの提案を創造実践できる人材 <p>本学では地域貢献できる学生の資質向上を図り、地域志向科目を開講しています。地域志向科目はシラバスの該当科目において示します。</p>
--	---

「教養特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」について

科目設定の趣旨

大学における勉学は開講されている科目を履修する事だけではありません。芸術活動、クラブ活動、セミナー参加、インターンシップ参加などにより、文化・社会的活動を通して協調性やコミュニケーション能力を向上させ、人間形成を行う事が重要です。これを奨励するため、本学では入学後に取得した資格や学内外での様々な活動を、教養教育科目「教養特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各1単位)として認定しています。詳細については、窓口を確認してください。

単位認定の対象活動

本学在籍期間中に行った自主的・能動的活動のうち、本学の教育目標にふさわしいと認められる特別な課外活動を対象に、審査の上、単位認定します。

その対象区分は当面、以下のⅠ～Ⅷとしますが、これらの項目に該当しないものについて申請があった場合も、教務委員会で審査して妥当性を判断し、場合によっては対象項目の拡張を検討します。

(Ⅰ) 資格取得または検定等の主な認定例 1～2単位

資格取得または検定	単位	資格取得または検定	単位
第一種電気工事士	2	第二種電気工事士	1
工事担任者 AI・DD総合種	2	映像音響処理技術資格	1
基本情報技術者	2	ITパスポート	1
第一級陸上特殊無線技士	2	情報検定情報システム	1
宅地建物取引士	2	エックス線作業主任者試験	1
危険物取扱者甲種	2	危険物取扱者乙種	1
TOEIC 600点以上	2	TOEIC 400点以上	1

詳細は窓口にお問い合わせのこと。

(Ⅱ) 体育、文化及び芸術活動における顕著な業績をもつ活動 1～2単位

(Ⅲ) ボランティア活動(活動証明の得られるもの)

- ① 実活動時間が合計40時間以上の活動 1単位
- ② 実活動時間が合計80時間以上の活動 2単位

※必ずしも単位取得に結びつかない場合があります。参加を希望する学生は事前に窓口にて手続きを行ってください。

(Ⅳ) インターンシップ等制度による活動

- ① 5日以上かつ昼休み、休憩等を除く30時間以上の活動で参加期間の半分を超える日数を職場で就業体験を行うもの 1単位
- ② 10日以上かつ昼休み、休憩等を除く60時間以上の活動で参加期間の半分を超える日数を職場で就業体験を行うもの 2単位

※1事業所あたり、3日以上活動で参加期間の半分を超える日数を職場で就業体験を行うものであれば、複数事業所との組み合わせも可能である。

※インターンシップ等のカリキュラムの内容によっては、単位取得条件を満たさない場合があるので、単位取得を希望する学生は参加する前にキャリアサポート課・長町校舎事務室に相談すること。

(Ⅴ) 国際活動 2単位

- ① 国際交流委員会が認めた国際交流活動、国際交流に関する研修・セミナーへの参加
- ② 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う海外研修

(Ⅵ) 教務委員会指定の課外活動 1～2単位

- ① 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う学外または学内研修、特別講座への参加
- ② 教務委員会が認めた学外または学内活動への参加

単位認定および
評価の方法

(Ⅶ) 高大連携講座 2単位

本学と高等学校との協定により実施された「高大連携講座」を本学入学前に修了
(ただし、協定により他科目での単位認定が取り決められている講座を除く)

(Ⅷ) 学科指定の課外活動 1～2単位

◆建築学科

(1) 学外研修への参加

- ・学科企画の海外研修または国内研修等 2単位
- ・オープンデスク（夏季休業中などに民間の設計事務所のデスクを学生に開放する制度） 2単位
- ・建築施工管理実習 2単位
(いずれも実施計画書と実施報告書の提出が条件)

(2) 学科が実施する対外活動への参加

- ・学科で承認したもの 1～2単位

※研修・活動への参加の前に、建築学科教務委員に単位認定の対象となるかを確認すること。

(1) 単位認定は学生による自己申請に基づくことを原則とします。

(2) 申請は毎学期末（7月末、1月末）とします。

(3) 単位認定希望者は、次の書類を添付してポータルサイトからオンライン申請してください。（申請方法等の詳細については、別途ポータルサイト等でお知らせします。）

対象区分(I)の場合…資格取得、検定合格等を証明する書類

(但し、本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること)

対象区分(Ⅱ), (Ⅲ)の場合

① 活動を証明するもの（但し、本人の名前が明示されているものの原本を提示すること）

② 課外活動における本人の位置付け、活動の内容、成果・業績等を記載したレポート（A4判、1000字程度）

③ 団体活動の場合は、個人の活動を証明する第三者（クラブ顧問、団体活動の指導者・担当教員等）の証明書類

対象区分(Ⅳ), (Ⅴ), (Ⅵ), (Ⅶ)の場合

① 活動を証明する書類（本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること。ただし、Ⅳの場合は写しでも可）

② 活動の動機、活動の内容、活動の成果、活動で得たこと等を記載したレポート（A4判、1,000字程度）

対象区分(Ⅷ)の場合…修了証

(4) 単位認定の審査は教務委員会で行い、教務委員長が単位認定します。

なお、成績は“認定”扱いとし、GPAと平均点には算入しません。

(5) 認定方法

① 特別課外活動Ⅰ～Ⅳの内、残り2科目以上を修得することができる状態で、2単位相当の活動が単位認定された場合は、2科目同時認定の2単位として認定します。

② 特別課外活動Ⅰ～Ⅲを修得し、特別課外活動Ⅳのみ修得することができる状態で、2単位相当の活動が単位認定された場合は、1単位として認定します。

(6) 認定基準

認定は次の3つの観点から行います。

- ・活動における自主性、能動性の度合い
- ・活動内容の充実度
- ・活動の成果の大きさ

他大学等教養科目群（教養科目）・他大学開講科目群（専門科目）

<p>学都仙台単位互換ネットワーク</p>	<p>本学は「学都仙台単位互換ネットワーク」に参加しています。本学学生は「特別聴講学生」として、ネットワークに参加している他大学の開講科目を履修することができ、各大学に通学して受講します。修得した単位は、所定の単位数まで、本学で履修した単位として認定できます。</p> <p>「学都仙台単位互換ネットワーク」は、仙台圏の国・公・私立の大学・短期大学・高等専門学校及び山形県の東北芸術工科大学の各大学間で、意欲ある学生に対し多様な学修機会を提供する事を目的として発足した制度です。各大学より文化、芸術、政治、経済、自然科学等、多くの学問分野にわたる科目が提供されています。</p> <p>検定料、入学料、授業料（但し、放送大学宮城学習センターを除く）を別途徴収されることはありません。</p> <p>学都仙台単位互換ネットワーク協定に基づく特別聴講学生として他大学の提供科目を受講する場合は、本学で選考の上、受入大学に依頼を行い、受入大学から受入通知が来た時点で履修登録を行うこととなりますので、申し込みは通常の履修登録より早い時期に行われます。</p> <p>受講を希望する学生は、まず所属学科の教務委員やクラス担任と相談の上、本学の授業に差し支えないことを確認し、下記の要領に基づいて窓口で申請手続きを行ってください。</p>
<p>参加大学</p>	<p>1. 学都仙台単位互換ネットワーク参加大学 石巻専修大学、尚綱学院大学、仙台白百合女子大学、仙台大学、東北学院大学、東北芸術工科大学、東北工業大学、東北生活文化大学、東北大学、東北福祉大学、東北文化学園大学、東北医科薬科大学、宮城学院女子大学、宮城教育大学、宮城大学、聖和学園短期大学、東北生活文化大学短期大学部、仙台高等専門学校、宮城誠真短期大学、放送大学、仙台青葉学院短期大学、仙台赤門短期大学（なお、年度により、募集を行わない大学もあるので事前に確認してください）</p>
<p>科目と対象</p>	<p>2. 他大学の募集要項、提供科目 「学都仙台コンソーシアム」のWebサイトで確認してください。</p> <p>3. 対象者 本学に在学する1年生（後期のみ）、2、3年生、4年生（前期のみ）</p> <p>4. 対象科目 原則として、自分の学年より上級学年対象の科目の受講は認められません。</p> <p>5. 進級、卒業単位に算入できる単位数 「他大学等教養科目群」または「他大学開講科目群」として進級、卒業単位に算入できる単位数の上限は、学科によって異なりますので、各学科の教育課程表を参照してください。</p>
<p>出願期限</p>	<p>6. 出願期限 出願期間は前期科目及び通年科目と後期科目で異なるほか、開講する大学によって異なります。 「学都仙台コンソーシアム」のWebサイト記載の出願期限とは別に学内期限があります。事前に窓口で確認してください。</p> <p>7. 諸注意 出願において、本学または受け入れ大学で履修を許可しない場合もあるので、事前にクラス担任、学科の教務委員と相談してください。 万一、途中で履修を取りやめるようなことがあると、受入大学に多大な迷惑をかけることとなりますので、無理のない履修計画を立ててください。 ほぼ全ての大学で、自家用車での通学を認めていませんので、通学にあたっては</p>

他学部教養科目
の履修

公共の交通機関を利用してください。

本学の他学部において教養科目として開講している科目を履修することができます。修得した単位は、「他大学等教養科目群」として認定されます。進級、卒業単位に算入できる単位数の上限は、各課程・学科の教育課程表を参照してください。特別の届出用紙での履修登録が必要です。

(10ページを参照)。

※同一セメスターに開講される同一名称の科目の取り扱いは、この限りではありません。

窓口：学生サポートオフィス

・八木山キャンパス教務学生課（1号館1階）

・長町キャンパス事務室（4号館1階）

建 築 学 部

建 築 学 科

専 門 教 育 科 目

履 修 ガ イ ダ ン ス

建築学部 建築学科

1. 学科の AEGG ポリシーと専門学士力

(1) 建築学科のAEGGポリシー

■ 建築学科AEGGポリシー	
POLICY G₁	【学位授与方針】 (Graduation Policy / Diploma Policy) 建築学部 建築学科は、全学の学位授与方針 (G1ポリシー) に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本学科の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士 (建築学)」の学位を授与する。
POLICY G₂	【学生の指導方針】 (Guidance Policy) ・人間の生命と財産、そして幸せを保障する建築空間の創造のための建築学の知識・技能の修得に加えて、将来の進路や職業・職種選択、そして豊かな人間力醸成のためにも学内外で展開されるさまざまな活動 (正課外活動やインターンシップなど) への積極的かつ主体的な参加を通して、社会との接続化、興味の明確化、また自身の個性・適性の理解と尊重を図る。 ・一人ひとりの能力や個性に寄り添い、またそれを引き出す個別的な指導と支援を目指す。
POLICY E	【教育課程表の編成・実施の方針】 (Education Policy / Curriculum Policy) ・建築技術者に必要とされる基礎的な知識と技能 (建築士受験指定科目) は必修科目として確実に修得する。 ・エンジニアリング系科目では主に理論的思考力や問題発見/解決・判断能力などを、デザイン系科目ではコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、企画力などを養う。 ・1年次では建築学に対する理解を深め関心を高める導入教育、1～2年次では建築学主要領域の基礎教育、3～4年次では各領域・分野の知識と技術を統合する教育を行う。 ・講義、演習、実験、課外活動などを有機的に連携させ、「知識・技能」を「経験・体験」に置換することで各分野の統合と協働のもとに成り立つ建築学の姿と、社会の中での建築を意識できるようにする。
POLICY A	【入学者受入の方針】 (Admission Policy) ・本学科の教育思念を理解した上で、私たちの身近にある暮らしや地域/国際社会における事象に強い関心や興味を抱き、より豊かな暮らしと未来のための生活・地域環境づくりに創造的に、そして真摯に取り組む姿勢と、目標や夢、そして高い倫理観を持つ人を求める。 ・将来、本学科で修得した知識と技能を活かして地域・社会で活躍する建築技術者/設計者を目指して努力しようとする人を入学試験により選抜する。

※ 「共通学士力」は本冊子の表紙の裏に記載していますので、そちらを参照してください。

(2) 建築学科の専門学士力と到達目標 (学修成果)

■ 建築学科の「専門学士力」および学修成果 (到達目標)	
【専門学士力】	【到達目標】
①建築学基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築学に必要な数学および物理の基礎力を身に付け、建築構造、環境・設備や建築材料等において必要な計算をすることができる。 ・ 建築専門を学ぶ上で必要となる基礎的な知識・技術・表現力を身に付け、建築設計、建築計画・歴史・意匠、建築構造、建築材料・生産、建築環境・設備の各専門分野に興味を持つことができる。
②建築設計	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図面の読み方、描き方について理解し、必要な知識・技術を身に付け、建築製図をすることができる。 ・ 各種設計条件に基づき建築を設計するために必要な知識・技術を身に付け、建築設計をすることができる。 ・ 各種の設計条件に基づき建築の企画・計画・設計と、その表現に必要な知識・技術を身に付け、建築設計とその表現をすることができる。
③建築計画・意匠・歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅の計画全般について理解し、必要な知識・視座を身に付け、適切な住宅計画ができる。 ・ 各種施設の計画全般について理解し、必要な知識・視座を身に付け、適切な施設計画ができる。 ・ 地域の計画全般について理解し、必要な知識・視座を身に付け、適切な地域計画ができる。 ・ 建築の意匠全般について理解し、必要な知識・視座を身に付け、適切な意匠計画ができる。 ・ 建築の歴史全般について理解し、必要な知識・視座を身に付け、適切な保存再生ができる。
④建築構造	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築の構造について理解し、必要な知識・技術を身に付け、適切に設計や計画をすることができる。 ・ 構造力学を理解し、必要な知識・技術を身に付け、構造解析ができる。 ・ 構造設計を理解し、必要な知識・技術を身に付け、構造計画ができる。
⑤建築材料・生産	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築構造材料・仕上材料について理解し、必要な知識・視座を身に付け、適切な材料の設計選択ができる。 ・ 住宅・建築の構法・施工について理解し、必要な知識・技術を身に付け、適切な生産管理ができる。 ・ 建築性能とその実験方法について理解し、必要な知識・技術を身に付け、適切な性能評価ができる。
⑥建築環境・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境および都市環境への建築の寄与について理解し、必要な知識・視座を身に付け、適切な環境配慮ができる。 ・ 建築環境工学について理解し、必要な知識・技術を身に付け、適切な環境計画ができる。 ・ 建築設備学について理解し、必要な知識・技術を身に付け、適切な設備計画ができる。
⑦建築学総合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法規や経済などの面から建築を理解し、必要な知識・技術を身に付け、適切な設計と計画（意匠・構造・設備）ができる。 ・ 建築学の基礎および専門の知識を統合し、応用・展開する力を身に付け、建築に対する総合的な理解を通して創造的に設計（製作）もしくは研究が遂行できる。 ・ 建築技術者・設計者に必要な総合的な力を身に付け、培った力を社会で活かすことができる。

(3) 建築学科の専門学士力のアセスメント方法

専門学士力	コア科目 (★:アセスメント対象科目)	アセスメントの方法 (MR 定着度確認テスト/ ルーブリック評価)	実施時期
①建築学基礎	★建築 CAD	ルーブリック評価	1年後期
②建築設計	★建築設計Ⅲ	ルーブリック評価	2年前期
③建築計画・意匠・歴史	★建築計画Ⅰ	MR 定着度確認テスト	3年 8～9月 夏季休暇から研究室 配属決定までの 期間
④建築構造	★骨組の力学Ⅰ		
⑤建築材料・生産	★建築材料Ⅰ		
⑥建築環境・設備	★熱・空気環境		
⑦建築学総合	★建築法規及び同演習		
	★建築学研修Ⅱ、Ⅲ	ルーブリック評価	4年後期

※ MR 定着度確認テストの合格が、研修等の授業科目の単位認定条件となる場合があります。

2. 教育課程表における進級・卒業条件 建築学科

◎3年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	必修4単位以上	
専門教育科目	必修36単位以上	
計	全体として60単位以上	

◎4年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	18単位以上	
専門教育科目	必修54単位以上 建築学研修Ⅰを含むこと	
計	全体として96単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	24単位 必修8単位を含むこと	
専門教育科目	100単位 建築システムコース：必修78単位を含むこと 建築デザインコース：必修76単位を含むこと	建築デザインコース ：選択科目のうち「鉄筋コンクリート構造」および「鉄筋コンクリート構造演習」あるいは「鉄骨構造」および「鉄骨構造演習」の組み合わせどちらか一方を必ず修得すること
計	124単位	

3. 教育課程表

建築学科 教養教育科目

科目区分	授業科目名		単位 必修 選択	各期の毎週時間数								主要 授業者 名	備考	授業形態				共通学士力				
				1年		2年		3年		4年				講 義	演 習	実 験 実 習	卒 業 研 修	①	②	③	④	⑤
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
地域・文化・社会	1	表象文化論	2	2									○			●	●	●				
	2	メディア文化史	2	2									○			●	●	●				
	3	東北文化史	2		2								○			●	●	●				
	4	現代社会論	2		2								○			●	●	●				
	5	市民と法	2			2							○			●	●	●				
	6	暮らしと心理学	2			2							○			●	●	●				
	7	産業社会と心理学	2				2						○			●	●	●				
	8	産業社会と倫理	2				2						○			●	●	●				
	9	ビジネスマナー	2				2						○			●	●	●	●			
	10	日本国憲法	2				2						○			●	●	●				
	11	科学思想史	2				2						○			●	●	●				
	12	情報社会の経済	2					2					○			●	●	●				
	13	フランスの文化と言葉	2						2				○			●	●		●			
	14	韓国の文化と言葉	2						2				○			●	●		●			
	15	中国の文化と言葉	2						2				○			●	●		●			
	16	異文化理解	2						2				○			●	●		●			
	17	現代の哲学	2							2			○			●	●	●				
言葉と表現	18	スタディスキル	1	2								○			●	●		●	●			
	19	英語ⅠA	1	2								○						●				
	20	英会話Ⅰ	1	2								○						●				
	21	英語ⅠB	1	2								○						●				
	22	英会話Ⅱ	1	2								○						●				
	23	英語ⅡA	1		2							○						●				
	24	英会話Ⅲ	1		2							○						●				
	25	資格英語Ⅰ	1		2							○						●				
	26	英語ⅡB	1		2							○						●				
	27	英会話Ⅳ	1		2							○						●				
心と体の健康	30	健康・運動科学実習Ⅰ	1	2								○			●		●	●				
	31	健康・運動科学実習Ⅱ	1	2								○			●		●	●				
	32	スポーツ科学実習	1		2							○			●		●	●				
デザイン	33	キャリアデザインⅠ	1	2								○			●	●	●	●	●			
	34	キャリアデザインⅡ	1		2							○			●	●	●	●	●			
	35	キャリアデザインⅢ	1			2						○			●	●	●	●	●			
AI・データサイエンス	36	人工知能総論	1	2								○										
	37	人工知能入門	1	2																		
	38	人工知能基礎	2				2															
	39	人工知能応用	2					2														
グリーンテクノロジー	40	グリーンテクノロジー	1	2								○										
	41	サステナビリティ入門	2		2																	
	42	地球環境と諸問題	2			2																
教職関連	43	職業指導(工業)	2				2					○			●	●	●	●				
	44	工業概論	2				2					○			●	●	●					
	45	情報社会とモラル	2				2					○			●	●	●					
	46	情報と職業	2					2				○			●	●	●					
特別課外活動	47	教養特別課外活動Ⅰ	1	…	…	…	…	…	…	…												
	48	教養特別課外活動Ⅱ	1	…	…	…	…	…	…	…												
	49	教養特別課外活動Ⅲ	1	…	…	…	…	…	…	…												
	50	教養特別課外活動Ⅳ	1	…	…	…	…	…	…	…												
学際	51	他大学等教養科目群	4	…	…	…	…	…	…	…												
小計(51科目)		8	71	12	14	16	12	22	14	2	0											

※1 合わせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※2 他大学等教養科目群については、4単位までを進級および卒業に要する単位に算入できる。

教育課程表

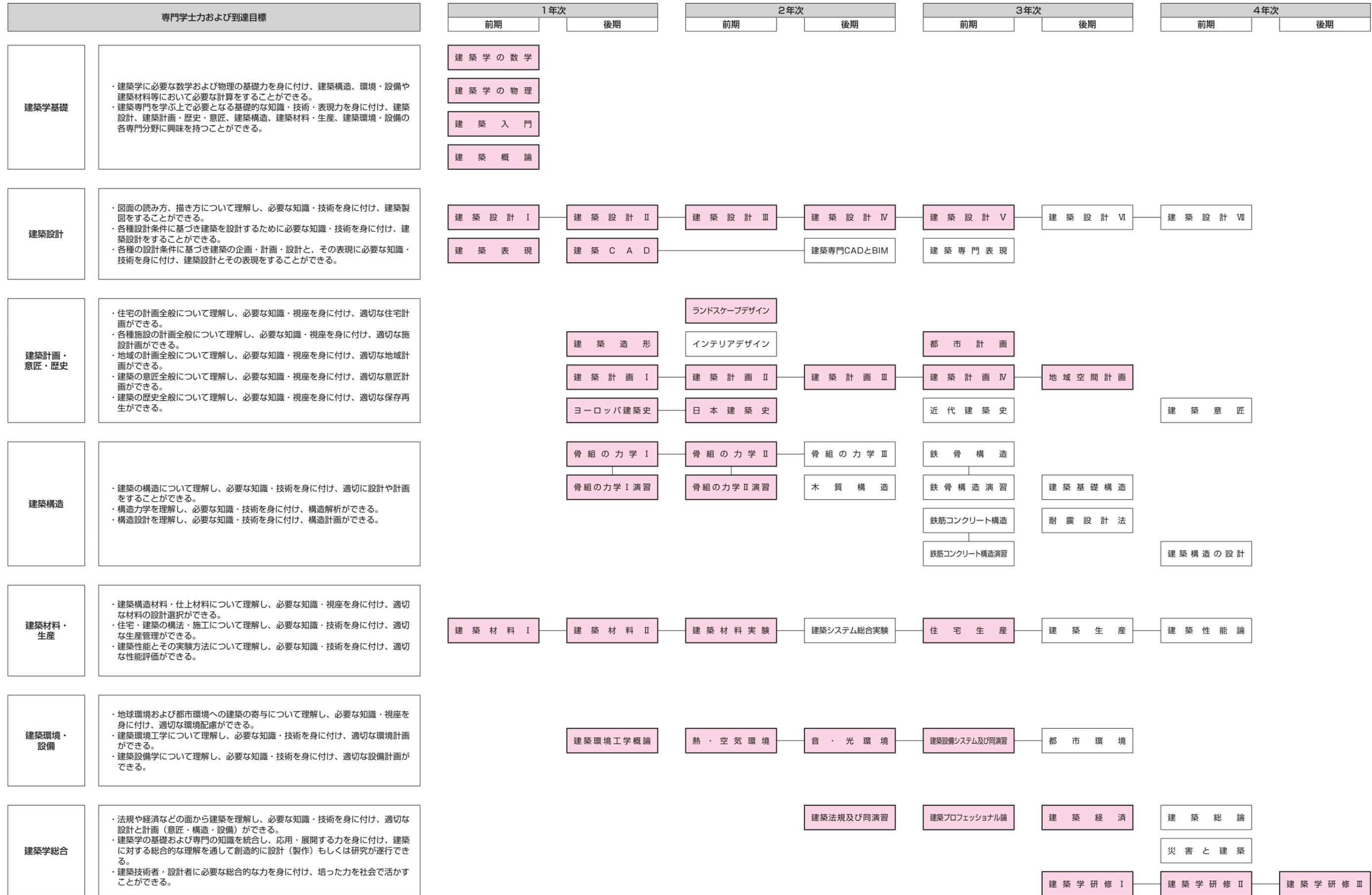
建築学科 専門教育科目

科目区分	授業科目名	単位(※1)		各期の毎週時間数				主要授業科目	備考	授業形態				共通学士力					専門学士力							
		Sコース	Dコース	1年	2年	3年	4年			講義	演習	実験	卒業研究	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期
学科専門教育科目 専門教育科目	1 建築学の数学	2	2	2					○					●	●					●						
	2 建築学の物理	2	2	2					○					●	●	●				●						
	3 建築入門	2	2	2					○					●	●	●				●						
	4 建築表現	1	1	2					○					●	●	●				●						
	5 建築設計 I	2	2	4					○					●	●	●	●			●						
	6 建築材料 I	2	2	2					○					●	●	●				●						
	7 建築概論	2	2	2					○					●	●	●	●			●						
	8 建築環境工学概論	2	2		2				○					●	●	●	●			●						●
	9 建築CAD	2	2	4					○					●	●	●				●						
	10 建築計画 I	2	2	2					○					●	●	●				●						
	11 ヨーロッパ建築史	2	2	2					○					●	●	●				●						
	12 建築造形	1	1	2					○					●	●	●				●						
	13 建築設計 II	2	2	4					○					●	●	●				●						
	14 建築材料 II	2	2	2					○					●	●	●				●						
	15 骨組の力学 I	2	2	2					○					●	●	●				●						
	16 骨組の力学 I 演習	1	1	2					○					●	●	●				●						
	17 ランドスケープデザイン	1	1		2				○					●	●	●				●						
	18 建築設計 III	2	2	4					○					●	●	●	●			●						
	19 建築計画 II	2	2	2					○					●	●	●				●						
	20 日本建築史	2	2	2					○					●	●	●				●						
	21 建築材料実験	1	1	2					○					●	●	●				●						
	22 熱・空気環境	2	2	2					○					●	●	●	●			●						●
	23 骨組の力学 II	2	2	2					○					●	●	●				●						
	24 骨組の力学 II 演習	1	1	2					○					●	●	●				●						
	25 インテリアデザイン		2	2		2				○				●	●	●				●						
	26 建築設計 IV	2	2		4				○					●	●	●	●			●						
	27 建築計画 III	2	2	2					○					●	●	●				●						
	28 建築システム総合実験		1	1		2				○				●	●	●				●						●
	29 音・光環境	2	2		2				○					●	●	●				●						●
	30 建築法規及び同演習	3	3		4				○					●	●	●				●						●
	31 木質構造		2	2		4				○				●	●	●				●						●
	32 建築専門CADとBIM		1	1		2				○				●	●	●				●						●
	33 骨組の力学 III		2	2		2				○				●	●	●				●						●
	34 住宅生産	2	2			2			○					●	●	●				●						●
	35 鉄筋コンクリート構造	2		2		2			○					●	●	●				●						●
	36 鉄筋コンクリート構造演習	1		1		2			○					●	●	●				●						●
	37 鉄骨構造	2		2		2			○					●	●	●				●						●
	38 鉄骨構造演習	1		1		2			○					●	●	●				●						●
	39 建築設備システム及び同演習	3		3		4			○					●	●	●				●						●
	40 建築プロフェSSIONAL論	2		2		2			○					●	●	●	●			●						●
	41 都市計画	2		2		4			○					●	●	●				●						●
	42 建築設計 V		2	2		2			○					●	●	●	●			●						●
	43 建築計画 IV		2	2		2			○					●	●	●				●						●
	44 近代建築史		2	2		2			○					●	●	●				●						●
	45 建築専門表現		1	1		2				○				●	●	●				●						●
	46 建築経済	2		2		2			○					●	●	●				●						●
	47 建築学研修 I	2		2		4			○					●	●	●	●			●						●
	48 地域空間計画		2	2		2			○					●	●	●				●						●
	49 建築生産	2		2		2			○					●	●	●	●			●						●
	50 建築基礎構造		2	2		2			○					●	●	●				●						●
	51 都市環境		2	2		2			○					●	●	●				●						●
	52 建築設計 VI		3	3		6			○					●	●	●	●			●						●
	53 耐震設計法		2	2		2			○					●	●	●				●						●
	54 建築学研修 II	2		2		4			○					●	●	●	●			●						●
	55 建築総論		2	2		2			○					●	●	●	●			●						●
	56 災害と建築		2	2		2			○					●	●	●	●			●						●
	57 建築設計 VII		3	3		6			○					●	●	●	●			●						●
	58 建築構造の設計		2	2		4			○					●	●	●	●			●						●
	59 建築性能論		2	2		2			○					●	●	●	●			●						●
	60 建築意匠		2	2		2			○					●	●	●	●			●						●
	61 建築学研修 III	4		4		8			○					●	●	●	●			●						●
	62 建築インターンシップ I		1	1																						●
	63 建築インターンシップ II		1	1																						●
	64 建築インターンシップ III		1	1																						●
	65 建築インターンシップ IV		1	1																						●
	学際	66 他学部開講科目群		4	4																					●
		67 他大学開講科目群		4	4																					●
	特別	68 専門特別課外活動 I		1	1																					●
	課外	69 専門特別課外活動 II		1	1																					●
	活動	70 専門特別課外活動 III		1	1																					●
		71 専門特別課外活動 IV		1	1																					●
	小計 (71科目)	78	51	76	53	16	22	20	20	28	22	22	8													

※1 Sコース=建築システムコース、Dコース=建築デザインコース
 ※2 建築デザインコースにおいては、選択科目のうち次の2領域から同一領域の2科目3単位を必ず修得すること(選択必修)。
 (1) 鉄筋コンクリート構造、鉄筋コンクリート構造演習
 (2) 鉄骨構造、鉄骨構造演習
 ※3 合わせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※4 合わせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※5 合わせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。

4. 建築学科 専門教育科目の履修の流れ（建築デザインコース）

必修科目 選択科目



5. 履修ガイダンス

建築学科

1. カリキュラムの特徴

1～2年次	3年次	4年次
自らの「気づき」を生み出す2年間	将来の道しるべとなるコース選択	卒業研修を通して確かな人間力を形成
<p>建築学に必要な基礎的な知識と技術を身につけます。建築学の知識がなくても、建築の面白さや世界の広さを実感できるカリキュラムを用意。建築学が包含する広く深い世界をさまざまな科目を通して学び、自分の興味や可能性を再発見できるように編成されています。講義に加え、演習、実験、設計など実践的なトレーニングを取り入れているため、理論的な思考力と表現力を総合的に身につけることができます。2年次までの必修科目で建築士試験受験資格取得に必要な条件が概ねクリアできるのも魅力です。</p>	<p>3年次は自らの興味や進路を決定する大事な時期。自分自身で履修モデルを設定して学習できるよう、選択性・柔軟性のあるカリキュラムを設けています。興味や特性に応じた2つの履修コースを設け、設計力、創造力、表現力を伸ばしたい人は、計画・設計・歴史系の科目を、理数的解析力、理論的思考力をより高めたい人は、構造・材料・環境系の科目をより重点的に履修できます。後期には研究室に配属され、卒業論文・卒業設計の基礎学習を行います。これまで学習した知識の定着を図りながら、卒業研修に必要な基礎力を身につけます。</p>	<p>3年次に選択した専門的なテーマをじっくり学びます。10名程度の少人数による研修活動は、それまで培ってきた知識と技術の集大成。大学4年間の醍醐味であり、充実した時期が過ぎせませす。海外留学やフィールドワークなど、様々な活動参加のチャンスが増える時期でもあります。4年次は特に、自ら積極的に課題に取り組む姿勢が大切。卒業研修の活動を通して企画力・提案力・分析力・表現力などの力を養い、広く社会に通用する人間力を育み、社会に貢献するための確かな自信を身につけます。</p>

2. 卒業研修について

3年次後期から研究室に配属され、指導教員の下で卒業研修に取り組むことになります。10人程度の少人数による研修活動は、それまで培ってきた知識と技術の集大成です。研修を通して海外留学やフィールドワークなど、さまざまな活動に参加できるチャンスが増えるため、充実した時間を過ごすことができます。研修は自ら積極的に課題に取り組む姿勢が大切です。卒業研修の活動を通して企画力・提案力・分析力・表現力などの力を養い、広く社会に通用する人間力を育み、社会に貢献するための確かな自信を身につけます。

最終的に、4年次の1月～2月までに研修の成果を卒業論文または卒業設計としてまとめ、その内容を発表することになります。成績については、研修活動への取り組み姿勢、成果物や最終発表会での内容等を総合的に評価します。

3. 履修のためのガイド

1) 基本的留意事項

本来、学部で建築学を学ぶにあたっては、定められた最低単位数を得ることに専心したり、進級や卒業のみを目標にしたりするようなことがあってはいけません。建築の分野に自分の将来をかけ、夢を実現するためには、在学中に感性を磨き、建築に関する知識や素養をしっかりと身につけることは必須の条件です。また、プロフェッショナルとして大成するためには、さらに不断の努力と精進が必要です。そのような意味では、将来、建築の専門家を志すのであれば、その骨格を形成するために、学部で開講されている科目は全て修得するのが本来の姿です。その道筋を現実的な形で示したものが教育課程表(P.90・P.91参照)です。表

は開講科目を必修科目と選択科目に分けて開講時期ごとに構成したものであり、履修計画を立てるにあたって、履修の流れ図や進級・卒業に要する条件とともに、教育課程表の内容をよく理解しておく必要があります。

2) コース選択について

本学科では、3年次前期からコース分けを行います。コースは建築システムコースと建築デザインコースがあり、各々の特性に合ったコースを選択してください。

開講科目については各コース共通であるが、コースによって必修・選択の設定が異なる科目もあるので、本書の教育課程表でよく確認してください。

各コースの学習・教育目標は下記の通り。

- ・建築システムコースの学習・教育目標

理的解析力、問題発見力、調査力を伸ばし、実践的な視点で安全で快適な建物を企画・提案できる技術者を養成する。

- ・建築デザインコースの学習・教育目標

設計力、創造力、表現力を伸ばし、総合的な視点に立って建築空間を設計・提案することができる技術者を養成する。

Sコース 学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数／開講単位数」を示します）

Sコース	教養教育科目		専門教育科目		各学年の合計	1年次からの累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	6	4/9	29	—	39/44	39/44
2年次 下段：3年次進級条件	1	10/19	22	6/8	39/50	78/94
60単位以上						
必修4単位以上		必修36単位以上				
3年次 下段：4年次進級条件	1	6/33	21	12/18	40/73	118/167
96単位以上						
18単位以上		必修54単位以上 (建築学研修Ⅰを含む)				
4年次 下段：卒業条件	—	2/2	6	6/13	14/21	132/188
24単位 (必修8単位含む)		100単位 (必修78単位含む)				
卒業までの総合計	8	22/63	78	24/39	132/188	
	30/71		102/117			

Dコース 学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数/開講単位数」を示します）

Dコース	教養教育科目		専門教育科目		各学年の 合計	1年次から の累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	6	4/9	29	-	39/44	39/44
2年次 下段：3年次進級条件	1	10/19	22	6/8	39/50	78/94
60単位以上 必修4単位以上 必修36単位以上						
3年次 下段：4年次進級条件	1	6/33	19	15/20	41/73	119/167
96単位以上 18単位以上 必修54単位以上 (建築学研修Ⅰを含む)						
4年次 下段：卒業条件	-	2/2	6	5/13	13/21	132/188
24単位 (必修8単位含む) 100単位 (必修76単位含む)						
卒業までの総合計	8	22/63	76	26/41	132/188	
	30/71		102/117			

建築学部

卒業後等の取得資格

○ 卒業後等の取得資格

※受験資格や試験免除条件が変更となる場合がありますので、最新の情報を各種資格のホームページで確認して下さい。

建築学部 建築学科

【大学卒業で受験資格が得られる】

◦ 一級建築士

平成21（2009）年度以降の入学生については、建築学科の課程および国土交通大臣が指定する建築に関する科目を修めたものは、令和2年度より実務経験なしで受験資格を取得できる。なお、試験に合格した上で、建築に関する実務経験2年以上、または、試験合格前後に建築に関する実務経験2年以上で、免許登録ができる。

◦ 二級建築士，木造建築士

平成21（2009）年度以降の入学生で建築学科の課程および国土交通大臣が指定する建築に関する科目を修めたものは、実務経験なしで受験資格を取得できる。

◦ 甲種消防設備士

建築学科での課程を修め卒業した者は甲種の受験資格が得られる。

【大学卒業後の実務経験で得られる受験資格】

◦ 1・2級建築施工管理技士

建築学科での課程を修めた卒業生で、建築施工管理に関して3年以上の実務に従事した者は、1級建築施工管理技士の受験資格を取得できる。同様に1年以上の実務に従事した者は、2級建築施工管理技士の受験資格を取得できる。

◦ 1・2級土木施工管理技士

建築学科での課程を修めた卒業生で、土木施工管理に関して3年以上の実務に従事した者は、1級土木施工管理技士の受験資格を取得できる。同様に1年以上の実務に従事した者は、2級土木施工管理技士の受験資格を取得できる。

◦ 建築物環境衛生管理技術者

工学系学科を卒業後1年以上の特定建築物の環境衛生維持管理に関する実務に従事した者は厚生労働大臣の指定する講習を受けることにより資格が取得できる。また、2年以上の実務経験を有し国家試験に合格することによって資格を取得できる。一級建築士の資格を有する者は経験年数不要。

【大学卒業者の資格試験一部免除】

◦ 土地家屋調査士

測量士補、建築士の資格を有する者は、第2次試験（測量の試験）が免除される。

【在学中でも得られる資格試験及び一部免除】

◦ 建築積算士補

※申請手続き中ですので決定次第、ポータルサイトにて周知いたします。

令和2年度以降入学生は、指定の専門科目「建築経済」の単位を修得して、協会が実施する資格試験に合格し、登録を行うことにより建築積算士補の資格を取得できる。本資格保有者は、建築積算士の一次試験が免除される。

◦ 商業施設士補

本学科は（公益社団法人）商業施設技術団体連合会から本資格の認定校に指定されている。本学科の3年次前期までの指定の専門科目を修得した上で、指定された講習を受講修了することで、本資格を取得できる。なお、建築学科の指定科目については学科教務委員に確認のこと。

◦ 商業施設士

本資格は、3年次に商業施設士補を資格取得した場合、最短で4年次に受験資格が得られる。商業施設士補の資格保有者は、商業施設士試験の学科試験が免除され、一・二級建築士、木造建築士の者は学科試験『施設と設計』の科目が免除される。

商業施設士補の資格を取得していない場合は、課程を修め実務に1年以上従事した者は受験資格を取得できる。

ライフデザイン学部

教養教育科目 履修ガイダンス

カリキュラムの特徴

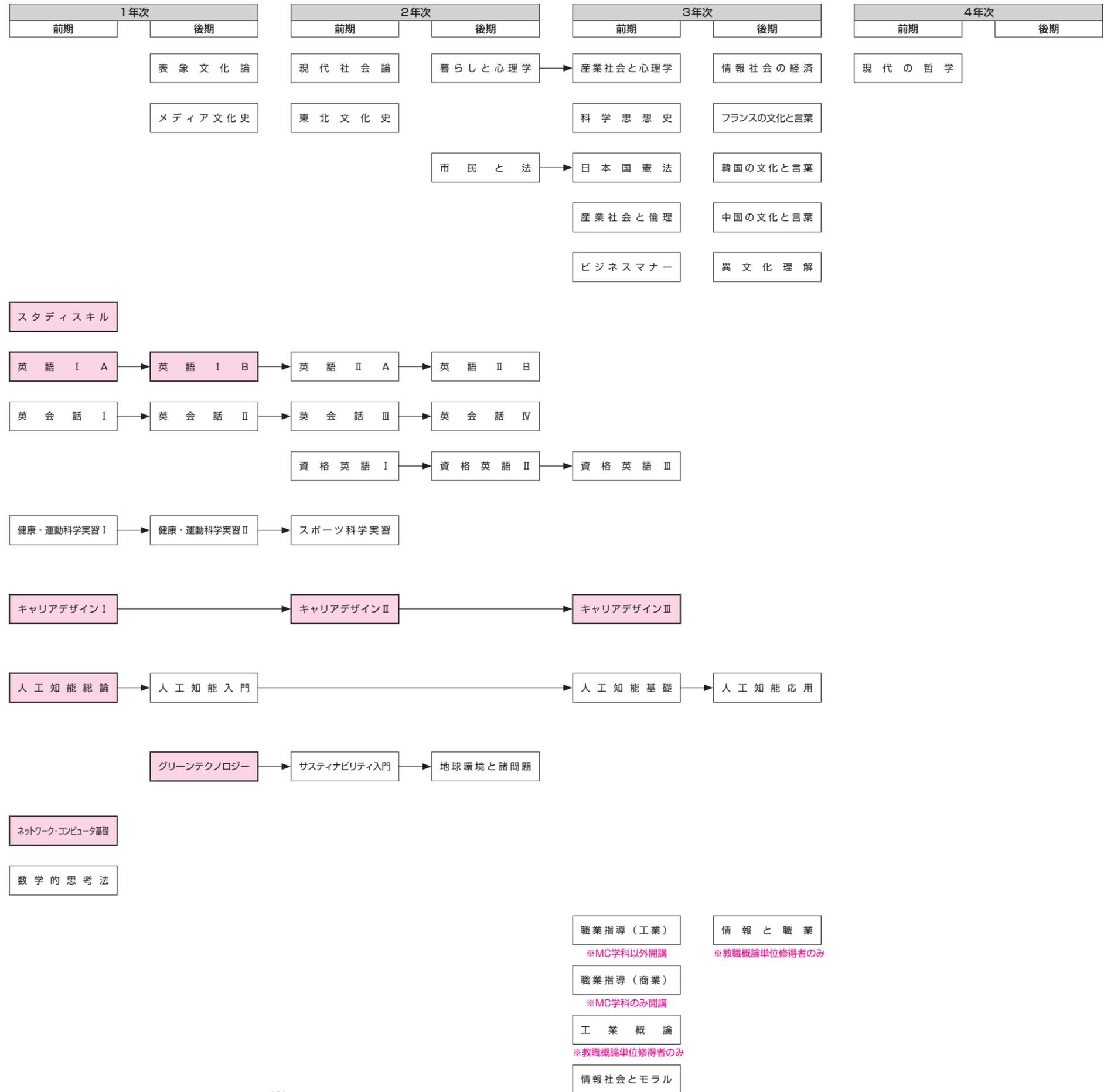
専門的な知識や技術のみに偏ることのない広い視野，市民としての常識，豊かな人間性を身につけるために「社会性」「人間性」「文化性」「科学力」「人間力」「表現力」「健康」「学際」という多彩な科目群を設け，幅広く学修することによって，専門課程で修得した知識や技術を地域社会や国内外において正しく活かすことができるような人材の育成を目指す。

教養教育科目の履修の流れ (ライフデザイン学部)

必修科目 選択科目

科目群の学習・教育目標

地域・文化・社会	現代の社会、および現代の文化（生活）や地域の諸問題を考えるための基礎的な視点や知識を身につける。
言葉と表現	専門課程において要求される言語の読解力、また社会に出てから要求される言語による自己表現力と相互理解力を身につける。
心と体の健康	身体運動と心身の健康についての正しい知識と実践能力を修得する。またコミュニケーション、リーダーシップの向上に役立てる。
キャリアデザイン	自身の能力や適性を理解するとともに、キャリア形成に必要な能力を向上させるスキルを修得する。また、自身の特性や社会情勢等を踏まえて、現実的なキャリアプランを考えることができる。
AI・データサイエンス	社会における様々な分野の課題解決に活用できる数理・データサイエンス・AIの知識や技術を身につける。
グリーンテクノロジー	地球環境及び対策技術「グリーンテクノロジー」について意識させるところからはじまり、「持続可能な開発目標」(SDGs)の背景にある生態学的・システム論的な視点を身につけ、地球環境問題の解決に取り組める素養を身につける。
LD 理数基礎	社会・経済・デザイン活動に関わる諸問題を考えるための情報技術と数理の基礎を身につける。
教職関連	教員に必要な資質能力を身につけるとともに、現代の社会諸問題を考えるための基礎的な視点や知識を身につける。



英語科目の履修要項

1. 履修科目

近年、日本の多くの高等教育機関で、教育の質の保証という観点から、客観的な成績評価の指標として、資格試験が利用されています。また、エントリーシートへの資格試験成績の記入や、入社後の受験を義務づけ、昇格の条件として用いる大手企業なども増加しています。こうした状況に鑑みて、本学では、文系・理系の両分野において有用な資格であるTOEIC (Test of English for International Communication) を念頭に置いた演習を、英語教育に取り入れています。資格試験対策としては継続的な学習が最も重要ですから、1年次から目的意識を持って履修計画を立ててください。

〈必修科目〉(1年次)

英語科目は、「読む、書く、聞く、話す」の四技能の養成を目的とし、以下の必修科目が設定されています。

授業科目名	単位数	毎週の時間数	
		1年	
		前期	後期
英語ⅠA	1	2	
英語ⅠB	1		2

「英語ⅠA」及び「英語ⅠB」は、基礎的文法項目の学習を中心とする科目です。

受講するクラスは、プレースメントテストの結果で分けられます。学生自身によるクラス変更は認められません。

〈選択科目〉(1・2・3年次)

各自のニーズと目的に合った英語学習を行うため、以下の選択科目が設定されています。

授業科目名	単位数	毎週の時間数					
		1年		2年		3年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
英語ⅡA	1			2			
英語ⅡB	1				2		
英会話Ⅰ	1	2					
英会話Ⅱ	1		2				
英会話Ⅲ	1			2			
英会話Ⅳ	1				2		
資格英語Ⅰ	1			2			
資格英語Ⅱ	1				2		
資格英語Ⅲ	1					2	

「英語ⅡA」及び「英語ⅡB」は、英米文化を学習する科目です。

「英会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では、外国人講師による speaking, listening を中心とした実践的英会話、および TOEIC リスニングセクション対策の基礎となる演習を行います。

「資格英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、TOEIC 対策に特化した 400～500 点以上のレベルの演習を行います。受講者は、TOEIC IP テスト受験が義務付けられます。

<p>2. 英語科目の 再履修に ついて</p>	<p>「英語ⅠA」「英語ⅠB」・「英語ⅡA[*]」「英語ⅡB[*]」(※都市工学課程のみ必修)の単位未修得者(成績評価が「不可」の者)は、再履修クラスを受講してください。ただし、前期は「英語ⅠB」「英語ⅡB(都市工学課程のみ開講)」を対象とした再履修クラス、後期は「英語ⅠA」「英語ⅡA(都市工学課程のみ開講)」を対象とした再履修クラスのみが開講されます。再履修クラスを受講できない場合には、各学科の正規クラスで再履修してください。また、各科目の成績評価が「不適」の学生は、再履修クラスを受講はできませんので、各学科の正規クラス(X組かP組での受講とする)を受講してください。</p>
----------------------------------	--

スポーツ・健康系科目の履修要項

	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ・健康系科目の開講時期及び単位数は以下の通りです。 健康・運動科学実習Ⅰ 1年次前期 1単位 健康・運動科学実習Ⅱ 1年次後期 1単位 スポーツ科学実習 2年次前期 1単位(集中コースでも履修可能) 2. 開講されている科目は全て卒業単位(教養教育科目)に認められます。 3. 教員免許の取得を希望する学生は健康・運動科学実習Ⅰおよび健康・運動科学実習Ⅱを必ず履修してください。 4. スポーツ科学実習の集中コースは、希望者が多数の場合に、施設・用具の関係で人数制限を行っています。
--	--

地域志向科目の履修要綱

	<p>本学は仙台市を中心とした宮城県内の地域と連携した教育・研究・社会貢献に関わり、特に地域志向を目指す教育を重要視しています。</p> <p>地域志向教育では以下の3つの人材育成を目的としています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の課題を発見し、その解決策を探求でき、地域産業が求める知識や技術を有する人材 2. 地域企業の役割を理解し、地域産業を発展的に世界に発信していくことができる人材 3. 新しいライフデザインの提案を創造実践できる人材 <p>本学では地域貢献できる学生の資質向上を図り、地域志向科目を開講しています。地域志向科目はシラバスの該当科目において示しています。</p>
--	---

「教養特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」について

<p>科目設定の趣旨</p>	<p>大学における勉学は開講されている科目を履修する事だけではありません。芸術活動、クラブ活動、セミナー参加、インターンシップ参加などにより、文化・社会的活動を通して協調性やコミュニケーション能力を向上させ、人間形成を行う事が重要です。これを奨励するため、本学では入学後に取得した資格や学内外での様々な活動を、教養教育科目「教養特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各1単位)として認定しています。詳細については、窓口を確認してください。</p>
----------------	---

単位認定の
対象活動

本学在籍期間中に行った自主的・能動的活動のうち、本学の教育目標にふさわしいと認められる特別な課外活動を対象に、審査の上、単位認定します。

その対象区分は当面、以下のⅠ～Ⅷとしますが、これらの項目に該当しないものについて申請があった場合も、教務委員会で審査して妥当性を判断し、場合によっては対象項目の拡張を検討します。

(Ⅰ) 資格取得または検定等の主な認定例 1～2単位

資格取得または検定	単位	資格取得または検定	単位
第一種電気工事士	2	第二種電気工事士	1
工事担任者 AI・DD総合種	2	映像音響処理技術資格	1
基本情報技術者	2	ITパスポート	1
第一級陸上特殊無線技士	2	情報検定情報システム	1
宅地建物取引士	2	エックス線作業主任者試験	1
危険物取扱者甲種	2	危険物取扱者乙種	1
TOEIC 600点以上	2	TOEIC 400点以上	1

詳細は窓口にお問い合わせのこと。

(Ⅱ) 体育、文化及び芸術活動における顕著な業績をもつ活動 1～2単位

(Ⅲ) ボランティア活動（活動証明の得られるもの）

① 実活動時間が合計40時間以上の活動 1単位

② 実活動時間が合計80時間以上の活動 2単位

※必ずしも単位取得に結びつかない場合があります。参加を希望する学生は事前に窓口にて手続きを行ってください。

(Ⅳ) インターンシップ等制度による活動

① 5日以上かつ昼休み、休憩等を除く30時間以上の活動で参加期間の半分以上の日数を職場で就業体験を行うもの 1単位

② 10日以上かつ昼休み、休憩等を除く60時間以上の活動で参加期間の半分以上の日数を職場で就業体験を行うもの 2単位

※1事業所あたり、3日以上以上の活動で参加期間の半分以上の日数を職場で就業体験を行うものであれば、複数事業所との組み合わせも可能である。

※インターンシップ等のカリキュラムの内容によっては、単位取得条件を満たさない場合があるので、単位取得を希望する学生は参加する前にキャリアサポート課・長町校舎事務室に相談すること。

(Ⅴ) 国際活動 2単位

① 国際交流委員会が認めた国際交流活動、国際交流に関する研修・セミナーへの参加

② 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う海外研修

(Ⅵ) 教務委員会指定の課外活動 1～2単位

① 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う学外または学内研修、特別講座への参加

② 教務委員会が認めた学外または学内活動への参加

(Ⅶ) 高大連携講座 2単位

本学と高等学校との協定により実施された「高大連携講座」を本学入学前に修了（ただし、協定により他科目での単位認定が取り決められている講座を除く）

(Ⅷ) 学科指定の課外活動 1～2単位

◆産業デザイン学科

(1) 各種デザインコンペでの受賞 2単位

(2) 企業実習への参加 2単位

<p>単位認定および 評価の方法</p>	<p>(3) 学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究，各種ゼミへの参加 2単位</p> <p>(4) 自主的に行う国内・国外のデザイン見聞旅行の計画・実施 2単位 ※事前に窓口にお問い合わせのこと。</p> <p>◆生活デザイン学科 ※事前に窓口にお問い合わせのこと。</p> <p>◆経営デザイン学科</p> <p>(1) インターンシップ 実働40時間から80時間未満 1単位</p> <p>(2) インターンシップ 実働80時間以上 2単位</p> <p>(3) 学科が認める演習・実習 総実習時間合計30時間以上 1単位</p> <p>(4) 学科が認める課外講義 総講義時間合計30時間以上，レポート提出 2単位 ※事前に窓口にお問い合わせのこと。</p> <p>(1) 単位認定は学生による自己申請に基づくことを原則とします。</p> <p>(2) 申請は毎学期末（7月末，1月末）とします。</p> <p>(3) 単位認定希望者は，次の書類を添付してポータルサイトからオンライン申請してください。（申請方法等の詳細については，別途ポータルサイト等でお知らせします。）</p> <p>対象区分(I)の場合…資格取得，検定合格等を証明する書類 （但し，本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること）</p> <p>対象区分(II)，(III)の場合</p> <p>① 活動を証明するもの（但し，本人の名前が明示されているものの原本を提示すること）</p> <p>② 課外活動における本人の位置付け，活動の内容，成果・業績等を記載したレポート（A4判，1000字程度）</p> <p>③ 団体活動の場合は，個人の活動を証明する第三者（クラブ顧問，団体活動の指導者・担当教員等）の証明書類</p> <p>対象区分(IV)，(V)，(VI)，(VII)の場合</p> <p>① 活動を証明する書類（本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること。ただし，IVの場合は写しでも可）</p> <p>② 活動の動機，活動の内容，活動の成果，活動で得たこと等を記載したレポート（A4判，1,000字程度）</p> <p>対象区分(VIII)の場合…修了証</p> <p>(4) 単位認定の審査は教務委員会で行い，教務委員長が単位認定します。 なお，成績は“認定”扱いとし，GPAと平均点には算入しません。</p> <p>(5) 認定方法</p> <p>① 特別課外活動Ⅰ～Ⅳの内，残り2科目以上を修得することができる状態で，2単位相当の活動が単位認定された場合は，2科目同時認定の2単位として認定します。</p> <p>② 特別課外活動Ⅰ～Ⅲを修得し，特別課外活動Ⅳのみ修得することができる状態で，2単位相当の活動が単位認定された場合は，1単位として認定します。</p> <p>(6) 認定基準 認定は次の3つの観点から行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動における自主性，能動性の度合い ・活動内容の充実度 ・活動の成果の大きさ
--------------------------	--

他大学等教養科目群（教養科目）・他大学開講科目群（専門科目）

学都仙台単位互換ネットワーク	<p>本学は「学都仙台単位互換ネットワーク」に参加しています。本学学生は「特別聴講学生」として、ネットワークに参加している他大学の開講科目を履修することができ、各大学に通学して受講します。修得した単位は、所定の単位数まで、本学で履修した単位として認定できます。</p> <p>「学都仙台単位互換ネットワーク」は、仙台圏の国・公・私立の大学・短期大学・高等専門学校及び山形県の東北芸術工科大学の各大学間で、意欲ある学生に対し多様な学修機会を提供する事を目的として発足した制度です。各大学より文化、芸術、政治、経済、自然科学等、多くの学問分野にわたる科目が提供されています。</p> <p>検定料、入学料、授業料（但し、放送大学宮城学習センターを除く）を別途徴収されることはありません。</p> <p>学都仙台単位互換ネットワーク協定に基づく特別聴講学生として他大学の提供科目を受講する場合は、本学で選考の上、受入大学に依頼を行い、受入大学から受入通知が来た時点で履修登録を行うこととなりますので、申し込みは通常の履修登録より早い時期に行われます。</p> <p>受講を希望する学生は、まず所属学科の教務委員やクラス担任と相談の上、本学の授業に差し支えないことを確認し、下記の要領に基づいて窓口で申請手続きを行ってください。</p>
参加大学	<p>1. 学都仙台単位互換ネットワーク参加大学</p> <p>石巻専修大学、尚綱学院大学、仙台白百合女子大学、仙台大学、東北学院大学、東北芸術工科大学、東北工業大学、東北生活文化大学、東北大学、東北福祉大学、東北文化学園大学、東北医科薬科大学、宮城学院女子大学、宮城教育大学、宮城大学、聖和学園短期大学、東北生活文化大学短期大学部、仙台高等専門学校、宮城誠真短期大学、放送大学、仙台青葉学院短期大学、仙台赤門短期大学（なお、年度により、募集を行わない大学もあるので事前に確認してください）</p>
科目と対象	<p>2. 他大学の募集要項、提供科目</p> <p>「学都仙台コンソーシアム」のWebサイトで確認してください。</p> <p>3. 対象者</p> <p>本学に在学する1年生（後期のみ）、2、3年生、4年生（前期のみ）</p> <p>4. 対象科目</p> <p>原則として、自分の学年より上級学年対象の科目の受講は認められません。</p> <p>5. 進級、卒業単位に算入できる単位数</p> <p>「他大学等教養科目群」または「他大学開講科目群」として進級、卒業単位に算入できる単位数の上限は、学科によって異なりますので、各学科の教育課程表を参照してください。</p>
出願期限	<p>6. 出願期限</p> <p>出願期間は前期科目及び通年科目と後期科目で異なるほか、開講する大学によっても異なります。</p> <p>「学都仙台コンソーシアム」のWebサイトに記載の出願期限とは別に学内期限があります。事前に窓口で確認してください。</p> <p>7. 諸注意</p> <p>出願において、本学または受け入れ大学で履修を許可しない場合もあるので、事前にクラス担任、学科の教務委員と相談してください。</p> <p>万一、途中で履修を取りやめるようなことがあると、受入大学に多大な迷惑をかけることとなりますので、無理のない履修計画を立ててください。</p> <p>ほぼ全ての大学で、自家用車での通学を認めていませんので、通学にあたっては</p>

他学部教養科目
の履修

公共の交通機関を利用してください。

本学の他学部において教養科目として開講している科目を履修することができます。修得した単位は、「他大学等教養科目群」として認定されます。進級、卒業単位に算入できる単位数の上限は、各学科の教育課程表を参照してください。特別の届出用紙での履修登録が必要です。

(10ページを参照)。

※同一セメスターに開講される同一名称の科目の取り扱いは、この限りではありません。

窓口：学生サポートオフィス

- ・八木山キャンパス教務学生課（1号館1階）
- ・長町キャンパス事務室（4号館1階）

ライフデザイン学部

産業デザイン学科

専門教育科目

履修ガイダンス

産業デザイン学科

1. 学科の AEGG ポリシーと専門学士力

(1) 産業デザイン学科のAEGGポリシー

■ 産業デザイン学科AEGGポリシー	
POLICY G1	【学位授与方針】 (Graduation Policy / Diploma Policy) ライフデザイン学部 産業デザイン学科は、全学の学位授与方針 (G1ポリシー) に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本学科の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士 (デザイン)」の学位を授与する。
POLICY G2	【学生の指導方針】 (Guidance Policy) 正課外活動を通して社会の一員としての意識を醸成する。 また、キャリア教育を通して職業人としての意識を醸成する。 〈1～2年次〉 <ul style="list-style-type: none">・企業、組織活動の実態に触れ、職業としてのデザインに対する意識とコミュニケーション力を高める。 〈3年次〉 <ul style="list-style-type: none">・客観的な自己評価を行い、幅広いデザインの可能性の中で自分の具体的な進路を絞り込む。 〈4年次〉 <ul style="list-style-type: none">・経営の基本的な知識を学び、社会が求める製品やサービスを考える力を付ける。
POLICY E	【教育課程表の編成・実施の方針】 (Education Policy / Curriculum Policy) 学位授与の方針に対応した以下①～④で構成する。 〈1年次～2年次前期〉 <ul style="list-style-type: none">①理論・思想を学ぶ。<ul style="list-style-type: none">・現代社会におけるデザインの意義・役割・これからのデザインの課題を考える視点・デザインに関連する幅広い分野の知識②手法・技術を学ぶ。<ul style="list-style-type: none">・アイデアを発想するシステムティックな手法・的確に他者へ伝えるアナログ・デジタル技術・より高度なデザイン技術 〈2年次後期～4年次〉 <ul style="list-style-type: none">③応用・統合を学ぶ。<ul style="list-style-type: none">・一連のデザインプロセス・論理的なプレゼンテーション・グループワーク④社会・コミュニケーションを学ぶ。<ul style="list-style-type: none">・実際の企業・組織活動とデザインの役割・組織活動で貢献できるコミュニケーション能力・自分の進路の検討、そこで必要な考え方、スキル
POLICY A	【入学者受入の方針】 (Admission Policy) 将来、デザイナーや各種クリエイターとして活躍したい、あるいはデザインの学びを様々な仕事に活かしたいと考えている積極的な意欲のある学生を求める。

※ 「共通学士力」は本冊子の表紙の裏に記載していますので、そちらを参照してください。

(2) 産業デザイン学科の専門学士力と到達目標 (学修成果)

■ 産業デザイン学科の「専門学士力」および学修成果 (到達目標)	
【専門学士力】	【到達目標】
①デザイン知識・視点	解決しようとする課題に対する知識・視点を、その理解に基づき主体的に活用できる。
②アイデア発想力	アイデア発想手法の理解のもと、それらを主体的に活用し、現実的な提案ができる。
③デザイン表現力	デザイン表現技術を理解し、主体的にそれらを活用し、他者に伝えることができる。
④デザイン企画・計画力	デザインプロセスの理解のもと、主体的に計画・企画し、プレゼンすることができる。
⑤デザイン共創力	自分の提案を評価し他者の考えを理解でき、主体的にグループワークに貢献できる。
⑥デザインの総合力	上記を主体的に活用し、独自かつ実用的な解決策を示すことができる。

(3) 産業デザイン学科の専門学士力のアセスメント方法

専門学士力	コア科目 (★：アセスメント対象科目)	アセスメントの方法 (MR 定着度確認テスト/ ルーブリック評価)	実施時期
①デザイン知識・視点	デザイン論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ		
②アイデア発想力	アイデア基礎および同演習Ⅰ、 同Ⅱ		
③デザイン表現力	表現技術および同演習Ⅰ、 同Ⅱ		
④デザイン企画・計画力	デザイン計画および同実習A、 ★同B、同C、同D	ルーブリック	2年後期
⑤デザイン共創力	デザインセミナーⅠ、Ⅱ デザイン計画および同実習 A、B、C、D		
⑥デザインの総合力	デザイン研修Ⅰ、 ★デザイン研修Ⅱ	ルーブリック	4年後期

※ MR 定着度確認テストの合格が、研修等の授業科目の単位認定条件となる場合があります。

2. 教育課程表における進級・卒業条件

産業デザイン学科

◎4年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	27 単位以上 必修 7 単位を含むこと	
専門教育科目	72 単位以上 必修 52 単位以上を含むこと	デザイン計画および同実習 A, デザイン計画および同実習 B, デザイン計画および同実習 C, デザイン計画および同実習 D, を含む
計	全体として 99 単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	33 単位以上 必修 9 単位を含むこと	
専門教育科目	91 単位以上 必修 62 単位を含むこと	
計	124 単位	

3. 教育課程表

産業デザイン学科 教養教育科目

科目区分	授業科目名	単位 必修 選択	各期の毎週時間数								主要 授業 科目	備考	授業形態				共通学士力				
			1年		2年		3年		4年				講 義	演 習	実 験 実 習	卒 業 研 修	①	②	③	④	⑤
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
地域・文化・社会	1 表象文化論	2		2								○			●	●	●				
	2 メディア文化史	2		2								○			●	●	●				
	3 東北文化史	2			2							○			●	●	●				
	4 現代社会論	2			2							○			●	●	●				
	5 市民と法	2				2						○			●	●	●				
	6 暮らしと心理学	2				2						○			●	●	●				
	7 産業社会と心理学	2					2					○			●	●	●				
	8 産業社会と倫理	2					2					○			●	●	●				
	9 ビジネスマナー	2					2					○			●	●	●	●			
	10 日本国憲法	2					2					○			●	●	●				
	11 科学思想史	2					2					○			●	●	●				
	12 情報社会の経済	2						2				○			●	●	●				
	13 フランスの文化と言葉	2							2			○			●	●	●	●			
	14 韓国の文化と言葉	2							2			○			●	●	●	●			
	15 中国の文化と言葉	2							2			○			●	●	●	●			
	16 異文化理解	2							2			○			●	●	●	●			
	17 現代の哲学	2								2		○			●	●	●	●			
言葉と表現	18 スタディスキル	1	2								○			●	●	●	●	●			
	19 英語 I A	1	2								○			●	●	●	●	●			
	20 英会話 I	1	2								○			●	●	●	●	●			
	21 英語 I B	1		2							○			●	●	●	●	●			
	22 英会話 II	1		2							○			●	●	●	●	●			
	23 英語 II A	1			2						○			●	●	●	●	●			
	24 英会話 III	1			2						○			●	●	●	●	●			
	25 資格英語 I	1			2						○			●	●	●	●	●			
	26 英語 II B	1				2					○			●	●	●	●	●			
健康	30 健康・運動科学実習 I	1	2								○			●	●	●	●	●			
	31 健康・運動科学実習 II	1		2							○			●	●	●	●	●			
	32 スポーツ科学実習	1			2							○		●	●	●	●	●			
キャリア	33 キャリアデザイン I	1		2							○			●	●	●	●	●			
	34 キャリアデザイン II	1			2						○			●	●	●	●	●			
	35 キャリアデザイン III	1				2					○			●	●	●	●	●			
AI・データサイエンス	36 人工知能総論	1		2							○			●	●	●	●	●			
	37 人工知能入門	1			2									●	●	●	●	●			
	38 人工知能基礎	2					2							●	●	●	●	●			
	39 人工知能応用	2						2						●	●	●	●	●			
グリーンテクノロジー	40 グリーンテクノロジー	1			2						○			●	●	●	●	●			
	41 サステナビリティ入門	2				2								●	●	●	●	●			
	42 地球環境と諸問題	2					2							●	●	●	●	●			
基礎理工学	43 ネットワーク・コンピュータ基礎	1		2							○			●	●	●	●	●			
	44 数学的思考法	2		2							○			●	●	●	●	●			
教職関連	45 職業指導(工業)	2					2				○			●	●	●	●	●			
	46 工業概論	2						2				○		●	●	●	●	●			
	47 情報社会とモラル	2							2			○		●	●	●	●	●			
	48 情報と職業	2								2			○	●	●	●	●	●			
特別課外活動	49 教養特別課外活動 I	1												
	50 教養特別課外活動 II	1												
	51 教養特別課外活動 III	1												
	52 教養特別課外活動 IV	1												
学際	53 他大学等教養科目群	4												
小計(53科目)			9	73	16	14	16	12	22	14	2	0									

※1 合わせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※2 他大学等教養科目群については、4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。

教育課程表

産業デザイン学科 専門教育科目

科目区分	授業科目名	単位 必修 選択	各期の毎週時間数								主要授業科目	備考	授業形態				共通学士力					専門学士力					
			1年		2年		3年		4年				講義	演習	実験実習	卒業研修	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																	
LD学部共通専門科目	1 ライフデザイン通論	2	2							○				●	●				●								
	2 コミュニティネットワーク論	2		2						○				●	●	●			●								
	3 プロジェクトデザイン	2			2					○				●	●	●			●	●	●						
	4 PBL I	2				2				○					●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	
	5 PBL II	2					4			○					●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	
LD学部専門教育科目	6 デザインセミナー I	1	2							○				●	●	●	●	●	●					●	●		
	7 デザイン論 I	2	2							○				●	●	●			●								
	8 デザイン史	2	2							○				●	●	●			●								
	9 アイデア基礎および同演習 I	3	4							○	○			●	●	●	●		●								
	10 表現技術および同演習 I	3	4							○	○			●	●	●			●								
	11 デザインセミナー II	1	2							○				●	●	●	●		●					●	●		
	12 デザイン論 II	2	2							○				●	●	●			●								
	13 色彩論	2	2							○				●	●	●			●								
	14 アイデア基礎および同演習 II	3	4							○	○			●	●	●	●		●								
	15 表現技術および同演習 II	3	4							○	○			●	●	●			●								
	16 デザインセミナー III	1	2							○				●	●	●	●		●					●	●		
	17 デザイン論 III	2	2							○				●	●	●			●								
	18 エディトリアルデザイン論	2	2							○				●	●	●			●								
	19 デザイン計画および同実習 A	5		8						○	○			●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	
	20 デザインセミナー IV	1		2						○				●	●	●	●		●					●	●		
	21 情報デザイン論	2		2						○				●	●	●			●								
	22 プロダクトデザイン論	2		2						○				●	●	●			●								
	23 デザイン計画および同実習 B	5		8						○	○			●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	
	24 キャリアセミナー I	1		2						○				●	●	●	●		●					●	●		
	25 デザイン計画および同実習 C	5		8						○	○			●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	
	26 キャリアセミナー II	1			2					○				●	●	●	●		●					●	●		
	27 デザイン計画および同実習 D	5		8						○	○			●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	
	28 デザイン研修 I	3					6			○		○		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	
	29 デザイン研修 II	3					6			○		○		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	
	30 インフォグラフィックス	2		2						○				●	●	●			●								
	31 材料学・生産技術	2		2						○				●	●	●			●								
	32 ウェブデザイン論	2		2						○				●	●	●			●								
	33 タイポグラフィ論	2		2						○				●	●	●			●								
	34 モデリングおよび同演習	3		4						○	○			●	●	●			●								
	35 インタラクションデザイン論	2		2						○				●	●	●			●								
	36 エルゴノミクス	2		2						○				●	●	●			●								
	37 ユニバーサルデザイン	2		2						○				●	●	●			●								
38 デザインマーケティング論	2		2						○				●	●	●			●									
39 デッサンおよび同演習	3		4						○	○			●	●	●			●									
40 広告論	2		2						○				●	●	●			●									
41 美術史	2		2						○				●	●	●			●									
42 認知科学	2		2						○				●	●	●			●									
43 イラストレーション論	2		2						○				●	●	●			●									
44 ユーザーリサーチ論	2			2					○				●	●	●			●									
45 サウンドデザイン論	2			2					○				●	●	●			●									
46 空間デザイン論	2			2					○				●	●	●			●									
47 知的財産法	2				2				○				●	●	●			●									
48 デザイン起業論	2				2				○				●	●	●			●									
49 工芸学	2			2					○				●	●	●			●									
50 映像デザイン論	2			2					○				●	●	●			●									
51 メディア論	2					2			○				●	●	●			●									
52 サステナブルデザイン論	2					2			○				●	●	●			●									
53 他学科プログラム科目群	8	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…		
54 他学科自由選択科目群	4	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…		
55 他学部開講科目群	4	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…		
56 他大学開講科目群	4	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…		
57 専門特別課外活動 I	1	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…		
58 専門特別課外活動 II	1	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…		
59 専門特別課外活動 III	1	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…		
60 専門特別課外活動 IV	1	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…		
小計 (60 科目)		62:80	16:14	28:28	20:20	14:10																					

※1 合わせて8単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※2 合わせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※3 合わせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。

4. 産業デザイン学科 専門教育科目の履修の流れ

専門学士力および到達目標

デザイン知識・視点
 解決しようとする課題に対する知識・視点を、その理解に基づき主体的に活用できる。

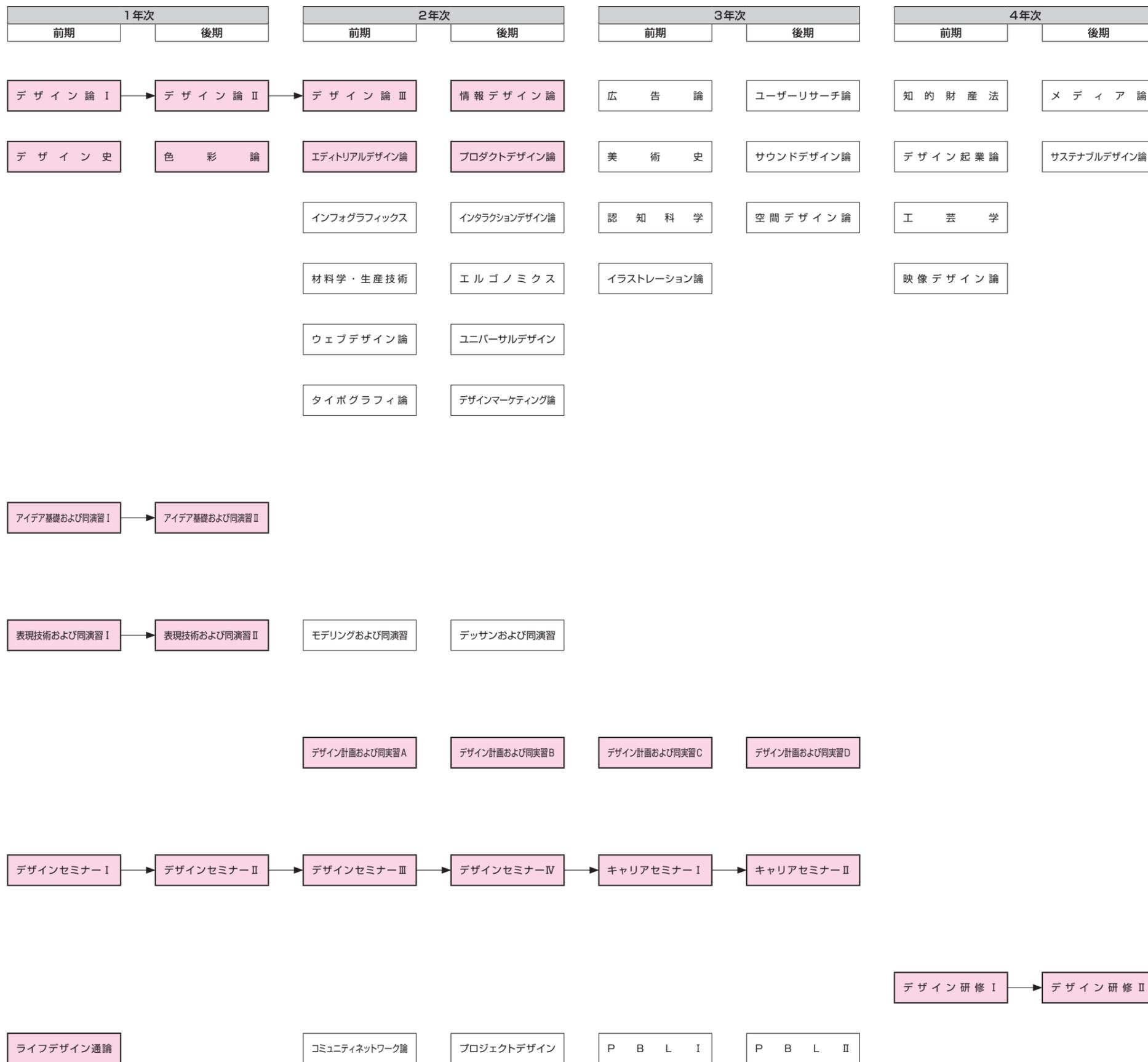
アイデア発想力
 アイデア発想手法の理解のもと、それらを主体的に活用し、現実的な提案ができる。

デザイン表現力
 デザイン表現技術を理解し、主体的にそれらを活用し、他者に伝えることができる。

デザイン企画・計画力
 デザインプロセスの理解のもと、主体的に計画・企画し、プレゼンすることができる。

デザイン共創力
 自分の提案を評価し他者の考えを理解でき、主体的にグループワークに貢献できる。

デザインの総合力
 上記を主体的に活用し、独自かつ実用的な解決策を示すことができる。



必修科目 選択科目

5. 履修ガイダンス

産業デザイン学科

デザインとは、私たちの社会を快適にするためのアイデアを生み出し、それを暮らしの中で役立つ具体的なかたちにするための知恵です。この知恵は、工業製品や出版物などの「モノ」を作る業界はもちろん、情報やサービスなどの「コト」を提供するさまざまな活動分野でも、今後ますます重要になっていきます。

産業デザイン学科では、そのような幅広い分野でデザインを生かしたリーダーシップをとれる、本当の意味での「デザインの専門家」を育成します。

1. カリキュラムの特徴

学科のカリキュラムは、「デザイン知識・視点」、「アイデア発想力」、「デザイン表現力」、「デザイン企画・計画力」、「デザイン共創力」、「デザインの総合力」の6つの柱で構成されています。

「デザイン知識・視点」の科目では、デザインを行う上で基礎となる考え方とともに、関連するさまざまな分野の知識を身につけます。

「アイデア発想力」、「デザイン表現力」の科目では、アイデアを発想する手法と、それを表現し伝えるために必要な技術を、演習課題を通して体得します。

「デザイン企画・計画力」の科目である「デザイン計画および同実習」では、デザインの幅広い分野を体験し、実際に世の中の問題に対する具体的なデザイン提案を行います。この科目では、プロダクトデザイン、工芸、イラストレーション、グラフィックデザイン、映像、ウェブデザイン、アプリケーションデザイン、サウンドデザイン、服飾デザインといった様々な分野を対象とする課題の中から、自分の興味や目的に合ったものを選んで学ぶことができます。

「デザイン共創力」、「デザインの総合力」の科目では、自分の進路を考えると同時に、社会の一員となるための基礎的な考え方やスキルを身につけます。

2. 卒業研修について

「デザイン研修Ⅰ」「デザイン研修Ⅱ」は4年間の学びの総仕上げです。指導教員の研究室に所属し、個人または共同で特定のテーマに基づいた「作品」または「論文」をまとめます。この活動の中で、「目標設定→方法の検討→実行→結果の考察」という流れを主体的かつ論理的に行う方法を身につけます。また、研究成果を学内外で行う発表会、展示会で発表することで、研究・制作と社会とのつながりやその意義に対する理解を深めます。

なお、デザイン研修ⅠおよびⅡを履修するには、2年次から3年次に開講される必修科目、「デザイン計画および同実習A」「デザイン計画および同実習B」「デザイン計画および同実習C」「デザイン計画および同実習D」を修得する必要があります。(P.111の進級条件を参照)

3. 履修のためのガイド

本学科では3年次から4年次に進級するための「進級条件」を設けています。制度上は3年次までは無条件で進級できることとなりますが、時間割が重複するため同時に受講できない科目があるので、少なくとも専門の必修科目については開講学年で確実に修得するようにしないと、3年次から4年次へ留年せずに進級することは事実上困難になります。また、3年次進級時点で次年度の4年次への進級不可が確定している(=CAP上限まで単位を修得しても進級条件の単位数に満たない)者は、「キャリアセミナーⅠ、Ⅱ」の受講と進路支援行事への参加は認められないので注意してください。

学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数／開講単位数」を示します）

	教養教育科目		専門教育科目		各学年の 合計	1年次からの 累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	7	4 / 10	24	0 / 0	35 / 41	35 / 41
2年次	1	10 / 15	20	14 / 26	45 / 62	80 / 103
3年次	1	8 / 25	12	12 / 18	33 / 56	113 / 159
4年次	0	4 / 2	6	8 / 12	18 / 20	131 / 179
卒業までの 総合計	9	26 / 52	62	34 / 56	131 / 179	
	35 / 61		96 / 118			

ライフデザイン学部

生活デザイン学科

専門教育科目

履修ガイダンス

生活デザイン学科

1. 学科の AEGG ポリシーと専門学士力

(1) 生活デザイン学科のAEGGポリシー

■ 生活デザイン学科AEGGポリシー	
POLICY G₁	【学位授与方針】 (Graduation Policy / Diploma Policy) ライフデザイン学部 生活デザイン学科は、全学の学位授与方針 (G1ポリシー) に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本学科の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士 (ライフデザイン)」の学位を授与する。
POLICY G₂	【学生の指導方針】 (Guidance Policy) ・ 変容する社会・環境のなかで自己確立や社会貢献の目標が描けるよう、学内外での人的交流や倫理教育の機会の提供、キャリア形成支援を行う。 ・ 研究や制作など、探究意欲を啓発するよう、大学院生をふくむ異学年がかかわる成果発表・講評の機会を設ける。 ・ 人々の多様性を尊重し、共創的な学びを通して互いの個性を評価できるよう、少人数共創型教育を重視する。
POLICY E	【教育課程表の編成・実施の方針】 (Education Policy / Curriculum Policy) ・ 「ひとを結び、まちを創る」を共通テーマとし、工学・建築学や保健衛生学をもとに福祉学・文化芸術学・環境学などを含めた教育・研究を行う。 ・ 生活福祉／生活文化／生活環境の講義科目群を適切に配し、主要な探究領域の見定めと横断的な学びに資するようにする。 ・ 少人数共創型を重視するまちづくり系実習・研修科目を配し、段階的に探究・統合テーマに取り組ませるとともに、論文・制作などの多様な表現伝達方法を尊重した到達点を設ける。
POLICY A	【入学者受入の方針】 (Admission Policy) 本学科の教育理念を理解したうえで、以下の事柄の二つ以上に向学心や意欲を有する学生を受け入れる方針とする。 1. 福祉・文化・環境などの領域における持続可能なまちづくりにかかわる学びへの向学心があること。 2. 生活・地域にかかわる実務的な知識・技術・デザイン力を身につけたいという具体的な目標を有していること。 3. 身の回りの住まいや暮らしに関心をもち、公共の福祉に貢献できるよう自己研さんを重ねるつよい意志や継続力があること。

※ 「共通学士力」は本冊子の表紙の裏に記載していますので、そちらを参照してください。

(2) 生活デザイン学科の専門学士力と到達目標 (学修成果)

■ 生活デザイン学科の「専門学士力」および学修成果 (到達目標)	
【専門学士力】	【到達目標】
①生活・地域の理解力	生活・地域にかんする基礎知識を正しく理解し、諸概念の連関性を説明できる。
②課題発見・分析力	福祉／文化／環境などの領域におけるまちづくりの問題や可能性を発見し、科学的に分析できる。
③企画・デザイン力	生活・地域にかんする問題解決や価値向上のための具体的方法を自ら企画・デザインすることができる。
④まちづくり連携力	まちづくりの現場やコミュニティに立脚して状況をとらえ、知識を応用し資源活用・共創につなげることができる。
⑤表現伝達力	生活・地域にかんする探究の内容を多様な人々に伝わるよう、論理的・魅力的に表現・伝達することができる。
⑥探究・デザイン総合力	ひとを結び、まちを創る—福祉／文化／環境などの領域的・横断的課題について、主体的・計画的・実践的に探究し、知識・技術を統合して、研究・制作にまとめあげることができる。

(3) 生活デザイン学科の専門学士力のアセスメント方法

専門学士力	コア科目 (★：アセスメント対象科目)	アセスメントの方法 (MR 定着度確認テスト／ ルーブリック評価)	実施時期
①生活・地域の理解力	★生活地理学、★地域環境科学、心の理解とケア、健康と生活支援、生活工芸論、生活デザイン演習Ⅰ、★卒業研修Ⅲ	MR 定着度確認テスト ルーブリック評価	3年前期 4年後期
②課題発見・分析力	★住まいの計画、★地域防災論、★住環境の基礎科学、ユニバーサルデザイン、生活デザイン演習Ⅱ、★卒業研修Ⅲ	MR 定着度確認テスト ルーブリック評価	3年前期 4年後期
③企画・デザイン力	ランドスケープデザイン、造形・図法演習、★まちづくり実習Ⅰ、卒業研修Ⅰ、卒業研修Ⅱ、★卒業研修Ⅲ	ルーブリック評価	2年後期 4年後期
④まちづくり連携力	まちづくり実習Ⅰ、★まちづくり実習Ⅱ、卒業研修Ⅰ、卒業研修Ⅱ、★卒業研修Ⅲ	ルーブリック評価	3年前期 4年後期
⑤表現伝達力	生活デザイン演習Ⅱ、まちづくり実習Ⅱ、★卒業研修Ⅰ、卒業研修Ⅱ、★卒業研修Ⅲ	ルーブリック評価	3年後期 4年前期
⑥探究・デザイン総合力	卒業研修Ⅰ、卒業研修Ⅱ、★卒業研修Ⅲ	ルーブリック評価	4年後期

※ MR 定着度確認テストの合格が、研修等の授業科目の単位認定条件となる場合があります。

2. 教育課程表における進級・卒業条件 生活デザイン学科

◎4年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	28 単位以上 必修9 単位を含むこと	
専門教育科目	72 単位以上 必修 43 単位（卒業研修 I 含む）を含むこと	
計	全体として 100 単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	34 単位 必修9 単位を含むこと	
専門教育科目	90 単位 必修 51 単位を含むこと	
計	124 単位	

3. 教育課程表

生活デザイン学科 教養教育科目

科目区分	授業科目名	単位 必修 選択	各期の毎週時間数								主要 授業 科目	備考	授業形態				共通学士力				
			1年		2年		3年		4年				講 義	演 習	実 験 実 習	卒 業 研 修	①	②	③	④	⑤
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
地域・文化・社会	1 表象文化論	2		2								○			●	●	●				
	2 メディア文化史	2		2								○			●	●	●				
	3 東北文化史	2			2							○			●	●	●				
	4 現代社会論	2			2							○			●	●	●				
	5 市民と法	2				2						○			●	●	●				
	6 暮らしと心理学	2				2						○			●	●	●				
	7 産業社会と心理学	2					2					○			●	●	●				
	8 産業社会と倫理	2					2					○			●	●	●				
	9 ビジネスマナー	2					2					○			●	●	●	●			
	10 日本国憲法	2					2					○			●	●	●				
	11 科学思想史	2					2					○			●	●	●				
	12 情報社会の経済	2						2				○			●	●	●				
	13 フランスの文化と言葉	2							2			○			●	●	●	●			
	14 韓国の文化と言葉	2							2			○			●	●	●	●			
	15 中国の文化と言葉	2							2			○			●	●	●	●			
	16 異文化理解	2							2			○			●	●	●	●			
	17 現代の哲学	2								2		○			●	●	●	●			
言葉と表現	18 スタディスキル	1	2								○			●	●	●	●	●			
	19 英語 I A	1	2								○			●	●	●	●	●			
	20 英会話 I	1	2								○			●	●	●	●	●			
	21 英語 I B	1		2							○			●	●	●	●	●			
	22 英会話 II	1		2							○			●	●	●	●	●			
	23 英語 II A	1			2						○			●	●	●	●	●			
	24 英会話 III	1			2						○			●	●	●	●	●			
	25 資格英語 I	1			2						○			●	●	●	●	●			
	26 英語 II B	1				2					○			●	●	●	●	●			
健康	30 健康・運動科学実習 I	1	2								○			●	●	●	●	●			
	31 健康・運動科学実習 II	1		2							○			●	●	●	●	●			
	32 スポーツ科学実習	1			2							○		●	●	●	●	●			
キャリア	33 キャリアデザイン I	1		2							○			●	●	●	●	●			
	34 キャリアデザイン II	1			2						○			●	●	●	●	●			
	35 キャリアデザイン III	1				2					○			●	●	●	●	●			
AI・データサイエンス	36 人工知能総論	1		2							○										
	37 人工知能入門	1			2																
	38 人工知能基礎	2					2														
	39 人工知能応用	2						2													
グリーンテクノロジー	40 グリーンテクノロジー	1			2						○										
	41 サステナビリティ入門	2				2															
	42 地球環境と諸問題	2					2														
IT基礎	43 ネットワーク・コンピュータ基礎	1		2							○			●	●	●	●	●			
	44 数学的思考法	2		2							○			●	●	●	●	●			
教職関連	45 職業指導(工業)	2					2				○			●	●	●	●	●			
	46 工業概論	2					2					○		●	●	●	●	●			
	47 情報社会とモラル	2					2				○			●	●	●	●	●			
	48 情報と職業	2						2				○		●	●	●	●	●			
特別課外活動	49 教養特別課外活動 I	1												
	50 教養特別課外活動 II	1												
	51 教養特別課外活動 III	1												
	52 教養特別課外活動 IV	1												
学際	53 他大学等教養科目群	4												
小計(53科目)			9	73	16	14	16	12	22	14	2	0									

※1 合わせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※2 他大学等教養科目群については、4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。

4. 生活デザイン学科 専門教育科目の履修の流れ

必修科目 選択科目

専門学士力および到達目標

生活・地域の理解力
生活・地域にかんする基礎知識を正しく理解し、諸概念の連関性を説明できる。

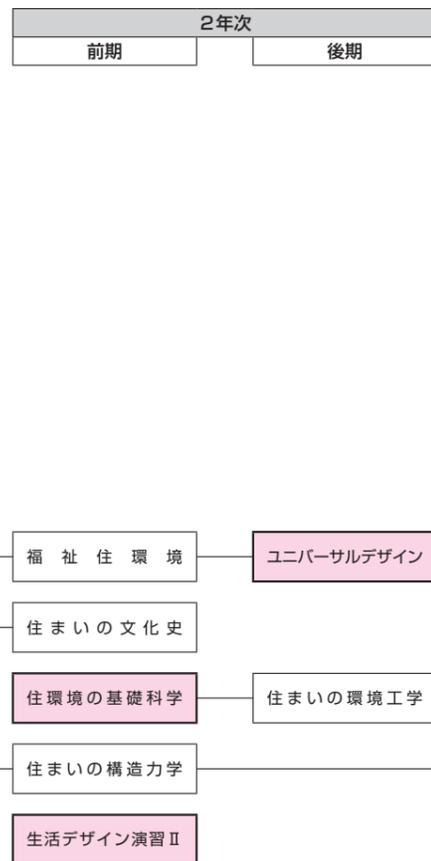
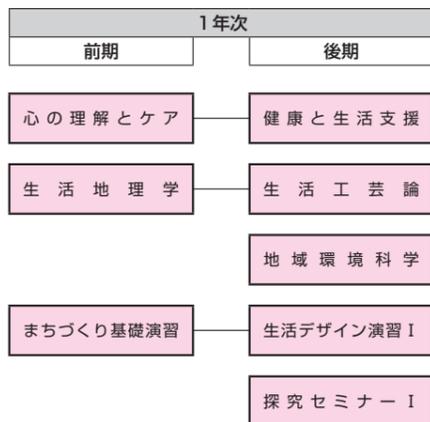
課題発見・分析力
福祉／文化／環境などの領域におけるまちづくりの問題や可能性を発見し、科学的に分析できる。

企画・デザイン力
生活・地域にかんする問題解決や価値向上のための具体的方法を自ら企画・デザインすることができる。

まちづくり連携力
まちづくりの現場やコミュニティに立脚して状況をとらえ、知識を応用し資源活用・共創につなげることができる。

表現伝達力
生活・地域にかんする探究の内容を多様な人々に伝わるよう、論理的・魅力的に表現・伝達することができる。

探究・デザイン総合力
ひとを結び、まちを創る－福祉／文化／環境などの領域的・横断的課題について、主体的・計画的・実践的に探究し、知識・技術を統合して、研究・制作にまともあげることができる。



生活デザイン学科 専門教育科目の履修の流れ (科目群)

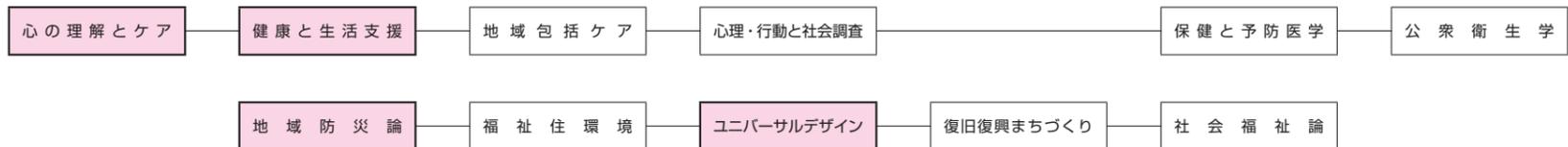
必修科目 選択科目

科目群および専門学士力とのかかわり

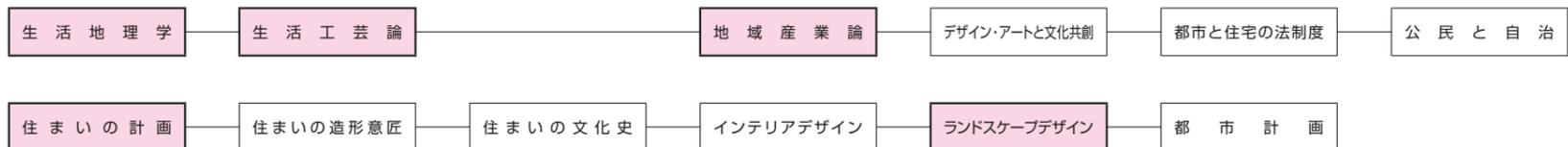
学部共通専門科目



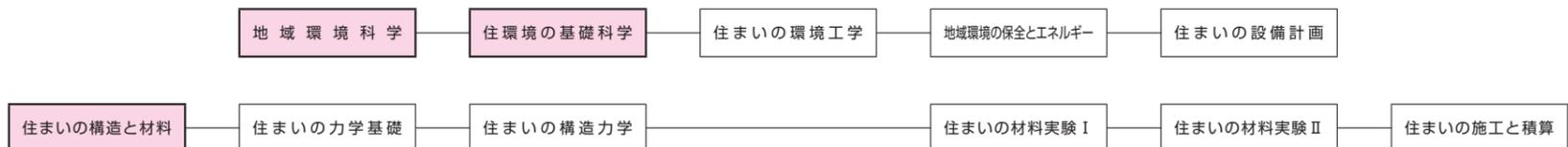
生活福祉・保健衛生科目群
ひととひとの支えあいや心身の安全・安心など生活福祉や保健衛生にかかわる学修科目群。主に、専門学士力①生活・地域の理解力、②課題発見・分析力とのかかわりが深い。



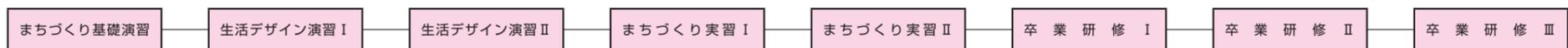
生活文化・居住計画科目群
コミュニティから住宅まで、地域にねざした生活文化や都市形成にかかわる学修科目群。主に、専門学士力①生活・地域の理解力、②課題発見・分析力とのかかわりが深い。



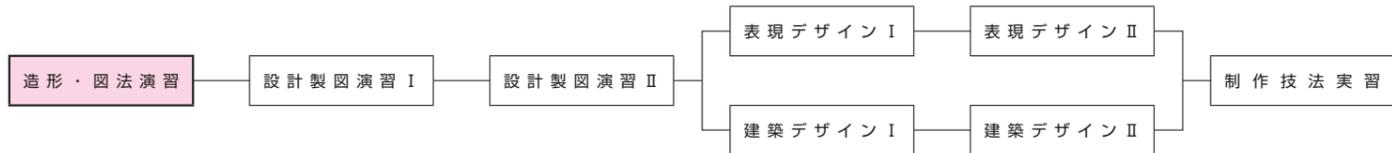
生活環境・計画科学科目群
地域環境から住環境・エネルギーまで、持続可能な生活環境にかかわる学修科目群。主に、専門学士力①生活・地域の理解力、②課題発見・分析力とのかかわりが深い。



まちづくり・実習・研修科目群
デザイン思考・空間図法・記録技法からフィールド調査までを実践的に学ぶ実習演習系の学修科目群。主に、専門学士力③企画・デザイン力、④まちづくり連携力とのかかわりが深い。



設計・造形科目群
専門学士力⑤表現伝達力を培い、専門学士力⑥探究・デザイン総合力の具体的成果をまとめあげる力を養うための実習演習系の学修科目群



キャリア形成科目群
自己確立や社会貢献の目標が描けるよう、人的交流や倫理教育の機会の提供、キャリア形成支援を行う学修科目群



5. 履修ガイダンス

生活デザイン学科

新しい技術とグローバル化が飛躍的にすすむ一方で、気候変動や度重なる災害がおこり、地方では人口減少が深刻化するなど、人々の生活をとりまく環境・社会の自律性が損なわれています。東北地方の豊かな地域資源・人材を活かし、持続可能な地域社会を共創・構築していくことが求められています。

そこで、生活デザイン学科では「ひとを結び、まちを創る」を共通テーマに掲げます。工学・建築学や保健衛生学をもとに、福祉学・文化芸術学・環境学などを含めた横断的な領域を再構成し、「生活福祉学」「生活文化学」「生活環境学」の3つの科目群を配置します。学生は個々の志向にあわせ、これらを統合的に学びます。このとき、以下の6つの「専門学士力」を設定し、多様な学びの到達度を評価します。

以上により、地域の課題解決に寄与する優れたデザイナー・技術者・コーディネーターをめざします。

1 生活・地域の理解力	2 課題発見・分析力	3 企画・デザイン力	4 まちづくり連携力	5 表現伝達力	6 探究・デザイン総合力
-------------	------------	------------	------------	---------	--------------

1. カリキュラムの特徴

本学では、1年間を前期・後期の2セメスターに分けています。当学科では、4年間・8セメスターの学びの課程を下表の3つのステップに分け、それぞれ広く／実践的に／深く学ぶことを目標とします。

科目群は、講義科目／実習・演習科目／研修科目に大別されますが、とくに少人数共創型の実習・演習科目、研修科目を充実させることで、学生自ら、段階的に探究をすすめることをねらいとしています。

ステップⅠ (計3セメスター) 1年次～2年前期	ステップⅡ (計2セメスター) 2年後期～3年前期	ステップⅢ (計3セメスター) 3年後期～4年次
領域全体をひろく学ぶ	専門内容を実践的に学ぶ	専門内容を深く探究する
(講義科目) 共通領域／生活福祉／生活文化／生活環境にかかる専門基礎的内容をひろく学びます。 (演習科目) まちづくりや生活デザインにかかる協働・調査・造形・制作の基礎的技術を学びます。	(講義科目) 生活福祉／生活文化／生活環境の専門的内容とそれらの応用・統合技術を学びます。 (演習科目) まちづくりのための実践的方法、住まいの設計やデザイン表現の技術を修得します。	(講義科目) まちづくり系の統合的内容や専門領域ごとの技術的内容を主体的・選択的に学びます。 (演習科目) 卒業研修を通して学びを統合し、そのための基礎調査・技術修得を重ねます。

2. 卒業研修について

卒業研修は、大学教育における学びの総決算であり、3年次後期より3セメスターにわたって徐々に深めながら進めていきます。

- ・「卒業研修Ⅰ」（3年後期）：配属された分野（研究室）の指導に沿ってテーマを選び、研究や制作の手法を身につけます。その成果は所定の時期にまとめ、「卒業研修Ⅰ報告会」にて報告します。
- ・「卒業研修Ⅱ」（4年前期）：選択した課題について探究を深めていき、調査や分析、創作や表現を進展させます。「テーマ審査」にて研究・制作の背景、目的、方法、位置づけ等を説明し、テーマや計画の妥当性が審査されます。
- ・「卒業研修Ⅲ」（4年後期）：これまでの研修内容を深めると同時に、学内外の他者へ成果を伝えることに主眼をおきます。このため、その到達度を「一次審査」と「二次審査」にて審査し、合格者は最終審

査にあたる「本審査」にて成果を報告します。さらに一定の評価を得たものは、学外発表会において報告・出展します。

なお、卒業研修Ⅰから卒業研修Ⅱに進む過程において、特段の理由がある場合には配属分野（研究室）を変更することができますが、テーマの探究や研究・制作の手法の修得において別途補講が必要となります。

3. 履修のためのガイド

学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数／開講単位数」を示します）

	教養教育科目		専門教育科目		各学年の 合計	1年次からの 累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	7	7/11	25	3/5	42	42
2年次	1	8/19	13	18/22	40	82
3年次	1	10/33	7	18/28	36	118
4年次	－	2/2	6	4/6	12	130
卒業までの 総合計	9	27/65	51	43/61	130	
	36/74		94/112			

なお、二級建築士その他の受験をめざす学生は、指定された科目をバランスよく履修する必要があります。詳しくは、後述の「卒業後の取得資格」（141・142ページ）に記してあります。必ず確認してください。

不明な点があれば、学科教務委員に問い合わせてください。

ライフデザイン学部

経営デザイン学科

専門教育科目

履修ガイダンス

経営デザイン学科

1. 学科の AEGG ポリシーと専門学士力

(1) 経営デザイン学科のAEGGポリシー

■ 経営デザイン学科AEGGポリシー	
POLICY G₁	【学位授与方針】 (Graduation Policy / Diploma Policy) ライフデザイン学部 経営デザイン学科は、全学の学位授与方針 (G1ポリシー) に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本学科の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士 (経営学)」の学位を授与する。
POLICY G₂	【学生の指導方針】 (Guidance Policy) <ul style="list-style-type: none">・ 学生自身が人間・組織・社会にいかに関わっていくべきかを考えることができるように、正課外活動などを通して社会との接点や経営実践の現場を知る機会が増える働きかけを行う。・ 学生が望む進路・キャリアを実現することができるように、インターンシップを奨励しキャリア教育を実践することで、職業人としての意識を醸成する。・ 自己の利益にとらわれず、地域社会の持続的な発展のために利他的に行動できる職業人を育成する。
POLICY E	【教育課程表の編成・実施の方針】 (Education Policy / Curriculum Policy) <ul style="list-style-type: none">・ 経済学、経営学、会計学を中心とした幅広い学問領域を学ぶことにより、地域の課題を解決する能力を身につけた職業人を育成する。・ データ処理やデジタル技術を活用して経営組織体を体系的に改善する、DX (デジタルトランスフォーメーション) を推進しAI (人工知能) を利活用する職業人を育成する。・ 学修成果の集大成として卒業研修を行う。・ 「副専攻制」を活用して、ライフデザイン学部3学科の横断的な教育機会を提供し、学生の複合的な学びを支援する。
POLICY A	【入学者受入の方針】 (Admission Policy) <ul style="list-style-type: none">・ 経済学、経営学、会計学およびそれらをつなぐ技術としての情報通信技術 (ICT) を、横断的に学ぶ意欲を持っていること。・ 経営組織マネジメントの分野に関して、自ら学び、自ら考え、日常生活で生じる社会現象に興味・関心を持っていること。・ 地域社会の持続的な発展のために、コミュニケーション能力を発揮して、地域社会の課題解決に取り組めること。

※ 「共通学士力」は本冊子の表紙の裏に記載していますので、そちらを参照してください。

(2) 経営デザイン学科の専門学士力と到達目標 (学修成果)

■ 経営デザイン学科の「専門学士力」および学修成果 (到達目標)	
【専門学士力】	【到達目標】
①経済学的理解・分析力	理論・実証・歴史の側面から経済学を学び、社会現象を論理的に把握し、分析することができる。
②経営学的理解・分析力	経営・組織マネジメント・マーケティングなどの専門的な知識を身につけ、組織を構成しマネジメントすることができる。
③会計学的理解・分析力	会計学についての知識と技術を身につけ、会計情報の作成プロセスを理解して、適切な意思決定ができる。
④ICTを用いた調査分析能力	情報を収集し、処理する能力を身につけ、経営目標達成のための分析と判断ができる。
⑤経営デザイン・総合力	経営デザイン学科としての研究活動の成果物として卒業論文あるいは卒業作品を完成できる。

(3) 経営デザイン学科の専門学士力のアセスメント方法

専門学士力	コア科目 (：アセスメント対象科目)	アセスメントの方法 (MR 定着度確認テスト/ ルーブリック評価)	実施時期
①経済学的理解・分析力	経済学入門	MR 定着度確認テスト	3年前期
②経営学的理解・分析力	経営学入門	MR 定着度確認テスト	3年前期
③会計学的理解・分析力	会計学入門	MR 定着度確認テスト	3年前期
④ICTを用いた調査分析能力	ICT ビジネススキルⅢ	MR 定着度確認テスト	3年前期
⑤経営デザイン・総合力	卒業研修Ⅱ	ルーブリック	4年後期

※ MR 定着度確認テストの合格が、研修等の授業科目の単位認定条件となる場合があります。

2. 教育課程表における進級・卒業条件 経営デザイン学科

◎4年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	22 単位以上 必修 9 単位以上を含むこと	
専門教育科目	76 単位以上 必修 17 単位以上を含むこと	
計	全体として 98 単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	26 単位以上 必修 11 単位を含むこと	
専門教育科目	98 単位以上 必修 29 単位を含むこと	
計	124 単位	

3. 教育課程表

経営デザイン学科 教養教育科目

科目区分	授業科目名	単位 必修 選択	各期の毎週時間数								主要 授業 科目	備考	授業形態				共通学士力				
			1年		2年		3年		4年				講 義	演 習	実 験 実 習	卒 業 研 修	①	②	③	④	⑤
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
地域・文化・社会	1 表象文化論	2		2								○			●	●	●				
	2 メディア文化史	2		2								○			●	●	●				
	3 東北文化史	2			2							○			●	●	●				
	4 現代社会論	2			2							○			●	●	●				
	5 市民と法	2				2						○			●	●	●				
	6 暮らしと心理学	2				2						○			●	●	●				
	7 産業社会と心理学	2					2					○			●	●	●				
	8 産業社会と倫理	2					2					○			●	●	●				
	9 ビジネスマナー	2					2					○			●	●	●	●			
	10 日本国憲法	2					2					○			●	●	●				
	11 科学思想史	2					2					○			●	●	●				
	12 情報社会の経済	2						2				○			●	●	●				
	13 フランスの文化と言葉	2							2			○			●	●	●	●			
	14 韓国の文化と言葉	2							2			○			●	●	●	●			
	15 中国の文化と言葉	2							2			○			●	●	●	●			
	16 異文化理解	2							2			○			●	●	●	●			
	17 現代の哲学	2								2		○			●	●	●	●			
言葉と表現	18 スタディスキル	1	2								○			●	●	●	●	●			
	19 英語 I A	1	2								○			●	●	●	●	●			
	20 英会話 I	1	2								○			●	●	●	●	●			
	21 英語 I B	1	2								○			●	●	●	●	●			
	22 英会話 II	1	2								○			●	●	●	●	●			
	23 英語 II A	1	2								○			●	●	●	●	●			
	24 英会話 III	1	2								○			●	●	●	●	●			
	25 資格英語 I	1	2								○			●	●	●	●	●			
	26 英語 II B	1	2								○			●	●	●	●	●			
健康	30 健康・運動科学実習 I	1	2								○			●	●	●	●	●			
	31 健康・運動科学実習 II	1	2								○			●	●	●	●	●			
	32 スポーツ科学実習	1	2									○		●	●	●	●	●			
キャリア	33 キャリアデザイン I	1	2								○			●	●	●	●	●			
	34 キャリアデザイン II	1	2								○			●	●	●	●	●			
	35 キャリアデザイン III	1	2								○			●	●	●	●	●			
AI・データサイエンス	36 人工知能総論	1	2								○										
	37 人工知能入門	1	2																		
	38 人工知能基礎	2				2															
	39 人工知能応用	2					2														
グリーンテクノロジー	40 グリーンテクノロジー	1	2								○										
	41 サステナビリティ入門	2			2																
	42 地球環境と諸問題	2			2																
IT基礎	43 ネットワーク・コンピュータ基礎	1	2								○			●	●	●	●	●			
	44 数学的思考法	2	2								○			●	●	●	●	●			
教職関連	45 職業指導(商業)	2				2					○			●	●	●	●	●			
	46 工業概論	2				2					○			●	●	●	●	●			
	47 情報社会とモラル	2				2					○			●	●	●	●	●			
	48 情報と職業	2					2				○			●	●	●	●	●			
特別課外活動	49 教養特別課外活動 I	1												
	50 教養特別課外活動 II	1												
	51 教養特別課外活動 III	1												
	52 教養特別課外活動 IV	1												
学際	53 他大学等教養科目群	4												
小計(53科目)			11	71	16	14	16	12	22	14	2	0									

※1 合わせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※2 他大学等教養科目群については、4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。

4. 経営デザイン学科 専門教育科目の履修の流れ

必修科目 選択科目

専門学士力および到達目標

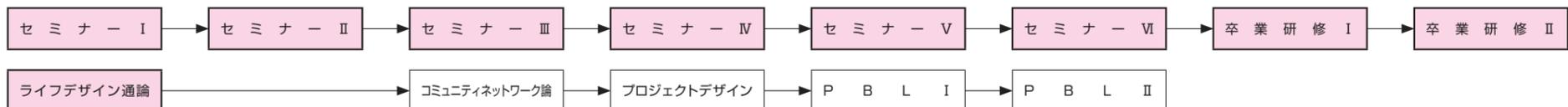
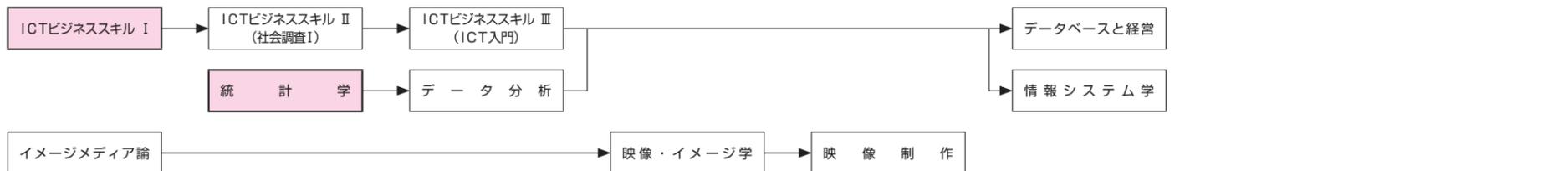
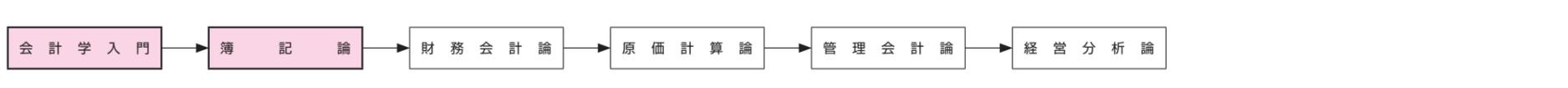
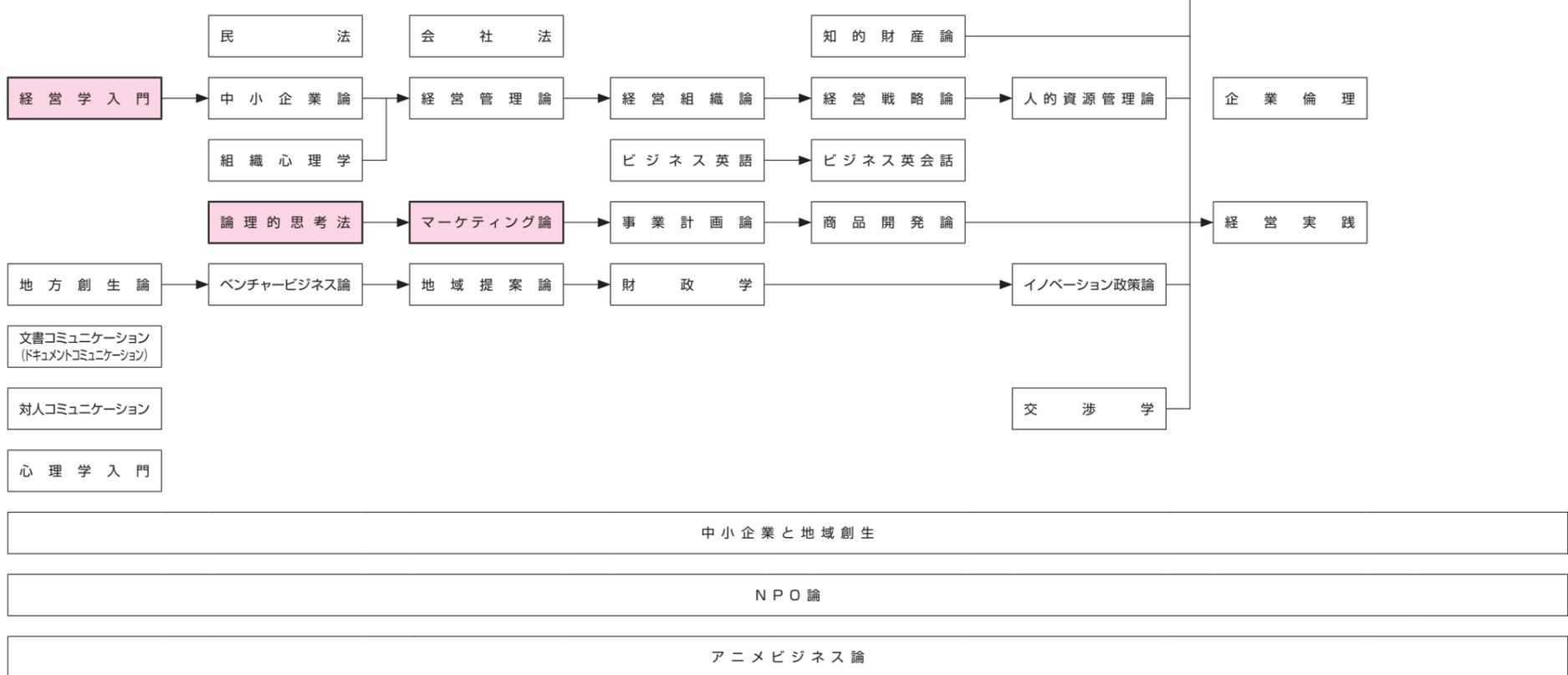
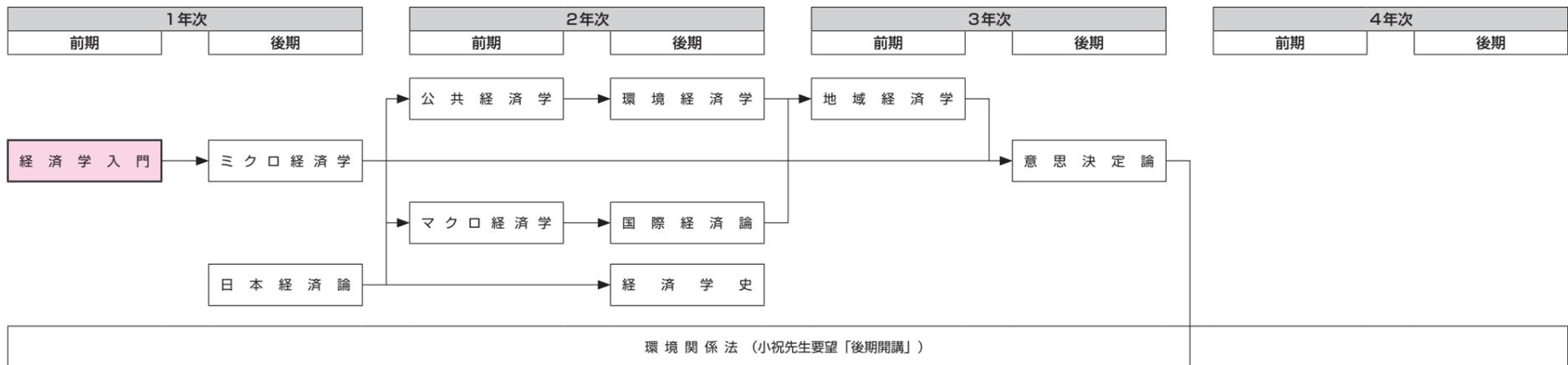
経済学的理解・分析力
理論・実証・歴史の側面から経済学を学び、社会現象を論理的に把握し、分析することができる。

経営学的理解・分析力
経営・組織マネジメント・マーケティングなどの専門的な知識を身につけ、組織を構成しマネジメントすることができる。

会計学的理解・分析力
会計学についての知識と技術を身につけ、会計情報の作成プロセスを理解して、適切な意思決定ができる。

ICTを用いた調査分析能力
情報を収集し、処理する能力を身につけ、経営目標達成のための分析と判断ができる。

経営デザイン・総合力
経営デザイン学科としての研究活動の成果物として卒業論文あるいは卒業作品を完成できる。



5. 履修ガイダンス

経営デザイン学科

・前文

本学科で、経済学、経営学、会計学を中心とした幅広い学問領域を学ぶことにより、地域の課題を解決する能力が身につきます。

経営デザイン学科では、経営に必要な知識（経済学・会計学などの周辺領域を含む）を学びながら、データ処理やデジタル技術を活用して経営組織体を体系的に改善する能力、DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進しAI（人工知能）を利活用する能力を養い、地域社会に貢献できる人材を育成することを目指しています。

1. カリキュラムの特徴

経済学、経営学、会計学およびそれらをつなぐ技術としての情報通信技術（ICT）を、横断的に学ぶことのできるカリキュラムを提供しています。学修成果の集大成として卒業研修を行います。

また、「副専攻制」を活用して、ライフデザイン学部3学科の横断的な教育機会を提供し、学生の複合的な学びを支援します。

2. 卒業研修について

本学科は卒業研修として、4年次前期に「卒業研修Ⅰ」、後期に「卒業研修Ⅱ」を設けています。「卒業研修Ⅰ」ではそれぞれの問題意識に従い、卒業研究の題目、目的、方法等の構想をまとめる段階まで実施します。「卒業研修Ⅱ」では、「卒業研修Ⅰ」でまとめた構想に基づいて研究を進め、その成果をまとめます。

3. 履修のためのガイド

3年次から4年次へ進級するときに進級条件があり、これを充足しないと進級できません。しかし、この進級条件は進級するための必要最小限の条件で、実際に修得できる単位数より低めに設定されているので、少し余裕を持った単位修得をするよう心がける必要があります。単位修得に関しては、以下の「学年毎の目標単位数」を参考にして履修計画を立ててください。

学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数／開講単位数」を示します）

	教養教育科目		専門教育科目		各学年の合計	1年次からの累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	9	7/9	17	9以上	42	42
2年次	1	7/19	4	28以上	40	82
3年次	1	8/33	2	28以上	39	121
4年次	—	—/2	6	4以上	10	131
卒業までの総合計	11	22/63	29	69以上	131以上	
	33/74		98以上			

ライフデザイン学部

副専攻プログラム 履修ガイダンス

カリキュラムの特徴

多様な分野のデザインがあるライフデザイン学部において、所属する学科の領域にとどまらず、実社会で協働する他学科の分野まで広く学び、異分野との融合に必要な知識や実践力を養成するとともに、本学が掲げている「ひろく学び、知をつなぐ」知識や技術を修得した人材の育成を目指す。

副専攻プログラムの履修要項

概要

ライフデザイン学部には多様な分野のデザインがあります。従来、大学4年間は皆さんが所属する学科の学びを深めることで完結しておりましたが、他分野の知識（実践を含む）を自律的かつ横断的に学び、身につけることができることを可能としたのが副専攻プログラムです。

〈対象とする学生〉

副専攻プログラムの導入趣旨を理解し、幅広い学びを真剣に求める、2年生以上のライフデザイン学部学生が対象です。

〈副専攻プログラム〉

副専攻プログラムには、学科横断型・学科専門型の2種類のタイプがあります。

タイプⅠ：学科横断型（3プログラム）

2つの学科で展開される、付加価値の高い多彩な学びとなるプログラムです。

タイプⅡ：学科専門型（3プログラム）

1つの学科で展開される、幅広い分野の“軸”となるプログラムです。

副専攻プログラム（タイプⅠ：学科横断型）

対象学科	プログラム名	概要	構成科目				総単位数	
			学科	科目名	学年	開講期		単位数
MD	表現・空間デザインプログラム	生活や地域に根差し産業や社会を豊かにするデザインの考え方や表現の基礎を身につけるプログラムです。インテリアから地域景観まで、ユニバーサルやユーザビリティの視点で空間を創出するための幅広い知識を学ぶことができます。	CD	色彩論	1	後期	2	14
				美術史	3	前期	2	
				空間デザイン論	3	後期	2	
				サウンドデザイン論	3	後期	2	
			SD	ユニバーサルデザイン	2	後期	2	
				インテリアデザイン	2	後期	2	
				ランドスケープデザイン	3	前期	2	
CD	地域ストックマネジメントプログラム	地域社会の経済構造や環境、有形無形の地域資源について理解を深め、地域で生じる様々な問題を発見し解決する力を身につけるプログラムです。持続可能なまちづくりや地域資源の活用等の方法論について学ぶことができます。	SD	地域産業論	2	後期	2	18
				復旧復興まちづくり	3	前期	2	
				地域環境の保全とエネルギー	3	前期	2	
				都市計画	3	後期	2	
			MD	公共経済学	2	前期	2	
				地域提案論	2	前期	2	
				環境経済学	2	後期	2	
				地域経済学	3	前期	2	
				環境関係法	全	前・後期	2	
SD	経営・ブランディングプログラム	各種分析手法を用いて、マーケティングのベースとなる消費者ニーズに寄り添った商品開発・企画提案を実践的に行う能力を身につけるプログラムです。多様な価値観を持つ消費者に選ばれるためのブランディングを経営とデザインの両面で学ぶことができます。	CD	デザインマーケティング論	2	後期	2	16
				広告論	3	前期	2	
				ユーザーリサーチ論	3	後期	2	
			MD	経営管理論	2	前期	2	
				事業計画論	2	後期	2	
				商品開発論	3	前期	2	
				経営戦略論	3	前期	2	
				経営分析論	3	後期	2	

【学科名】 CD：産業デザイン学科 SD：生活デザイン学科 MD：経営デザイン学科

副専攻プログラム（タイプⅡ：学科専門型）

対象学科	プログラム名	概要	構成科目				総単位数
			学科	科目名	学年	開講期	
SD・MD	産業デザインプログラム	デザインの広がりや情報の伝え方を学ぶプログラムです。視覚的な魅力と意味の共有に焦点を当て、デザインを通じたコミュニケーションを探求し、情報を明確に伝え、人々の心を魅了するデザインスキルの獲得を目指します。	CD	デザイン論Ⅰ	1	前期	2
				色彩論	1	後期	2
				デザイン論Ⅱ	1	後期	2
				デザイン論Ⅲ	2	前期	2
				インフォグラフィックス	2	前期	2
				ウェブデザイン論	2	前期	2
				エディトリアルデザイン論	2	前期	2
				情報デザイン論	2	後期	2
				広告論	3	前期	2
				イラストレーション論	3	前期	2
CD・MD	生活デザインプログラム	持続可能な地域づくりの考え方や方法論を幅広く学ぶプログラムです。福祉、文化、環境の視点で地域の課題に向き合い、地域内外の多様な人々を結び、暮らしの基盤となるまちを創るための生活デザイン力を身につけることができます。	SD	地域包括ケア	2	前期	2
				住環境の基礎科学	2	前期	2
				心理・行動と社会調査	2	後期	2
				ユニバーサルデザイン	2	後期	2
				地域産業論	2	後期	2
				インテリアデザイン	2	後期	2
				復旧復興まちづくり	3	前期	2
				デザイン・アートと文化共創	3	前期	2
				ランドスケープデザイン	3	前期	2
				地域環境の保全とエネルギー	3	前期	2
都市計画	3	後期	2				
CD・SD	経営デザインプログラム	経済学、経営学、会計学を中心とした学問領域を扱うプログラムです。経済理論により社会経済の構造を理解し、企業経営・会計、ICT・数値情報、ビジネス実務、等の学びを通じて地域振興の具体的な方法論について学びます。	MD	ミクロ経済学	1	後期	2
				日本経済論	1	後期	2
				マクロ経済学	2	前期	2
				公共経済学	2	前期	2
				財務会計論	2	前期	2
				原価計算論	2	後期	2
				国際経済論	2	後期	2
				環境経済学	2	後期	2
				地域経済学	3	前期	2
				管理会計論	3	前期	2
経営分析論	3	後期	2				

【学科名】 CD：産業デザイン学科 SD：生活デザイン学科 MD：経営デザイン学科

単位認定

学際科目（他学科プログラム科目群・他学科自由選択科目群・他学部開講科目群・他大学開講科目群）について，進級及び卒業単位として算入できる単位枠は表1に示す通りです。

副専攻プログラムの修了前後で，進級及び卒業単位として算入できる単位数が異なります。

表1. 進級及び卒業単位に算入する学際科目（専門）の単位枠

受講許可を受けていない学生		受講許可を受けた学生			
他学科プログラム科目群	—	合わせて 上限4単位	他学科プログラム科目群	8単位 ※修了するまでは4単位	合わせて 上限12単位 ※修了するまでは8単位
他学科自由選択科目群	合わせて 上限4単位		他学科自由選択科目群	合わせて 上限4単位	
他学部開講科目群			他学部開講科目群		
他大学開講科目群			他大学開講科目群		

- ① 他学科プログラム科目群は，副専攻プログラムの受講が許可された者で修了要件（受講プログラムの構成科目から12単位修得）を満たした者に限り，8単位まで進級及び卒業単位に算入する。
- ② 副専攻プログラムを修了するまでは，「他学科プログラム科目群」において4単位まで進級及び卒業単位に算入する。
- ③ 他学科自由選択科目群，他学部開講科目群，他大学開講科目群は，合わせて4単位まで進級及び卒業単位に算入する。

履修方法

＜CAP 制の適用＞

副専攻プログラム構成科目の履修単位も CAP 制を適用します。ただし，基準を満たす学生（本便覧 P.10 参照）は，web 履修登録期間中に所定の書式にて窓口申請の上，認められれば当該セメスターの履修上限単位（24 単位）を超えて2単位まで追加履修登録できます。

また，副専攻プログラムの構成科目の内，自身の年次より上位学年の科目を履修することはできません。

＜副専攻プログラムの受講手続き＞

副専攻プログラムの履修を希望する学生は，前セメスターまでの成績（GPA の目安：3.0）で，受講の可否が決定されます。前期履修登録期間の締切りまでに所定の様式「副専攻受講申請書」を長町校舎事務室に提出してください。7 月中（前期授業期間中）に受講の可否を通知します。受講可の場合には，夏季休業期間中に「副専攻プログラム」の受講を含めて，履修計画を立ててください。

＜履修登録手続き＞

副専攻プログラム構成科目を含めた学際科目の履修登録は，所定の様式に必要事項を記入し，授業担当教員の許可を得た上で学生サポートオフィスへ提出してください。

【履修登録手続きのフロー】

- ① 学生サポートオフィスから所定の様式を受け取る。

<p>評価方法</p> <p>修了要件</p> <p>修了証明書</p>	<p>② 所定の様式へ必要事項を記入し，様式を学生サポートオフィスへ提出する。</p> <p>〈履修登録期間〉</p> <p>他学科で開講している科目の履修申請は，授業開始前に締め切りとなります。履修登録期間の詳細はポータルサイトやてくポで周知します。</p> <p>学際科目では，認定評価を行い，GPAには算入されません。 所属学科の科目に対しては，点数で評価し，GPAに算入されます。</p> <p>許可を受け，選択したプログラムの構成科目から12単位以上を修得することにより，修了となります。</p> <p>卒業時（学位授与式）に修了証明書が発行されます。</p>
--------------------------------------	---

ライフデザイン学部

卒業後等の取得資格

○卒業後等の取得資格

※受験資格や試験免除条件が変更となる場合がありますので、最新の情報を各種資格のホームページで確認して下さい。

ライフデザイン学部 生活デザイン学科

【大学卒業で受験資格が得られる】

◦ 二級建築士，木造建築士

令和7年度以降に入学した学生で、別表1-1の指定科目を修得した者は、卒業時に実務経験なしで受験資格が得られる。但し、「指定科目修得単位証明書・卒業証明書」の発行を大学に申し込まなければならない。また、合格後に実務経験なしで資格登録が可能となるには、40単位以上修得することが必要である。

なお、工業高等学校の卒業時に二級建築士・木造建築士の受験資格を得た者は、在学中に受験できる。但し、実務経験なしで資格を登録するためには、上記と同様、在学中に別表1-1の指定科目を40単位以上修得しなければならない（工業高等学校の卒業時に実務経験なしで資格登録の権利を得た場合を除く）。

【大学卒業後の実務経験で得られる受験資格】

◦ 1・2級建築施工管理技士

令和6年度以降に入学した学生は、在学中に第一次検定の受験が可能で（第一次検定の受験資格は試験実施年度に満17歳以上となる者）、在学中に第一次検定に合格した場合、卒業後の建築施工の実務経験（1級3年以上，2級1年以上）により第二次検定の受験資格が得られる。卒業後に第一次検定に合格した場合は、第一次検定の合格後の建築施工の実務経験（1級3年以上，2級1年以上）により第二次検定の受験資格が得られる。

なお、実務経験の内容によっては、建設機械，土木，電気工事，造園の各施工管理技士の受験資格を得ることが可能である。

【在学中でも得られる資格試験及び一部免除】

◦ 商業施設士補

（公益社団法人）商業施設技術団体連合会から本資格の認定校に指定されており、学科の3年次前期までの専門科目を修得した時点において、指定された講習を受講することで、本資格を取得できる。

◦ 商業施設士

3年次に商業施設士補の資格を取得した場合、最短で4年次に受験資格が得られる。商業施設士補の資格保有者は、商業施設士試験の学科試験が免除される。また、一・二級建築士，木造建築士を資格保有者は、学科試験『施設と設計』の科目が免除される。商業施設士補の資格を取得していない場合は、課程を修め、実務に1年以上従事したのちに、受験資格を取得できる。

別表 1 - 1 令和7年度以降入学生二級建築士・木造建築士の受験に必要な生活デザイン学科の授業科目

指定科目の分類 (指定単位数)	対応する生活デザイン学科の授業科目			
	科目名	履修学年	必修・選択	単位数
二級・木造				
①建築設計製図 実務0～2年：5単位数以上 実務3～5年：3単位数以上	設計製図演習Ⅰ	1後	選択	2
	設計製図演習Ⅱ	2前	選択	2
	建築デザインⅠ	2後	選択	2
	建築デザインⅡ	3前	選択	2
	制作技法実習	3後	選択	2
単位数小計 10				
②建築計画 ③建築環境工学 ④建築設備 実務0～2年：7単位数以上 実務3～5年：2単位数以上	住まいの計画	1前	必修	2
	住まいの造形意匠	1後	選択	2
	住まいの文化史	2前	選択	2
	インテリアデザイン	2後	選択	2
	ユニバーサルデザイン	2後	必修	2
	住環境の基礎科学	2前	必修	2
	住まいの環境工学	2後	選択	2
	住まいの設備計画	3後	選択	2
単位数小計 16				
⑤構造力学 ⑥建築一般構造 ⑦建築材料 実務0～2年：6単位数以上 実務3～5年：3単位数以上	住まいの力学基礎	1後	選択	1
	住まいの構造力学	2前	選択	2
	住まいの構造と材料	1前	必修	2
	住まいの材料実験Ⅰ	3前	選択	1
	住まいの材料実験Ⅱ	3後	選択	1
単位数小計 7				
⑧建築生産（1単位数以上）	住まいの施工と積算	4前	選択	2
単位数小計 2				
⑨建築法規（1単位数以上）	都市と住宅の法制度	3後	選択	2
単位数小計 2				
⑩その他（適宜）	造形・図法演習	1前	必修	2
	生活デザイン演習Ⅰ	1後	必修	2
	地域防災論	1後	必修	2
	福祉住環境	2前	選択	2
	ランドスケープデザイン	3前	必修	2
	都市計画	3後	選択	2
単位数小計 12				
37	①～⑨の単位数合計			
49	総単位数（①～⑩の単位数合計）			

教 養 教 育

科目ナンバリング

教養教育科目 ナンバリング【工学部】

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1列目		2列目		3列目	
学部区分	課程・学科区分	-	分野	-	学習進度+通し番号
F	GE	-	LE	-	111
FGE-LE-111					

※「スタディスキルI」(1年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1列目	
(学部区分)	
F	工学部/建築学部/ライフデザイン学部
E A	工学部/建築学部
L	ライフデザイン学部
(学科・科目区分)	
GE	教養教育科目

2列目(分野)		
CCS	教養教育	地域・文化・社会
LE		言葉と表現
MPH		心と体の健康
CD		キャリアデザイン
AI		AI・データサイエンス
GT		グリーンテクノロジー
Z		教職関連
E A		特別課外活動
IDP		学際

3列目(学習進度+通し番号)	
100番台	学習進度1クラスレベル
200番台	学習進度2クラスレベル
300番台	学習進度3クラスレベル
400番台	学習進度4クラスレベル
500番台	学習進度5クラスレベル
601番台	学習進度7クラスレベル
700番台	学習進度7クラスレベル
800番台	学習進度8クラスレベル
000番台	その他(レベル分けができない科目, 例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・課程ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
FGE-LE-111	スタディスキル	2							
FGE-LE-131	英語I A	2							
FGE-LE-141	英会話I	2							
FGE-MPH-111	健康・運動科学実習I	2							
FGE-CD-101	キャリアデザインI	2							
FGE-AI-121	人工知能総論	2							
FGE-CCS-241	表象文化論	2							
FGE-CCS-242	メディア文化史	2							
FGE-LE-232	英語I B	2							
FGE-LE-242	英会話II	2							
FGE-MPH-212	健康・運動科学実習II	2							
FGE-AI-222	人工知能入門	2							
FGE-GT-231	グリーンテクノロジー	2							
FGE-CCS-341	東北文化史		2						
FGE-CCS-342	現代社会論		2						
FGE-LE-333	英語II A		2						
FGE-LE-343	英会話III		2						
FGE-LE-351	資格英語I		2						
FGE-MPH-321	スポーツ科学実習		2						
FGE-CD-302	キャリアデザインII		2						
FGE-GT-332	サステナビリティ入門		2						
FGE-CCS-411	市民と法			2					
FGE-CCS-412	暮らしと心理学			2					
FGE-LE-434	英語II B			2					
FGE-LE-444	英会話IV			2					
FGE-LE-452	資格英語II			2					
FGE-GT-433	地球環境と諸問題			2					
FGE-CCS-512	産業社会と心理学				2				
FGE-CCS-513	産業社会と倫理				2				
FGE-CCS-541	ビジネスマナー				2				
FGE-CCS-542	日本国憲法				2				
FGE-CCS-543	科学思想史				2				
FGE-LE-553	資格英語III				2				
FGE-CD-503	キャリアデザインIII				2				
FGE-AI-523	人工知能基礎				2				
FGE-Z-531	職業指導(工業)				2				
FGE-Z-533	工業概論				2				
FGE-Z-534	情報社会とモラル				2				
FGE-CCS-641	情報社会の経済					2			
FGE-CCS-661	フランスの文化と言葉						2		
FGE-CCS-662	韓国の文化と言葉							2	
FGE-CCS-663	中国の文化と言葉								2
FGE-CCS-664	異文化理解								2
FGE-AI-624	人工知能応用								2
FGE-Z-634	情報と職業								2
FGE-CCS-711	現代の哲学								2
FGE-EA-010	教養特別課外活動I
FGE-EA-020	教養特別課外活動II
FGE-EA-030	教養特別課外活動III
FGE-EA-040	教養特別課外活動IV
FGE-IDP-050	他大学等教養科目群

教養教育科目 ナンバリング【建築学部】

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1列目		2列目		3列目	
学部区分	課程・学科区分	-	分野	-	学習進度+通し番号
F	GE	-	LE	-	111
FGE-LE-111					

※「スタディスキルⅠ」(1年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1列目	
(学部区分)	
F	工学部/建築学部/ライフデザイン学部
E A	工学部/建築学部
L	ライフデザイン学部
(学科・科目区分)	
GE	教養教育科目

2列目(分野)		
CCS	教養教育	地域・文化・社会
LE		言葉と表現
MPH		心と体の健康
CD		キャリアデザイン
AI		AI・データサイエンス
GT		グリーンテクノロジー
Z		教職関連
E A		特別課外活動
IDP		学際

3列目(学習進度+通し番号)	
100番台	学習進度1クラスレベル
200番台	学習進度2クラスレベル
300番台	学習進度3クラスレベル
400番台	学習進度4クラスレベル
500番台	学習進度5クラスレベル
601番台	学習進度7クラスレベル
700番台	学習進度7クラスレベル
800番台	学習進度8クラスレベル
000番台	その他(レベル分けができない科目, 例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
FGE-LE-111	スタディスキル	2							
FGE-LE-131	英語ⅠA	2							
FGE-LE-141	英会話Ⅰ	2							
FGE-MPH-111	健康・運動科学実習Ⅰ	2							
FGE-CD-101	キャリアデザインⅠ	2							
FGE-AI-121	人工知能総論	2							
FGE-CCS-241	表象文化論		2						
FGE-CCS-242	メディア文化史		2						
FGE-LE-232	英語ⅠB		2						
FGE-LE-242	英会話Ⅱ		2						
FGE-MPH-212	健康・運動科学実習Ⅱ		2						
FGE-AI-222	人工知能入門		2						
FGE-GT-231	グリーンテクノロジー		2						
FGE-CCS-341	東北文化史			2					
FGE-CCS-342	現代社会論			2					
FGE-LE-333	英語ⅡA			2					
FGE-LE-343	英会話Ⅲ			2					
FGE-LE-351	資格英語Ⅰ			2					
FGE-MPH-321	スポーツ科学実習			2					
FGE-CD-302	キャリアデザインⅡ			2					
FGE-GT-332	サステナビリティ入門			2					
FGE-CCS-411	市民と法				2				
FGE-CCS-412	暮らしと心理学				2				
FGE-LE-434	英語ⅡB				2				
FGE-LE-444	英会話Ⅳ				2				
FGE-LE-452	資格英語Ⅱ				2				
FGE-GT-433	地球環境と諸問題				2				
FGE-CCS-512	産業社会と心理学					2			
FGE-CCS-513	産業社会と倫理					2			
FGE-CCS-541	ビジネスマナー					2			
FGE-CCS-542	日本国憲法					2			
FGE-CCS-543	科学思想史					2			
FGE-LE-553	資格英語Ⅲ					2			
FGE-CD-503	キャリアデザインⅢ					2			
FGE-AI-523	人工知能基礎					2			
FGE-Z-531	職業指導(工業)					2			
FGE-Z-533	工業概論					2			
FGE-Z-534	情報社会とモラル					2			
FGE-CCS-641	情報社会の経済						2		
FGE-CCS-661	フランスの文化と言葉							2	
FGE-CCS-662	韓国の文化と言葉							2	
FGE-CCS-663	中国の文化と言葉							2	
FGE-CCS-664	異文化理解							2	
FGE-AI-624	人工知能応用							2	
FGE-Z-634	情報と職業							2	
FGE-CCS-711	現代の哲学								2
FGE-EA-010	教養特別課外活動Ⅰ	…	…	…	…	…	…	…	…
FGE-EA-020	教養特別課外活動Ⅱ	…	…	…	…	…	…	…	…
FGE-EA-030	教養特別課外活動Ⅲ	…	…	…	…	…	…	…	…
FGE-EA-040	教養特別課外活動Ⅳ	…	…	…	…	…	…	…	…
FGE-IDP-050	他大学等教養科目群	…	…	…	…	…	…	…	…

教養教育科目 ナンバリング【ライフデザイン学部】

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1列目		2列目		3列目	
学部区分	課程・学科区分	-	分野	-	学習進度+通し番号
F	GE	-	LE	-	111
FGE-LE-111					

※「スタディスキルI」(1年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1列目	
(学部区分)	
F	工学部/建築学部/ライフデザイン学部
E A	工学部/建築学部
L	ライフデザイン学部
(学科・科目区分)	
GE	教養教育科目

2列目(分野)		
CCS	教養教育	地域・文化・社会
LE		言葉と表現
MPH		心と体の健康
CD		キャリアデザイン
AI		AI・データサイエンス
GT		グリーンテクノロジー
LSB		LD 理数基礎
Z		教職関連
E A		特別課外活動
IDP		学際

3列目(学習進度+通し番号)	
100番台	学習進度1クラスレベル
200番台	学習進度2クラスレベル
300番台	学習進度3クラスレベル
400番台	学習進度4クラスレベル
500番台	学習進度5クラスレベル
601番台	学習進度7クラスレベル
700番台	学習進度7クラスレベル
800番台	学習進度8クラスレベル
000番台	その他(レベル分けができない科目, 例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
FGE-LE-111	スタディスキル	2							
FGE-LE-131	英語I A	2							
FGE-LE-141	英会話I	2							
FGE-MPH-111	健康・運動科学実習I	2							
FGE-CD-101	キャリアデザインI	2							
FGE-AI-121	人工知能総論	2							
LGE-LSB-142	ネットワーク・コンピュータ基礎	2							
LGE-LSB-143	数学的思考法	2							
FGE-CCS-241	表象文化論		2						
FGE-CCS-242	メディア文化史		2						
FGE-LE-232	英語I B		2						
FGE-LE-242	英会話II		2						
FGE-MPH-212	健康・運動科学実習II		2						
FGE-AI-222	人工知能入門		2						
FGE-GT-231	グリーンテクノロジー		2						
FGE-CCS-341	東北文化史			2					
FGE-CCS-342	現代社会論			2					
FGE-LE-333	英語II A			2					
FGE-LE-343	英会話III			2					
FGE-LE-351	資格英語I			2					
FGE-MPH-321	スポーツ科学実習			2					
FGE-CD-302	キャリアデザインII			2					
FGE-GT-332	サステナビリティ入門			2					
FGE-CCS-411	市民と法				2				
FGE-CCS-412	暮らしと心理学				2				
FGE-LE-434	英語II B				2				
FGE-LE-444	英会話IV				2				
FGE-LE-452	資格英語II				2				
FGE-GT-433	地球環境と諸問題				2				
FGE-CCS-512	産業社会と心理学					2			
FGE-CCS-513	産業社会と倫理					2			
FGE-CCS-541	ビジネスマナー					2			
FGE-CCS-542	日本国憲法					2			
FGE-CCS-543	科学思想史					2			
FGE-LE-553	資格英語III					2			
FGE-CD-503	キャリアデザインIII					2			
FGE-AI-523	人工知能基礎					2			
FGE-Z-531	職業指導(工業)					2			
LGE-Z-532	職業指導(商業)					2			
FGE-Z-533	工業概論					2			
FGE-Z-534	情報社会とモラル					2			
FGE-CCS-641	情報社会の経済						2		
FGE-CCS-661	フランスの文化と言葉						2		
FGE-CCS-662	韓国の文化と言葉						2		
FGE-CCS-663	中国の文化と言葉						2		
FGE-CCS-664	異文化理解						2		
FGE-AI-624	人工知能応用						2		
FGE-Z-634	情報と職業						2		
FGE-CCS-711	現代の哲学							2	
FGE-EA-010	教養特別課外活動I
FGE-EA-020	教養特別課外活動II
FGE-EA-030	教養特別課外活動III
FGE-EA-040	教養特別課外活動IV
FGE-IDP-050	他大学等教養科目群

工 学 部

科目ナンバリング

専門教育科目 ナンバリング【電気電子工学課程】

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 列目	2 列目	3 列目	4 列目	5 列目	6 列目
学部区分	課程区分	専門学士力	難易度+通し番号		
E	E	A	101		
EE-A-101					

※電気電子工学課程「電気数学Ⅰ及び同演習」（1年次開講）の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 列目（学部区分）	
E	工学部

2 列目（課程・科目区分）	
Y	工学部全課程・共通専門科目
E	電気電子工学課程・専門教育科目
T	情報通信工学課程・専門教育科目
C	都市工学課程・専門教育科目
K	環境応用化学課程・専門教育科目
IDP	学際
EA	特別課外活動

3 列目（専門学士力）		
Z	全課程	工学基礎（共通）
A	電気電子工学課程	工学基礎
B		電気電子基礎
C		電気電子応用
D		情報技術
E		電気電子工学総合
A	情報通信工学課程	工学基礎
B		情報ネットワーク
C		情報プログラミング
D		通信システム
E		通信デバイス
F		情報通信工学総合
A	都市工学課程	工学基礎
B		土木材料・構造工学
C		地盤工学
D		水工学・土木環境システム
E		土木計画学・建設マネジメント
F		都市工学総合
A	環境応用化学課程	工学基礎
B		化学基礎
C		化学応用
D		環境学
E		環境応用科学総合

4・5・6 列目（難易度+通し番号）	
100 番台	入門レベル（大学1年次レベル）
200 番台	中級レベル（大学2年次レベル）
300 番台	上級レベル（大学3年次レベル）
400 番台	専門レベル（大学4年次レベル）
000 番台	その他（レベル分けができない科目、例:特別課外活動）

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・課程ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
EY-Z-101	フレッシュパーソンセミナー	2							
EY-Z-102	数学基礎	2							
EY-Z-103	物理基礎	2							
EY-Z-104	化学基礎	2							
EY-Z-105	情報基礎	2							
EE-A-101	電気数学Ⅰ及び同演習	4							
EE-D-101	プログラミングⅠ	2							
EY-Z-107	工学概論		2						
EY-Z-108	線形代数		2						
EY-Z-109	物理学Ⅰ		2						
EE-A-102	無機化学		2						
EE-A-103	電気数学Ⅱ及び同演習		4						
EE-B-102	電気回路Ⅰ及び同演習		4						
EE-D-102	プログラミングⅡ		2						
EE-E-101	工学基礎実験		4						
EY-Z-110	統計基礎			2					
EE-B-201	電気回路Ⅱ及び同演習			4					
EE-D-103	基本情報技術Ⅰ			2					
EE-B-202	電磁気学Ⅰ			2					
EE-A-201	電気数学Ⅲ			2					
EE-A-202	物理学Ⅱ			2					
EE-A-203	電気化学			2					
EE-D-201	アルゴリズム基礎			2					
EE-B-203	電気回路Ⅲ				2				
EE-B-204	電磁気学Ⅱ				2				
EE-B-205	固体電子工学Ⅰ					2			
EE-B-206	電気電子計測					2			
EE-B-207	デジタル回路					2			
EE-E-201	電気電子工学実験Ⅰ						6		
EE-D-202	コンピュータネットワーク					2			
EE-D-203	数値計算法					2			
EE-D-204	基本情報技術Ⅱ					2			
EE-C-301	CAD製図							2	
EE-C-302	電子回路Ⅰ							2	
EE-E-301	電気電子工学実験Ⅱ							6	
EE-C-303	電気回路Ⅳ							2	
EE-C-304	固体電子工学Ⅱ							2	
EE-C-305	センサ工学							2	
EE-C-306	制御工学							2	
EE-D-301	マルチメディアシステム							2	
EE-D-302	組込システム入門							2	
EE-D-303	基本情報技術Ⅲ							2	
EE-C-307	電子回路Ⅱ								2
EE-E-302	電気電子工学実験Ⅲ								6
EE-C-308	電力工学概論								2
EE-C-309	電気機械工学								2
EE-D-304	情報理論								2
EE-C-310	創造開発								2
EE-E-303	卒業研修Ⅰ								2
EE-C-401	電気電子材料								2
EE-C-402	バイオ・光エレクトロニクス								2
EE-C-403	ロボティクス								2
EE-C-404	パワーエレクトロニクス								2
EE-E-401	卒業研修Ⅱ								4
EE-E-402	電気法規								2
EE-E-403	品質管理及び知的財産								2
EE-C-405	エネルギー変換工学								2
EE-E-404	卒業研修Ⅲ								8
EIPD-E-001	他課程開講科目群								…
EIPD-E-002	他学部開講科目群								…
EIPD-E-003	他大学開講科目群								…
	専門特別課外活動Ⅰ								…
	専門特別課外活動Ⅱ								…
	専門特別課外活動Ⅲ								…
	専門特別課外活動Ⅳ								…

専門教育科目 ナンバリング【情報通信工学課程】

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 列目	2 列目	3 列目	4 列目	5 列目	6 列目
学部区分	課程区分	専門学士力	難易度+通し番号		
E	E	A	101		
EE-A-101					

※電気電子工学課程「電気数学Ⅰ及び同演習」（1年次開講）の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 列目（学部区分）	
E	工学部

2 列目（課程・科目区分）	
Y	工学部全課程・共通専門科目
E	電気電子工学課程・専門教育科目
T	情報通信工学課程・専門教育科目
C	都市工学課程・専門教育科目
K	環境応用化学課程・専門教育科目
IDP	学際
EA	特別課外活動

3 列目（専門学士力）		
Z	全課程	工学基礎（共通）
A	電気電子工学課程	工学基礎
B		電気電子基礎
C		電気電子応用
D		情報技術
E		電気電子工学総合
A	情報通信工学課程	工学基礎
B		情報ネットワーク
C		情報プログラミング
D		通信システム
E		通信デバイス
F		情報通信工学総合
A	都市工学課程	工学基礎
B		土木材料・構造工学
C		地盤工学
D		水工学・土木環境システム
E		土木計画学・建設マネジメント
F		都市工学総合
A	環境応用化学課程	工学基礎
B		化学基礎
C		化学応用
D		環境学
E		環境応用科学総合

4・5・6 列目（難易度+通し番号）	
100 番台	入門レベル（大学1年次レベル）
200 番台	中級レベル（大学2年次レベル）
300 番台	上級レベル（大学3年次レベル）
400 番台	専門レベル（大学4年次レベル）
000 番台	その他（レベル分けができない科目、例：特別課外活動）

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・課程ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数			
		1年	2年	3年	4年
		前期/後期	前期/後期	前期/後期	前期/後期
EY-Z-101	フレッシュパーソンセミナー	2			
EY-Z-102	数学基礎	2			
EY-Z-103	物理基礎	2			
EY-Z-104	化学基礎	2			
EY-Z-105	情報基礎	2			
ET-D-101	情報通信工学入門	2			
ET-C-102	プログラミング入門	4			
ET-A-103	解析Ⅰ	2			
ET-A-104	情報リテラシーⅠ	2			
ET-A-105	ベクトルと行列	2			
EY-Z-107	工学概論		2		
EY-Z-108	線形代数		2		
EY-Z-109	物理学Ⅰ		2		
ET-B-110	コンピュータネットワークⅠ		2		
ET-E-111	電気回路入門		2		
ET-C-112	アルゴリズムとデータ構造及び同演習		4		
ET-A-113	解析Ⅱ及び同演習		4		
ET-A-114	情報リテラシーⅡ		2		
EY-Z-110	統計基礎			2	
ET-A-201	アカデミックスキル			2	
ET-E-202	電気回路Ⅰ及び同演習			4	
ET-C-203	論理回路			2	
ET-A-204	解析Ⅲ			2	
ET-A-205	基本情報技術Ⅰ			2	
ET-B-206	コンピュータネットワークⅡ			2	
ET-D-207	電気数学			2	
ET-A-208	物理学Ⅱ			2	
ET-C-209	プログラミング実践			2	
ET-A-210	情報通信工学実験Ⅰ				6
ET-B-211	計算機工学Ⅰ			2	
ET-E-212	電子回路Ⅰ及び同演習			4	
ET-A-213	基本情報技術Ⅱ			2	
ET-C-214	コンピュータ数値解析			2	
ET-C-215	ソフトウェア設計			2	
ET-B-216	データベース			2	
ET-E-217	電気回路Ⅱ及び同演習			4	
ET-D-218	電磁気学Ⅰ			2	
ET-A-219	統計学			2	
ET-A-301	情報通信工学実験Ⅱ				6
ET-A-302	情報通信工学セミナー			2	
ET-D-303	通信工学Ⅰ			2	
ET-C-304	アプリケーション開発			2	
ET-A-305	基本情報技術Ⅲ			2	
ET-B-306	計算機工学Ⅱ			2	
ET-C-307	コンピュータグラフィックス技術			2	
ET-B-308	情報セキュリティ			2	
ET-E-309	電気回路Ⅲ			2	
ET-D-310	電磁気学Ⅱ			2	
ET-E-311	半導体デバイス			2	
ET-B-312	組込みシステム設計				2
ET-A-313	情報理論				2
ET-D-314	通信工学Ⅱ				2
ET-D-315	デジタル信号処理				2
ET-E-316	電気・電子計測				2
ET-E-317	電子回路Ⅱ				2
ET-D-318	電波工学				2
ET-A-319	情報通信工学実験Ⅲ				6
ET-F-320	卒業研修Ⅰ				2
ET-D-401	音響工学				2
ET-A-402	データ分析				2
ET-E-403	光通信工学				2
ET-F-404	卒業研修Ⅱ				4
ET-D-405	電気通信法規				2
ET-E-406	電力工学				2
ET-F-407	卒業研修Ⅲ				8
	他課程開講科目群				…
	他学部開講科目群				…
	他大学開講科目群				…
	専門特別課外活動Ⅰ				…
	専門特別課外活動Ⅱ				…
	専門特別課外活動Ⅲ				…
	専門特別課外活動Ⅳ				…

専門教育科目 ナンバリング【都市工学課程】

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 列目	2 列目	3 列目	4 列目	5 列目	6 列目
学部区分	課程区分	専門学士力	難易度+通し番号		
E	E	A	101		
EE-A-101					

※電気電子工学課程「電気数学Ⅰ及び同演習」（1年次開講）の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 列目（学部区分）	
E	工学部

2 列目（課程・科目区分）	
Y	工学部全課程・共通専門科目
E	電気電子工学課程・専門教育科目
T	情報通信工学課程・専門教育科目
C	都市工学課程・専門教育科目
K	環境応用化学課程・専門教育科目
IDP	学際
EA	特別課外活動

3 列目（専門学士力）		
Z	全課程	工学基礎（共通）
A	電気電子工学課程	工学基礎
B		電気電子基礎
C		電気電子応用
D		情報技術
E		電気電子工学総合
A	情報通信工学課程	工学基礎
B		情報ネットワーク
C		情報プログラミング
D		通信システム
E		通信デバイス
F		情報通信工学総合
A	都市工学課程	工学基礎
B		土木材料・構造工学
C		地盤工学
D		水工学・土木環境システム
E		土木計画学・建設マネジメント
F		都市工学総合
A		環境応用化学課程
B	化学基礎	
C	化学応用	
D	環境学	
E	環境応用科学総合	

4・5・6 列目（難易度+通し番号）	
100 番台	入門レベル（大学1年次レベル）
200 番台	中級レベル（大学2年次レベル）
300 番台	上級レベル（大学3年次レベル）
400 番台	専門レベル（大学4年次レベル）
000 番台	その他（レベル分けができない科目、例：特別課外活動）

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・課程ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
EY-Z-101	フレッシュパーソンセミナー	2							
EY-Z-102	数学基礎	2							
EY-Z-103	物理基礎	2							
EY-Z-104	化学基礎	2							
EY-Z-105	情報基礎	2							
EC-E-101	人間行動と心理	2							
EC-D-101	環境・防災工学	2							
EC-F-101	都市工学セミナーⅠ	2							
EY-Z-107	工学概論		2						
EY-Z-108	線形代数		2						
EY-Z-109	物理学Ⅰ		2						
EC-A-101	微分積分		2						
EC-A-102	化学		2						
EC-A-103	プログラミング入門		2						
EC-A-104	CAD		2						
EC-B-101	コンクリート		2						
EC-C-101	地震工学		2						
EC-E-102	都市と観光		2						
EC-F-102	都市工学セミナーⅡ		2						
EY-Z-110	統計基礎			2					
EC-A-201	プログラミング演習			2					
EC-B-201	構造力学基礎Ⅰ			2					
EC-B-202	鉄筋コンクリートⅠ			2					
EC-C-201	基礎地盤工学			2					
EC-D-201	水理学基礎Ⅰ			2					
EC-E-201	社会的計画論			2					
EC-E-202	都市政策入門			2					
EC-F-201	空間測量Ⅰ			2					
EC-F-202	空間測量実習			4					
EC-F-203	都市工学セミナーⅢ			2					
EC-A-202	応用数学				2				
EC-B-203	構造力学基礎Ⅱおよび同演習				4				
EC-B-204	鉄筋コンクリートⅡ				2				
EC-C-202	応用地盤工学				2				
EC-D-202	水理学基礎Ⅱ				2				
EC-E-203	数理的計画論および同演習				4				
EC-E-204	経済学通論				2				
EC-D-203	環境システム				2				
EC-F-204	都市工学セミナーⅣ				2				
EC-A-301	統計解析					2			
EC-B-301	構造力学応用					2			
EC-C-301	地盤防災工学					2			
EC-D-301	水理学応用Ⅰ					2			
EC-D-302	河川工学					2			
EC-E-301	都市計画					2			
EC-D-303	上下水道工学					2			
EC-F-301	都市工学実験Ⅰ					4			
EC-F-302	都市工学セミナーⅤ					2			
EC-B-302	道路工学						2		
EC-E-302	社会基盤マネジメント						2		
EC-D-304	水理学応用Ⅱ						2		
EC-D-305	水文学						2		
EC-E-303	都市交通計画						2		
EC-D-306	都市環境工学						2		
EC-F-303	空間測量Ⅱ						2		
EC-F-304	地理情報システム						2		
EC-F-305	エンジニアリング・デザイン						2		
EC-F-306	卒業研修Ⅰ							2	
EC-B-401	鋼構造学								2
EC-E-401	プロジェクトマネジメント								2
EC-F-401	都市工学実験Ⅱ								2
EC-F-402	卒業研修Ⅱ								4
EC-F-403	卒業研修Ⅲ								8
	他課程開講科目群			…	…	…	…	…	…
	他学部開講科目群			…	…	…	…	…	…
	他大学開講科目群			…	…	…	…	…	…
	専門特別課外活動Ⅰ			…	…	…	…	…	…
	専門特別課外活動Ⅱ			…	…	…	…	…	…
	専門特別課外活動Ⅲ			…	…	…	…	…	…
	専門特別課外活動Ⅳ			…	…	…	…	…	…

専門教育科目 ナンバリング【環境応用化学課程】

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 列目	2 列目	3 列目	4 列目	5 列目	6 列目
学部区分	課程区分	専門学士力	難易度+通し番号		
E	E	A	101		
EE-A-101					

※電気電子工学課程「電気数学Ⅰ及び同演習」（1年次開講）の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 列目（学部区分）	
E	工学部

2 列目（課程・科目区分）	
Y	工学部全課程・共通専門科目
E	電気電子工学課程・専門教育科目
T	情報通信工学課程・専門教育科目
C	都市工学課程・専門教育科目
K	環境応用化学課程・専門教育科目
IDP	学際
EA	特別課外活動

3 列目（専門学士力）		
Z	全課程	工学基礎（共通）
A	電気電子工学課程	工学基礎
B		電気電子基礎
C		電気電子応用
D		情報技術
E		電気電子工学総合
A	情報通信工学課程	工学基礎
B		情報ネットワーク
C		情報プログラミング
D		通信システム
E		通信デバイス
F	情報通信工学総合	
A	都市工学課程	工学基礎
B		土木材料・構造工学
C		地盤工学
D		水工学・土木環境システム
E		土木計画学・建設マネジメント
F	都市工学総合	
A	環境応用化学課程	工学基礎
B		化学基礎
C		化学応用
D		環境学
E		環境応用科学総合

4・5・6 列目（難易度+通し番号）	
100 番台	入門レベル（大学1年次レベル）
200 番台	中級レベル（大学2年次レベル）
300 番台	上級レベル（大学3年次レベル）
400 番台	専門レベル（大学4年次レベル）
000 番台	その他（レベル分けができない科目、例:特別課外活動）

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・課程ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数			
		1年	2年	3年	4年
		前期/後期	前期/後期	前期/後期	前期/後期
EY-Z-101	フレッシュパーソンセミナー	2			
EY-Z-102	数学基礎	2			
EY-Z-103	物理基礎	2			
EY-Z-104	化学基礎	2			
EY-Z-105	情報基礎	2			
EK-A-101	科学リテラシー	2			
EK-D-101	循環型社会形成論	2			
EY-Z-107	工学概論		2		
EY-Z-108	線形代数		2		
EY-Z-109	物理学Ⅰ		2		
EK-A-102	微分積分学Ⅰ		2		
EK-B-101	物理化学Ⅰ		2		
EK-B-102	有機化学Ⅰ		2		
EK-B-103	分析化学		2		
EK-D-102	環境マネジメント		2		
EY-Z-110	統計基礎		2		
EK-A-203	微分積分学Ⅱ		2		
EK-A-204	物理学Ⅱ		2		
EK-B-204	物理化学Ⅱ		2		
EK-B-205	有機化学Ⅱ		2		
EK-B-206	無機化学		2		
EK-C-201	機器分析Ⅰ		2		
EK-D-203	緑地環境工学		2		
EK-D-204	地球環境とエネルギー		2		
EK-D-205	大気環境工学		2		
EK-E-201	分析化学実験		2		
EK-A-205	生化学基礎			2	
EK-C-202	化学工学			2	
EK-C-203	環境化学			2	
EK-C-204	表面化学			2	
EK-C-205	高分子化学			2	
EK-B-207	熱力学			2	
EK-D-206	地域環境調査法及び同演習			3	
EK-D-207	水環境工学			2	
EK-E-202	物理化学実験			2	
EK-A-306	応用数学				2
EK-C-306	機器分析Ⅱ				2
EK-C-307	錯体化学				2
EK-C-308	固体・光化学				2
EK-C-309	電気化学				2
EK-C-310	化学数学Ⅰ				2
EK-D-308	地域環境調査実習				2
EK-D-309	土壌環境工学				2
EK-E-303	応用化学実験				2
EK-C-311	放射化学				2
EK-C-312	生化学				2
EK-C-313	機能材料				2
EK-C-314	触媒化学				2
EK-C-315	有機・無機材料				2
EK-C-316	化学数学Ⅱ及び同演習				3
EK-D-310	資源循環とライフサイクルアセスメント				2
EK-E-304	卒業研修Ⅰ				2
EK-C-317	CAD技術入門				2
EK-E-405	卒業研修Ⅱ				4
EK-E-406	卒業研修Ⅲ				8
EK-X-001	他課程開講科目群		…	…	…
EK-X-002	他学部開講科目群		…	…	…
EK-X-003	他大学開講科目群	…	…	…	…
EK-X-004	専門特別課外活動Ⅰ	…	…	…	…
EK-X-005	専門特別課外活動Ⅱ	…	…	…	…
EK-X-006	専門特別課外活動Ⅲ	…	…	…	…
EK-X-007	専門特別課外活動Ⅳ	…	…	…	…

建築学部

科目ナンバリング

専門教育科目 ナンバリング【建築学科】

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 列目	2 列目	3 列目	4 列目	5 列目	6 列目
学部区分	学科区分	専門学士力	難易度+通し番号		
A	A	A	103		
AA-A-103					

※建築学部建築学科「建築入門」(1年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 列目 (学部区分)	
A	建築学部

2 列目 (学科・科目区分)	
A	建築学科・専門教育科目

3 列目 (専門学士力)		
A	建築学科	建築学基礎
B		建築設計
C		建築計画・意匠・歴史
D		建築構造
E		建築材料・生産
F		建築環境・設備
G		建築学総合
X		その他

4・5・6 列目 (難易度+通し番号)	
100 番台	入門レベル (大学 1 年次レベル)
200 番台	中級レベル (大学 2 年次レベル)
300 番台	上級レベル (大学 3 年次レベル)
400 番台	専門レベル (大学 4 年次レベル)
000 番台	その他 (レベル分けができない科目, 例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1 年		2 年		3 年		4 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
AA-A-101	建築学の数学	2							
AA-A-102	建築学の物理	2							
AA-A-103	建築入門	2							
AA-B-105	建築表現	2							
AA-B-106	建築設計 I	4							
AA-E-107	建築材料 I	2							
AA-A-104	建築概論	2							
AA-F-116	建築環境工学概論		2						
AA-B-108	建築CAD		4						
AA-C-110	建築計画 I		2						
AA-C-111	ヨーロッパ建築史		2						
AA-C-112	建築造形		2						
AA-B-109	建築設計 II		4						
AA-E-115	建築材料 II		2						
AA-D-113	骨組の力学 I		2						
AA-D-114	骨組の力学 I 演習		2						
AA-C-202	ランドスケープデザイン			2					
AA-B-201	建築設計 III			4					
AA-C-203	建築計画 II			2					
AA-C-204	日本建築史			2					
AA-E-208	建築材料実験			2					
AA-F-209	熱・空気環境			2					
AA-D-206	骨組の力学 II			2					
AA-D-207	骨組の力学 II 演習			2					
AA-C-205	インテリアデザイン			2					
AA-B-210	建築設計 IV				4				
AA-C-212	建築計画 III				2				
AA-E-215	建築システム総合実験				2				
AA-F-216	音・光環境				2				
AA-G-217	建築法規及び同演習				4				
AA-D-213	木質構造				2				
AA-B-211	建築専門CADとBIM				2				
AA-D-214	骨組の力学 III				2				
AA-E-310	住宅生産					2			
AA-D-306	鉄筋コンクリート構造					2			
AA-D-307	鉄筋コンクリート構造演習					2			
AA-D-308	鉄骨構造					2			
AA-D-309	鉄骨構造演習					2			
AA-F-311	建築設備システム及び同演習					4			
AA-G-312	建築プロフェッショナル論					2			
AA-C-303	都市計画					2			
AA-B-301	建築設計 V					4			
AA-C-304	建築計画 IV					2			
AA-C-305	近代建築史					2			
AA-B-302	建築専門表現					2			
AA-G-319	建築経済						2		
AA-G-320	建築学研修 I						4		
AA-C-314	地域空間計画						2		
AA-E-317	建築生産						2		
AA-D-315	建築基礎構造						2		
AA-F-318	都市環境						2		
AA-B-313	建築設計 VI						6		
AA-D-316	耐震設計法						2		
AA-G-405	建築学研修 II							4	
AA-G-406	建築総論							2	
AA-G-407	災害と建築							2	
AA-B-401	建築設計 VII							6	
AA-D-403	建築構造の設計							4	
AA-E-404	建築性能論							2	
AA-C-402	建築意匠							2	
AA-G-408	建築学研修 III								8
AA-X-001	建築インターンシップ I								
AA-X-002	建築インターンシップ II								
AA-X-003	建築インターンシップ III								
AA-X-004	建築インターンシップ IV								
AA-X-005	他学部開講科目群								
AA-X-006	他大学開講科目群								
AA-X-007	専門特別課外活動 I								
AA-X-008	専門特別課外活動 II								
AA-X-009	専門特別課外活動 III								
AA-X-010	専門特別課外活動 IV								

ライフデザイン学部

科目ナンバリング

専門教育科目 ナンバリング【産業デザイン学科】

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 列目	2 列目	3 列目	4 列目	5 列目	6 列目
学部区分	学科区分	専門学士力	難易度+通し番号		
L	CD	- SC	-	102	
LCD-SC-102					

※ライフデザイン学部産業デザイン学科「デザインセミナーⅡ」(2年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 列目 (学部区分)	
L	ライフデザイン学部

2 列目 (学科・科目区分)	
D	産業デザイン学科・専門教育科目
S	生活デザイン学科・専門教育科目
M	経営デザイン学科・専門教育科目

3 列目 (専門学士力)		
A	産業デザイン 学科	デザイン知識・視点
B		アイデア発想力
C		デザイン表現力
D		デザイン企画・計画力
E		デザイン共創力
F		デザインの総合力
X		その他
A	生活デザイン 学科	生活・地域の理解力
B		課題発見・分析力
C		企画・デザイン力
D		まちづくり連携力
E		表現伝達力
F		探究・デザイン総合力
X		その他
A	経営デザイン 学科	経済学的理解・分析力
B		経営学的理解・分析力
C		会計学的理解・分析力
D		ICTを用いた調査分析能力
E		経営デザイン総合力
X		

4・5・6 列目 (難易度+通し番号)	
100 番台	入門レベル (大学 1 年次レベル)
200 番台	中級レベル (大学 2 年次レベル)
300 番台	上級レベル (大学 3 年次レベル)
400 番台	専門レベル (大学 4 年次レベル)
000 番台	その他 (レベル分けができない科目, 例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1 年		2 年		3 年		4 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
LD-F-101	ライフデザイン通論	2							
LD-E-101	デザインセミナーⅠ	2							
LD-A-101	デザイン論Ⅰ	2							
LD-A-102	デザイン史	2							
LD-B-101	アイデア基礎および同演習Ⅰ	4							
LD-C-101	表現技術および同演習Ⅰ	4							
LD-E-102	デザインセミナーⅡ		2						
LD-A-103	デザイン論Ⅱ		2						
LD-A-104	色彩論		2						
LD-B-102	アイデア基礎および同演習Ⅱ		4						
LD-C-102	表現技術および同演習Ⅱ		4						
LD-F-201	コミュニティネットワーク論			2					
LD-E-201	デザインセミナーⅢ			2					
LD-A-201	デザイン論Ⅲ			2					
LD-A-202	エディトリアルデザイン論			2					
LD-D-201	デザイン計画および同実習 A			8					
LD-A-203	インフォグラフィックス			2					
LD-A-204	材料学・生産技術			2					
LD-A-205	ウェブデザイン論			2					
LD-A-206	タイポグラフィ論			2					
LD-C-202	モデリングおよび同演習			4					
LD-E-202	デザインセミナーⅣ				2				
LD-A-207	情報デザイン論				2				
LD-A-208	プロダクトデザイン論				2				
LD-D-202	デザイン計画および同実習 B				8				
LD-F-202	プロジェクトデザイン				2				
LD-A-209	インタラクションデザイン論				2				
LD-A-210	エルゴノミクス				2				
LD-A-211	ユニバーサルデザイン				2				
LD-A-212	デザインマーケティング論				2				
LD-C-201	デッサンおよび同演習				4				
LD-F-301	PBLⅠ					2			
LD-E-301	キャリアセミナーⅠ					2			
LD-D-301	デザイン計画および同実習 C					8			
LD-A-301	広告論					2			
LD-A-302	美術史					2			
LD-A-303	認知科学					2			
LD-A-304	イラストレーション論					2			
LD-F-302	PBLⅡ						4		
LD-E-302	キャリアセミナーⅡ						2		
LD-D-302	デザイン計画および同実習 D						8		
LD-A-305	ユーザーリサーチ論						2		
LD-A-306	サウンドデザイン論						2		
LD-A-307	空間デザイン論						2		
LD-F-401	デザイン研修Ⅰ							6	
LD-A-401	知的財産法							2	
LD-A-402	デザイン起業論							2	
LD-A-403	工芸学							2	
LD-A-404	映像デザイン論							2	
LD-F-402	デザイン研修Ⅱ								6
LD-A-405	メディア論								2
LD-A-406	サステナブルデザイン論								2
LD-X-001	他学科プログラム科目群	…	…	…	…	…	…	…	…
LD-X-002	他学科自由選択科目群	…	…	…	…	…	…	…	…
LD-X-003	他学部開講科目群	…	…	…	…	…	…	…	…
LD-X-004	他大学開講科目群	…	…	…	…	…	…	…	…
LD-X-005	専門特別課外活動Ⅰ	…	…	…	…	…	…	…	…
LD-X-006	専門特別課外活動Ⅱ	…	…	…	…	…	…	…	…
LD-X-007	専門特別課外活動Ⅲ	…	…	…	…	…	…	…	…
LD-X-008	専門特別課外活動Ⅳ	…	…	…	…	…	…	…	…

専門教育科目 ナンバリング【生活デザイン学科】

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 列目	2 列目	3 列目	4 列目	5 列目	6 列目
学部区分	学科区分	専門学士力	難易度+通し番号		
L	CD	SC	102		
LCD-SC-102					

※ライフデザイン学部産業デザイン学科「デザインセミナーⅡ」(2年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 列目 (学部区分)	
L	ライフデザイン学部

2 列目 (学科・科目区分)	
D	産業デザイン学科・専門教育科目
S	生活デザイン学科・専門教育科目
M	経営デザイン学科・専門教育科目

3 列目 (専門学士力)		
A	産業デザイン 学科	デザイン知識・視点
B		アイデア発想力
C		デザイン表現力
D		デザイン企画・計画力
E		デザイン共創力
F		デザインの総合力
X		その他
A	生活デザイン 学科	生活・地域の理解力
B		課題発見・分析力
C		企画・デザイン力
D		まちづくり連携力
E		表現伝達力
F		探究・デザイン総合力
X		その他
A	経営デザイン 学科	経済学的理解・分析力
B		経営学的理解・分析力
C		会計学的理解・分析力
D		ICTを用いた調査分析能力
E		経営デザイン総合力
X		その他

4・5・6 列目 (難易度+通し番号)	
100 番台	入門レベル (大学 1 年次レベル)
200 番台	中級レベル (大学 2 年次レベル)
300 番台	上級レベル (大学 3 年次レベル)
400 番台	専門レベル (大学 4 年次レベル)
000 番台	その他 (レベル分けができない科目, 例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1 年		2 年		3 年		4 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
LS-F-101	ライフデザイン通論	2							
LS-A-102	心の理解とケア	2							
LS-A-103	生活地理学	2							
LS-B-104	住まいの計画	2							
LS-B-105	住まいの構造と材料	2							
LS-A-106	まちづくり基礎演習	4							
LS-C-107	造形・図法演習	4							
LS-A-108	健康と生活支援		2						
LS-B-109	地域防災論		2						
LS-A-110	生活工芸論		2						
LS-B-111	住まいの造形意匠		2						
LS-A-112	地域環境科学		2						
LS-B-113	住まいの力学基礎		2						
LS-A-114	生活デザイン演習Ⅰ		4						
LS-C-115	設計製図演習Ⅰ		4						
LS-A-001	探究セミナーⅠ		2						
LS-F-201	コミュニティネットワーク論			2					
LS-D-202	地域包括ケア			2					
LS-B-203	福祉住環境			2					
LS-B-204	住まいの文化史			2					
LS-B-205	住環境の基礎科学			2					
LS-B-206	住まいの構造力学			2					
LS-B-207	生活デザイン演習Ⅱ			4					
LS-C-208	設計製図演習Ⅱ			4					
LS-F-209	プロジェクトデザイン				2				
LS-D-301	心理・行動と社会調査				2				
LS-B-210	ユニバーサルデザイン				2				
LS-D-211	地域産業論				2				
LS-C-212	インテリアデザイン				2				
LS-B-213	住まいの環境工学				2				
LS-C-214	まちづくり実習Ⅰ				4				
LS-E-215	表現デザインⅠ				4				
LS-C-216	建築デザインⅠ				4				
LS-D-002	探究セミナーⅡ				2				
LS-F-302	PBLⅠ					2			
LS-D-401	復旧復興まちづくり					2			
LS-D-402	デザイン・アートと文化共創					2			
LS-C-303	ランドスケープデザイン					2			
LS-D-403	地域環境の保全とエネルギー					2			
LS-B-217	住まいの材料実験Ⅰ					2			
LS-D-304	まちづくり実習Ⅱ					4			
LS-E-305	表現デザインⅡ					4			
LS-E-306	建築デザインⅡ					4			
LS-F-307	PBLⅡ						4		
LS-B-218	保健と予防医学						2		
LS-B-308	社会福祉論						2		
LS-B-219	都市と住宅の法制度						2		
LS-C-309	都市計画						2		
LS-C-310	住まいの設備計画						2		
LS-B-220	住まいの材料実験Ⅱ						2		
LS-E-311	卒業研修Ⅰ						6		
LS-E-312	制作技法実習						4		
LS-B-221	公衆衛生学							2	
LS-B-222	公民と自治							2	
LS-B-313	住まいの施工と積算							2	
LS-F-404	卒業研修Ⅱ							6	
LS-F-405	卒業研修Ⅲ								6
LS-X-001	他学科プログラム科目群	…	…	…	…	…	…	…	…
LS-X-002	他学科自由選択科目群	…	…	…	…	…	…	…	…
LS-X-003	他学部開講科目群	…	…	…	…	…	…	…	…
LS-X-004	他大学開講科目群	…	…	…	…	…	…	…	…
LS-X-005	専門特別課外活動Ⅰ	…	…	…	…	…	…	…	…
LS-X-006	専門特別課外活動Ⅱ	…	…	…	…	…	…	…	…
LS-X-007	専門特別課外活動Ⅲ	…	…	…	…	…	…	…	…
LS-X-008	専門特別課外活動Ⅳ	…	…	…	…	…	…	…	…

専門教育科目 ナンバリング【経営デザイン学科】

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 列目	2 列目	3 列目	4 列目	5 列目	6 列目
学部区分	学科区分	専門学士力	難易度+通し番号		
L	CD	- SC	-	102	
LCD-SC-102					

※ライフデザイン学部産業デザイン学科「デザインセミナーⅡ」(2年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 列目 (学部区分)	
L	ライフデザイン学部

2 列目 (学科・科目区分)	
D	産業デザイン学科・専門教育科目
S	生活デザイン学科・専門教育科目
M	経営デザイン学科・専門教育科目

3 列目 (専門学士力)		
A	産業デザイン 学科	デザイン知識・視点
B		アイデア発想力
C		デザイン表現力
D		デザイン企画・計画力
E		デザイン共創力
F		デザインの総合力
X		その他
A	生活デザイン 学科	生活・地域の理解力
B		課題発見・分析力
C		企画・デザイン力
D		まちづくり連携力
E		表現伝達力
F		探究・デザイン総合力
X		その他
A	経営デザイン 学科	経済学的理解・分析力
B		経営学的理解・分析力
C		会計学的理解・分析力
D		ICTを用いた調査分析能力
E		経営デザイン総合力
X		その他

4・5・6 列目 (難易度+通し番号)	
100 番台	入門レベル (大学 1 年次レベル)
200 番台	中級レベル (大学 2 年次レベル)
300 番台	上級レベル (大学 3 年次レベル)
400 番台	専門レベル (大学 4 年次レベル)
000 番台	その他 (レベル分けができない科目, 例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1 年		2 年		3 年		4 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
LM-E-101	ライフデザイン通論	2							
LM-A-101	経済学入門	2							
LM-B-101	経営学入門	2							
LM-C-101	会計学入門	2							
LM-D-101	ICT ビジネススキル I	2							
LM-E-102	セミナー I	2							
LM-X-101	心理学入門	2							
LM-X-102	文書コミュニケーション	2							
LM-X-103	対人コミュニケーション	2							
LM-X-104	イメージメディア論	2							
LM-X-105	地域創生論	2							
LM-X-106	統計学	2							
LM-C-102	簿記論	2							
LM-B-102	論理的思考法	2							
LM-E-103	セミナー II	2							
LM-B-103	組織心理学	2							
LM-A-102	ミクロ経済学	2							
LM-D-102	ICT ビジネススキル II	2							
LM-B-104	中小企業論	2							
LM-B-105	ベンチャービジネス論	2							
LM-A-103	日本経済論	2							
LM-B-106	民法	2							
LM-E-201	コミュニティネットワーク論		2						
LM-B-201	マーケティング論		2						
LM-E-202	セミナー III		2						
LM-C-201	財務会計論		2						
LM-B-202	データ分析		2						
LM-D-201	ICT ビジネススキル III		2						
LM-B-203	経営管理論		2						
LM-B-204	会社法		2						
LM-B-205	地域提案論		2						
LM-A-201	マクロ経済学		2						
LM-A-202	公共経済学		2						
LM-E-203	プロジェクトデザイン			2					
LM-A-203	経済学史			2					
LM-E-204	セミナー IV			2					
LM-B-206	経営組織論			2					
LM-C-202	原価計算論			2					
LM-A-204	財政学			2					
LM-B-207	事業計画論			2					
LM-A-205	国際経済論			2					
LM-A-206	環境経済学			2					
LM-X-201	ビジネス英語			2					
LM-X-202	映像・イメージ学			2					
LM-E-301	PBL I				2				
LM-E-302	セミナー V				2				
LM-B-301	経営戦略論				2				
LM-B-302	商品開発論				2				
LM-C-301	管理会計論				2				
LM-B-303	知的財産論				2				
LM-A-301	地域経済学				2				
LM-X-301	ビジネス英会話				2				
LM-X-302	映像制作				8				
LM-E-304	PBL II					4			
LM-E-305	セミナー VI					2			
LM-D-301	データベースと経営					2			
LM-C-302	経営分析論					2			
LM-A-302	イノベーション政策論					2			
LM-X-303	交渉学					2			
LM-B-304	人的資源管理論					2			
LM-A-303	意思決定論					2			
LM-D-302	情報システム学					2			
LM-E-401	卒業研修 I						4		
LM-B-401	企業倫理						2		
LM-B-402	経営実践						2		
LM-E-402	卒業研修 II							8	
LM-A-001	環境関係法
LM-B-003	NPO 論
LM-B-002	中小企業と地域創生
LM-B-001	アニメビジネス論
LM-X-006	他学科プログラム科目群
LM-X-005	他学科自由選択科目群
LM-X-007	他学部開講科目群
LM-X-008	他大学開講科目群
LM-X-001	専門特別課外活動 I
LM-X-002	専門特別課外活動 II
LM-X-003	専門特別課外活動 III
LM-X-004	専門特別課外活動 IV

全学部共通

教育職員課程

東北工業大学教育職員免許状の取得に関する履修規程

第1条 学則第42条の規定に基づく教育職員免許状の取得に要する授業科目の履修に関しては、この規程の定めるところによる。

第2条 本学で取得できる免許状の種類及び免許教科は学則第42条に定めるとおりであるが、その修得に関する授業科目及び単位については次のとおりである。

令和7年度入学生から適用

全学部 教育の基礎的理解に関する科目等及びその他の関連科目

「工業」・「情報」・「商業」の免許状取得に必要な科目

区 分	授 業 科 目	単 位		各期の毎週授業時間数					
				1 年	2 年	3 年	4 年		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教育の基礎的理解に関する科目	教職概論	2		2					
	教育心理学	2		2					
	教育制度論	2			2				
	特別支援教育	1			1				
	教育課程論	2				2			
	教育原理	2				2			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導・教育相談に関する科目	生徒・進路指導論	2			2				
	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法	2				2			
	教育相談	2				2			
	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）	2				2			
教育実践に関する科目	教育実習	2						6	
	教育実習事前・事後指導 *1	1						2	
	教職実践演習（高）	2							2
その他の関連科目	日本国憲法	2				2			
	健康・運動科学実習Ⅰ	1		2					
	健康・運動科学実習Ⅱ	1			2				
	英語ⅠA	1		2					
	英語ⅠB	1			2				
	プログラミングⅠ（電気電子）	2		2					
	プログラミング入門（情報通信）	3		4					
	情報基礎（都市工学）	2		2					
	情報基礎（環境応用化学）	2		2					
	建築CAD（建築）	2			4				
	ネットワーク・コンピュータ基礎（生活デザイン・経営デザイン）	1		2					
	表現技術および同演習Ⅱ（産業デザイン）	3			4				
	生活デザイン演習Ⅱ（生活デザイン）	2				4			
ICTビジネススキルⅠ（経営デザイン）	1		2						

*1 教育実習事前・事後指導は、3年後期から4年にかけて実施する。

*2 の科目については当該学部・学科の科目を2単位以上修得のこと。

教科及び教科の指導法に関する科目のうち、各教科の指導法

「工業」・「情報」・「商業」の免許状取得に必要な科目

区 分	授 業 科 目	単 位		各期の毎週授業時間数					
				1 年	2 年	3 年	4 年		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	工業科教育法A（「工業」免許必修）	2				2			
	工業科教育法B（「工業」免許必修）	2					2		
	情報科教育法A（「情報」免許必修）	2				2			
	情報科教育法B（「情報」免許必修）	2					2		
	商業科教育法A（「商業」免許必修）	2				2			
	商業科教育法B（「商業」免許必修）	2					2		

工学部 電気電子工学課程

教科及び教科の指導法に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修 選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	工業の 関係科目	工業概論 *	2	教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	工業科教育法A	2	「職業指導」「工業科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと	
		電気回路Ⅰ及び同演習	3			工業科教育法B	2		
		電気回路Ⅱ及び同演習	3						
		電磁気学Ⅰ	2						
		電気回路Ⅲ	2						
		電磁気学Ⅱ	2						
		固体電子工学Ⅰ	2						
		電気電子計測	2						
		電子回路Ⅰ	2						
		電気電子工学実験Ⅱ	3						
		電気回路Ⅳ	2						
		固体電子工学Ⅱ	2						
		電子回路Ⅱ	2						
		電力工学概論	2						
		電気機械工学	2						
		電気電子材料	2						
		パワーエレクトロニクス	2						
電気法規	2								
職業指導	職業指導(工業) *	2							

注意：*の科目は課程では選択科目ですが、「工業」の免許状取得希望者は必修科目です。

「情報」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備考		
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修 選択			
教科及び教科の指導法に関する科目	情報社会 (職業に関する内容を含む)・ 情報倫理	情報社会とモラル *	2	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報通信ネットワーク	コンピュータネットワーク *	2	「情報科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと		
		基本情報技術Ⅲ	2			電気電子工学実験Ⅲ	3				
		情報と職業 *	2								
		産業社会と倫理	2								
	コンピュータ・ 情報処理	デジタル回路	2				マルチメディア表現・ マルチメディア技術	マルチメディアシステム *		2	
		プログラミングⅠ	2					アルゴリズム基礎		2	
		プログラミングⅡ	2					数値計算法		2	
		基本情報技術Ⅱ	2					CAD製図		1	
	情報システム	電気電子工学実験Ⅰ	3				各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	情報科教育法A		2	
		センサ工学	2					情報科教育法B		2	
		制御工学	2								
		ロボティクス	2								

注意：*の科目は課程では選択科目ですが、「情報」の免許状取得希望者は必修科目です。

工学部 情報通信工学課程

教科及び教科の指導法に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	工業の関係科目	工業概論 *	2	選択科目のうちいずれか2単位選択必修	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	工業科教育法A	2	「職業指導」「工業科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと	
		情報リテラシーⅠ	1			工業科教育法B	2		
		電気回路入門	2						
		電気数学	2						
		情報通信工学実験Ⅰ	3						
		電子回路Ⅰ及び同演習	3						
		電気回路Ⅱ及び同演習	3						
		電磁気学Ⅰ	2						
		情報通信工学実験Ⅱ	3						
		通信工学Ⅰ	2						
		電磁気学Ⅱ	2						
		半導体デバイス	2						
		電子回路Ⅱ	2						
		音響工学	2						
	光通信工学	2							
職業指導	職業指導(工業) *	2							

注意：*の科目は課程では選択科目ですが、「工業」の免許状取得希望者は必修科目です。

「情報」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	情報社会(職業に関する内容を含む)・情報倫理	情報社会とモラル *	2	教科及び教科の指導法に関する科目	情報通信ネットワーク	コンピュータネットワークⅠ	2	「情報科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと	
		情報と職業 *	2			通信工学Ⅱ	2		
		産業社会と倫理	2			情報通信工学実験Ⅲ	3		
	コンピュータ・情報処理	基本情報技術Ⅰ *	2		マルチメディア表現・マルチメディア技術	コンピュータグラフィックス技術 *	2		
		論理回路	2			アプリケーション開発	2		
		アルゴリズムとデータ構造及び同演習	3			コンピュータ数値解析	2		
		計算機工学Ⅰ	2						
		組込みシステム設計	2						
		計算機工学Ⅱ	2						
ソフトウェア設計	2								
アカデミックスキル	1								
情報システム	情報リテラシーⅡ	2	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	情報科教育法A	2				
	データベース *	2		情報科教育法B	2				
	情報倫理	2							

注意：*の科目は課程では選択科目ですが、「情報」の免許状取得希望者は必修科目です。

工学部 環境応用化学課程

教科及び教科の指導法に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	工業の関係科目	工業概論 *	2	選択科目のうちいずれか2単位を選択必修	教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	工業科教育法A	2	「職業指導」「工業科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと
		物理化学I	2				工業科教育法B	2	
		有機化学I	2						
		分析化学	2						
		化学工学	2						
		無機化学	2						
		有機化学II	2						
		機器分析I	2						
		生化学基礎	2						
		循環型社会形成論	2						
		環境マネジメント	2						
		大気環境工学	2						
		環境化学	2						
		表面化学	2						
		熱力学	2						
		地域環境調査法及び同演習	3						
		水環境工学	2						
		土壌環境工学	2						
		電気化学	2						
	緑地環境工学	2							
資源循環とライフサイクルアセスメント	2								
職業指導	職業指導(工業) *	2							

注意：*の科目は課程では選択科目ですが、「工業」の免許状取得希望者は必修科目です。

建築学部 建築学科

教科及び教科の指導法に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	工業の関係科目	工業概論 *	2		各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	工業科教育法A	2		
		建築入門	2			工業科教育法B	2		
		建築表現	1						
		建築設計 I	2						
		建築材料 I	2						
		建築環境工学概論	2						
		建築CAD	2						
		建築計画 I	2						
		ヨーロッパ建築史	2						
		建築材料 II	2						
		骨組の力学 I	2						
		日本建築史	2						
		建築材料実験	1						
		熱・空気環境	2						
		骨組の力学 II	2						
		建築計画 III	2						
		建築法規及び同演習	3						
		建築設備システム及び同演習	3						
		建築プロフェッショナル論	2						
	都市計画	2							
職業指導	職業指導 (工業) *	2		「職業指導」「工業科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと					

注意：*の科目は学科では選択科目ですが、「工業」の免許状取得希望者は必修科目です。

ライフデザイン学部 産業デザイン学科

教科及び教科の指導法に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	工業の 関係科目	工業概論 *	2		教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	工業科教育法A	2	「職業指導」「工業科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと
		デザイン論Ⅰ	2				工業科教育法B	2	
		デザイン史	2						
		デザイン論Ⅱ	2						
		色彩論	2						
		デザイン論Ⅲ	2						
		エディトリアルデザイン論	2						
		情報デザイン論	2						
		材料学・生産技術 *	2						
		インタラクションデザイン論 *	2						
		エルゴノミクス *	2						
		ユニバーサルデザイン *	2						
		サウンドデザイン論 *	2						
		デザインマーケティング論 *	2						
		工芸学 *	2						
		職業指導	職業指導 (工業) *				2		

注意：*の科目は学科では選択科目ですが、「工業」の免許状取得希望者は必修科目です。

ライフデザイン学部 生活デザイン学科

教科及び教科の指導法に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	工業の 関係科目	工業概論 *	2		教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	工業科教育法A	2	
		まちづくり基礎演習	2				工業科教育法B	2	
		地域防災論	2						
		福祉住環境	2						
		ユニバーサルデザイン	2						
		地域産業論	2						
		住まいの計画	2						
		住まいの構造と材料	2						
		住環境の基礎科学	2						
		生活デザイン演習Ⅰ	2						
		生活デザイン演習Ⅱ	2						
		造形・図法演習	2						
		復旧復興まちづくり	2						
		住まいの造形意匠	2						
		インテリアデザイン	2						
		住まいの文化史	2						
		住まいの施行と積算	2						
		住まいの環境工学	2						
		地域環境の保全とエネルギー	2						
	設計製図演習Ⅱ	2							
職業指導	職業指導 (工業) *	2		「職業指導」「工業科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと					

注意：*の科目は学科では選択科目ですが、「工業」の免許状取得希望者は必修科目です。

ライフデザイン学部 経営デザイン学科

教科及び教科の指導法に関する科目

「商業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		
教科及び教科の指導法に関する科目	商業の 関係科目	経営学入門	2		教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	商業科教育法A	2		
		会計学入門	2				商業科教育法B	2		
		経済学入門	2							
		統計学	2							
		簿記論	2							
		経営管理論		2						
		マーケティング論	2							
		文書コミュニケーション		2						
		財務会計論		2						
		データ分析 *	2							
		ICTビジネススキルⅡ *	2							
		イノベーション政策論		2						
		管理会計論		2						
		ビジネス英語		2						
		データベースと経営		2						
		経営実践		2						
		論理的思考法	2							
		商品開発論		2						
		地域経済学		2						
		経営組織論		2						
		経営戦略論		2						
		国際経済論		2						
		公共経済学		2						
		環境経済学		2						
		会社法		2						
		知的財産論		2						
	原価計算論		2							
ICTビジネススキルⅢ		2								
ICTビジネススキルⅠ	1									
情報システム学		2								
職業指導	職業指導（商業）*	2				「職業指導」「商業科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと				

注意：*の科目は学科では選択科目ですが、「商業」の免許状取得希望者は必修科目です。

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 段目		2 段目		3 段目	
部科区分	科目区分	-	分野	-	学習進度+通し番号
F	Z	-	Z	-	201
FZ-Z-201					

※全学部「教育制度論」(1年次後期開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 段目 (部科区分)	
F	工学部/建築学部/ライフデザイン学部
EACS	工学部全課程/建築学部 産業デザイン学科/生活デザイン学科
ET	電気電子工学課程/情報通信工学課程
MC	経営デザイン学科
(科目区分)	
Z	教職科目

2 段目 (分野)	
Z	教職科目

3 段目 (学習進度+通し番号)	
100番台	開講セメスター 1 クラスレベル
200番台	開講セメスター 2 クラスレベル
300番台	開講セメスター 3 クラスレベル
400番台	開講セメスター 4 クラスレベル
500番台	開講セメスター 5 クラスレベル
600番台	開講セメスター 6 クラスレベル
700番台	開講セメスター 7 クラスレベル
800番台	開講セメスター 8 クラスレベル
000番台	その他 (レベル分けができない科目, 例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・課程・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科 目 名	各期の毎週時間数							
		1 年		2 年		3 年		4 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
FZ-Z-101	教職概論	2							
FZ-Z-102	教育心理学	2							
FZ-Z-201	教育制度論		2						
FZ-Z-202	特別支援教育		1						
FZ-Z-301	教育課程論			2					
FZ-Z-302	教育原理			2					
FZ-Z-303	生徒・進路指導論			2					
FZ-Z-401	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法				2				
FZ-Z-402	教育相談				2				
FZ-Z-403	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)				2				
EACSZ-Z-501	工業科教育法 A					2			
ETZ-Z-502	情報科教育法 A					2			
MCZ-Z-501	商業科教育法 A					2			
EACSZ-Z-601	工業科教育法 B						2		
ETZ-Z-602	情報科教育法 B						2		
MCZ-Z-601	商業科教育法 B						2		
FZ-Z-701	教育実習							6	
FZ-Z-702	教育実習事前・事後指導							2	
FZ-Z-801	教職実践演習 (高)							2	

教職課程の履修要項

教育職員免許状を取得するためには、教育職員免許法および教育職員免許法施行規則に基づき、東北工業大学学則第42条、並びに教育職員免許状取得に関する履修規程によって設置された教職課程について、所定の単位を修得する必要があります。

教職を希望する学生は、以下に示す教職課程の履修要項を熟読の上、間違いのないよう十分に注意することが必要です。

I. 本学において取得できる免許状の種類および免許教科は次のとおりです。

免許状の種類	免許教科の種類	学 科
高等学校教諭一種免許状	工 業	電気電子工学課程 情報通信工学課程 都市工学課程 環境応用化学課程 建築学 産業デザイン学科 生活デザイン学科
	情 報	電気電子工学課程 情報通信工学課程
	商 業	経営デザイン学科

II. 上記の免許状を取得するには、東北工業大学教育職員免許状の取得に関する履修規程に定める授業科目を履修し、所定の単位を修得する必要があります。

III. 「教育実習」について

教育実習は、教職に携わることを望む学生が、大学の授業を通しては容易に得ることのできない教職の専門性に関する能力、とりわけ教科授業に関する指導法を、直接教育の現場において、生徒に対する具体的な指導を通して体験的・総合的に理解し、集中的に身につけ、教員になるための能力や適性を考えるとともに課題を自覚することを目的として実施される科目です。教育実習は4年次に課せられており、これまでの教職課程の学修を生かして行うものです。

① 教育実習は、次の要件を充足し、履修適格者と認定された者だけが対象となります。

(i) 3年次後期終了時までにより下記の科目をすべて修得する必要があります。

・教育の基礎的理解に関する科目等及びその他の関連科目

区分	教育の基礎的理解に関する科目
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導・教育相談に関する科目

・教科及び教科の指導法に関する科目

区分	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）
----	------------------------

(ii) 次の成績要件を充足する必要があります。

2年次後期終了時までの全履修科目の累積GPA値※が2.30以上であること。

※この要件は、令和5年度入学生より適用されます。

令和4年度以前入学生は入学時に配付された学生便覧を確認してください。

※GPAについて…

『GPA (Grade Point Average)』とは、成績を5段階で評価した値の平均値であり、以下の式により計算します。なお、詳細については、本学生便覧の17ページを参照してください。

【成績5段階評価の区分】

成績	Grade	Grade Point
90～100点	A	4.00
80～89点	B	3.00
70～79点	C	2.00
60～69点	D	1.00
不可・不適	F	0.00

【GPAの計算式】

$$GPA = \frac{(4 \times A \text{の修得単位数}) + (3 \times B \text{の修得単位数}) + (2 \times C \text{の修得単位数}) + (1 \times D \text{の修得単位数})}{\text{履修登録科目の単位数 (Fの科目も含む)}}$$

- ② ①の履修要件を満たし、教育実習の履修を希望する場合、3年次の6月までに、教育実習予備登録（実習希望校調査）の手続きをしてください。
- ③ 教育実習の実習内諾を得るまでの交渉は本人が行いません。
実習内諾を得るための高校訪問等は、高校に連絡のうえ、できるだけ3年次の早い時期に行なってください。
- ④ 教育実習は、都道府県教育委員会、当該高等学校の協力を得て行なわれます。当初の予定を変更した場合、これら関係機関に多大の迷惑をかけることになりますので、実習申込み後の自己の都合や履修状況による実習辞退は極力回避するよう努めてください。万が一、予定を変更せざるをえない場合には、総合教育センター（教職担当）に直ちに相談してください。

IV. 教育職員免許状の申請手続きと授与

教育実習を修了し、取得しようとする免許種の必要単位を充足し、免許状の出願をすることによって、卒業時に免許状が授与されます。

教育職員免許状の申請手続きについては、別途、学生サポートオフィス（教務学生課）より案内をします。

V. 教職に関する相談について

教職に関する事務的事項については学生サポートオフィス（教務学生課）および総合教育センター（教職担当）が行い、学生に対する諸連絡はポータルサイトや、てくポ等において指示しますので常に注意してください。

教育職員免許状の取得、教育実習、その他教職に関する相談については、教職科目担当教員が、随時対応しています。

《教職課程年間スケジュール》

実施時期	説明会および手続き	対象学年
4月上旬	オリエンテーション (教職課程の説明…所属学科・総合教育センター(教職担当))	1学年
4月中旬	履修登録	全学年
4月中旬 ～5月	教育実習ガイダンス, 事前指導 次年度実習希望者は, 実習希望校を訪問し, 内諾を得る	4学年 3学年
5月上旬 ～10月下旬	教育実習(2週間または3週間)	4学年
6月中旬 ～7月下旬	次年度教育実習希望者に対し, 実習希望校への本学からの依頼状交付	3学年
9月下旬～ 10月上旬	履修登録	全学年
11月～	教職課程のための学習ポートフォリオの作成	1～4学年
12月上旬	教育職員免許状申請書類を学生サポートオフィス(教務学生課)に提出	4学年
3月初旬	免許状申請書類を大学がとりまとめ, 一括して, 宮城県教育委員会に提出	4学年
3月中旬	教育職員免許状交付	4学年
3月下旬	教育実習履修者決定	3学年

* 諸行事への欠席, あるいは提出書類が遅れる場合は, 必ず事前に学生サポートオフィス(教務学生課)あるいは総合教育センター(教職担当)に申し出て指示を受けてください。

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

電気電子工学課程の教員養成の目標
工業・情報の領域の確かな基礎を持ち、新しい技術に柔軟に対応でき、コミュニケーション能力を備えた教員の養成を目標とする。

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は課程では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教育の基礎的理解に関する科目	教職概論	教育制度論	教育課程論					
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育心理学	特別支援教育	教育原理	生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法			
教育実践に関する科目					教育相談			
					教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)			
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通して、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	

区分	電気電子工学課程の履修の流れ	
	前期	後期
各教科の指導法 (情報通信技術の活用含む)	工業科教育法A	工業科教育法B
教科に関する専門的事項	電気回路Ⅰ及び同演習	電気回路Ⅱ及び同演習
職業指導	電磁気学Ⅰ	電磁気学Ⅱ
	電子回路Ⅰ	電子回路Ⅱ
	固体電子工学Ⅰ	固体電子工学Ⅱ
	電気電子計測	電気電子材料
	電気工学概論	電気法規
	電力工学概論	パワーエレクトロニクス
	電気電子工学実験Ⅱ	
	工業概論*	
	職業指導(工業)*	
教員養成の計画	後期は、電気電子分野の基本となる直流回路および交流回路の基礎知識を講義と演習を通して習得する。	前期は、実際の交流回路の解析法を習得するとともに、電磁気場の考え方とベクトル解析手法を身につける。後期は、二端子対回路および過渡現象の解析法を習得するとともに、変動する電磁場の基礎、および、量子力学の概念を理解する。
		前期は、電子デバイスの基本動作を理解するとともに、計測機器を用いた実験により電気・電子回路について理解を深め、さらに結果の整理・報告を通じて文書作成能力を養う。後期は、電子機器の基本的な動作原理を理解する。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。
		前期は、専門性の高い科目および電気法規について学ぶと共に、研修実験を通して問題解決能力を身につける。後期は、研修論文のまとめを通じて、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけ、4年間の学習を統合する。

区分	情報工学課程の履修の流れ	
	前期	後期
各教科の指導法 (情報通信技術の活用含む)	情報科教育法A	情報科教育法B
情報社会(職業に関する内容)・情報倫理	情報社会とモラル*	情報と職業*
コンピュータ・情報処理	基本情報技術Ⅱ	基本情報技術Ⅲ
情報システム	プログラミングⅠ	プログラミングⅡ
情報通信ネットワーク	デジタル回路	制御工学
マルチメディア表現・マルチメディア技術	電気電子工学実験Ⅰ	センサ工学
	コンピュータネットワーク*	電気電子工学実験Ⅲ
	マルチメディアシステム*	
	アルゴリズム基礎	数値計算法
		CAD製図
教員養成の計画	前期は、コンピュータ・情報処理の分野で必要となるプログラム文法の基礎知識を習得する。後期は、デバック手法の学習によりプログラム開発能力を身につけるとともに、システムソフトウェアの基礎知識を修得する。	前期は、情報システムにおける経営および技術マネジメントの考え方を理解する。後期は、デジタル回路で必要となる数体系と論理代数、および、コンピュータネットワークの仕組みを理解するとともに、演習や実験によって技能の習得に努める。
		前期は、デジタル技術に基礎をおくマルチメディアの概念を理解するとともに、日本工業規格に基づく製図の知識を習得する。後期は、実験によって講義内容の理解を深め、さらに結果の整理・報告を通じて文章作成能力を養う。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。
		専門性の高い科目について学ぶと共に、研修実験を通して問題解決能力を身につける。後期は、研修論文のまとめを通じて、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけ、4年間の学習を統合する。

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

情報通信工学課程の教員養成の目標
工業・情報の領域の確かな基礎を持ち、幅広い視野と高い倫理観を持った、情報処理に秀でた教員の養成を目標とする。

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は課程では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教育の基礎的理解に関する科目	教職概論	教育制度論	教育課程論					
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育心理学	特別支援教育	教育原理	生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法			
教育実践に関する科目					教育相談			
					教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)			
教育実践に関する科目							教育実習 事前・事後指導	教職実践演習(高)
教育実践に関する科目							教育実習	
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通じて、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	

教科専門科目(工業)	工業科教育法A		工業科教育法B	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用含む) 情報リテラシーⅠ プログラミング入門 ※その他の関連科目 電気回路入門 電気数学 電磁気学Ⅰ 電気回路Ⅱ及び同演習 電子回路Ⅰ及び同演習 情報通信工学実験Ⅰ 通信工学Ⅰ 電磁気学Ⅱ 半導体デバイス 電子回路Ⅱ 情報通信工学実験Ⅱ 工業概論* 職業指導(工業)*			
各教科の指導法(情報通信技術の活用含む) 情報社会(職業に関する内容)・情報倫理 コンピュータ・情報処理 情報システム 情報通信ネットワーク マルチメディア表現・マルチメディア技術				
教員養成の計画	前期は情報リテラシーとプログラミング技術についての知識と技能を修得する。後期は、電気回路の基礎について学ぶ。	前期は電気現象の数学的扱いについて学ぶ。後期は、電気回路及び電子回路の基礎知識を学ぶと同時に、演習や実験を通じて回路設計の技能を修得し、講義内容の理解を深める。	前期は、通信技術や半導体の基礎を学ぶと同時に、実験を通じて結果を整理・報告する能力の涵養を図る。後期は、電子回路の設計理論について理解を深める。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	前期は、専門性の高い各論として光通信工学や音響工学等について学ぶ。それと合わせて前期・後期を通じて、卒業研修を実施することで、問題の発見と解決による自発的な知識獲得能力を修得し、4年間の学習を統合する。

教科専門科目(情報)	情報科教育法A		情報科教育法B	
	論理回路 アカデミックスキル 基本情報技術Ⅰ* アルゴリズムとデータ構造及び同演習 情報リテラシーⅡ コンピュータネットワークⅠ ソフトウェア設計 データベース* アプリケーション開発 コンピュータ数値解析 コンピュータグラフィックス技術*			
各教科の指導法(情報通信技術の活用含む) 情報社会(職業に関する内容)・情報倫理 コンピュータ・情報処理 情報システム 情報通信ネットワーク マルチメディア表現・マルチメディア技術				
教員養成の計画	後期に、情報工学の基礎として、コンピュータにおける情報の表現について学ぶ。アルゴリズムの基礎を学び、それを基にコンピュータネットワークを構築するための知識と技能を修得する。	前期は、論理回路と実験に必要なスキルを学ぶ。後期は、コンピュータハードウェアについて知識と技能を修得する。	前期は、コンピュータグラフィックスの作成やアプリケーション開発に関する技術等を学ぶ。後期は、情報理論や通信システムで扱う情報の伝送方法について学ぶ。前期と後期を通じて、計算機や組み込みシステムの設計理論を学び、それと合わせて教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	前期・後期を通じて、卒業研修を実施することで、問題の発見と解決による自発的な知識獲得能力を修得し、4年間の学習を統合する。

本学の教員養成の目標

東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを本学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。

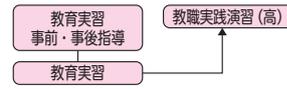
1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。
2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。
3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。
4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。

都市工学課程の教員養成の目標

工業の領域の確かな基礎を持ち、高い良識と倫理観を持った、都市や地域社会のマネジメントに関わる高度な知識と能力を有する教員の養成を目標とする。

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は課程では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教育の基礎的理解に関する科目	教職概論	教育制度論	教育課程論					
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育心理学	特別支援教育	教育原理	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法				
教育実践に関する科目			生徒・進路指導論	教育相談				
				教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)				
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通して、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	



区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
各教科の指導法 (情報通信技術の活用含む)								
教科専門科目(工業) 教科に関する専門的事項			構造力学基礎Ⅰ		工業科教育法A	工業科教育法B		
			コンクリート	鉄筋コンクリートⅠ → 鉄筋コンクリートⅡ				
			基礎地盤工学	応用地盤工学				
			水理学基礎Ⅰ	水理学基礎Ⅱ				
	環境・防災工学				数理的計画論および同演習	都市計画	都市交通計画	
	情報基礎 ※その他の関連科目						社会基盤マネジメント	
			空間測量Ⅰ				空間測量Ⅱ	
			空間測量実習					
					都市工学実験Ⅰ			
					工業概論*			
				職業指導(工業)*				
職業指導								
教員養成の計画	専門科目にかかわる工業・情報の領域の基礎を築くために、前期は、環境と防災分野の基礎と、情報の基礎的なリテラシーを学ぶ。後期は、材料の基礎を学ぶ。		各専門分野の基礎を築くために、前期は、材料力学および構造力学、地盤工学、水理学、測量学の基礎を学ぶと共に、空間測量実習により具体的な技術を習得する。後期は、水理学の基礎に加えて、材料力学と地盤工学の応用分野についても理解を深める。		前期は、都市や交通の計画論の基礎および工業概論と工業科の職業指導について学ぶとともに、実験により専門分野を実践的に学ぶ。後期は、交通の計画論とマネジメント論に加えて測量学の応用について理解を深める。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		前期と後期を通して、研修への取り組みを通して専門分野に係る現実の社会問題を把握し、それを契機として自己啓発や相互理解と協力で努め卒業論文をまとめることにより、4年間の学習を統合する。	

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

環境応用化学課程の教員養成の目標
持続可能な社会の構築に向け、応用化学の発展と地球環境保全の調和をめざす高度の解析処理能力を基盤とした視野の広い工業教育を行う教員を養成することを目標とする。

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は課程では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教職専門科目 教育の基礎的理解に関する科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目 教育実践に関する科目	教職概論 教育心理学	教育制度論 特別支援教育	教育課程論 教育原理 生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談 教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)				
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通じて、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	



教員養成の計画	前期は情報と循環型社会形成に関する科目を学び、持続可能な社会のために必要な仕組みを理解する。後期は、工学・工業の社会における役割と問題点を、応用化学と環境学の基礎講義を通して理解する。	前期は、機器分析の科目を通して分析機器の原理を理解し、物質や環境を分析する基礎知識を習得する。後期は地域環境調査法の科目を通して環境調査の手法を学び、実技分野に必要な基礎知識を身につける。また、専門的な内容を誰にでもわかりやすく説明する能力と論理的な受け答えをする能力を身につける。	前期は、電気化学の科目を通して化学技術の応用が、環境・エネルギー問題の解決の必要要素であることを学び、応用化学技術者を育成する責任の重要性を理解する。後期は、資源循環に関する科目を通して持続可能な社会を支える物質循環の視点から工業の役割を理解する。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	前期は、科目の総まとめを踏まえて、研修に取り組み、バランスのとれた実践力を身につける。また、学会や科学イベントなどへの参加により、地域との繋がりを実感するとともに化学の魅力を高中生や中学生に伝える方法を身につける。後期は、研修のとりまとめを通じて問題の発見と解決による自発的な課題への取り組みを実践し、4年間の学習を統合する。
----------------	--	---	---	---

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

建築学科の教員養成の目標
工業の領域の確かな基礎を持ち、総合的な視野と高い倫理観を備えた、建築に秀でた教員の養成を目標とする。

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教職専門科目 教育の基礎的理解に関する科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目 教育実践に関する科目	教職概論 教育心理学	教育制度論 特別支援教育	教育課程論 教育原理 生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談 教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)				
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通して、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	



教科専門科目 (工業)	工業科教育法A → 工業科教育法B	
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用含む) 建築入門 建築設計 I 建築表現 建築CAD ※その他の関連科目 建築計画 I ヨーロッパ建築史 骨組の力学 I 建築材料 I 建築環境工学概論	都市計画 建築計画 II 日本建築史 骨組の力学 II 建築材料 II 建築材料実験 熱・空気環境 建築法規及び同演習
教科に関する専門的事項 職業指導	建築設備システム及び同演習 建築プロフェッショナル論 工業概論 職業指導 (工業)*	

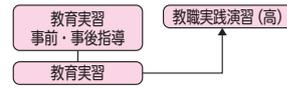
教員養成の計画	前期は、建築入門を通して建築学が包含する広く深い世界に触れながら、設計・製図に必要な基礎的な知識を修得し、平面と立体をイメージして表現する技術を身につける。また、構造材料に関する基礎的な知識を修得する。後期は、計画、歴史、材料、構造、環境に関する基礎を学び、住宅など身近な建物の設計のための知識と技術を修得する。	前期は、歴史、材料、構造、環境に関する基礎を学ぶと共に、演習や実験によって講義内容の理解を深める。後期は、公共施設、商業施設、地域施設などの設計のための知識と技術を修得する。また、関連する法規の基礎を学び、社会に適用できる実践的な力を身につける。	前期は、より広い視点での社会貢献を目指して都市計画、地域計画を学び、また、設備システムを実践的に理解する。さらに現役実務者の講義により、専門技術を活用できる職域を理解し、地域社会に貢献するための基本的、実践的知識を修得する。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	専門性の高い計画、構造等の各論について学ぶと共に、少人数による卒業研修を通して企画力、提案力、分析力、表現力などの力を養い、広く社会に通用する人間力を育み、社会に貢献するための確かな自信を身につける。
----------------	--	---	---	--

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

産業デザイン学科の教員養成の目標	
工業の領域の確かな基礎を持ち、幅広い視野と高い倫理観を持った、問題把握力とその解決のための具体的な提案力に秀でた教員の養成を目標とする。	

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教職専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職概論 教育制度論	教育課程論	教育原理				
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育心理学 特別支援教育	生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談				
	教育実践に関する科目			教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)				
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通して、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	



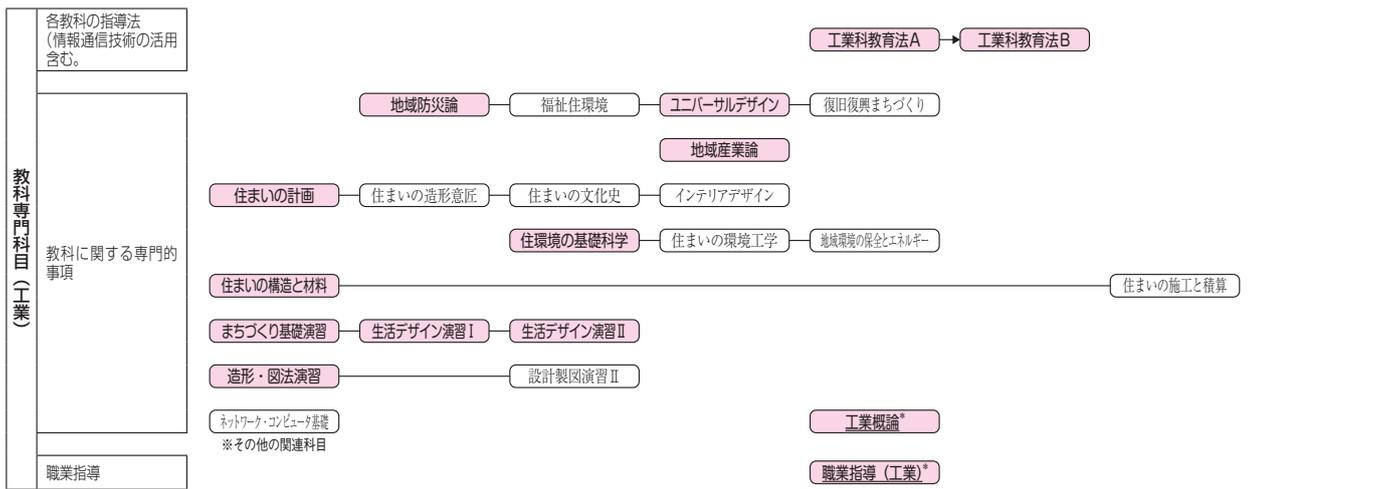
教科専門科目 (工業)	各教科の指導法 (情報通信技術の活用含む)		工業科教育法A → 工業科教育法B					
	教科に関する専門的事項	デザイン論Ⅰ → デザイン論Ⅱ → デザイン論Ⅲ	情報デザイン論					
職業指導	デザイン史	色彩論	エディトリアルデザイン論					
	ネットワーク・コンピュータ基礎 ※その他の関連科目	材料学・生産技術*	インタラクティブデザイン論	サウンドデザイン論* 工芸学*				
		エルゴノミクス*						
		ユニバーサルデザイン*						
		デザインマーケティング論*						
		工業概論*						
		職業指導 (工業)*						
教員養成の計画	前期は、デザインを行う上で最低限必要な教養としてのデザインの歴史を学ぶ。後期は、色彩や配色の基礎を学び色彩の心理的効果等を重視し、適切にコーディネートできる能力を習得する。前期と後期を通して多岐にわたるデザインの対象を包括的に学びその幅広さと、現代社会でのデザインの有効性、意義を理解する。コンピュータの基本的な使用方法を習得する。		前期は、紙面の基本的な設計方法を習得すると共に、産業とデザイン分野との関係を理解し、現代産業におけるデザインの役割、意義を理解する。後期は、生活の中で使われる様々な工業製品の素材の特性についての知識、人々の活動と情報の関係を理解する。		後期は、デザインとサウンドの関係をデザインの視点から理解し、サウンドデザインの理論や手法を習得する。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		前期は、工芸論の理解にとどまらず、現代の我々が抱える工芸の課題、クラフトデザインについて考える。前期と後期を通して、必修科目である研修を通して、デザインの実践力、応用力、プレゼンテーション力を高める。	

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

生活デザイン学科の教員養成の目標	
工学・建築学・保健衛生学・福祉学・文化芸術学・環境学などの諸領域を中心に、工学・工業に関わる確かな基礎知識と統合力・デザイン力を持ち、幅広い視野と高い倫理観を有する教員を養成することを目標とする。	

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教職専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職概論 教育制度論	教育課程論					
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育心理学 特別支援教育	教育原理	生徒・進路指導論 特別活動及び総合的な探究の時間の指導法	教育相談			
	教育実践に関する科目			教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)				
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通して、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	



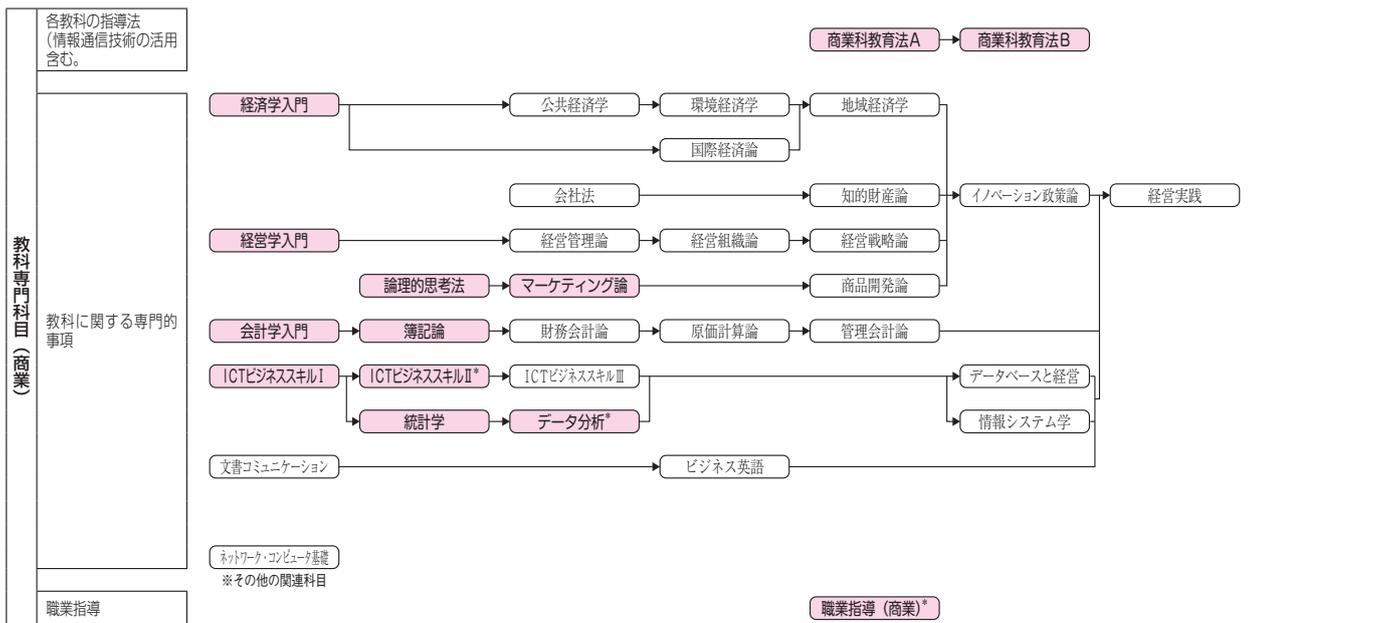
教員養成の計画	
前期はまちづくりや生活デザインの基盤である「地域(空間及び社会)」について学ぶと共に、造形と製図についての基礎的な知識と技能を習得する。後期は造形と製図について引き続き知識と技能を習得する。	前期は工学・建築学や保健衛生学をもとに、福祉学・文化芸術学・環境学等を含めた生活デザインの領域の基礎を横断的に学ぶと同時に、演習によって講義内容の理解を深めると共に技能の習得に努め、ならびに結果の整理・報告・発表を通じてコミュニケーション能力の涵養を図る。後期も同様に横断的な学びを継続する。
前期は横断的に学んできた工学・建築学・保健衛生学・福祉学・文化芸術学・環境学などについて専門的に学び、演習によって講義内容の理解を深めると共に技能の習得に努め、ならびに結果の整理・報告・発表を通じてコミュニケーション能力の涵養を図る。後期も同様に同分野について行う。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	前期は専門性の高い各論として生活デザインについて学ぶのと並行し、前期と後期を通して問題の発見と解決による自発的な知識獲得能力を、研修を通じて4年間の学習を統合する。

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

経営デザイン学科の教員養成の目標	
持続可能な社会の構築、情報化の一層の進展、経済のグローバル化、ICTの進歩、観光立国の進展を踏まえ、地域産業や経済社会を健全に発展させる為の、実践力となる知識・情報分析技能・倫理観を有する教員を養成することを目標とする。	

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教育の基礎的理解に関する科目	教職概論	教育制度論	教育課程論					
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育心理学	特別支援教育	教育原理	生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法	教育相談		
教育実践に関する科目					教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)			
教育実践に関する科目							教育実習 事前・事後指導	教職実践演習(高)
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通じて、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	



教員養成の計画	
前期は「ビジネスの基礎」について学び、経済の仕組みを支えるビジネスのシステムを理解する。後期は、社会経済事象に関する情報の収集・分析に関する知識と技能について学び、さらに課題研究において、ビジネス事象に関わるデータの収集・分析力やコミュニケーション能力の涵養をも図る。	前期は、社会経済上の課題を設定し、理論を用いて計画的に解決する手法を理解する。また、マーケティング、企業会計およびビジネスの現場で必要となるICT(情報通信技術)利用に関する手法を学び、情報の的確な処理能力とともに経済事象の分析を通じた課題解決能力を涵養する。後期は、グローバル経済、企業経営について学ぶ。
前期は、地域経済学の理論と実践について学び、また、ビジネスの現場において必要である広範囲の経営に関する知識を深化させ、現場での適応能力を涵養する。後期は、地域振興に関わる科目を重点的に学ぶ。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	前期は、ビジネスの現場を想定した実践的テーマに基づいたシミュレーションを通じて、現場適応能力をブラッシュアップする。更に、現実社会に即したビジネスの課題発見・解決という実践力を構築することを目標とした4年間の教科で得た技術・知識・経験を統合する。

発行日 令和7年4月1日

発行 **東北工業大学**

編集 教務委員会

〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35番1号

email gakusapo@tohtech.ac.jp

